

2017年度

履修要項

現代心理学部(2015年度以前入学者用)

現代心理学研究科

立教大学

教務事項の伝達について

I 掲示

大学から学生への連絡は、原則として掲示によって行う。掲示を確認しなかったために生じる不利益は、本人の責任となるので、登校時には必ず掲示を確認する習慣をつけること。掲示した事項については学生に伝達したものとみなす。掲示内容に疑問がある場合は、教務窓口で直接問い合わせる。電話や電子メールによる問い合わせには、一切応じない。

種類	設置場所	掲載内容
各学部・研究科掲示板	池袋キャンパス 教務事務センター前	■各学部生・各研究科学生への伝達事項
全学共通科目掲示板		■各学部科目・各研究科科目にかかわる伝達事項
教務全学用掲示板	新座キャンパス 7号館と4号館の間	■全学共通科目にかかわる伝達事項
f-Campus掲示板		■公示・学年暦等全学にかかわる伝達事項 ■f-Campusにかかわる伝達事項
インフォメーションボード	池袋キャンパス 5/8/14号館1階	■全学の休講
	新座キャンパス 1号館1階/4号館2階	■全学の教室変更(2週間分)・学生呼出

II 教務関連ホームページ

●SPIRIT 教務部ページ

⇒ https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/

教務からのお知らせ、履修要項、シラバス・時間割、履修登録状況、休講情報などが確認できる。

●シラバス・時間割検索システム

⇒ <https://sy.rikkyo.ac.jp/timetable/>

開講科目のシラバス・時間割・科目コード・科目名・担当者・教室が確認できる。

●履修登録システム/成績参照システム/履修登録状況画面

⇒ <https://r.rikkyo.ac.jp/> (ログイン時のID・パスワードはV-Campusと同じ)

履修登録(抽選登録・科目コード登録)、成績参照および当年度の履修登録状況について本システムで確認することができる。

※開講科目の変更内容・各登録システムマニュアル(3月28日(火)より利用可能)についても閲覧が可能。

III 緊急時連絡

台風の接近等により、授業を平常通り行うことができないと判断した場合は、休講などの特別措置をとることがある。特別措置の内容については、掲示、ホームページ等または電話で確認すること。

立教大学ホームページ

<http://www.rikkyo.ac.jp/>

立教大学 Twitter

<https://www.twitter.com/rikkyouniv>

立教大学公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/RikkyoUniversity>

※試験期間についても前記の措置をとることがある。

※大学の窓口業務、諸施設の利用については、ホームページおよび掲示によって周知する。

2016年度以降の科目変更・廃止等について

2016年度以降の入学者を対象に、各学科および全学共通カリキュラムにおいて、新カリキュラムが導入されました。

2015年度以前の入学者に適用されるカリキュラムは変わりませんが、2016年度以降、科目の変更・廃止等が生じる場合があります。この点に留意し、計画的な履修を心がけてください。

祝日授業日・休講日について

授業日 について	*以下の祝日は授業日とし、その曜日の授業を実施します。 4月29日(土) 昭和の日 5月4日(木) みどりの日 5月5日(金) こどもの日 7月17日(月) 海の日 9月23日(土) 秋分の日 10月9日(月) 体育の日
全日休講日 について	*以下は祝日に実施した授業日の代替として、全日休講日とします。 5月2日(火) 10月18日(水) 11月7日(火) 12月5日(火) 12月22日(金)
キャンパスにより異なる休講日 について	*2017年度は以下のとおり、キャンパスにより異なる休講日があります。各キャンパスの開講科目を履修する場合は十分注意してください。 11月18日(土) <秋季入学試験>⇒池袋キャンパス開講科目のみ休講 (新座キャンパス開講科目の授業は行います) 1月13日(土) <大学入試センター試験>⇒新座キャンパス開講科目のみ休講 (池袋キャンパス開講科目の授業は行います)

カレンダー ■ 休日・祝日 □ 祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定	学部	研究科																																																	
6 June <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr> <tr><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr> <tr><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		1日(木)～7日(水)	春学期1 レポート提出期間	○	○							
	日	月	火	水	木	金	土																																														
					1	2	3																																														
	4	5	6	7	8	9	10																																														
	11	12	13	14	15	16	17																																														
	18	19	20	21	22	23	24																																														
25	26	27	28	29	30																																																
1日(木)	春学期2 授業開始	○	○																																																		
3日(土) 3時限以降	補講日 *実施科目発表は5月26日(金)	○	○																																																		
10日(土)	英語単位認定試験実施	全カリ																																																			
下旬	映像身体学専攻 修士論文中間報告会		○																																																		
7 July <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						1日(土) 3時限以降	補講日 *実施科目発表は6月23日(金)	○	○
	日	月	火	水	木	金	土																																														
							1																																														
	2	3	4	5	6	7	8																																														
	9	10	11	12	13	14	15																																														
	16	17	18	19	20	21	22																																														
	23	24	25	26	27	28	29																																														
	30	31																																																			
	3日(月)	英語単位認定試験合格者発表	全カリ																																																		
	5日(水)～7日(金)	卒業論文, 卒業論文・卒業制作提出期間(春学期)	○																																																		
	5日(水)～7日(金)	修士論文提出期間(春学期)		○																																																	
	7日(金)～11日(火)	研究成果報告書提出期間(春学期)		○																																																	
	17日(月)	授業日 ★2	○	○																																																	
19日(水)	春学期・春学期2 授業終了	○	○																																																		
3日(月)	日程・実施方法・試験場発表(予定)	○	○																																																		
13日(木)～19日(水)	春学期末試験 最終授業時試験期間	○	○																																																		
20日(木)～26日(水)	レポート提出期間(春学期1開講科目は除く)	○	○																																																		
20日(木)～31日(月)	定期試験期間	○	○																																																		
21日(金) 15:00	博士論文中間報告書提出期限(春学期)		○																																																		
8 August <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td></tr> <tr><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td></tr> <tr><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			1日(火)～9月19日(火)	夏季休業期間	○	○							
	日	月	火	水	木	金	土																																														
			1	2	3	4	5																																														
6	7	8	9	10	11	12																																															
13	14	15	16	17	18	19																																															
20	21	22	23	24	25	26																																															
27	28	29	30	31																																																	
25日(金)	春学期末追試験 対象者・試験方法・時間割発表	○	○																																																		

★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

2017年度 現代心理学部・現代心理学研究科 行事予定 (秋学期)

カレンダー ■ 休日・祝日 □ 祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定	学部	研究科																																										
9 September <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	5日(火)	春学期成績発表 (Web)	○	○
	日	月	火	水	木	金	土																																							
						1	2																																							
	3	4	5	6	7	8	9																																							
	10	11	12	13	14	15	16																																							
	17	18	19	20	21	22	23																																							
	24	25	26	27	28	29	30																																							
	5日(火)~11日(月)	春学期末追試験 試験期間	○	○																																										
	12日(火)~21日(木)	9月期 履修登録①	科目コード登録期間	○	○																																									
	12日(火)~15日(金)		抽選登録1次申込期間	○																																										
	17日(日)		抽選登録1次結果発表	○																																										
	17日(日)・18日(月)		抽選登録2次申込期間	○																																										
	19日(火)		抽選登録2次結果発表	○																																										
	22日(金) 18:00~		履修登録科目の確認 ★1	○	○																																									
14日(木)	英語単位認定試験試験時間・試験場発表 (予定)	全カリ																																												
19日(火)	大学院学位授与式・特別卒業式	○	○																																											
13日(水)~15日(金)	研究計画書提出期間 (秋学期復学者) (博士課程後期課程)		○																																											
20日(水)	秋学期・秋学期1 授業開始		○	○																																										
23日(土)	授業日 ★2		○	○																																										
26日(火)・27日(水)	9月期 履修登録②	履修登録修正期間 (特別措置)	○	○																																										
28日(木) 21:00~		履修登録科目の確認 ★1	○	○																																										
10月5日(木)		申し出期限	○	○																																										
10 October <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					2日(月)~6日(金)	修士論文題目届提出期間 (春学期提出者) *映像身体学専攻除く		○
	日	月	火	水	木	金	土																																							
	1	2	3	4	5	6	7																																							
	8	9	10	11	12	13	14																																							
	15	16	17	18	19	20	21																																							
	22	23	24	25	26	27	28																																							
29	30	31																																												
9日(月)	授業日 ★2		○	○																																										
18日(水)	全日休講 (スポーツフェア)		○	○																																										
21日(土) 3時限以降	補講日 *実施科目発表は10月13日 (金)		○	○																																										
31日(火)	秋学期1末試験	実施方法発表 (予定)	○	○																																										
11 November <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr> <tr><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td></tr> <tr><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr> <tr><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td></td><td></td></tr> </table> ※池袋キャンパス開講科目のみ全日休講	日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			1日(水)~6日(月)	秋季臨時休業期間 (学園祭)	○	○
	日	月	火	水	木	金	土																																							
				1	2	3	4																																							
	5	6	7	8	9	10	11																																							
	12	13	14	15	16	17	18																																							
	19	20	21	22	23	24	25																																							
	26	27	28	29	30																																									
	7日(火)	全日休講		○	○																																									
	11日(土)	英語単位認定試験実施	全カリ																																											
	15日(水)	秋学期1 授業終了		○	○																																									
16日(木)~24日(金)	秋学期1 レポート提出期間		○	○																																										
16日(木)	秋学期2 授業開始		○	○																																										
18日(土)	秋季入学試験 ※池袋キャンパス開講科目のみ全日休講		○	○																																										
25日(土) 3時限以降	補講日 *実施科目発表は11月17日 (金)		○	○																																										

★1 履修登録状況画面 (Web) にて必ず確認すること。

★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

・次年度の学年始め行事予定の詳細は1月中旬に各学部等掲示板にて発表する。

・各種申込の受付時間については、必ず別途確認すること。

カレンダー ■ 休日・祝日 □ 祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定	学部	研究科																																																	
<div style="text-align: center;"> <h1>12</h1> <p>December</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>▲5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>▲22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> <tr><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> </div>	日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	▲5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	▲22	23	24	25	26	27	28	29	30	31							4日(月) 5日(火) 12日(火) 16日(土) 3時限以降 13日(水)～15日(金) 22日(金) 25日(月)～1月5日(金)	英語単位認定試験合格者発表 全日休講 秋学期末・学年末試験 日程・実施方法・試験場発表(予定) 補講日 *実施科目発表は12月8日(金) 卒業論文, 卒業論文・卒業制作提出期間 全日休講 冬季休業期間	全カリ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
日	月	火	水	木	金	土																																															
					1	2																																															
3	4	▲5	6	7	8	9																																															
10	11	12	13	14	15	16																																															
17	18	19	20	21	▲22	23																																															
24	25	26	27	28	29	30																																															
31																																																					
<div style="text-align: center;"> <h1>1</h1> <p>January</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13[※]</td></tr> <tr><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td></tr> <tr><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>※新座キャンパス開講科目のみ全日休講</p> </div>	日	月	火	水	木	金	土		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13 [※]	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				10日(水)～12日(金) 10日(水)～12日(金) 12日(金) 15:00 13日(土) 23日(火) 17日(水)～23日(火) 24日(水)～30日(火) 24日(水)～2月3日(土) 中旬 中旬	修士論文提出期間 研究成果報告書提出期間(秋学期) 博士論文中間報告書提出期限 大学入試センター試験 ※新座キャンパス開講科目のみ全日休講 秋学期・秋学期2 授業終了 秋学期末 学年末試験 最終授業時試験期間 レポート提出期間(秋学期1開講科目は除く) 定期試験期間 心理学「心理学演習」ガイダンス 映像身体学科「基礎演習」ガイダンス	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○							
日	月	火	水	木	金	土																																															
	1	2	3	4	5	6																																															
7	8	9	10	11	12	13 [※]																																															
14	15	16	17	18	19	20																																															
21	22	23	24	25	26	27																																															
28	29	30	31																																																		
<div style="text-align: center;"> <h1>2</h1> <p>February</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr> <tr><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr> <tr><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> </div>	日	月	火	水	木	金	土					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28				1月下旬～2月上旬 1月下旬～2月上旬 1月下旬～2月上旬 1月下旬～2月上旬 2月上旬 17日(土) 28日(水) 下旬	卒業論文, 卒業論文・卒業制作口頭試問 心理学・臨床心理学専攻修士論文発表会 心理学専攻修士論文構想発表会 修士論文口頭試問 修士論文最終報告会 秋学期末・学年末追試験 対象者・試験方法・時間割発表 卒業合格者(在学8学期以上の者)・修了合格者発表(Web) 映像身体学専攻修士論文構想発表会	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○							
日	月	火	水	木	金	土																																															
				1	2	3																																															
4	5	6	7	8	9	10																																															
11	12	13	14	15	16	17																																															
18	19	20	21	22	23	24																																															
25	26	27	28																																																		
<div style="text-align: center;"> <h1>3</h1> <p>March</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr> <tr><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr> <tr><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td></tr> </table> </div>	日	月	火	水	木	金	土					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1日(木)～7日(水) 13日(火) 23日(金) 24日(土) 13:30 24日(土) 16:00	秋学期末・学年末追試験 試験期間 成績発表(Web) 卒業礼拝 卒業式 大学院学位授与式	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○							
日	月	火	水	木	金	土																																															
				1	2	3																																															
4	5	6	7	8	9	10																																															
11	12	13	14	15	16	17																																															
18	19	20	21	22	23	24																																															
25	26	27	28	29	30	31																																															

現代心理学部全学生にかかわる事項

心理学科履修規定・カリキュラム

映像身体学科履修規定
・カリキュラム

現代心理学研究科にかかわる事項

諸規則

個人情報保護

各種案内

教員一覧

案内図

2017年度

履修要項

現代心理学部
現代心理学研究科

目次

教務事項の伝達について
休日授業日・休講日について
行事予定

現代心理学部の考え方・学位授与方針

現代心理学部全学生にかかわる事項

I-1	カリキュラムのしくみ（2012～2015年度1年次入学者に適用）	16
I-2	カリキュラムのしくみ（2010・2011年度1年次入学者に適用）	18
II	授業（学習生活）	20
	1 学期・授業	
	2 授業時間	
	3 休講	
	4 補講	
	5 授業の欠席について	
	6 学校感染症に罹患した場合の措置について	
	7 裁判員制度に伴う場合の措置について	
III-1	履修規定（単位）	23
	1 単位制度	
	2 卒業要件単位	
III-2	履修規定（履修についての注意事項）	24
	1 全体についての注意事項	
	2 卒業論文、卒業制作について	
	3 他学部科目・他学科科目・大学院科目について	
	4 派遣留学生・認定校留学生の履修	
	5 5大学間単位互換制度（f-Campus）による科目の履修	
	6 全学共通カリキュラム言語「言語副専攻」学部展開科目について	
	7 必修科目履修辞退制度	
III-3	履修規定（カリキュラムの一部改定について）	32
III-4	履修規定（単位認定）	36
	1 派遣留学制度による単位認定	
	2 認定校留学制度による単位認定	
	3 入学前に修得した単位の認定	
	4 入学後に他大学等で修得した単位の認定	
IV	ガイダンス・履修相談・アドバイザー	40
	1 学習計画の立て方	
	2 アカデミックアドバイザー， オフィスアワー	
V	履修登録	43
	1 履修登録とは	
	2 履修登録の流れ	
	3 履修届出方法	
	4 登録科目の確認について	
	履修登録状況画面の確認	
	5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認	

VI	試験・成績	54
	1 試験に関する規定	
	2 試験方法	
	3 筆記試験	
	4 口頭試問	
	5 レポート	
	6 追試験	
	7 試験時間重複特別試験	
	8 不正行為	
	9 成績	
VII	卒業に関する事項	66
	1 卒業および学位に関する規定	
	2 最長在学年数	
	3 卒業合否の発表	
	4 卒業の延期（希望留年）	
	5 特別卒業	
VIII	学生証・学籍・学費	68
	1 学生証	
	2 学籍	
	3 休学・復学	
	4 退学	
	5 希望留年（学部4年次生のみ）	
	6 特別卒業	
	7 特別修了	
	8 再入学	
	9 学費	
IX	5大学間単位互換制度（通称f-Campus）	75
	1 履修登録	
	2 授業	
	3 試験・成績・単位認定	
	4 学費等	
	5 その他	
X	寄附講座	77
XI	保険への加入	78
XII	現代心理学研究科推薦入学試験（博士課程前期課程）	79

履修規定・カリキュラム

2010～2015年度入学者に適用	心理学科	83
	映像身体学科	95

現代心理学研究科にかかわる事項

現代心理学研究科の理念・目的・学位授与方針・科目ナンバリングについて	109
博士課程前期課程履修規定その他注意事項 全専攻	113
博士課程前期課程履修規定 心理学専攻	124
博士課程前期課程履修規定 臨床心理学専攻	127
博士課程前期課程履修規定 映像身体学専攻	130
博士課程後期課程履修規定その他注意事項 全専攻	133
博士課程後期課程研究指導一覧 心理学専攻 臨床心理学専攻 映像身体学専攻	139

諸規則

1 立教大学学則（抜粋）	145
2 立教大学大学院学則（抜粋）	148
3 立教大学学位規則（抜粋）	151
4 現代心理学部専門教育科目試験規則	153
5 立教大学博士学位申請手続要領（抜粋）	155
6 博士学位論文取扱い事務に関する内規（抜粋）	155
7 立教大学大学院学位論文審査手数料規則	155
8 立教大学大学院学費その他納入金内規	156
9 立教大学大学院学生学会発表奨励金規程	157
10 学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学 学生交流に関する覚書	157
11 明治大学、立教大学及び国際大学による共同教育プログラムの履修等に関する覚書	158

個人情報保護

プライバシーポリシー 立教大学における個人情報の取扱いについて	161
---------------------------------	-----

各種案内

1 教務部案内（新座キャンパス）	165
2 パソコン教室、貸出パソコン利用案内	166
3 V-Campus案内	167
4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置	168
5 地震発生時の心得	168
6 台風の接近が予想される場合の措置	168
7 緊急連絡システムについて	169

教員一覧

教員一覧	173
------	-----

案内図

専任教員研究室一覧	186
構内案内図・教室案内図（新座キャンパス）	188
構内案内図・教室案内図（池袋キャンパス）	193

こんなときは・新座キャンパス教務事務センター窓口時間

現代心理学部の考え方

現代心理学部は、心と身体と映像の三つを探究の柱として、〈人間とは何か〉を問うところです。

心の科学は、二十世紀になって大きく発展しました。医学や生理学は、それ以前から現在まで、ずっと目覚ましい発展を続けてきました。けれども、心と身体との実際の結びつきについては、まだ余りに多くのことが知られないままになっています。私たちの心は身体なしには働きようがありませんし、身体は何かを感じたり、計ったり、予測したりせずには動きません。ということは、心と身体の活動は、どちらも二つの結びつきのなかでしか、ほんとうには解明できないということではないでしょうか。心身の結びつきは、これを生きている私たちにとっては、言うに言えないほど単純な、統一された経験ですが、外側から説明しようとするれば複雑極まりない事実の諸系列です。このようなく結びつきを解明するには、これまでの科学の方法だけでは不十分なのです。この解明には、哲学的な思考も、歴史や社会を見通す鋭い眼差しも、自分の心身を内側から動かして知る技法も必要です。

また、この学部では、映像と呼ばれるものを、現代人の身体から分岐したもうひとつの身体として、重視します。映像の働きは、物を、世界を知覚することです。知覚は、身体に特有の働きであったにもかかわらず、映像はその働きを独自の仕方でも引き継ぎ、分岐させ、ますます驚異的な発達に向かいつつあります。私たちの心身は、今や機械による無数の知覚に取り巻かれ、それを通して生きるようになったとさえ言えるでしょう。現代心理学部は、この状況を積極的に受け止め、心身にとっての映像の意味と働きを明らかにしていきます。思考や表現における、映像の限らない可能性を追究していきます。

この学部は、心理学科と映像身体学科という一見対照的な二学科から成りますが、いずれの学科も心、身体、映像の三つのメインテーマを探究しながら、〈人間とは何か〉を問う姿勢に変わりはありません。異なるのは、重点の置き方です。心理学科は、科学的、実証的な方法で心と身体の機能とメカニズムの探究をリードします。映像身体学科は、歴史を踏まえた哲学的な思考技法実践や作品制作を通して、身体と映像の探究をリードします。二学科の探究は、互いに助け合う両輪となって二十一世紀の新人間学を拓いていくでしょう。

現代心理学部は、新たな人間学の構築を目指して、2006年度に多彩な人材を結集し、創り出されました。教員も学生のひとりひとりも、この目的を達成するためのかけがえのない人材なのです。

現代心理学部長 塚本 伸一

教育目的

本学部は「人間とは何か」という古くからの根本問題を、心、身体、映像に関する諸学を通じ、サイエンス、フィロソフィ、アートが融合した、現代世界にふさわしい方法で探究することをその目的とする。

学修成果

〈心理学科〉

心理学科の学士課程では、学生が下記の知識・能力・技能を身につける。

1. 「人間とは何か」の根本問題に対し、心、身体、映像の3つの視点から理論的、技術的にアプローチでき、21世紀を生きる人間にとって有効な思考方法を身につけることができる。
2. さらに、心理学、隣接・関連諸科学を構成する基礎的な諸概念を、包括的、学問的に理解し、問題の発見と解決に際して、それらを有効、的確に使用することができる。
3. 心理学に関する文献を理解するために必要な、心理学の歴史、主な研究領域、学説、統計手法に対する基礎知識と英文読解力を涵養する。
4. 心理学の基礎・応用に関連する研究あるいは実践活動を遂行するために必要な、実験・調査・面接・テストを実施する技術と、研究や調査を計画・立案し、研究の成果を報告する能力を身につける。
5. 社会、企業、組織、地域、家庭におけるさまざまな問題解決のために、心理学の知識と方法論を応用する能力を身につける。
6. 言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。
7. 言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多元的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
8. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
9. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

〈映像身体学科〉

映像身体学科の学士課程では、学生が下記の知識・能力・技能を身につける。

1. 「人間とは何か」の根本問題に対し、心、身体、映像の3つの視点から理論的、実践的アプローチを行なうことにより、21世紀を生きる人間にとって有効な思考方法を身につけることができる。
2. さらに「人間とは何か」の根本問題をめぐり、現代心理学部全体の知見を統合しつつ、心、身体、映像を多面的に理解する。
3. 人間の〈からだ〉をめぐって多様に蓄積されてきた東西の哲学、身体技法を包括的に学ぶ〈身体学〉を修める。
4. こうした〈身体学〉の内部にあるものとして、知覚と運動に関する人間科学的思考の基礎を身につける。
5. 現代の知覚経験に大きく作用するものとしての機械映像の本質を、歴史的、理論的に学習する。映像を通

して実現される表現や思考を解析し、批判し、創造的に実践できる技能を身につける。

6. 言語Aの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、状況に応じて適切なコミュニケーションができる。さらに、英語圏の文化のみならず、英語を通して得た国際的な知見によって、多様な文化を理解し、対応できる。また、自分の専門領域の内容を英語で学ぶ基礎が身につく。
7. 言語Bの学修によって、聞く・話す・読む・書くという基本的技能にもとづいて、日常生活における基本的なコミュニケーションができる。さらに、当該言語圏の文化のみならず、その言語を学ぶ過程で獲得した多面的な視点を通じて、異文化を理解し、対応できる。また、留学生については、大学での学修に必要とされる高度な日本語運用能力を養うとともに、実社会のコミュニケーションに対応できる実践的な日本語力を身につける。
8. 学びの精神では、立教大学設立理念の一端に触れ、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、大学での講義科目受講の包括的スキルを体得する。
9. 多彩な学びでは、学問的知見の多様性と豊饒性を理解し、他の諸学問の成果を交錯させることで、世界を複眼的に解読する柔軟な知性を涵養する。また、スポーツ実習では、心身の健康増進を目的とした科学的知識を理解し、スポーツの実践をとおした体力の維持・向上、運動習慣を醸成する。

学修環境

〈心理学科〉

心理学科では、上記の教育目標を実現するために、視覚実験のための暗室機能や聴覚実験のための防音室機能を備えた15の学生実験室をはじめ、多様な実験設備、コンピュータ、統計ソフト等を用意している。一方、面接・テストに用いる各種検査器具や解析ツールも整備している。また、専任教員の専門領域は、基礎的心理学分野から応用心理学分野、臨床心理学分野に及び、幅広く心理学全般を学べる学習環境が用意されている。教育課程は、心理学の基礎を学ぶ学科必修科目、心理学の裾野を広げる学科選択科目B、心理学研究に関する知識と技法を学ぶ学科選択科目C、卒業研究の準備とその展開をはかる学科選択科目A・E、近接・関連諸科学の最新の研究成果にふれ、心理学の広がりを知る学科選択科目Dなどにより構成する。さらに、社会の実態を把握するための専門的な知識と実施の技能を有することを証明する社会調査士の資格を取得するための制度を導入している。

〈映像身体学科〉

映像身体学科の学生のためには、上記の教育目標を実現するために、学生用撮影機材、編集設備（HD編集用プロ仕様のものも含む）、座席収納可能可動式のダンス・演劇用教室、4K（次世代高精細画像）映写設備を備えた映像上映用教室及び映像作品・スチール写真の撮影が可能な学習環境を備えている。また、教員に第一線で活躍する舞台芸術家、映画監督、プロデューサー／ディレクターを擁しているため、作品制作を行う機会が随時提供されている。

身体学の基礎を身につけるのに必要なものとしては、身体社会論、身体人類学、生命システム論などに関する授業科目があり、その展開を学ぶものとして、身体学文献講読、各種演習、舞踊論、演劇論、医学身体論などに関する多彩な授業科目がある。映像学の基礎を身につけるのに必要なものとしては、映像社会論、映像人類学などに関する授業科目があり、その展開を学ぶものとして、映像学文献講読、各種演習、映画論、写真論、広告論などに関する授業科目がある。また、身体・映像の2領域にわたってワークショップ形式の授業が数多く用意されており、舞踊、演劇、映像などに関し、現代第一線の技法をまのあたりにして学ぶことができる。

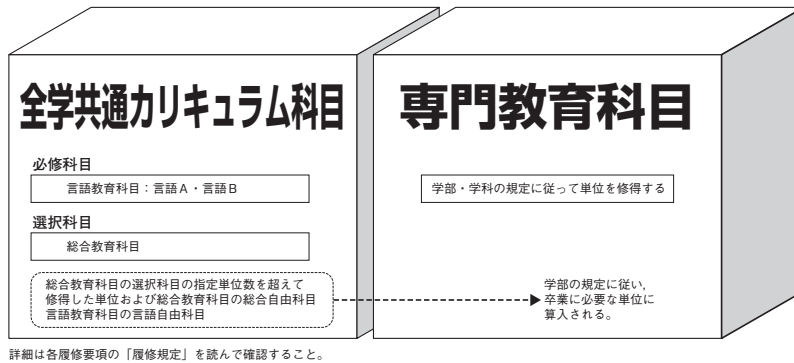
現代心理学部 全学生に かわる事項

- I カリキュラムのしくみ
- II 授業（学習生活）
- III-1 履修規定（単位）
- III-2 履修規定（履修についての注意事項）
- III-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）
- III-4 履修規定（単位認定）
- IV ガイダンス・履修相談・アドバイザー
- V 履修登録
- VI 試験・成績
- VII 卒業に関する事項
- VIII 学生証・学籍・学費
- IX 5大学間単位互換制度（通称 f-Campus）
- X 寄附講座
- XI 保険への加入
- XII 現代心理学研究科推薦入学試験（博士課程前期課程）

カリキュラムのしくみ

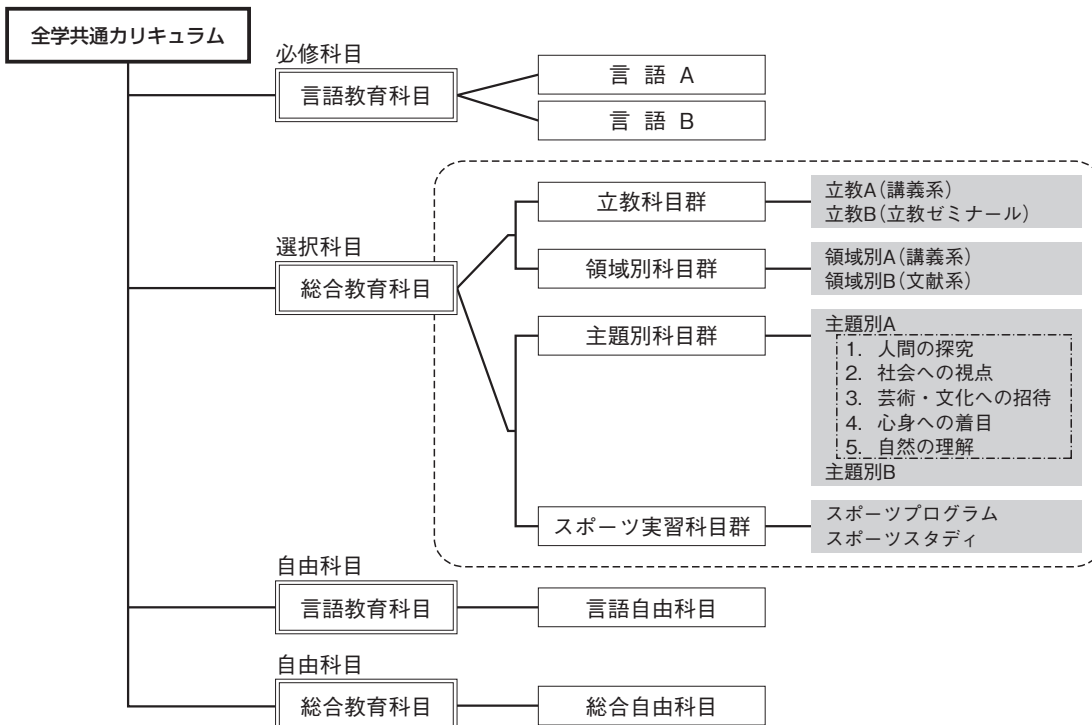
1 カリキュラム体系

本学を卒業するためには、本学の学部にて4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。本学の教育課程（カリキュラム）は、全ての学部において、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目により構成されている。よって卒業要件単位は、学部（学科）ごとに定められている教育課程に従い、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目の双方から修得しなければならない。



2 全学共通カリキュラム科目の構成

全学共通カリキュラム科目（以下全カリ科目）は次のように必修科目・選択科目・自由科目に分かれており、それぞれ履修の仕方が定められている。なお、総合教育科目として選択科目以外に総合自由科目が開講されており、言語教育科目として必修科目以外に言語自由科目が10言語について開講されている。



3 全カリ科目の履修の仕方

必修科目は、1年次に履修する「言語教育科目」の「言語A」、「言語B」の2言語について修得しなければならない。言語教育科目には、さらに学習を深めたり、新しい言語に挑戦したりするための「言語自由科目」も設置されている。詳細は、全学共通カリキュラム履修要項を確認すること。

「総合教育科目」には、選択科目と自由科目（2012年度以降1年次入学者・2014年度以降3年次編入学者対象）とがあり、選択科目は「立教科目群」「領域別科目群」「主題別科目群」「スポーツ実習科目群」の4科目群で構成されている。選択科目は1～4年次すべての学年において履修が認められている。[注意]

総合自由科目は、立教大学の社会的な使命や課題を強く意識した全学的な取組み（プロジェクト）のために設けられているもので、履修できる学部・学年等が制限されたり、先修規定があったり、語学能力に一定の制限が設けられたりすることがある（2 全学共通カリキュラム科目の構成 の図を参照）。

履修にあたっては、下表のように定められたそれぞれの区分から、卒業に必要な単位数を修得しなければならない。

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数
必修科目	10	言語教育科目 言語A	6
		言語教育科目 言語B	4
選択科目	20	総合教育科目 立教科目群 立教A（講義系） 立教B（立教ゼミナール）	6
		総合教育科目 領域別科目群 領域別A（講義系） 領域別B（文献系）	
		総合教育科目 主題別科目群 主題別A（1, 2, 3, 4, 5） 主題別B	14
		総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ	

[注意] 「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「現代心理学部所属学生履修不可」とある科目については、現代心理学部に所属する学生は履修できない。

履修上の注意に従い、全カリの卒業要件単位数を超えて修得した単位（全カリ言語自由科目および総合自由科目で修得した単位および全カリの総合教育科目の選択科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位）については、各学部（学科・専修）の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。

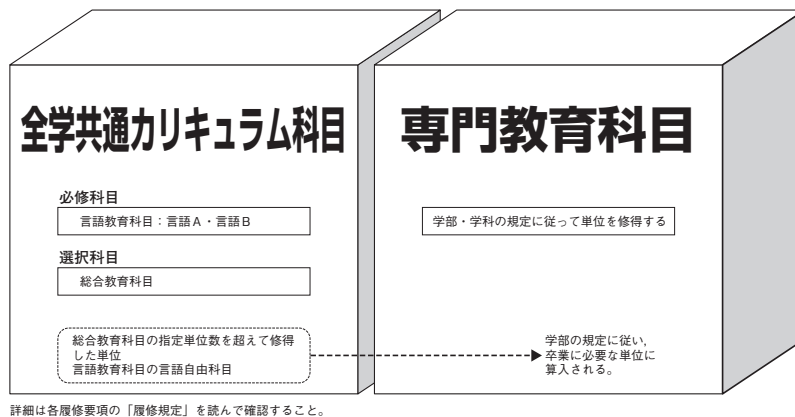
4 専門教育科目の構成

所属学部・学科の専門教育科目については、この履修要項の該当入学年度の「学科ごとの履修規定・カリキュラム」を参照すること。

カリキュラムのしくみ

1 カリキュラム体系

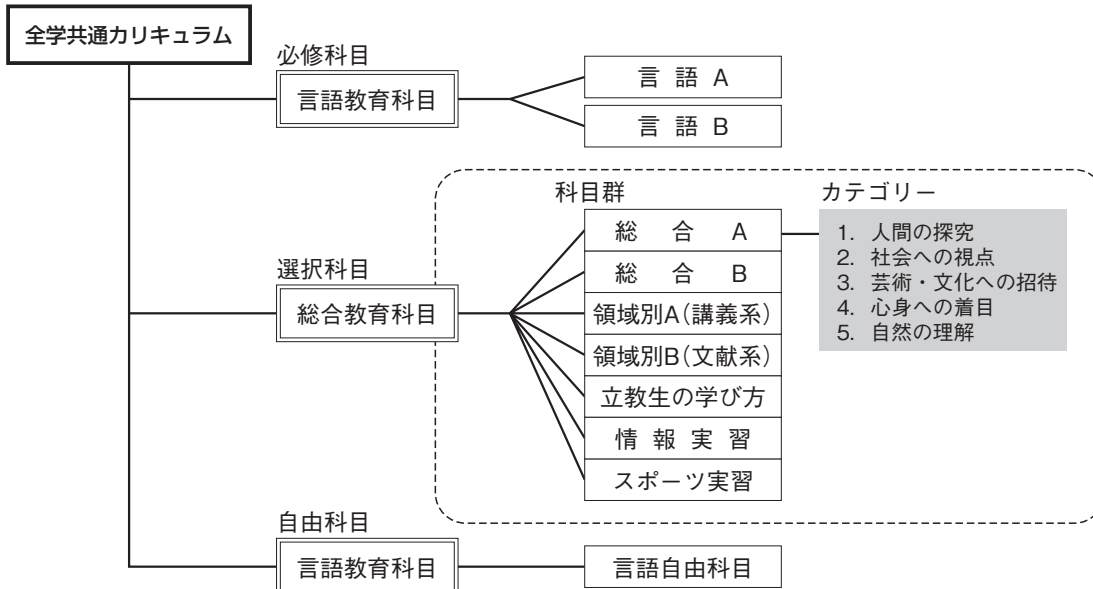
本学を卒業するためには、本学の学部にて4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。本学の教育課程（カリキュラム）は、全ての学部において、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目により構成されている。よって卒業要件単位は、学部（学科）ごとに定められている教育課程に従い、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目の双方から修得しなければならない。



詳細は各履修要項の「履修規定」を読んで確認すること。

2 全学共通カリキュラム科目の構成

全学共通カリキュラム科目（以下全カリ科目）は次のように必修科目・選択科目・自由科目に分かれており、それぞれ履修の仕方が定められている。なお、言語教育科目として必修科目以外に言語自由科目が10言語について開講されている。



3 全カリ科目の履修の仕方

必修科目は、1年次に履修する「言語教育科目」の「言語A」、「言語B」の2言語について修得しなければならない。言語教育科目には、さらに学習を深めたり、新しい言語に挑戦したりするための「言語自由科目」も設置されている。詳細は、全学共通カリキュラム履修要項を確認すること。

選択科目である「総合教育科目」は、科目の内容により「総合A」「総合B」「領域別A（講義系）」「領域別B（文献系）」「立教生の学び方」「情報実習」「スポーツ実習」の7科目群に分かれ、さらに総合Aは5つのカテゴリーに分かれる（2 全学共通カリキュラム科目の構成 の図を参照）。なお、1～4年次すべての学年において履修が認められている。[注意]

履修にあたっては、下表のように定められたそれぞれの区分から、卒業に必要な単位数を修得しなければならない。

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数
必修科目	10	言語教育科目 言語A	6
		言語教育科目 言語B	4
選択科目	20	総合教育科目 総合A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6
		総合教育科目 総合A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4
		総合教育科目全体 【総合A（1, 2, 3）】 6単位を超えて修得した単位 【総合A（4, 5）】 4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A（講義系） 領域別B（文献系） 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10

[注意] 「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「現代心理学部所属学生履修不可」とある科目については、現代心理学部に所属する学生は履修できない。

履修上の注意に従い、全カリの卒業要件単位数を超えて修得した単位（全カリの総合教育科目の選択科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位および言語自由科目で修得した単位）については、各学部（学科・専修）の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。

4 専門教育科目の構成

所属学部・学科の専門教育科目については、この履修要項の該当入学年度の「学科ごとの履修規定・カリキュラム」を参照すること。

1 学期・授業

- 学期 (1) 本学の授業は1年を2学期に分けて行われ、それぞれを春学期、秋学期と呼ぶ。
 (2) 本年度の春学期の授業開始日は4月11日（火）、秋学期の授業開始日は9月20日（水）である。

授業 授業には以下の種類がある。

通年開講科目	春学期・秋学期通して行われるもの
通年他科目	学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期開講科目	春学期で完結するもの
春学期1開講科目	春学期前半で完結するもの
春学期2開講科目	春学期後半で完結するもの
春学期他科目	春学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期期間外科目	春学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)
秋学期開講科目	秋学期で完結するもの
秋学期1開講科目	秋学期前半で完結するもの
秋学期2開講科目	秋学期後半で完結するもの
秋学期他科目	秋学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
秋学期期間外科目	秋学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)

2 授業時間

本学における授業時間は次のとおりである。

〈時限・授業時間〉

時限	1	2	3	4	5	6
授業時間	9:00 }	10:45 }	13:15 }	15:00 }	16:40 }	18:20 }
	10:30	12:15	14:45	16:30	18:10	19:50

- ただし、経済学研究科、ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科の6時限以降の授業時間は次のとおりである。

6時限	18:30~20:00	7時限	20:10~21:40
-----	-------------	-----	-------------

3 休講

大学または各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講することがある。

休講掲示 休講は、大学としての決定または科目担当者からの届出があり次第、掲示板（インフォメーションボード）に表示する。

〈掲示板（インフォメーションボード）設置場所〉

池袋キャンパス：5号館1階、8号館1階、14号館1階
新座キャンパス：1号館1階、4号館2階

休講情報 休講情報は、SPIRIT Mobileからも確認することが可能である。

- 休講の掲示がないにもかかわらず、始業時刻後30分以上経過しても担当教員が入室しない場合は、教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）に連絡し、その指示に従うこと。
 ■ 大規模地震の警戒宣言が発令された場合、および台風の接近が予想される場合等、緊急時の休講の措置については、表紙裏および巻末の各種案内を参照すること。

4 補 講

休講等により講義の進行が予定より遅れた際に、臨時の授業を行うことがあり、これを補講という。下記の日程を補講日として設定している。

学期	補 講 日 (*1)	発表時期 (*2)	発表場所
春学期	5月 6日 (土)	4月28日 (金) 5月26日 (金) 6月23日 (金)	池袋キャンパス開講科目： 8号館インフォメーション ボード下(池袋キャンパス) 新座キャンパス開講科目： 各学部掲示板(新座キャン パス) SPIRIT 教務部ページ
	6月 3日 (土)		
	7月 1日 (土)		
秋学期	10月21日 (土)	10月13日 (金) 11月17日 (金) 12月 8日 (金)	
	11月25日 (土)		
	12月16日 (土)		

*1) この期間以外に補講を行う場合もあるので教員の指示に従うこと。あわせて、上記発表場所も随時確認すること。

*2) 発表後に変更・追加がある場合、随時更新されるので注意すること。

5 授業の欠席について

本学では、学校感染症により出校停止となった場合、裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭する場合以外の事由による欠席は認めていない（いわゆる公欠制度は設けていない）。

6 学校感染症に罹患した場合の措置について

学校感染症第1種・2種に罹患した場合は、出校を停止する。速やかに各教務担当事務局に連絡し、指示を受けること。

池袋キャンパス	教務事務センター	TEL 03-3985-2220
	独立研究科事務室	TEL 03-3985-2170
	法務研究科事務室	TEL 03-3985-3310
	学校・社会教育講座事務室	TEL 03-3985-2229
新座キャンパス	教務事務センター	TEL 048-471-6942

1. 対象となる
学校感染症
第1種・2種

	疾患名
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウイルス）、中東呼吸器症候群（MERSコロナウイルス）、特定鳥インフルエンザ
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く。）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふく）、風しん、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎

2. 授業欠席の
扱い

学校保健安全法によって定められた学校感染症のうち第1種および2種に該当するものに罹患した場合の授業欠席については、以下のとおりとする。

- (1) 学校感染症第1種・2種に罹患したことにより、授業を欠席した学生が、所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。
- (2) 申請手続きは以下のとおりである。
 - ① 登校可能となった日を含む7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、「学校感染症第1種・2種に罹患した学生の欠席について」（各教務担当事務局で交付）に必要事項を記入し、医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」*1、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」*2とともに、各教務担当事務局に提出する。

II 授業（学習生活）

申請手続科目を確認するため、履修登録状況画面のコピーも提出すること。

*1 罹患開始時と治癒時の診療医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合がある。その場合は、罹患開始時の医療機関が発行する『罹患日記載がある「診断書」』と、治癒時の医療機関が発行する『治癒日と登校可能日の記載がある「診断書」』の2種類をもって「罹患期間事項についての証明」とすることができる。

*2 「治癒証明書」の書式はSPIRIT 教務部ページからダウンロードできる。

② 申請者は、各教務担当事務局にて受付印を押印された申請書および診断書もしくは治癒証明書（コピー）を受取り、各授業時間に担当教員に提出する。

3. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「VI 試験・成績」を確認すること。

7 裁判員制度に伴う場合の措置について

1. 授業欠席の扱い

裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生の扱いについては、以下のとおりとする。

(1) 裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生が所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。

(2) 申請手続きは以下のとおりである。

① 裁判員に選任された場合

公判終了日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判員の職務従事期間についての「証明書*」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務担当事務局で交付）に必要な事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務担当事務局に提出する。

*「証明書」は出頭先の裁判所に申し込み、発行を受けること。

② 裁判員に選任されなかった場合

選任手続期日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判所出頭日の証明*を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務担当事務局で交付）に必要な事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務担当事務局に提出する。

*裁判所出頭日の証明は出頭先の裁判所で受けることができる。

③ 申請者は、各教務担当事務局にて受付印を押印された申請書類を受取り、各授業時間に担当教員に提出する。

2. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「VI 試験・成績」を確認すること。

1 単位制度

1. 単位制度

大学での学修は、すべて単位制になっている。すべての科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録をし、授業を受け、かつ、試験に合格した場合、当該科目の単位が与えられる。その単位の合計が卒業に必要な単位（卒業要件単位）を満たした者に対して卒業の資格が与えられる。

2. 単位の数え方

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 前述の(1)(2)にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

現代心理学部専門教育課程では、計算基準を次のように定めている。

講義・演習・ワークショップ科目	週1回半期の授業	2単位
実験・実習科目	週1回半期の授業	1単位
卒業論文		半期8単位
卒業論文・卒業制作		半期8単位

- (1) 実験調査実習1，実験調査実習2は週3回（3時限連続）授業を行う。
- (2) 入門演習1，入門演習2は週2回（2時限連続）授業を行う。

2 卒業要件単位

- (1) 現代心理学部の卒業に必要な単位数（卒業要件単位）は、各学科の定めるところによる。入学年度によっても異なるので注意すること。

☞ 所属学科の該当入学年度の履修規定を参照

- (2) 「随意科目」として指定される科目は、卒業要件単位に含めることはできない。

☞ 随意科目とは、①随意科目として設定している科目と、②科目自体が随意科目というわけではなく、重複履修や教職のために設置している科目等を履修した結果、履修規定により卒業に必要な単位数に算入されない科目の2種類がある。

1 全体についての注意事項

1. 学年配当

- (1) 科目の履修は、原則として、当該科目が配当されている年次において行うものとする。
- (2) 高学年次の方が低学年次に配当されている科目を履修することはできる。ただし、以下の科目については指定された在学期の学生に限り履修することができる。

科目	履修することができる学生
映像技術入門(A)・(B)	在学1学期・2学期の者
基礎演習1～15	2年次生以上で在学1学期～3学期の者

- (3) 低学年次の方が高学年次に配当されている科目を履修することはできない。ただし、資格要件等により、履修が認められる科目についてはこの限りではない。

※配当年次の他に、履修の前提となる条件が定められている場合がある。

*休学した学生の履修の原則について

休学した学生は、在学期数にかかわらず、年次は自動的に進む。この場合、特に学部・学科等で定める場合を除き、進んだ年次の配当科目について履修登録が認められる。

2. 履修登録上限 単位数

- (1) 1年間に履修登録できる単位数は、全学共通カリキュラム科目、現代心理学部専門教育科目（他学部履修科目等を含む）を合計して登録できる単位数が下表のとおり定められている。

〈現代心理学部 履修登録上限単位数〉

学年	年間履修登録上限単位数				履修登録上限の範囲		
	通年	春学期		秋学期		上限に含める	上限に含めない
		春1	春2	秋1	秋2		
1年次	48	30		30		・現代心理学部専門教育科目 ・全学共通カリキュラム科目 ・他学部科目 ・5大学間単位互換制度 (f-Campus) 科目 ・大学院科目	・学校・社会教育講座科目 (科目コードがG*で始まる科目)
		16	16	16	16		
2年次	44	30		30			
		16	16	16	16		
3年次	44	30		30			
		16	16	16	16		
4年次	44	30		30			
		16	16	16	16		

春1：春学期1，春2：春学期2，秋1：秋学期1，秋2：秋学期2

*単位認定により修得した科目については、「入学後に他大学等で修得した単位」を除き、履修上限単位数には含まれない。

- (2) いずれの学科・年次も、各学期30単位まで履修登録をすることができるが、年間履修登録単位数（春学期と秋学期を合計したもの）は上記の上限単位数を超えることは認められない。例えば、春学期に30単位を登録すると、1年次では秋学期に18単位、2～4年次では秋学期に14単位までしか登録することができなくなる。したがって、4月に履修計画を立てる際に、必修科目や春学期・秋学期のバランスを考え、偏らないように注意すること。
- (3) 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」は2010年度より通年8単位から半期8単位として扱う。卒業論文、卒業制作を提出する学期に履修登録となるため、履修登録上限単位数に算入される学期に注意のうえ履修計画を立てること。
- (4) 履修登録をした科目で、単位を修得できなかった科目も履修登録上限に含まれる。
- (5) ①通年科目の単位は、半期（春学期・秋学期）それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/2が算入され、4半期（春学期1・春学期2・秋学期1・秋学期2）科目を履修した場合、4半期それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/4が算入される。

- ②春学期科目・秋学期科目の単位は、4半期（春学期1・春学期2，秋学期1・秋学期2）科目を履修した場合、4半期それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/2が算入される。
- ③春・秋学期期間外科目は、年間の履修登録上限単位に算入される（学期ごとの上限には含まれない）。
3. 重複履修 一度単位を修得した科目を再度重複して履修することについては、各学科の履修規定を参照すること。
4. 同時履修 同一科目（科目名称および単位数が同一の科目）が同一学期内に複数開講されている場合、それらの科目の同時履修は認めない。
5. 同一時限の履修 各科目は、同一時限に2科目以上にわたり履修をすることはできない。授業が集中形式で行われる科目については、実施時期が他の履修科目と一部でも重なる場合は履修することはできない。
6. 池袋キャンパス開講科目 池袋キャンパス開講科目を履修する場合には、移動に要する時間があるため、前後に隣接する時限に新座キャンパスで開講されている科目は履修できない。ただし昼休みをはさむ場合を除く。
実際の移動時間が不足する場合でも自己責任となるので、履修登録の前に移動に要する時間をよく確認すること。
7. 科目の開講について 各科目は、原則として毎年開講されるが、年度によっては開講しない場合もあるので、学科課程表で確認すること。
8. 全学共通カリキュラムの履修規定について 全学共通カリキュラム科目の履修にあたっては、当該履修規定に従うこと。
9. 必修科目履修辞退届 心理学科では必修科目履修辞退を認めることがある。履修辞退を希望する学生は、所定の手続きを行うこと。必修科目履修辞退届の制度と手続きについては **7 必修科目履修辞退制度** を参照すること。

2 卒業論文，卒業制作について

1. 卒業論文・卒業制作の位置づけ
- (1) 卒業論文，卒業制作は、4年間の学習成果を集大成するもので、指導教員の綿密な指導を受けて、意欲的に取り組むことが期待される。映像身体学科の卒業制作は、映像作品（映画，写真，グラフィック），パフォーマンス映像記録（演劇，ダンス），言語表現（シナリオ）など、多様な形態がありうる。
- (2) 卒業論文，卒業制作は各学科の指導内容にしたがって執筆，制作し，提出しなければならない。指導教員が，適切と認めた場合には，卒業論文または卒業制作として，共同執筆論文，共同制作を提出することができる。この場合，各人の担当した役割を卒業論文ないし卒業制作論文中で明確にしなければならない。また，提出物は各自が指定された部数（2部）を提出すること。
- (3) 映像身体学科において，卒業制作を提出する場合は，作品の目標，問題意識，制作過程，意義などを論述する卒業制作論文を添付しなければならない。
- (4) 心理学科では，共同執筆論文と研究協力をそれぞれ以下の通り区別する。学生が他者と協力して卒業論文の作成を行った場合は，以下の点を必ず確認し，必要に応じて手続きを行うこと。
- 【共同執筆論文について】
- ・共同執筆論文とは，研究計画の立案，問題の設定，データの収集，データの分析，結果の解釈，考察等，卒業研究に関する作業を全て他者と共同で行った場合に作成するものである。
 - ・共同執筆論文を作成する場合は，事前に指導教員に相談し，了解を得なければならない。

Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

- ・共同執筆論文では、同一の内容の論文を、各人がそれぞれ提出しなければならない。その際、共同執筆者の氏名と各人の担当した作業上の役割および執筆における分担内容を卒業論文内で明記しなければならない。また、表紙において、共同執筆者名を明記しなければならない。
- ・卒業研究に関する作業の全てを他者と共同で行ったにも関わらず、適切に共同執筆論文の体裁が取られていないと見なされた場合、卒業研究の評価が行われないことがある。

【研究協力について】

- ・研究協力とは、卒業研究に関する作業の一部（例えばデータの収集、分析）を他者と共同で行った場合に作成するものである。
- ・研究協力を行う場合は、事前に指導教員に相談し、了解を得なければならない。
- ・研究協力を行った場合は、異なった内容の論文を、各人がそれぞれ提出しなければならない。また、研究協力者の氏名および研究協力を行った作業内容を卒業論文内に明記しなければならない。また、表紙において研究協力者名を明記しなければならない。
- ・卒業研究に関する作業の一部を他者と共同で行ったにも関わらず、適切に研究協力した旨が記載されていないと見なされた場合、卒業論文の評価が行われないことがある。

種別	要件	要記載内容	論文の内容
共同執筆	卒業論文作成に関する全ての作業を他者と共同で行う場合	1. 表紙において、共同執筆者名を明記する。 2. 共同執筆者名と各人の担当した作業上の役割および執筆における分担内容を卒業論文内で明記する。	他者と同一
研究協力	卒業論文作成に関する作業の一部を他者と共同で行う場合	1. 表紙において、研究協力者名を明記する。 2. 研究協力者の氏名および研究協力を行った作業内容を卒業論文内に明記する。	他者と異なる

注) 卒業研究に関する作業を他者と共同で行ったにも拘わらず、適切に共同執筆論文の体裁が取られていないと見なされた場合、卒業論文の評価が行われないことがある。
なお、卒業研究に関する作業を他者と共同で行う場合は、必ず指導教員の了解を得た上で指示を仰ぐこと。

2. 履修登録

2017年度の履修登録方法は学科によって異なるので、それぞれの学科の履修上の注意を参照すること。

3. ガイダンス

(1) 心理学科

卒業論文指導演習1の初回に、各指導教員が個別に説明を行う。

(2) 映像身体学科

1月の専門演習の時間にガイダンスを行うので、卒業論文・卒業制作提出希望者は必ず出席すること。

Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

4. 卒業論文、卒業制作の提出

(1) 提出期日・提出場所

提出期日	提出場所
12月13日（水）・12月14日（木） 12月15日（金） 9：00～17：00（時間厳守）	新座キャンパス教務事務センター

※学校感染症のため出校停止となった場合、不測の事態が発生した場合の卒業論文の提出については59頁参照。

* 在学8学期以降の学生で2017年度春学期に「卒業論文」または「卒業論文・卒業制作」を履修登録している者の提出期間・提出場所は以下のとおりとする。

提出期日	提出場所
7月5日（水）・7月6日（木） 7月7日（金） 9：00～17：00（時間厳守）	新座キャンパス教務事務センター

(2) 提出物と提出部数

【心理学科】

	提出物	部数など
卒業論文	論文	2部 * 共同執筆の場合も、各自が2部提出すること。 * 原則として、くるみ製本。仮製本を認めるがホチキス留めは不可。
	抄録	1部（心理学科教育研究支援室に提出） * 学科で定める書式に従い作成したもの * 共同執筆の場合も、各自が1部提出すること。

【映像身体学科】

	提出物	部数など
卒業論文	論文	2部 * 共同執筆の場合も、各自が2部提出すること。 * 原則として、くるみ製本。仮製本を認めるがホチキス留めは不可。
	論文要旨	2部 * 論文の目次の前に1部ずつ綴じ込んで提出すること。 * 共同執筆の場合も、各自が論文に綴じ込んで提出すること。
卒業制作	制作物	2部 * 共同制作の場合も、各自が2部提出すること。
	制作論文	2部 * 共同制作の場合も、各自が2部提出すること。 * 原則として、くるみ製本。仮製本を認めるがホチキス留めは不可。

〈卒業制作〉

* 制作物と制作論文を1部ずつ封筒に同梱し、封筒に論文の表紙（次頁(3)提出時の注意〈表紙作成見本〉参照）を書いて提出すること。提出時は内容物を確認するので、糊付けやセロテープ等で封を閉じないこと。

(3) 提出時の注意

- ① 提出する論文すべてに表紙をつけること。表紙には、提出年度（2017年度）、題目、指導教員、学部・学科、学生番号、氏名を必ず明記すること。

<表紙作成見本>

2017年度 卒業論文 ○○○○○○○○○○ ← 卒業論文の題目 指導教員：○○○○教授 ← 卒業論文指導演習1に登録した教員名 (指導教員：□□□□教授) ← 研究指導教員が別にいるときは「括弧書き」で 現代心理学部心理学科 ← 「下段に付記」する（いないときは記載しない） 14HM001Z △△△△ ← 学生番号・氏名を記載 (共同執筆者：14HM002Y ◇◇◇◇) ← 共同執筆者がいるときは「括弧書き」で「下段に付記」する（いないときは記載しない）	指導教員：○○○○教授 現代心理学部心理学科 14HM001Z △△△△ (研究協力者：14HM002Y ◇◇◇◇) ← 研究協力者が別にいるときは「括弧書き」で (研究協力者：14HM003X □□□□) ← 「下段に付記」する（いないときは記載しない）
--	--

- ② 卒業論文，卒業制作論文は，仮製本可とする。
 *ここでいう仮製本とは，背綴糊付けによる上製本ではないが，本文に表紙を付し，紙ファイル等で散逸しない状態に綴じられた状態のことを指す。
- ③ 細部の規定については，各学科の指示による。不明な点は指導教員に確認し，その指示に従うこと。

5. 口頭試問
(必修)

卒業論文，卒業制作提出後（2018年1月下旬～2月上旬）に，口頭試問を行う。日程は12月中に現代心理学部掲示板に発表する。春学期に卒業論文，卒業制作を提出した者は7月下旬に口頭試問を行う。日程は卒業論文，卒業制作提出受付後，現代心理学部掲示板に発表する。

3 他学部科目・他学科科目・大学院科目について

1. 他学部科目

- (1) 他学部科目を履修して修得した単位は，卒業要件単位に算入できる。ただし，算入できる単位数・算入先となる履修区分は入学年度によって異なるので，所属学科の該当入学年度の卒業要件単位表で確認すること。
- (2) 他学部科目の履修を希望する場合は，その科目を設定している学部・学科の履修要項の該当入学年度の学科目表やカリキュラム表を見て，その配当年次に従うこと。
 △配当年次を誤って届け出た場合，後日取り消すことになるので注意すること。また，履修を取り消された場合，時間割のその部分は「空き時間」となる。
 他学部科目のシラバスは，シラバス・時間割検索システムを参照すること。
- (3) あらかじめ定められている「他学部学生履修不許可科目」は，当該科目を設置している学部の掲示板（ただし，池袋キャンパス開講科目については，新座7号館1階協の移動掲示板）で確認しておくこと。

Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

△他学部学生履修不許可科目は、配当年次が合っても履修できない。

(4) 他学部科目の履修を届け出る場合も、春学期開講科目と通年開講科目については4月期履修登録時に、秋学期開講科目については9月期履修登録時に科目コード登録で届け出るものとする。

(5) 届け出た他学部科目は、当該学部からの承認を受け、はじめて正式に履修許可となる。履修の可否については、教授会審議後、4月期履修登録では5月下旬に、9月期履修登録では10月下旬に現代心理学部掲示板で発表する。

△不許可となった場合、時間割のその部分は「空き時間」となり、新たな科目の追加によってこれを埋めることはできない。履修登録の際はこの点に留意の上登録すること。

2. 他学科科目

修得した単位は、卒業に必要な自由科目の単位数に算入することができる。学科によっては履修できない科目もあるので、該当学科の履修上の注意を参照すること。

3. 他学部学生の履修

他学部の学生が本学部の科目の履修を願い出たときは、教授会においてこれを承認するか否かを決定する。

4 派遣留学生・認定校留学生の履修

派遣留学・認定校留学*が決定した者は、ただちに所属キャンパスの教務窓口で、出発年度・帰国年度の履修について説明を受けること。

※ここでいう派遣留学・認定校留学とは、国際センターが発行する「海外留学の手引」に基づく1. 大学間協定に基づく派遣留学制度、2. ケント州立大学留学プログラム、3. 認定校留学制度、ならびに5. 学部間協定等に基づく海外研修・留学プログラムをさす。

派遣留学生および認定校留学生は本学の履修科目において、下記の特別措置の対象となる。派遣留学制度および認定校留学制度を利用する以外の留学では、下記の特別措置の対象とはならない。

1. 出発年度の履修と単位修得

留学開始が本学の定める春学期（または秋学期）の試験期間終了後の学生は、「在学留学」・「休学留学」のどちらを選択しても、出発年度の春学期（または秋学期）の科目を履修し、単位を修得することができる。

2. 通年科目の接続

派遣留学生および認定校留学生については、本学における通年科目の履修に関し学年暦の国際的差異による支障がある場合、教授会または研究科委員会の議により、教授会または研究科委員会が認めた科目については、同一の通年科目の出国年度の春学期における履修と帰国年度の秋学期における履修を接続し、通年で履修したものとすることができる。派遣留学・認定校留学が決定し、上記の通年科目の接続を希望する学生は、所属キャンパスの教務窓口で、手続き方法などについて説明を受けること。

注意点

(1) 「通年科目の接続」は、原則として翌年度の履修に限るものとし、翌々年度に亘ることはできない。

(2) 個人都合による休学を挟むと「通年科目の接続」は適用されない。

3. 帰国年度の履修登録

(1) 留学期間が終了し、5月末日（秋学期は10月末日）までに帰国届の提出および履修登録をした場合、帰国年度の春学期科目および通年科目（秋学期は秋学期科目）を履修することができる（「春学期1」科目・「秋学期1」科目は、対象外）。ただし、抽選登録科目等、履修登録できない科目もあるので、必ず所属キャンパスの教務窓口を確認すること。

※全学共通カリキュラム総合教育科目については全科目が抽選登録の対象科目であるが、科目コード登録対象科目に移行した科目のみ履修することができる。

(2) 以下については、本学部は該当しない。

「在学留学」を選択した学生は留学期間の終了時期が6月以降の場合でも、秋学期授業開始前までに留学期間を終了して帰国届を提出し、学部の許可を得た場合、通年の「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」・「卒業論文」・「卒業論文・卒業制作」・「卒業研究指導演習」・「卒業研究」・「輪講」については特別に履修を認めることがある。

㊦ その他、詳細については国際センターが発行する「海外留学の手引」を参照すること。

5 5大学間単位互換制度（f-Campus）による科目の履修

5大学間単位互換制度（f-Campus）による科目を履修し、単位を修得した場合、所属学科が定める範囲で専門教育課程の卒業要件単位にすることができる。5大学間単位互換制度（f-Campus）については「Ⅸ 5大学間互換制度（通称f-Campus）」を参照のこと。

6 全学共通カリキュラム言語教育科目「言語副専攻」学部展開科目について

学部専門教育科目の一部を、全学共通カリキュラム言語教育科目「言語副専攻」の修了要件として算入することができる。

「言語副専攻」のカリキュラム概要ならびに「言語副専攻」に算入できる学部展開科目の一覧については、全学共通カリキュラム履修要項の該当頁で確認すること。

7 必修科目履修辞退制度

1. 必修科目履修辞退制度とは

休学や単位修得状況により、前提として必要な学習経験を経ないまま、後で学ぶべき必修科目（低年次配当科目と高年次配当科目であれば高年次配当科目、春学期開講科目と秋学期開講科目であれば秋学期開講科目）が自動登録され、学習効果があがらないことがある。このような場合、順を追って必修科目を履修したり、他の科目を履修したりするほうがより効果的な場合もあるため、本人の願い出に基づき、学部が必要と認めた場合に、後で学ぶべき必修科目の履修辞退を認めることがある。

2. 対象科目

学科	対象となる必修科目
心理学科	配当年次2年次以上の必修科目
映像身体学科	対象科目なし

Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

3. 申出方法
- 必修科目の履修辞退を希望する者は、「必修科目履修辞退届」（新座キャンパス教務事務センターで配付）を持参して、アカデミックアドバイザーと面談を行うこと。アカデミックアドバイザーの指導のもと、履修辞退する科目を決定し、「必修科目履修辞退届」に必要事項を記入の上、下記期日までに新座キャンパス教務事務センター窓口へ提出すること。
- 提出された「必修科目履修辞退届」に基づき現代心理学部が審議を行い、承認された場合に必修科目の辞退が認められる。
- | | |
|----------------|----------------|
| （春学期科目） | （秋学期科目） |
| 4月4日（火）17：00締切 | 9月8日（金）16：00締切 |
4. 結果通知
- 下記の日時に新座キャンパス教務事務センター窓口にて結果を通知する。
- | | |
|---------------|---------------|
| （春学期科目） | （秋学期科目） |
| 4月13日（木）9：00～ | 9月22日（金）9：00～ |
5. 必修科目以外の科目の追加登録
- 必修科目の履修辞退が認められた場合、当該時間は空き時間となり、全学的な履修登録日程に従い、履修登録上限の範囲内で新たな科目を登録できる。

1 2017年度のカリキュラム一部改定

- 心理学科・映像身体学科 (1) 科目の廃止
 廃止科目の単位を修得済みの者は、入学年度の学科課程表にある履修区分の修得単位をして算入される。
 【学部共通選択科目】 認知神経科学の基礎
- 心理学科 (1) 科目の新設
 【学科選択科目D】 心理学特講7 (春学期集中 2単位)

2 2016年度のカリキュラムの一部改定

- 心理学科 (1) 科目の新設
 【学科選択科目D】 生理心理学 (半期 2単位)
 教育心理学 (半期 2単位)
 人格心理学 (半期 2単位)
 文化心理学 (半期 2単位) (2017年度より開講)
 学校心理学 (半期 2単位) (2017年度より開講)
 社会病理学 (半期 2単位) (2017年度より開講)
 リスク心理学 (半期 2単位) (2017年度より開講)
 【自由選択科目】 短期海外留学プログラム (春学期集中 2単位)
 心理検査実習 (半期 2単位)
 心理面接実習 (半期 2単位)
- (2) 科目名の変更
 【学科選択科目B】 比較認知心理学 → 比較心理学
 【学科選択科目C】 心理学特講5 → 心理学特講1
 【学科選択科目D】 生物心理学 → 動物生態学
 子どもの心理臨床 → 児童心理学
 【学科選択科目D】 心理学特講1 → 神経心理学
 【自由選択科目】 英語文献講読演習A1 → 英語文献講読演習 (中級)
 英語文献講読演習A2 → 英語文献講読演習 (上級)
 英語文献講読演習B1 → 心理学原書講読 (入門)
 英語文献講読演習B2 → 英語文献講読演習 (初級)
 英語表現演習A1 → 英語表現演習 (上級)
 英語表現演習A2 → 英語ディベート (発展)
 英語表現演習B1 → 英語表現演習 (初級)
 英語表現演習B2 → 英語表現演習 (中級)
- 映像身体学科 (1) 科目の新設
 【学科選択科目A】 基礎演習15 (半期 2単位)
 【学科選択科目B】 専門演習O1 (半期 2単位)
 専門演習O2 (半期 2単位)
 【自由選択科目】 短期海外留学プログラム (春学期集中 2単位)
 都市の記憶と表象文化 (春学期集中 2単位) (2017年度より開講)

Ⅲ-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）

(2) 科目名の変更

- 【学科選択科目C】 欧米映画史1 → アメリカ映画論
 欧米映画史2 → ヨーロッパ映画論
 日本映画史 → 日本映画論
 アジア映画史 → アジア映画論
 ドキュメンタリー映画史 → ドキュメンタリー映画論
 写真史 → 写真映像論
 プロデュース論 → 次世代メディア論
 音楽の思想 → 音の思想1
 音楽史 → 音の思想2

(3) 科目の廃止

廃止科目の単位を修得済の者は、入学年度の学科課程表にある履修区分の修得単位として算入される。

- 【学科選択科目C】 スポーツ文化論
 広告ビジネスの最前線

3 2015年度のカリキュラムの一部改定

映像身体学科

(1) 科目の新設

- 【学科選択科目B】 専門演習M1（半期 2単位）
 専門演習M2（半期 2単位）
 専門演習N1（半期 2単位）
 専門演習N2（半期 2単位）

4 2014年度のカリキュラムの一部改定

心理学科

(1) 科目の新設

- 【自由選択科目】 キャリアと心理学（半期 2単位）

映像身体学科

(1) 科目の新設

- 【学科選択科目A】 基礎演習14（半期 2単位）
 【学科選択科目C】 舞台技術演習（半期 2単位）

5 2013年度のカリキュラムの一部改定

心理学科

(1) 科目の新設

- 【自由選択科目】 英語文献講読演習A1（半期 2単位）
 英語文献講読演習A2（半期 2単位）
 英語文献講読演習B1（半期 2単位）
 英語文献講読演習B2（半期 2単位）
 英語表現演習A1（半期 2単位）
 英語表現演習A2（半期 2単位）
 英語表現演習B1（半期 2単位）
 英語表現演習B2（半期 2単位）
 【自由選択科目】 社会調査概論（半期 2単位）
 社会調査設計法（半期 2単位）
 社会調査演習（通年 4単位）

- 映像身体学科 (1) 科目の新設
 【学科選択科目A】 基礎演習13（半期 2単位）

6 2012年度のカリキュラムの一部改定

- 心理学科 (1) 科目の新設
 【教職関連科目】 情報処理（半期 2単位）

7 2011年度のカリキュラムの一部改定

- 映像身体学科 (1) 科目の新設
 【学科選択科目C】 映像技術中級1（半期 2単位）
 映像技術中級2（半期 2単位）
 広告ビジネスの最前線（半期 2単位）

8 2010年度のカリキュラムの一部改定

- 学部共通 (1) 履修登録上限単位数の変更
 各学期の履修登録上限単位数について、いずれの学科・年次も30単位に変更となった。ただし、年間履修登録上限単位数（1年次48単位、2～4年次44単位）は変更しない。（春学期に30単位を登録すると、1年次では秋学期に18単位、2～4年次では秋学期に14単位までしか登録できない。）

- 心理学科 (1) 科目の分割
 半期休学制度の導入に伴い、通年4単位科目の心理学演習、卒業論文指導演習を半期2単位科目に分割した。これに伴い、それぞれ先修規定を設け、「1」を修得済みでないと「2」を履修できないこととした。なお、旧カリの分割前の同一科目の単位を修得済みの者は、入学年度の学科課程表にある履修区分の修得単位として算入される。

心理学演習1	→	心理学演習A1・心理学演習A2
心理学演習2	→	心理学演習B1・心理学演習B2
心理学演習3	→	心理学演習C1・心理学演習C2
心理学演習4	→	心理学演習D1・心理学演習D2
心理学演習5	→	心理学演習E1・心理学演習E2
心理学演習6	→	心理学演習F1・心理学演習F2
心理学演習7	→	心理学演習G1・心理学演習G2
心理学演習8	→	心理学演習H1・心理学演習H2
心理学演習9	→	心理学演習I1・心理学演習I2
心理学演習10	→	心理学演習J1・心理学演習J2
心理学演習11	→	心理学演習K1・心理学演習K2
心理学演習12	→	心理学演習L1・心理学演習L2
心理学演習13	→	心理学演習M1・心理学演習M2
卒業論文指導演習	→	卒業論文指導演習1・卒業論文指導演習2

- (2) 科目の新設
 【専門展開科目B】 心理学研究法4（半期 2単位）
- (3) 卒業論文の履修登録
 卒業論文の履修登録が科目コード登録から卒業論文指導演習2とともに自動登録され、通年8単位から半期8単位の扱いに変更となった。

Ⅲ-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）

映像身体学科

(1) 卒業論文・卒業制作の履修登録

卒業論文・卒業制作の履修登録が4月期登録から9月期登録に、通年8単位から半期8単位の扱いに変更となった。

Ⅲ-4 履修規定（単位認定）

通常の履修による単位修得以外に、下記の通り、単位が認定される場合がある。詳細は以下の各制度の内容を確認のこと。なお、単位認定の上限は学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」参照）により合計60単位までと定められている（ただし3年次編入学または転部・転科等による単位認定、入学前に本学で修得した単位の認定などについてはこの上限に含まない）。

1 派遣留学制度による単位認定

本学部の学生が、国際交流制度による派遣留学生（在学留学生）として外国の大学で修得した単位は以下の通り扱う。

㊦ 認定の上限については、「立教大学学則第2章第10条の2第1項から第10条の4第3項」を参照すること。

(1) 在学留学の学生が外国の大学で修得した科目の単位の認定を申し出る場合、下記①～⑤の書類を、派遣留学期間終了後1ヵ月以内に所属キャンパスの教務窓口に提出すること。派遣留学期間終了後1ヵ月を過ぎると一切受け付けないので注意すること。

- ①立教大学派遣留学生単位認定願
- ②留学先大学・機関等が発行した成績証明書
- ③学業成績評価の基準を示す書類
- ④講義内容等、授業内容がわかる書類
- ⑤総授業時間数を示す書類

※学期中に休暇期間などがある場合は、それもわかる資料（アカデミックカレンダーなど）を添付すること。

提出された書類に基づき、現代心理学部および全学共通カリキュラム運営センターが審査を行う。その結果単位認定を受けられないこともある。なお、5月末日までの申請受付分が当該年度の特別卒業判定の対象となり、10月末日までの申請受付分が当該年度の卒業判定の対象となる。

※派遣留学期間後の学籍が休学であっても申請は有効となる。

※申請した単位が認定される以前に退学した場合は、派遣留学単位認定の申請が無効になる。

郵送（書留相当）による派遣留学単位認定申請について

以下の条件すべてに該当する場合は、派遣留学単位認定の申請について郵送（書留相当）で行うことができる。

- ①派遣留学期間終了後、引き続き現地に研究・勉学等を継続して行う者で、1ヵ月以内に帰国できない者
- ②派遣留学期間終了日以前に、①の内容について所属キャンパスの教務事務センターに申し出た者
- ③大学側からの連絡に回答可能な方法を構築できる者
- ④以下の条件を了解できる者
 - ・ 手続書類の不備がないよう申請すること
 - ・ 手続書類不備については、派遣留学単位認定の申請が無効になる場合があること

(2) 認定を受けた科目の単位は、40単位を限度として卒業要件単位に算入できる。40単位を超えて設定された単位については随意科目とし、卒業要件単位に算入されない。なお、科目毎の単位数は留学先の授業時間数を考慮して決める。

(3) 全学共通カリキュラム科目として認定を受けた科目は、認定を受けたカテゴリーに応じて卒業要件単位に算入することができる。卒業要件単位への算入については全学共通カリキュラム、および所属学科の履修規定を参照すること。

(4) 認定を受けた科目の単位は、留学先大学の授業時間数を考慮して決定する。

(5) 留学単位認定科目の成績評価は「認定」とする。

2 認定校留学制度による単位認定

本学部の学生が認定校留学制度により在学留学中に外国の大学で修得した科目の単位は、国際交流制度による派遣留学生の単位認定に準じて扱う。

3 入学前に修得した単位の認定

1. 入学前に 本学または 本学以外で 修得した単位 の認定

入学前に本学または本学以外の大学・短期大学等で修得した単位および短期大学・高等専門学校の専攻科での学修について、単位認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。

(1) 申請時期・方法

入学前の本学以外での修得単位の認定を申し出る場合、下記①～④の書類を、定められた期日までに所属キャンパスの教務窓口へ提出すること（入学前の修得単位認定申請は入学時にしか受け付けない）。ただし、本学で修得した科目については、①のみを提出すればよい。

- ① 単位認定申請書（所属キャンパスの教務窓口で配付，SPIRIT 教務部ページからダウンロード可能）
- ② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書
- ③ シラバス等，授業内容がわかる書類
- ④ 学業成績評価の基準および授業時間数を示す書類（修得先が，短期大学および高等専門学校の専攻科もしくは海外の機関の場合）

提出された書類に基づき，学科等が審査を行う。その際，当該学科教員との面談も実施することがある。その結果単位認定を受けられないこともある。

申請期日：2017年4月1日（土）～6日（木） 17：00
結果通知：2017年4月下旬

(2) 認定対象の範囲

各学科の一定の基準に基づき，専門教育科目（*）と同一の科目を履修したと認められた場合は，その単位を認定する。

*卒業論文，卒業制作，卒業論文指導演習は認定対象外

一定の基準に基づき全学共通カリキュラムに相当する科目を履修したと認められた場合には，全学共通カリキュラムの規定により認定する（詳細は全学共通カリキュラム履修要項参照）。認定作業の結果，総合教育科目の認定上限単位数を超えた単位については，現代心理学部専門科目の全学共通カリキュラム科目超過単位の扱いと同様とする。

(3) 認定の上限単位数

入学前修得単位の認定は30単位を上限とする。（入学前の修得単位について，その修得先が本学および本学以外のどちらの場合でもこの上限に含まれる）。

(4) 認定科目名

専門教育科目として認定する場合は，その内容から本学開講の科目名に振り替えて認定する。また，全学共通カリキュラム科目として認定する場合は，全学共通カリキュラムの規定により認定する（詳細は全学共通カリキュラム履修要項参照）。

(5) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は，修得先の授業時間数を考慮して決定する。

(6) 認定科目の履修区分

認定を受けた科目の履修区分は，修得先の授業内容をもとに決定する。

(7) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は，認定区分に従って卒業要件単位に算入できる。

(8) 認定科目の成績表示

入学前に修得した単位の認定の成績は「認定」とする。

4 入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後に他大学（本学以外の大学・短期大学）等で修得した単位について、認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。認定対象者は学部1～3年次生で、4年次生は対象外とする。

他大学等の範囲は立教大学学則第2章第10条の2、および第10条の3において規定されているものとする。ただし、海外の大学等での修得単位の単位認定については、派遣留学、認定校留学の認定制度のみとし、本単位認定制度の対象外とする。

(1) 申込時期・方法

入学後に他大学等での修得単位の認定を申し出る場合、事前申請は特に設けず、他大学等での成績確定後に認定の申請を行う。また単位認定の申請は、単位を修得した年度のみ行うことができるものとし、過年度に修得した単位は単位認定の対象外とする。ただし、成績評価が年度を越えて（次年度4月）発表になる科目の場合は、次年度春学期授業開始日までに申請しなければならない。

申請は、下記①～③の書類を、定められた期日までに所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

- ① 単位認定申請書（所属キャンパスの教務窓口で配付）
- ② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書
- ③ シラバス等、授業内容がわかる書類

提出された書類に基づき、学部が審査を行う。その結果単位認定を受けられないこともある。結果の通知は認定作業が完了次第通知するが、成績評価が年度を越えて発表になる科目は履修登録修正期間（特別措置）の初日までに通知する。

(2) 認定対象の範囲

各学科の一定の基準に基づき、専門教育科目（全科目対象）と同一の科目を履修したと認められた場合は、その単位を認定する。ただし、原則として、卒業論文、卒業制作、卒業論文指導演習は認定の対象外。

全学共通カリキュラムに相当する科目を履修したと認められた場合には、全学共通カリキュラムの規定により認定する（詳細は全学共通カリキュラム履修要項参照）。認定作業の結果、認定上限単位数を超えた単位、履修区分の超過分の単位の扱いについては、現代心理学部専門科目の全学共通カリキュラム科目超過単位の扱いと同様とする。

(3) 認定の上限単位数

学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」）で定められている単位認定の上限60単位に含まれるが、「入学後に他大学等で修得した単位の認定」としての上限はない。

(4) 認定科目名

専門教育科目として認定する場合は、その内容から本学開講の科目名に振り替えて認定する。また、全学共通カリキュラム科目として認定する場合は、全学共通カリキュラムの規定により認定する（詳細は全学共通カリキュラム履修要項参照）。

(5) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

(6) 認定科目の履修区分

認定を受けた科目の履修区分は、修得先の授業内容をもとに決定する。

(7) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定区分に従って卒業要件単位に算入する。

また、認定を受けた科目は、単位を修得した年度における本学の履修登録上限単位数の計算に含まれるので注意すること。

- (8) 認定科目の成績表示
成績評価は「認定」とする。

1 学習計画の立て方

大学における学習の特徴は、自分で履修計画を立て、受講する科目を選択し、卒業に必要な単位を満たしていく点にある。そのため、時間割は各自異なったものとなる。なお、定期試験は原則として全学共通カリキュラム科目、専門教育科目、学校・社会教育講座科目ともに同一期間内に、1時限目から5時限目までに行われる。履修計画は、よく考えたうえで無理のないように立て、間違いのないよう履修登録をしてほしい。

履修計画を立てるにあたっては、下記の学部・学科ガイダンスに出席し、また、必要に応じてアカデミックアドバイザーに相談すること。

1. ガイダンス

各ガイダンスで、授業科目や単位修得、履修登録などの説明が行われるので、履修要項を持参のうえ、必ず出席すること。

2. 教員による履修相談

「教員による履修相談」では、全学共通カリキュラム・専門教育科目の履修要項記載内容についての疑問点などに関して、現代心理学部教員が相談・質問に応じる。

〈「教員による履修相談」日程〉

4月5日（水）12：00～16：30 N623教室

3. 先輩による「履修要項」読み方指南（新1年次生対象）

時間割計画シートについての疑問や、全学共通カリキュラム・専門教育科目の履修要項の読み方などについて、各学科の先輩学生が質問に応じ、履修計画を立てる際のサポートを行う。

〈先輩による「履修要項」読み方指南日程（新1年次生対象）〉

4月5日（水）12：00～16：30 N623教室

2 アカデミックアドバイザー，オフィスアワー

1. アカデミック
アドバイザー

アカデミックアドバイザー制度は、学生一人ひとりに対して担当者（専任教員）を定め、本学における学習全般に関して助言・指導や情報提供を行う制度である。アカデミックアドバイザーは学生にとって身近な相談相手となるので、学習に関する悩みや相談がある場合には、気軽に連絡を取ること。

〈現代心理学部アカデミックアドバイザー〉

学科	年次	アカデミックアドバイザー
心理学科	1年次	大学より指定されたアカデミックアドバイザー
	2年次	1年次と同じアカデミックアドバイザー
	3年次	心理学演習の担当者 ※心理学演習を履修していない者は、2017年度心理学科教務委員。
	4年次	卒業論文指導教員 ※卒業論文指導演習を履修していない者は、心理学演習担当者、心理学演習を履修していないものは2017年度心理学科教務委員。
映像身体学科	1年次	入門演習1・2の担当者
	2年次	1年次と同じアカデミックアドバイザー
	3年次	専門演習の担当者 ※専門演習を履修していない者は、1年次と同じアカデミックアドバイザー。
	4年次	卒業論文または卒業制作の指導教員 ※卒業論文または卒業制作を履修していない者は、3年次と同じアカデミックアドバイザー。

なお、2017年度の1年次のアカデミックアドバイザーは、ウェルカムアワーで発表する。2017年度の各学科教務委員については新座キャンパス教務事務センター窓口にお問い合わせのこと。

2. オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれの専任教員*が、主として担当する授業に関する質問や勉学の相談等に応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に研究室で待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室を訪ね質問することができる。

※兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間等を利用し質問すること。

オフィスアワーの時間帯は履修要項の「教員一覧」を参照すること。

1 履修登録とは

履修登録は、学生がその年度に自分が履修しようとする科目を届け出る手続きであり、学習計画の出発点となるものである。定期試験期間の試験は、全学共通カリキュラム科目、専門教育科目、学校・社会教育講座科目いずれも同一期間内に、1時限目から5時限目まで行われる。そのことも考慮して、無理のない履修計画を立て、登録してほしい。

学生は自己の責任において履修する科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを完了しなければならない。履修登録をしていない科目は、授業に出席し、また試験を受けても、当該科目の単位を修得することはできない。履修登録は、年2回、4月に春学期開講科目と通年開講科目、9月に秋学期開講科目を届け出る。登録のあとは、履修登録状況画面が更新されるので、必ず内容を確認すること。登録科目に変更の必要がなければ履修登録は完了する。

履修登録届出時期

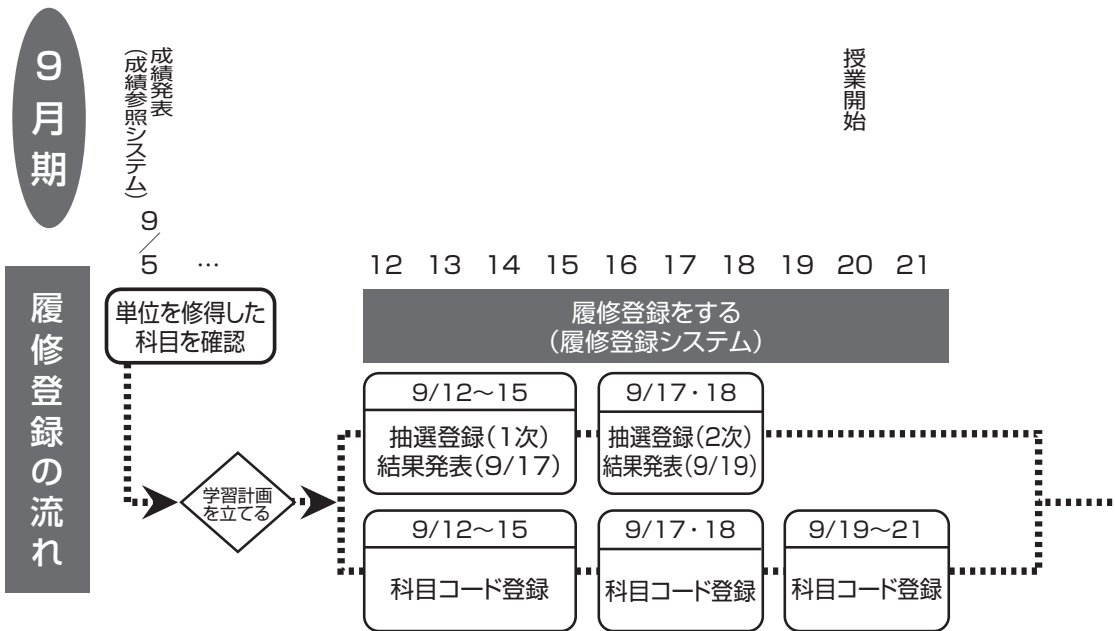
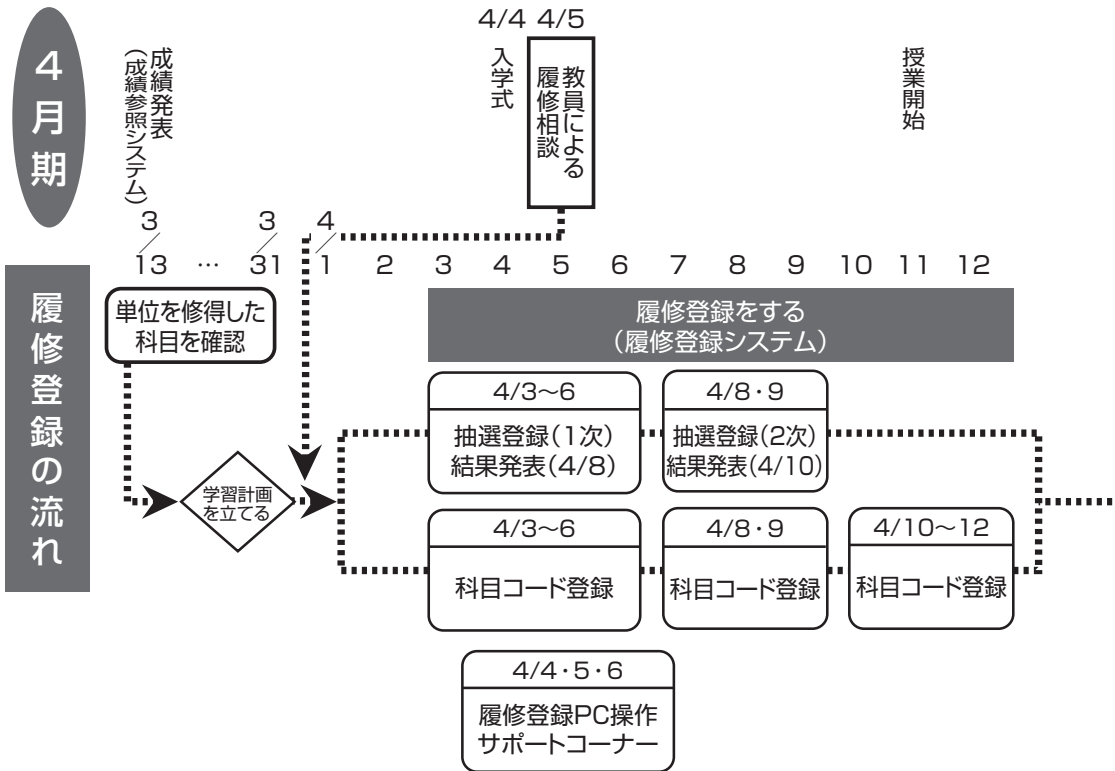
〈履修登録届出時期・対象科目〉

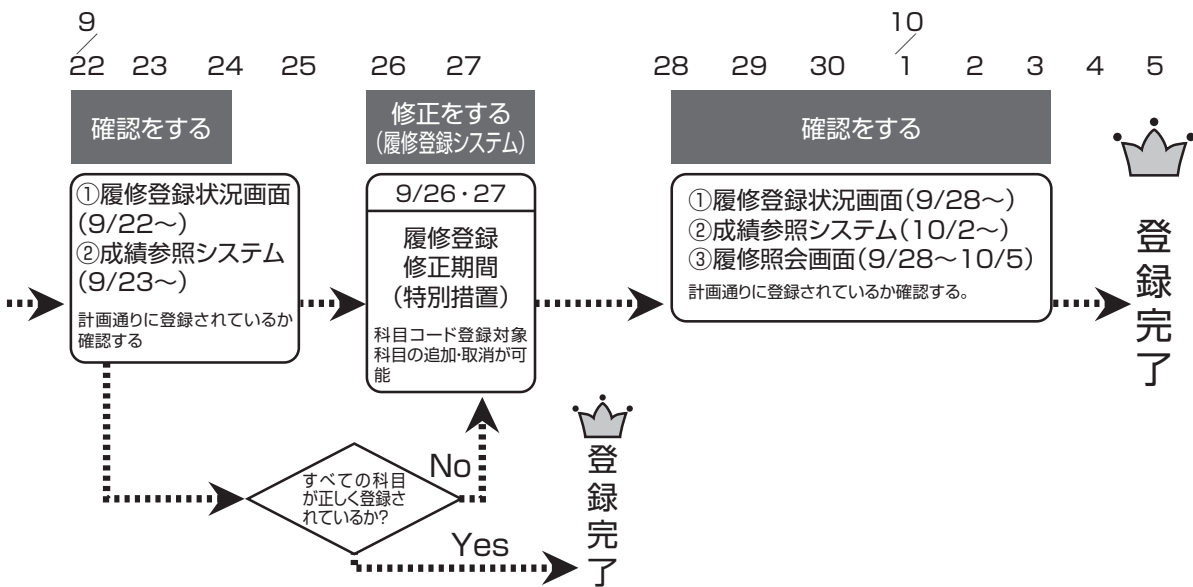
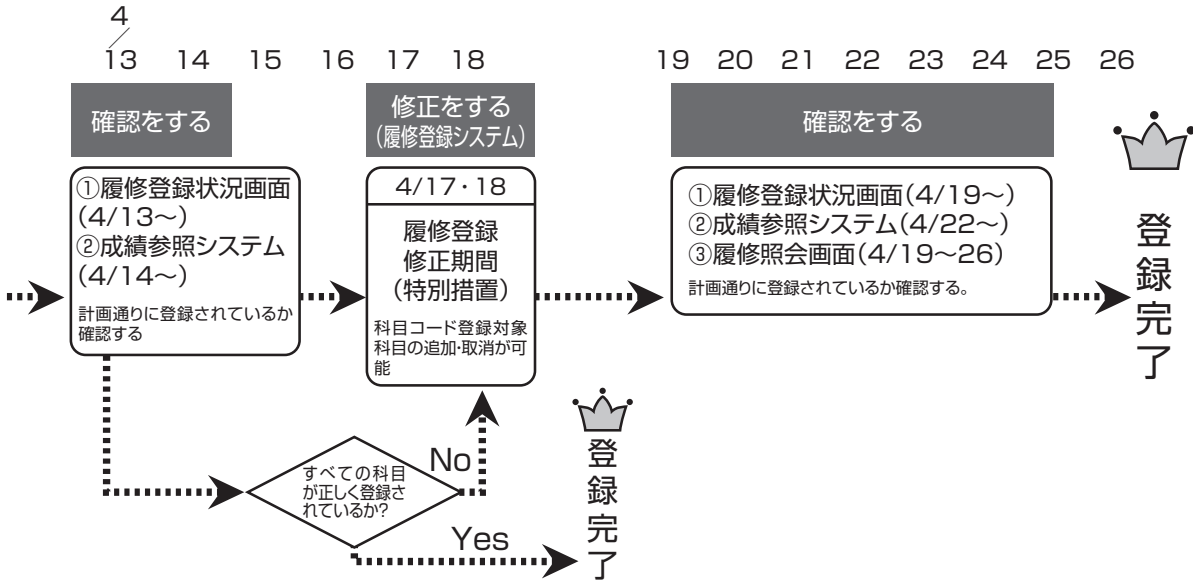
時 期	届出対象科目
4月期	春学期開講科目、春学期1開講科目、春学期2開講科目、通年開講科目、その他4月期の登録が指定されている科目
9月期	秋学期開講科目、秋学期1開講科目、秋学期2開講科目

※春学期期間外科目、秋学期期間外科目については履修登録届出時期が異なるので、別途確認すること。

2 履修登録の流れ

各履修届出方法の詳細については、次項以降を必ず確認すること。





3 履修届出方法

履修登録には科目の性格によって、自動登録、「その他」登録、抽選登録、科目コード登録の方法がある。届出方法がそれぞれ異なるので、指示に従うこと。抽選登録、科目コード登録の届出は履修登録システム (<https://r.rikkyo.ac.jp>) により行うこと。このシステムは大学内のコンピュータ教室の他、自宅等からもアクセス可能だが、ブラウザの種類、バージョン等により一部使用できない場合もある。

1. 自動登録

(1) 対象科目

学科課程の科目コード欄に「自動登録」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 大学であらかじめ登録しているため、履修登録に関する手続きは一切不要である。
- ② 配当年次に自動登録される必修科目を修得できずに再履修する場合は、次の年度も自動登録される。
- ③ 自動登録科目の取り消しは原則として認めない。
- ④ 同一科目が複数の担当教員に分かれる場合、授業開始日前に履修登録状況画面で担当教員を確認すること。

2. 「その他」登録

(1) 対象科目

学科課程の科目コード欄に「その他」と記載されている科目。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修の取消はできない。
- ③ 選考・選抜のための提出書類の届出方法、届出期間、選考の有無、結果の発表は科目により異なるので、履修要項の該当頁を参照すること。

3. 抽選登録

(1) 対象科目

学科課程の科目コード欄に「抽選登録」と記載されている科目。

(2) 抽選登録申込期間・履修許可者発表

履修の可否についても、履修登録システムで発表する。

全年次共通

時期	申込期間		履修許可者発表
4月期	1次	4月3日(月), 4日(火)	各日 11:00~26:00
		4月5日(水)~6日(木)	5日 11:00~17:00, 20:00~6日 17:00 ※5日 17:00~20:00は休止
	2次	4月8日(土)~9日(日)	8日 11:00~9日 15:00
9月期	1次	9月12日(火), 13日(水)	各日 11:00~26:00
		9月14日(木)~15日(金)	14日 11:00~15日 17:00
	2次	9月17日(日)~18日(月)	17日 11:00~18日 15:00
			4月8日(土) 11:00
			4月10日(月) 18:00
			9月17日(日) 11:00
			9月19日(火) 18:00

V 履修登録

(3) 履修登録・注意事項

- ① 履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修登録の取消はできない。
- ③ 1次申込において抽選定員に達しなかった科目のみ、2次申込受付を行う。
- ④ 必修科目などすでに登録されている科目や、抽選登録申込期間後に登録を予定している科目と重複する曜日・時限には、抽選登録科目の申込を行わないこと。

抽選登録期間内は、何度でも申請科目の確認、修正ができる。

4. 科目コード登録

(1) 対象科目

履修登録方法が、自動登録、「その他」登録、抽選登録以外の科目。なお、5大学間単位互換制度による他大学科目は、科目コード登録では登録できない。

(2) 科目コード登録期間

全年次共通

時期	登録期間	
4月期	4月3日(月), 4日(火)	各日 11:00~26:00
	4月5日(水)~6日(木)	5日 11:00~17:00, 20:00~6日 17:00 ※5日 17:00~20:00は休止
	4月8日(土)~9日(日)	8日 11:00~9日 15:00
	4月10日(月)	18:00~26:00
	4月11日(火)	11:00~26:00
	4月12日(水)	11:00~18:00
9月期	9月12日(火), 13日(水)	各日 11:00~26:00
	9月14日(木)~15日(金)	14日 11:00~15日 17:00
	9月17日(日)~18日(月)	17日 11:00~18日 15:00
	9月19日(火)	18:00~26:00
	9月20日(水)	11:00~26:00
	9月21日(木)	11:00~18:00

*病気等やむを得ない理由により、期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。また、疑問がある場合は、事前に所属キャンパスの教務窓口で相談してから手続きすること。

V 履修登録

(3) 科目コード登録の注意事項

- ① 届出科目が確定したら、「登録内容送信」ボタンを必ずクリックし、届出内容およびエラー状況を確認すること。
- ② 科目コード登録期間内に、「エラー」の無い状態で完了すること。エラーが出た際は【エラーメッセージ対処法】を参照すること。
- ③ 科目コード登録期間中に、登録が正常に行われたことを確認するために、「履修登録」画面に再度ログインし、登録内容を確認すること。
- ④ 「履修登録」画面は、科目コード登録期間あるいは履修登録修正期間（特別措置）以外は使用できない。
- ⑤ 履修登録修正期間（特別措置）後、「履修照会」画面に申請内容が反映されるので、申請内容を必ず確認すること。
- ⑥ 科目コード登録で届け出る科目が1科目もない場合も、科目コード登録期間内にアクセスして、「登録内容送信」ボタンをクリックすること。

科目コード登録期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。

4 登録科目の確認について

1. 登録科目の確認方法について

履修登録の内容は、履修登録状況画面により確認できる。これらが正規の登録科目となるため記載事項の誤りの有無を確認すること。

履修登録状況画面の更新日程は次頁のとおりである。また、履修登録の内容と併せて、成績参照画面の更新結果（履修登録後に単位計算した結果）も確認すること。更新日程等詳細は、成績参照システムで確認すること。

Blackboard及びSPIRIT Mobile (mobile V-Campus) の時間割は正式な登録科目の確認には使用できないので注意すること。

〈履修登録状況画面の表示内容と更新日〉

履修登録状況画面は、教務の窓口に提示する際の資料として使用できる。

履修登録状況画面の確認

履修登録状況画面は、履修登録された科目が曜日・時限順に表示されている。下部に「エラー科目」として記載されているものは無効となり、登録されていない（ただし「～上限オーバー」エラーを除く）。

記載事項に誤りがある場合、「～上限オーバー」などのエラー表示がある場合は、5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認を参照し、所定の期間内に手続きをとること。

〔表示方法〕

- 履修登録システムにアクセスする。
- メニューから『履修登録状況画面』をクリックする (Aの①)。
- 『⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン』をクリックする (Aの②)。
- ログイン画面が表示されるので、V-CampusID (学生番号) とパスワード (V-Campusと同じ。新入生については、学生証等交付の際に配付される) でログインする。
- 履修登録状況画面が表示される。(B)

A

立教大学 履修登録システム/成績参照システム

Webサイトから履修登録、成績参照等を行うためには、V-CampusのIDとパスワードが必要になります。パスワード紛失時には、所属キャンパスのメディアセンターカウンターへ学生証を持参して再発行を受けてください。

履修登録状況画面について

履修登録状況画面の更新日

更新日	更新時間
9月06日(火)	11:00(予定)
9月17日(土)	11:00(予定)
9月19日(月)	21:00(予定)
9月22日(木)	18:00(予定)
9月28日(水)	21:00(予定)

※上記以降は毎日情報が更新されます。

⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン

②↑ここをクリック

B

立教大学

基本情報 履修登録状況 成績参照

所属 学生番号 氏名 最終更新日: 2016/11/17

経済学部 経済政策学科 158A999A 立教 次郎 2015 04 2 B

2016年度

履修科目数(単位数)

全学共通 6(12) 専門 17(36) 講座 0(0) その他 0(0)

曜日	時限	科目コード	科目名	単位	担当教員	学期	教室
月	2-2	BX199	アジア経済論	2	新 洋春	秋学期	
	4-4	BX144	公共経済学Ⅱ	2	高橋 潤	秋学期	
	5-5	BX176	国際経済と政策	2	番場 博之	秋学期	
火	2-2	BX025	外国語Ⅱ-英A	2	太田 優之	春学期	550
	3-3	FA136	日本の文化とことば	2	山本 薫	春学期	5121
	4-4	FE131	生物の多様性	2	多田 多恵子	春学期	D201
水	5-5	FV114	G.L.I.O.I.	2	藤 秀晴	春学期	4411
	1-1	BX184	都市政策論Ⅰ	2	田島 真吾	春学期	8101
	1-1	BX185	都市政策論Ⅱ	2	田島 真吾	秋学期	8101
木	2-2	BX082	経済学論Ⅱ(政策)	4	大友 敏明	通年	7102
	1-1	BX139	経済政策論Ⅰ(政・企)	2	櫻井 公人	春学期	D301
	2-2	BX555	課題解決演習C	2	飯島 寛之	春学期	5210
金	2-2	AT304	文字論Ⅲ-3.D.4	2	本橋 祐美	秋学期	8202
	3-3	BX104	文化経済学Ⅱ	2	伊藤 豊弘	秋学期	4402
	4-4	BX102	文化経済学Ⅰ	2	吉川 徹也	秋学期	8201

エラー科目

曜日	時限	科目コード	科目名	担当教員	学期	教室	メッセージ
		DM021	基礎演習Ⅱ				必修科目単行
		DM081	C.S.2.C.(英語)				必修科目単行

必ず一番下までスクロールして、エラー表示が出ていないかチェック

予定している科目がすべて正しく登録されているかをチェック

【更新日】

更新日時		登録方法別表示内容			
4月期	9月期	自動登録	「その他」登録	抽選登録	科目コード登録
3月31日(金) 18:00(予定)	9月5日(火) 11:00(予定)	○*1	○*2	/	/
4月8日(土) 11:00(予定)	9月17日(日) 11:00(予定)	○*3	○*2	○	○
4月10日(月) 21:00(予定)	9月19日(火) 21:00(予定)	○	○*2	○	○
4月13日(木) 18:00(予定)	9月22日(金) 18:00(予定)	○	○*2	○	○*4
4月19日(水) 21:00(予定)	9月28日(木) 21:00(予定)	○	○*2	○	○*4
4月27日(木) 9:00(予定)	10月6日(金) 9:00(予定)	○	○*2	○	○*4

※1 9月期のみ全カリ言語A(英語)のクラスが確認可能

※2 「その他」登録については、更新時まで掲示板等で結果発表済の内容などを随時掲載する。

※3 4月期の全カリ言語A(英語)のクラスが確認可能

※4 科目コード登録については、全カリ総合科目で抽選登録時に定員を満たさず、科目コード登録に移行した科目を含む。



重要 履修登録状況画面・成績参照画面の記載事項について誤りの有無を必ず確認すること。



注意 履修登録の誤りや、エラー表示への対処は、履修登録修正期間(特別措置)に履修登録システム(科目コード登録)で行うこと。

2. 登録の完了

履修登録状況画面を確認した結果、修正する必要がない(自分が履修する予定の科目がすべて間違いなく記載されている)場合、登録は完了となる。

3. 登録の無効について

履修登録状況画面でエラーに表示された科目に対して所定の期間内に履修登録修正の手続きをしなかった場合、その届出科目は無効となり、本年度の履修はできない。したがって授業に出て試験を受けても無効となる。

なお、「～上限オーバー」エラーに対して所定の期間内に手続きを行わなかった場合には大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除する。

ⓧ 履修登録修正期間(特別措置)以外の修正は原則として認めない。

5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認

1. 履修登録の修正
 修正対象となる科目は「科目コード登録」で登録した科目に限られる。また、科目コード登録の科目であれば、新たな科目の追加も可能である。

履修登録状況画面の表示内容を確認し、登録内容の修正が必要な場合は、履修登録修正期間（特別措置）に履修登録システム（科目コード登録）で手続きを行うこと。

なお、エラー表示された科目は、登録無効となっている（ただし、「～上限オーバー」エラーを除く）。

2. 履修登録修正期間（特別措置）

〈履修登録修正期間（特別措置）〉

時期	修正期間
4月期	4月17日（月） 11:00～26:00
	4月18日（火） 11:00～18:00
9月期	9月26日（火） 11:00～26:00
	9月27日（水） 11:00～18:00

* 履修登録修正期間（特別措置）後の修正は原則として認めない。期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口に連絡し、指示を受けること。

3. 修正についての注意点
 (1) 履修登録状況画面上に記載され、登録無効となった科目については、エラーになった理由を調べ、エラーへの対処を行うこと。【エラーメッセージと対処法】を参照すること。
 (2) 履修登録修正期間（特別措置）内に、エラーの無い状態で完了すること。

履修登録修正期間（特別措置）内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。

4. 履修登録修正結果の確認
 (1) 履修登録修正期間（特別措置）に届出科目の修正を行った者は、履修登録状況画面で履修登録内容の修正手続きが正しく行われたかを確認すること。履修登録状況画面に記載されている科目が履修登録修正者の正規登録科目となる。したがって、必ず記載事項の誤りの有無を確認すること。
 (2) 履修登録システムや履修登録状況画面上で、エラー表示のまま修正しなかった科目は登録無効となり、削除されている。また、「～上限オーバーエラー」が発生したまま修正しなかった場合は、大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除している。各自が行った修正手続き終了時点の申請状況は申し出期限までに履修登録システムの履修照会画面で確認すること。

5. 申し出期限
 履修登録の内容に関する疑問がある場合は、下記の申し出期限までに申し出ること。ただし、新たに科目を追加ならびに取消すことはできない。

時期	申し出期限	申し出場所
4月期	4月26日（水） 17:00	所属キャンパスの 教務窓口
9月期	10月5日（木） 17:00	

申し出の際には以下2点を持参すること。

- ① 履修登録状況画面のコピー
- ② 履修登録システムの履修照会画面のコピー

「履修照会画面」には、履修登録システムで、各自が行った手続き終了時点の申請状況が、各学期の申し出期限まで表示される。

6. 登録の無効について
 履修登録状況画面の確認を怠り、届け出たつもりの科目が正しく履修登録されていなかった場合、その科目は無効であり、本学期または本年度の履修はできない。したがって授業に出ても試験を受けても無効となる。

V 履修登録

【エラーメッセージと対処法】

履修登録状況画面 「エラー科目」欄の表示	エラーメッセージへの対応について
【A】 校地移動時間不足	池袋キャンパス開講科目と新座キャンパス開講科目、池袋キャンパス開講科目と明治大学開講科目、新座キャンパス開講科目と明治大学開講科目の授業は1時限分（または昼休み分）の移動時間が必要です。なお、新座キャンパス開講科目と明治大学開講科目などにおいて、実際の移動時間が不足する場合でも自己責任となりますので、登録の前に移動に要する時間を必ず確認してください。※明治大学開講科目は全学共通カリキュラム総合教育科目です。 ⇒連続した時限では履修登録できませんので、一方を削除し、どちらか一科目のみ登録してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
【B】 人数制限科目	この科目は科目コード登録では登録できません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【C】 履修対象者以外	履修できる学生は学部・学科・年次・クラス・入学年度などによって決まっており、該当しない学生は履修できません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【D】 同時履修不可	同一年度または同一学期に複数登録できない科目です。 ⇒履修要項を確認して、一科目のみ登録してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
【E】 履修要件単位の不足	この科目を履修するためには、履修要項に示されている要件を満たすことが必要です。 ⇒要件（別の特定の科目を履修中または修得済でなければ登録できない等）を満たすことができるか確認して、対処（追加・変更・削除）してください。
【F】 履修登録単位数不足	この科目を履修するためには、履修要項に示されている要件を満たすことが必要です。 ⇒要件（****を～単位同時に登録が必要）を満たすことができるか確認して、対処（追加・変更・削除）してください。
【G】 講座未登録課程の履修	学校・社会教育講座の各講座課程（教職課程、学芸員課程、司書課程、社会教育主事課程）に登録していない学生は、各講座で開講されている科目を履修登録することができません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【H】 重複履修不可	この科目は、単位修得後に再び履修登録することが認められていません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【J】 同一内容科目履修不可	履修要項の規定を確認してください。 ①科目名が異なっている科目の間で「同時に履修登録することはできない」場合 ⇒一方の科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。 ②「すでに修得済の場合は、もう一方の科目を履修登録できない」場合 ⇒登録できませんので、エラー表示科目を削除してください。
【K】 同一科目（担当）不可	すでに修得した科目（科目名・担当教員ともに同じ科目）について再度の履修が認められない場合は、該当科目を履修登録することができません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【L】 グループ科目の超過	この科目群は登録できる単位数が制限されていますので、履修要項の規定を確認してください。 ⇒現在エラー表示中の科目を含めて再度確認し、指定の単位数になるように科目を選択しなおして、超過している単位数分の科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、同じグループに該当する他の科目を削除してください。
【N】 履修科目上限オーバー	学科・学年により全学共通カリキュラムと専門教育科目等の合計の履修登録単位数に上限単位数（科目数）が決まっています。それより多い単位数（科目数）の履修登録はできません。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。 ★【Q】 エラーも同時に表示されている場合の注意★ 全カリ総合教育科目（総合自由科目を除く。科目コードFA***～FI***）の上限単位数も超過している場合は、まず、全カリ総合教育科目のうち、科目コード登録により登録した科目から、削除してください。
【O】 専門教育上限オーバー	専門教育科目について履修登録できる上限単位数（科目数）が決まっています。それより多い単位数（科目数）の履修登録はできません。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。
【P】 内部科目コードの重複	開講曜日・時限あるいは担当者などが異なる場合でも、同一内容の科目として規定されている科目は、1科目しか履修登録することはできません。 ⇒同一科目となるいずれかの科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
【Q】 全学共通（全カリ）総合系科目上限オーバー	全学共通カリキュラムの総合教育科目（総合自由科目を除く。科目コードFA***～FI***）は、各学期の登録上限単位数（*）が決まっています。 *2006年度以降入学者は合計6単位までです。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。
【R】 今年度休講	この科目は今年度休講です。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【S】 科目コードなし	この科目コードの開講科目はありません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【T】 曜日・時限の重複	同じ曜日・時限に開講されている科目は、同時に1科目しか履修登録することができません。 ⇒科目コード登録により登録した科目を削除してください。
【U】 必修科目未届け	今年度または今学期（まで）に修得しなければならない必修科目が、履修登録されていません。 ⇒履修要項で確認し、科目コード登録で登録する科目の場合は、画面上から追加してください。科目コード登録以外の登録方法が指示されている場合は、所属キャンパスの教務窓口で質問してください。

V 履修登録

履修登録状況画面 「エラー科目」欄の表示	エラーメッセージへの対応について
【V】登録時期エラー	9月期に登録する科目（秋学期開講科目）は、4月期に履修登録できません。同様に、4月期に登録する科目（通年科目、春学期開講科目）は、9月期に履修登録できません。履修要項で学期を確認してください。 ⇒エラー表示科目を削除してください（科目コードを誤って入力していた場合は、確認して入力しなおしてください）。
【W】外部科目コードの重複	同じ科目コードを複数届け出することはできません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【X】講座履修条件エラー	学校・社会教育講座において、その科目を履修するために必要な条件が定められていますが、その条件を満たしていません。もう一度履修要項と登録内容を確認してください。不明な点がある場合は、学校・社会教育講座事務室窓口で質問してください。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
【Y】履修許可条件エラー	この科目を履修するためには履修要項に示されている必要な条件を満たす必要があります。 ⇒要件（別の特定の科目を履修中または修得済でなければ登録できない等）を満たすことができるか確認し、対処（追加・変更・削除）してください。

1 試験に関する規定

試験に関しては、巻末の「現代心理学部専門教育科目試験規則」もあわせてよく読んでおくこと。他学部、全学共通カリキュラムおよび学校・社会教育講座科目の試験に関しては、その科目が設置されている学部等の履修要項および掲示に従うこと。

1. 試験の種類と実施時期

(1) 定期試験

講義終了後に期間を定めて行う試験。

- ① 春学期末試験——春学期開講科目に対する試験
※春学期1開講科目は筆記試験を実施しない。
- ② 秋学期末・学年末試験——秋学期開講科目および通年開講科目に対する試験
※秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

◎全学の定期試験期間は、以下のとおり定められている。

■ 専門教育科目、全学共通カリキュラム科目、学校・社会教育講座科目とも、同一の定期試験期間で行う。

■ 1日5時限の試験を実施し、各時限とも、全科目同一時刻に試験を開始する。(各時限の試験終了時刻は、科目の設置学部等により、また科目により異なる。)

☞試験は授業と同じ曜日・時限に実施されるとは限らない。

試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）をよく確認すること。

〈2017年度 定期試験期間（全学）〉

春学期末	秋学期末・学年末
2017年7月20日（木）～7月31日（月）	2018年1月24日（水）～2月3日（土）

(2) 最終授業時試験

春学期末、秋学期末・学年末の最終授業時に行う試験。

※春学期1開講科目、秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

※現代心理学部専門教育科目では、最終授業時筆記試験を実施しない。

(3) 追試験

入院その他やむを得ない事由によって、最終授業時試験および定期試験を受験できなかった場合に実施する試験（いずれも試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問として発表され、追試験対象科目に指定された場合に限る）。

☞ 6 追試験 の項を参照のこと。

(4) 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）に実施する試験。

☞ 7 試験時間重複特別試験 の項を参照のこと。

2. 受験資格・受験資格の喪失・出校停止

(1) 受験資格

在学中の者であって、かつ当該科目について履修登録を完了している者のみ、受験資格がある。

(2) 受験資格の喪失

次のいずれかに該当する者は、受験資格を喪失し、受験した場合はその答案、レポート等は無効となる。

- ① 学生証または臨時学生証のいずれも不携帯の者*1

- ② 当該試験期間中に休学中・停学中の者
- ③ 出席その他、当該科目の担当教員があらかじめ指示した受験資格要件を欠く者
- ④ 派遣留学・認定校留学中の者*²

*1 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問と発表された受験に関してのみ適用される。

*2 ケント州立大学秋学期派遣留学生は、秋学期末・学年末試験を受験することはできない。また同様に、当該科目の授業期間中に派遣留学・認定校留学し、定期試験期間に帰国していた場合においても、受験資格が無い派遣留学・認定校留学がある。詳細は所属キャンパスの教務窓口へ問い合わせること。

(3) 出校停止による受験不可

次に該当する者は、出校停止となるため、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問と発表された試験の受験はできない。追試験の受験を希望する場合は、追試験の申請をすること。出校停止期間中に受験した場合、その試験は無効となる。

試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、レポート試験と発表された試験については「5 レポート 2 提出方法 (1) レポート試験」の項を参照すること。

インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種に罹患中の者（「II 授業（学習生活）6 学校感染症に罹患した場合の措置について」の項を参照）。

2 試験方法

1. 試験方法

(1) 試験は、筆記、レポートあるいは口頭試問によって実施する。ただし科目によっては、試験によらず平常点によって成績評価する場合もある。

△各科目の成績評価方法・基準は、シラバスの記載内容によるが、履修者数、教室などの条件により、やむを得ず変更する場合もある。シラバスの変更については、変更内容を各学部等掲示板およびホームページ上のシラバスにも示すので、確認すること。

試験（筆記・レポート・口頭試問）についての詳細は、「2. 試験方法発表」における発表内容が最終的な試験方法の指示となるので、必ず確認すること。

△試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）において発表された、筆記試験を欠席した場合、または「レポート試験」と発表されているレポート（「5 レポート」の項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

(2) 次の科目は、試験を行わず評価するものとし、試験方法発表掲示（「2. 試験方法発表」の項を参照）を行わない。

卒業論文指導演習1・2、卒業論文、卒業論文・卒業制作指導演習1・2、卒業論文・卒業制作、修士論文指導演習1・2、修士論文

(3) 次のテスト等は、平常点として扱う。

- ① 学期中随時実施される、筆記による小テスト・中間テスト、学期末の最終テスト（学期末に実施されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては筆記試験とは発表されないもの）
- ② 学期中随時課されるレポート、学期末に課されるレポート（学期末に課されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においてはレポート試験とは発表されないもの）
- ③ 学期中に随時実施される口頭試問、学期末の口頭試問（学期末に実施されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては口頭試問とは発表されないもの）

2. 試験方法発表

試験方法は、下記の日程で掲示（新座1号館2階、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール）、ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2017年度 試験方法発表（予定）〉

春学期1末	2017年5月18日（木）10：00
春学期末・春学期2末	2017年7月3日（月）10：00
秋学期1末	2017年10月31日（火）10：00
秋学期末・秋学期2末・学年末	2017年12月12日（火）10：00

3 筆記試験

筆記試験には、定期試験期間内に行われるもの、および最終授業時に行われるものがある。

1. 試験の時間割

・試験時間

(1) 現代心理学部専門教育科目の定期試験時間は、通常の授業とは異なり70分である。

〈定期試験期間内筆記試験 試験時間〉

時限	1	2	3	4	5
試験時間	9：10 } 10：20	11：00 } 12：10	13：20 } 14：30	15：10 } 16：20	17：00 } 18：10

* 科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

* 他学部科目、全学共通カリキュラム科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該学部等の履修要項、試験時間割発表掲示を確認すること。

〈最終授業時筆記試験 試験時間〉

通常授業時間内（Ⅱ授業（学習生活）**2** 授業時間 の項を参照）で行われる。

* 科目によっては、試験時間が変更される場合がある。

* 他学部科目、全学共通カリキュラム科目、学校・社会教育講座科目の試験時間は、当該学部等の履修要項、試験時間割発表掲示を確認すること。

交通機関の遅れなどにより、試験の開始・終了時刻が遅くなる可能性があるため、試験当日の行動予定を立てるに際して、そのことを考慮しておくこと。

(2) 試験方法等

① 試験方法・試験日程・時間割・試験場は、掲示（新座1号館2階、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール）ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）

② 試験日程には、予備日が設けられている。予備日とは、定期試験期間内筆記試験および最終授業時筆記試験において、災害等、突発的な事情により試験を実施することができなくなった場合の代替日を示す。予備日に代替された科目、予備日の試験日程については、随時試験掲示およびホームページ上で発表するので、必ず確認すること。

③ 受験者は、必ず指定された教室で受験すること。

④ 試験は、授業時の教室と異なる教室で行うことがあるので注意すること。

2. 筆記試験受験時の学生証携帯義務

(1) 学生証（または臨時学生証）を携帯しない場合は、いかなる理由があっても受験できない。

(2) 受験中は、学生証（または臨時学生証）を机上の試験監督者の見やすい位置に明示しておかなければならない。

(3) 学生証を紛失・破損した場合や、劣化により顔写真が不鮮明となった場合は、直ちに所属キャンパスの教務窓口で再交付を受けること。

(4) 試験当日、学生証を忘れた者は所属キャンパスの教務窓口で「臨時学生証」の発行を受けること。

臨時学生証 発行手数料500円・2日間有効・写真不要

* 試験当日に入金できない場合は、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせのこと。

3. 試験場への入退室

- (1) 定期試験期間内筆記試験の受験者は試験時間開始の15分前までに試験場前の廊下に集合し、試験場入口で指定された場所に着席すること。また、最終授業時筆記試験の受験者は授業開始時刻までに試験場に入室すること。
- (2) 試験開始後15分までの遅刻については、試験監督者が許可した場合に受験を認める。
- (3) 交通機関等の遅延による遅刻者であって、交通機関発行の遅延証明書を持参した者は、試験開始後15～30分までの遅刻については試験監督者が許可した場合に限り、受験を認める。
- (4) 上記(3)において、やむを得ず「遅延証明書」を持参しなかった者については、試験場で「交通機関遅延状況説明書」に必要事項を記入した上で、試験監督者の許可を得て受験することができる。(監督者から指定された期日までに、交通機関発行の遅延証明書の提出が必要となる)
- (5) 試験開始後30分を経過しなければ退室することができない。また、原則として試験終了前10分間は、退室することができない。
- (6) 交通機関の大幅な遅延、事件、事故などのため試験時間に遅れそうな場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。

4. その他

- (1) 解答用紙および試験出席票に記入する所属、学年、学生番号、氏名は、特に指示のないかぎりペンまたはボールペンで記入すること。
- (2) 学生番号・氏名が未記入の答案は無効とする。
- (3) 当該科目の履修登録を行わない者は、受験資格を持たない。万一受験した場合は、その答案は無効とする。
- (4) 受験した科目の解答用紙および試験出席票、試験問題は、白紙であっても氏名等を記入して、必ず提出すること。
- (5) 携帯電話等の通信機器類は、試験場での使用を認めない(試験方法に「すべて持込可」とされた科目の場合も使用不可)。また、同機器類の時計・電卓としての使用も認めない。
- (6) 筆記用具は筆入れから出すこと。筆記用具・学生証(臨時学生証)以外のものは、当該科目について特に許可されているものを除き、かばん等に入れて、指定された場所に、試験開始前におくこと。
- (7) 受験中は、学生同士の会話、物の貸借を一切禁ずる。

4 口頭試問

定期試験として行う口頭試問の詳細については、掲示(新座1号館2階、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール)ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する試験方法発表にて確認すること。(「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照)

5 レポート

レポートを作成する場合の注意事項は後述の「レポート・論文作成時のルールについて」も参照すること。

1. レポート

- (1) レポートには下記の2種類がある。
 - ① 試験方法発表(「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照)において「レポート試験」と発表され、レポート提出期間に提出するレポート
 - ② 最終授業時など、①以外の方法・時期に提出するレポート
- (2) 上記(1)－①におけるレポートの提出日時、提出場所、題目の発表
提出日時、提出場所、題目は、試験方法と同時に、掲示(新座1号館2階、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール)、ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する。(「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照)

2. 提出方法

(1) レポート試験

試験方法発表（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）で指定された期日・場所に、専用のレポート表紙を綴じ付け、レポート提出証を添えて提出すること。※2017年度より、一部webで受付する場合もある。試験方法発表にて詳細を発表するので注意すること。

- ① 指定期日後は、理由の如何にかかわらず一切受け取らないので十分注意すること。（後述「レポート・論文等の提出に際しての注意」も参照）
- ② レポートは、同一科目につき複数提出することはできない。万一、複数提出された場合は、最初の1件のみを採点の対象とする。また、一度提出されたレポートの返却はしないので、不備がないか十分確認のうえ提出すること。
- ③ レポートの用紙は、特に指定のない限りA4判の用紙を使用すること。
- ④ レポート表紙とレポート提出証（いずれも専用のもの）の配付開始時期は、試験方法発表（「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照）により指示する。

レポート表紙	……A4サイズで科目設置学部等により色が異なる
レポート提出証	…レポート表紙と同色
- ⑤ レポート表紙、レポート提出証は、ペンまたはボールペンで必要事項を記入すること。
- ⑥ レポートとレポート表紙はホチキスで2箇所以上綴じること。
- ⑦ 提出されたレポートは、レポート表紙の整理記号欄の記入内容により採点されるので、記入間違いや他科目と表紙を付け間違えないよう十分注意すること。
- ⑧ レポート表紙に、学生番号・氏名が未記入のレポートは無効とする。
- ⑨ 当該科目の履修登録を完了していない者はレポート提出資格を持たない。万一レポートが提出された場合は、そのレポートを無効とする。
- ⑩ 病気、その他やむを得ない事情により本人が提出できない場合には、代理人による提出を認める（以下「レポート・論文等の提出に際しての注意」参照）。
- ⑪ 学校感染症第1種または第2種に罹患した場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口連絡をして指示を受けること（以下「レポート・論文等の提出に際しての注意」参照）。

レポート・論文等の提出に際しての注意

レポート・論文等は、指定された提出期限後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関等の遅延も予測されるので、提出にあたっては十分余裕をもって臨み、本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼する等の措置を講ずること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人または代理人が提出期限までにレポート・論文等の提出に来られない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故や交通機関等の大幅な遅延などの場合を言う。

*プリンター等、機器の故障は不測の事態に含まれないので注意すること。

学校感染症のため出校停止となった学生のレポート・卒業論文・修士論文の提出について

上記に該当した場合は、以下の指示に従うこと。

1. 上記の提出物の提出期間において本人が出校停止中である場合は、代理人を立て、当該の期間内に提出することを原則とする。

代理人による不備は、依頼した本人の責任となる。

2. 1. において代理人を立てることができない場合は、締め切り時刻以前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。

(以下のすべてに該当する場合、後日の提出を認めることがある)

- ① 上記2. に該当する学生であること。
- ② 医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」の提出によって、締切日当日に学校感染症に罹患して出校停止中であった事実が証明できること。
- ③ 「出校可能となった日の翌日（窓口対応可能日）」に提出すること。

(2) レポート試験以外のレポート

- ① 各自で表紙をつけ、表紙には、必要事項（科目名・科目担当教員名・所属学部・学科・年次・学生番号・氏名）を必ず記入すること。
- ② 紙媒体以外の提出方法による場合も、上記必要事項を必ず明記すること。
- ③ その他の提出方法については、科目担当教員の指示に従うこと。科目担当教員へ提出するよう指示されたレポートは直接科目担当教員に手渡すこと。

レポート・論文作成時のルールについて

皆さんは、さまざまな授業でレポートや論文を書く機会があると思います。授業の中で指示されて書くレポートや期末試験の代わりに書くレポート、討論会のために作成する論文や卒業論文など、その性質はさまざまですが、どのレポートや論文にも共通なルールがいくつかあります。その一つが、他人が書いたものを写して、あたかも自分が書いたかのように装ってはいけない、というルールです。

これは、元の文章や図表が書物のものであっても、Web上のデータのものであっても、友人のレポートであっても同じです。たとえその文章が著作権を放棄したもので、リンクフリーのサイトに載っているものでも同じです。問題は、元の文章の性格ではなく、他の人の成果を自分の成果であるかのように装ってはいけない、ということなのです。このような他人の成果を盗む行為は「盗用」や「剽窃（ひょうせつ）」と呼ばれます。

もちろん、他の人がこれまで積み重ねてきた研究の業績を自分のレポートや論文に全く利用してはいけないということではありません。独りよがりにならないためには、従来の研究の成果に大いに学ばなければなりません。他人の業績のアイデアを利用することもあるでしょうし、他人の作った文章や図表などを引用して説明を行う場合もあるでしょう。

ただし、こうした利用や引用にはルールがあります。他の人のアイデアや文章、図表などを用いるときには、それがもともと誰の成果なのかを明記するというルールです。このルールをないがしろにすれば、悪気のあるなしにかかわらず「盗用」や「剽窃」になってしまうのです。

具体的な表記の仕方については授業で学びますが、一般的には次の通りです。

- ・引用対象が文章なら、その文章を「 」で囲み、他の部分と区別する。
- ・その対象の出典を明記する。

【例】【図書の場合】 著者名、『書名』、出版社、発行年、ページ

【雑誌論文、記事の場合】 筆者名、「論文名」、『雑誌名』、巻、号、発行年月、ページ

【ホームページの場合】 URL、取得年月日

【新聞記事の場合】 新聞紙名、朝夕刊の区別、号数、第何面か

これ以外にも表記の仕方にはいろいろなバリエーションがあります。そうした表記の方法や、そもそも論文やレポートでどのくらいの引用をすべきなのかといった点については教員の指導に従ってください。

盗用や剽窃は文章を書く場合にはもっとも恥ずべき行為のひとつであり、研究者がこうしたことを行えば研究者生命を失いかねない程の大問題になります。皆さんのレポートや論文についてもこうした盗用・剽窃がなされないように適切に指導することと、こうした行為が行われたときには厳しく対処することが全学の教員で合意されています。

レポートや論文は他の人の成果を調べて書き写したり、カットアンドペーストのみで作ったりするものではありません。さまざまな研究成果やデータをルールに則って利用しつつ、最終的に自分の考えや主張を論じることで完成するものです。他者の成果には十分に敬意を払い、ルールを守って論文やレポートを作成するようにしましょう。

6 追試験

入院その他やむを得ない事由によって春学期末試験または秋学期末・学年末試験を受験できなかった者で、追試験受験申請書を提出した者に対しては、審査の上追試験の受験を許可することがある。

☞ 「現代心理学部専門教育科目試験規則」第4章を参照のこと。

1. 対象科目

追試験の対象となる科目は、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問として発表され、追試験対象科目に指定された、最終授業時試験科目および定期試験科目である。

- * 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、追試験対象科目として指定されなかった科目は、追試験の対象とはならない。
- * その他授業時間内に科目担当教員が任意に実施する小テスト・中間テスト・最終テストは、追試験の対象とはならない。それらが実施された授業日に欠席した場合は、科目担当教員の指示に従うこと。

2. 受験申請書

追試験受験申請書を、履修登録状況画面のコピーと別表の証明書を添付の上、試験実施日の翌日から1週間以内（翌週の同じ曜日まで。締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

追試験受験申請書は、所属キャンパスの教務窓口で交付する。

(SPIRIT 教務部ページからもダウンロード可能。)

- * 入院等により期間内に追試験受験申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示に従うこと。特に、学校感染症（第1種または第2種）に罹患した場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示を受けること。
- * 所属キャンパスとは異なるキャンパスで履修した科目の追試験受験申請書は、当該科目の開講キャンパス窓口へ提出すること。ただし、所属キャンパスで履修した科目を同時に申請する場合はその限りではないので、事前に所属キャンパスの教務窓口へ相談すること。

3. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、下記の日程で掲示（新座7号館1階事務部内移動掲示板、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール）、ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2017年度 追試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
2017年8月25日（金）10：00	2018年2月17日（土）10：00

* 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスにて行う。

4. 追試験実施期間

追試験は、次の期間に実施する。

〈2017年度 追試験 実施期間〉

追試験実施方法	春学期末	秋学期末・学年末
筆記試験 口頭試問	実施期間： 2017年9月5日（火）～11日（月）	実施期間： 2018年3月1日（木）～7日（水）
レポートによる追試験	提出期間： 2017年9月5日（火） ～8日（金）16：00	提出期間： 2018年3月1日（木） ～3日（土）12：30

* 追試験の実施は当該科目の開講キャンパスにて行う。

5. 追試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3 筆記試験** に準じる。

なお、追試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

〈別表：追試験受験申請書添付書類〉

	試験欠席事由	添付するべき証明書類 <small>事由によっては、立教大学が記入用紙を作成する場合がある</small>
(1)	入院またはそれに準ずる登校不能（風邪・下痢等の一時的な疾病は含まない）ただし、必修科目、先修科目については欄外*を参照	入院先機関の発行する入院証明書 ^{注1)}
(2)	インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種の罹患による登校不能 ^{注2)}	医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」 ^{注3)} 、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」 ^{注4)}
(3)	忌引（保証人、配偶者および3親等以内の血族または姻族に限る）（法事は含まない） ^{注5)}	本人と保証人の署名・捺印のある書類（様式は自由、本人との続柄を明記）およびその事実を明らかにするもの（死亡に関する公的証明書もしくは会葬礼状等）
(4)	交通機関の30分以上の遅延	交通機関発行の遅延証明書
(5)	重大な災害による登校不能	官公庁発行の被災証明書
(6)	学校・社会教育講座の各種実習・体験等	実習・体験期間証明書
(7)	就職試験（就職試験の日程が変更できない場合に限る。セミナー、複数企業の合同説明会、OB・OG訪問等は含まない）	本人が受験したことを証明する受験先機関発行の証明書（就職試験の場所、日時を明記、社印が押印されていること）
(8)	他大学大学院入学試験	受験票のコピー
(9)	日本代表としてのスポーツ公式競技への参加	派遣元団体が大学に宛てた公文書
(10)	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭、または裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭の場合、出頭した裁判所での出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」、裁判員に選任された場合、裁判員職務従事期間についての「証明書」
(11)	上記10事項に準ずる事由 ^{注6)}	

* 必修科目、先修科目については、医師の診断書がある病気・けがによる登校不能についても欠席事由とする。

先修科目とは、ある科目を履修するための条件として、先立って単位を修得しておくことが必要な科目をいう。具体的には、科目設置学科の規定を参照すること。

- 注1) 上記(1)の場合の入院証明書・医師の診断書は、試験を欠席した日の入院・病気・けがを証明する内容であること。
- 注2) 上記(2)に該当した場合には、速やかに所属キャンパスの教務窓口ご連絡し指示を受けること。なお、罹患中に試験を受験した場合には、その試験は無効となる。
- 注3) 上記(2)に該当した場合の医師の診断書において、罹患時と治癒時の受診医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合があるので注意が必要である。受診医療機関を変更する場合は、罹患時に受診した医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」を必ず取得しておくこと。こうすることにより、罹患時に取得した「診断書」と治癒時に受診した医療機関が発行する『治癒日と登校可能日の記載がある「診断書」』の2種類をもって「罹患期間についての証明」とすることが可能となる。
- 注4) 上記(2)に該当した場合の「治癒証明書」の書式は、SPIRIT 教務部ページからダウンロードすること。
- 注5) 3親等以内の血族または姻族とは次を指す。
 血族—父母・子、祖父母・兄弟姉妹・孫、曾祖父母・伯叔父母・甥姪・曾孫
 姻族—配偶者の父母・子の配偶者・配偶者の子（配偶者の前婚における子など）、配偶者の祖父母・配偶者の兄弟、姉妹・孫の配偶者・配偶者の孫（配偶者の前婚における孫など）・兄弟姉妹の配偶者、配偶者の曾祖父母・配偶者の伯叔父母・配偶者の甥姪・曾孫の配偶者・配偶者の曾孫（配偶者の前婚における曾孫など）・甥姪の配偶者・伯叔父母の配偶者
- 注6) 原則として、事前の届出に対して審査を行うので、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせのこと。

7 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）は、試験時間重複特別試験を実施する。その場合は、原則として、他学部等の科目を定期試験期間内で受験し、自学部科目を特別試験において受験すること。

1. 受験申請書

受験希望者は、試験日時発表後から試験実施期間開始の1週間前までに、試験時間重複特別試験受験申請書を履修登録状況画面のコピーを添付の上、所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。ただし、試験時間が変更されたことによって試験時間に重複が生じた場合は、試験実施日から2日以内に試験時間重複特別試験受験申請書を所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

2. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、下記の日程で掲示（新座7号館1階事務部内移動掲示板、池袋キャンパスは池袋11号館1階エントランスホール）、ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2017年度 試験時間重複特別試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
2017年8月25日（金）10：00	2018年2月17日（土）10：00

* 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスにて行う。

3. 実施期間

試験時間重複特別試験は、次の期間に実施する。

〈2017年度 試験時間重複特別試験 筆記試験・口頭試験実施期間〉

春学期末	秋学期末・学年末
2017年9月5日（火）～11日（月）	2018年3月1日（木）～7日（水）

〈2017年度 試験時間重複特別試験 レポート提出期間〉

春学期末	秋学期末・学年末
2017年9月5日（火）～8日（金）16：00	2018年3月1日（木）～3日（土）12：30

* 試験時間重複特別試験の実施は当該科目の開講キャンパスにて行う。

4. 試験時間重複特別試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3** 筆記試験 に準じる。

なお、試験時間重複特別試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

8 不正行為

試験は、学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。

1. 退室命令

試験中に不正行為とみなされる行為が発見された場合、不正行為者は、試験場から直ちに退室を命ぜられる。

2. 受験資格の喪失

(1) 受験中に不正行為を行った者は、不正行為以降の全学共通カリキュラム科目、他学部科目等を含むその期の全科目の受験資格（レポート提出資格等を含む）を失う。

(2) 全学共通カリキュラム英語単位認定試験（以下「全カリ英語単位認定試験」）を受験中に不正行為を行った者は、同日に行われる試験を含め、当該試験期間（6月実施：春学期末試験終了まで、11月実施：秋学期末・学年末試験終了まで）の筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績はすべて不合格となる。

VI 試験・成績

3. 当該試験期間 の成績

不正行為者の当該試験期間の成績は以下の通りとする。

- (1) 定期試験期間内筆記試験科目、最終授業時筆記試験科目については、すでに受験した科目を含む全科目の成績を不合格とする。
- (2) 春学期末または秋学期末・学年末試験期間に不正行為を行った場合、6月または11月に受験した全カリ英語単位認定試験の受験資格をさかのぼって失い、合格は取り消される。
- (3) レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目等、原則として定期試験期間内筆記試験、最終授業時筆記試験以外の方法のみによって成績評価を実施する科目については、不正行為以前の成績評価は有効とする。

4. 処分の決定

- (1) 不正行為者の処分は、その者の所属する学部教授会がこれを決定する。
- (2) 処分は、訓告・停学・退学の3種類とする。不正行為の処分は、原則として停学とする。
- (3) 処分決定後は、不正行為以降全ての受験資格を喪失する。

9 成績

1. 成績評価

授業科目の成績は以下の基準に従い、S、A、B、Cを合格、D、欠を不合格とする。

⊖単位を修得した科目の評価を取り消すことはできない。

〈成績の評価〉

評価		評価基準	成績証明書の表示
合格	S (100~90点)	当該科目の目標をほぼ完全に達成していると認められる	S
	A (89~80点)	当該科目の目標を十分に達成していると認められる	A
	B (79~70点)	当該科目の目標の基幹部分は達成しているものと認められる	B
	C (69~60点)	当該科目の目標のうち最低限は達成していると認められる	C
不合格	D (59~0点)	当該科目の目標に及ばない	表示 されない
	欠席	試験未受験等により評価できないもの ^{注1)}	

注1) 筆記試験・口頭試問を欠席した場合、また試験発表掲示にレポート試験と発表されているレポート（5 レポート の項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

次のように表示される科目もある。

評価	成績証明書
合格	合
不合格	表示されない
認定	認
Q ^{注1)}	表示されない

注1) 成績確定前に、休学したものおよび在学留学したものの

VI 試験・成績

2. 成績の発表

成績は下記の日程で成績参照システムに発表する。電話・メールによる成績の問い合わせには一切応じない。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

〈成績の発表〉

春学期開講科目	2017年度在籍者 (特別卒業〔9月卒業〕申請者を含む)	2017年9月5日(火)
秋学期開講科目 通年開講科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2018年2月28日(水)
	2018年度在籍者	2018年3月13日(火)
	2018年度在籍者 (2018年度の新年次での発表)	2018年3月28日(水)

〈追試験結果の発表〉

春学期開講科目	2017年度在籍者 (特別卒業〔9月卒業〕申請者を含む)	2017年9月23日(土)
秋学期開講科目 通年開講科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2018年3月13日(火)
	2018年度在籍者	

3. 成績評価調査の申請

成績評価調査制度は、成績評価が間違っていると思われる十分な理由がある場合に、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、の確認を求めるとのものであり、成績の再考を求めるとのものではない。調査の申請にあたっては、「成績評価調査申請書」にその理由を詳しく記入し、下記の期間内に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

* 「成績評価調査申請書」は所属キャンパスの教務窓口で配付する。

〈成績評価調査申請書提出期間〉

2017年度 春学期開講科目	特別卒業〔9月卒業〕申請者	2017年9月5日(火) ～8日(金) 16:00
	2017年度在籍者 (特別卒業〔9月卒業〕申請者を除く)	
2017年度 秋学期開講科目 通年開講科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2018年2月28日(水) ～3月2日(金) 17:00
	2018年度在籍者 (2017年度卒業合格 発表対象者を除く)	2018年3月13日(火) ～16日(金) 17:00

申請期限は遵守すること。

入院等により、期間内に成績評価調査申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示に従うこと。

1 卒業および学位に関する規定

現代心理学部に4年以上在学して、所定の単位を修得した者には、心理学科は学士（心理学）、映像身体学科は学士（映像身体学）の学位を授与する。

なお、本学の卒業年月日は、当該年度3月31日付とする。

*休学などによる学修中断の期間は、この在学年数には数えられない。詳細は、「Ⅷ 学生証・学籍・学費 2 学籍」を参照。

2 最長在学年数

本学における最長在学年数は8年とする。これを超えて在学することはできない。なお、3年次に編入学または転部・転科・転専修した者は6年、2年次に転部・転科したものは7年とする。

3 卒業合否の発表

卒業合否は2月28日（水）に成績参照システムにて発表する。在学8学期目以降の4年次生は必ず本人が卒業の合否を確認すること。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

☎電話や電子メールなどでの問い合わせには一切応じない。

4 卒業の延期（希望留年）

1. 希望留年とは

卒業に必要な所定の単位を修得した後も本学に留まり、勉学を継続するため在学（留年）を希望する場合、所定の受付期間に、所定の書式（希望留年願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて留年することができる。この場合、卒業は翌年度末まで認められない。この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。許可された場合、当該年次に納入すべき所定の学費その他の納入金の全額を納入することになる。なお、特別卒業を申請し、許可された場合、9月19日付で卒業となる。特別卒業に関しては次頁「5 特別卒業」を参照。

2. 希望留年願の配付

配付期間 2017年12月1日（金）9：00～2018年3月14日（水）17：00

配付窓口 ■文・経済・理・社会・法・経営・異文化コミュニケーションの各学部学生、
グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生

⇒ 池袋キャンパス教務事務センター

■観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部学生

⇒ 新座キャンパス教務事務センター

3. 希望留年願の受付と許可者発表

受付期間 2018年2月28日（水）10：00～3月14日（水）17：00

*受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。

*この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。

受付窓口 ■文・経済・理・社会・法・経営・異文化コミュニケーションの各学部学生、
グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生

⇒ 池袋キャンパス教務事務センター

■観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部学生

⇒ 新座キャンパス教務事務センター

許可者発表 2018年3月19日（月）
成績参照システムに発表する。
発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

5 特別卒業

1. 特別卒業（9月卒業）とは

「特別卒業（9月卒業）」とは、以下の6つの条件をすべて満たした学生が、所属学部が行う卒業判定で合格した場合、年度途中の9月19日付で卒業することができる制度である。

〈特別卒業（9月卒業）申請条件〉

1. 所定の受付期間に、所定の書式（特別卒業願）によって保証人連署をもって願い出ていること
2. 学部学生であること
3. 申請時において、在学8学期目以降の学生であること^{*1}
4. 申請時において、所属学部の卒業に必要な単位を、修得または修得見込^{*2}であること
5. 申請学期において、在学中であること^{*3}
6. 申請時において、当該年次の「学費^{*4}その他の納入金」の全額または分納1を納めていること

この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。特別卒業願を提出し特別卒業を許可された場合の「学費^{*4}その他の納入金」は、学費^{*4}その他の納入金の2分の1額とする。

※1：休学中の期間は、在学年数ならびに在学学期数に含まれない。

※2：当該年度春学期科目の修得により、所属学部の卒業に必要な単位を修得する見込がある学生。

※3：休学中・停学中でないこと。

※4：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※5：特別卒業を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が特別卒業の申請条件として納入すべき金額に不足する場合は、特別卒業願を受理しない。

2. 特別卒業願の配付

配付期間 2017年6月1日（木）9：00～7月15日（土）12：30

配付窓口 ■文・経済・理・社会・法・経営・異文化コミュニケーションの各学部学生、
グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生
⇒ 池袋キャンパス教務事務センター
■観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部学生
⇒ 新座キャンパス教務事務センター

3. 特別卒業申請受付と許可者発表

受付期間 2017年7月1日（土）9：00～7月15日（土）12：30

*受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。

*この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。

受付窓口 ■文・経済・理・社会・法・経営・異文化コミュニケーションの各学部学生、
グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生
⇒ 池袋キャンパス教務事務センター
■観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部学生
⇒ 新座キャンパス教務事務センター

許可者発表 2017年9月5日（火）
成績参照システムに発表する。
発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

4. 特別卒業式

2017年9月19日（火）
時間については、許可者発表日にあわせて成績参照システムに発表する。

1 学生証

1. 学生証

学生証は、立教大学の学生であることを証明するものである。学生証は、プラスチックカードと通学定期乗車券発行控がセットになっている。請求があった場合にはいつでも提示できるよう、常に携帯すること。

2. 学生番号について

学生番号は固有の番号で、在籍中および卒業後も変わることはない。各種手続きの際に必要なもので正確に覚えること。

1 7 A A 1 2 3 Z		
入学年度	入学時の 学部・学科 (研究科・専攻)	個人番号

3. 有効期間

学生証の有効期限は在籍期間中である。ただし次の場合は学生証（プラスチックカードと通学定期乗車券発行控）を返却しなければならない。

- (1) 卒業・修了・退学・除籍などで学籍を失ったとき。
- (2) 紛失等により再交付を受けたのち、前の学生証が見つかったとき（前の学生証を返却すること）。

4. 貸与・譲渡の禁止

学生証は学生本人を証明する大変重要なものである。学生証を他人に貸与、または譲渡することは固く禁止されており、違反した学生は本学では懲戒の対象となる。なお、複写物の貸与・譲渡についても同様の扱いとなる。

5. 紛失・破損したとき

学生証を紛失・破損した場合や劣化により顔写真が不鮮明な場合は、直ちに下記へ届け出ること。

■文・経済・理・社会・法・経営の各学部・研究科学生、

異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者を除く）の学生、グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生、キリスト教学・法務の各研究科学生

⇒ 池袋キャンパス教務事務センター

■観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部・研究科学生

⇒ 新座キャンパス教務事務センター

■ビジネスデザイン・21世紀社会デザインの各研究科学生、異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者）の学生

⇒ 独立研究科事務室

再交付（再交付手数料2,000円^{*}）は2日後（窓口閉室日を除く）になる。

^{*}劣化により顔写真が不鮮明な場合は、現在の学生証と交換（再交付手数料は不要）。

2 学籍

1. 学籍とは

学籍とは、本学に入学することによって取得されるものであり、本学の学生（在籍者）であることを意味する。本学を卒業・修了・退学・除籍となった場合は学籍を喪失する。

2. 在籍と在籍期間

在籍とは、本学に学籍が存在することをいい、その期間を在籍期間という。休学期間は在学年数に算入されないため、在籍期間は、在学状態の期間（在学期間）に休学状態の期間（休学期間）を加えた期間となる。

3. 修業年限と最長在学年数

本学を卒業・修了するために必要な年数（大学院学生の場合は標準的な年数）のことを修業年限という。学部学生が本学を卒業するためには、4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。ただし、最長在学年数を超えて在学することはできない。修業年限と最長在学年数は以下の表のとおりである。

	修業年限	最長在学年数 ^{※1}
学部学生	4年 ^{※2}	8年 ^{※2}
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	2年	4年
博士課程後期課程の大学院学生	3年	6年
専門職学位課程の大学院学生（法務研究科）	3年	6年

※1：休学期間は最長在学年数には算入されない。休学については「**3** 休学・復学」を参照すること。

※2：編入学、学内転部、転科または転専修制度を利用した学生については、教務担当窓口にて確認すること。

4. 在学年数と在学学期数

学部学生の修業年限である「4年以上在学して」を学期に置き換えると、「8学期以上在学して」となり、以下の表のとおりである。

大学院学生についても、所属研究科が定める学位授与の要件において必要とされる在学年数を在学学期数に置き換える場合は、学部学生に準ずる。

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期

注意 2009年度以前に休学している学生の2017年4月時点の在学学期数については、教務担当窓口にて確認すること。

3 休学・復学

1. 休学とは

病気その他やむを得ない事由により満2ヶ月以上就学することができないときは、所定の受付期間に、所定の書式（休学願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて当該学期間休学することができる。休学中の期間は在学年数に算入しない。なお、休学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。

休学期間は理由の如何を問わず、休学願を提出した時期により以下の表のとおりとする。2学期以上にわたって休学するときは、学期ごとに定められた休学願提出期間内に改めて休学願を提出することが必要である。

休学学期	休学願提出時期	休学期間
2017年度春学期	2017年2月1日（水）～5月31日（水）	2017年9月19日（火）まで
2017年度秋学期	2017年8月1日（火）～12月2日（土）	2018年3月31日（土）まで

2. 復学について

休学した者は、休学期間終了後、自動的に復学となる。なお、復学の時期は以下のとおりである。

復学時期

- 2017年度春学期を休学した場合の復学日 ⇒ 2017年9月20日
- 2017年度秋学期を休学した場合の復学日 ⇒ 2018年4月1日

3. 休学学期と年次の扱いについて

休学中の期間は在学年数に算入しないと同時に、在学学期数にも算入しない。ただし、2010年度以降に休学制度を利用した場合、在学学期数にかかわらず年次は学部学生の場合4年次まで自動的に進む。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次 ^{※3}	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 ^{※2}	9学期 ^{※1}

※1・2：卒業の時期については、「4. 卒業・修了の時期について」を参照すること。

※3：学部学生が4年次に卒業できなかった場合は、再度4年次生として在籍することとなる。

注意 2009年度以前の休学は、休学期間にかかわらず年度単位の休学なので注意すること。

2010年度以降は学期単位の休学となるが、2009年度以前に休学した年度について、遡って学期単位の休学とはみなさない。

2009年度以前に休学している学生の2017年4月時点の在学学期数については、教務担当窓口にて確認すること。

4. 卒業・修了の時期について

(1) 学部学生

休学した学生の卒業も、原則として3月31日付となる。ただし春学期で8学期以上在学となる場合は、特別卒業を申請し許可を受けることにより9月19日付で卒業することができる。詳細は「Ⅶ卒業に関する事項 5 特別卒業」を参照すること。

なお、休学中に卒業（特別卒業）はできないので注意すること。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 ^{※2}	9学期 ^{※1}

※1：通常の卒業時期は秋学期の終了日である。

※2：特別卒業を申請し許可された場合の卒業時期は春学期の終了日である。

(2) 博士課程前期課程学生

休学した学生の修了も、原則として3月31日付となる。ただし春学期で4学期以上在学となる場合は、特別修了を申請し許可を受けることにより9月19日付で修了することができる。詳細は「修了に関する事項」を参照すること。

なお、休学中に修了（特別修了）はできないので注意すること。

〈1学期休学した場合〉～2学期目を休学し、2年次春学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	休学	2学期	3学期	4学期 ^{※2}	5学期 ^{※1}

※1：通常の修了時期は秋学期の終了日である。

※2：特別修了を申請し許可された場合の修了時期は春学期の終了日である。

5. 利用回数の上限について

休学制度の利用回数には上限が設けられている。いかなる理由においても上限回数を超過して休学することはできない。学期の初めから休学した場合でも学期の途中から休学した場合でも、いずれも1回と

Ⅷ 学生証・学籍・学費

して計算される。なお、上限回数は通算の休学回数である。2学期間連続して休学した場合や、1学期以上の在学期間をはさみ2学期間休学した場合は、休学回数は2回となる。

	休学制度を利用 できる回数	2007年度以前に 休学制度を利用した回数
学部学生	8回	上限回数に算入しない
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	4回	
博士課程後期課程の大学院学生	6回	
専門職学位課程の大学院学生（法務研究科）	4回	

※1：学内転部、転科または転専修制度を利用し、学部、学科または専修が変更になった場合、変更前の休学回数は変更後の学部、学科または専修に引き継がれる。なお、転部、転科または転専修前の休学が2007年度以前の場合はその限りではない。

※2：本学を退学後、再入学した場合、退学前の休学回数は引き継がれる。なお、退学前の休学が2007年度以前の場合はその限りではない。

※3：本学を卒業・修了・退学した後、選抜試験に合格し、入学（※2の再入学を除く）した場合は、過去に休学した回数は引き継がれない。

注意 2008年度と2009年度に休学した学生の上限回数について

2008年度と2009年度の休学については、2010年度より休学が従来の年度単位から学期単位の制度に変更されたこととともない、年度単位の回数を学期単位の回数に換算する。2008年度または2009年度のいずれかの年度を休学した場合は2回、2008年度と2009年度の両方を休学した場合は4回となるので注意すること。

6. 休学願の配付 ・提出先につ いて

提出時期

■2017年度春学期を休学する場合

⇒ 2017年2月1日（水）9：00～5月31日（水）17：00

■2017年度秋学期を休学する場合

⇒ 2017年8月1日（火）9：00～12月2日（土）12：30

配付・提出窓口

■文・経済・理・社会・法・経営の各学部・研究科学生、

異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者を除く）の学生、グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生、キリスト教学・法務の各研究科学生

⇒ 池袋キャンパス教務事務センター

■観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部・研究科学生

⇒ 新座キャンパス教務事務センター

■ビジネスデザイン・21世紀社会デザインの各研究科学生、異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者）の学生

⇒ 独立研究科事務室

7. 休学許可通知 について

休学願を提出し各学部等教授会又は各研究科委員会で許可された場合、本人及び保証人に対して休学許可通知を郵送する。休学の許可についてはこの通知で確認すること。在籍料（「9. 休学中の学費について」参照）等、休学中にかかる諸経費の支払いは、休学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

8. 就学の問い合 わせについて

休学している学生に対して、「就学問い合わせ」を郵送する^{*1}。引き続き休学を希望する場合は同封の休学願を、退学を希望する場合は同封の退学願を、必ず締切期日までに提出すること。締切期日は同

Ⅷ 学生証・学籍・学費

封の書簡にて指示する。休学願または退学願を提出しない場合は、休学期間終了後、「2. 復学について」に示す日付をもって自動的に復学となるので注意すること。

休学学期	就学問い合わせの	就学問い合わせの	回答時の提出書類		
	送付時期	回答締切	休学	退学	復学
2017年度春学期	2017年7月末 ^{※3}	2017年8月下旬	休学願	退学願	手続不要
2017年度秋学期	2018年1月末 ^{※4}	2018年2月下旬			

※1：保証人住所宛に郵送する。

※2：外国人留学生で兵役のために休学する場合は例外措置があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。

※3：自己都合で休学した学期の後、間をあげずに派遣留学又は認定校留学に出発する場合は就学問い合わせを送付しない。

※4：2018年1月末時点で当該年次に納入すべき学費及び在籍料の全額または一部が未納の場合、就学問い合わせは当該年次に納入すべき所定の学費及び在籍料の全額を納入した後に発送する。

9. 休学中の学費について

休学願を提出し休学を許可された場合、当該休学学期間の在籍料を除く学費^{※1}を免除する。在籍料は、在籍保証、在籍管理事務の経費として所属学部（学科・専修）・研究科に係らず1学期につき60,000円を、休学した学期ごとに徴収する。なお、休学が許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が休学時に納入すべき金額に満たない場合は、これを徴収する。

休学学期	学費		
	春学期	秋学期	当該年次
春学期	在籍料 (60,000円)	学費の1/2 (在籍料含む) ※2	学費の1/2 (在籍料含む) + 在籍料 (60,000円)
秋学期	学費の1/2 (在籍料含む) ※2	在籍料 (60,000円)	
春学期・秋学期	在籍料 (60,000円)	在籍料 (60,000円)	在籍料 (120,000円)

※1：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※2：学費の1/2（在籍料含む）とは、1年間に支払う学費の1/2額を意味する。

※3：授業料は在籍料120,000円（半期60,000円）を含むものとする。

※4：その他の納入金は、休学を許可された場合であっても所定の金額を徴収する。

4 退学

1. 退学とは

病気その他の事由により退学しようとする場合は、所定の受付期間に、所定の書式（退学願）により、保証人連署をもって願出で、許可を受けなければならない（学生証を返却のこと）。なお、退学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。

2. 提出時期と学費の減免について

退学願を提出し退学を許可された場合、退学願を提出した時期により学費^{※1}その他の納入金の一部を次のとおり減免する。なお、退学が許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が退学願を提出した時点で退学時に納入すべき金額に不足する場合は、退学願を受理しない。

退学願提出時期	減免額
2017年5月31日（水）まで	学生健康保険互助組合費を除く全額（在籍2年目以上） ^{※2}
2017年12月2日（土）まで	学費その他の納入金の1/2（在籍料含む） ^{※3}
2018年3月31日（土）まで	無し ^{※4}

※1：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※2：法務研究科の大学院学生については学生健康保険互助組合費および法科大学院生教育研究賠償責任保険を除く全額（在籍2年目以上）。

※3：納入額は、分納1と同額。

※4：当該年次に納入すべき所定の学費その他の納入金の全額を納入しなければならない。

3. 退学願の配付・提出先について

配付・提出窓口

- 文・経済・理・社会・法・経営の各学部・研究科学生，異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者を除く）の学生，グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生，キリスト教学・法務の各研究科学生
⇒ 池袋キャンパス教務事務センター
- 観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部・研究科学生
⇒ 新座キャンパス教務事務センター
- ビジネスデザイン・21世紀社会デザインの各研究科学生，異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者）の学生
⇒ 独立研究科事務室

4. 退学許可通知について

退学願を提出し各学部等教授会又は各研究科委員会で許可された場合，本人及び保証人に対して退学許可通知を郵送する。退学の許可についてはこの通知で確認すること。学費の減免に関する手続きが生じる場合は，退学許可通知の発送後，別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

5 希望留年（学部4年次生のみ）

希望留年については「Ⅶ卒業に関する事項 **4** 卒業の延期（希望留年）」を参照すること。

6 特別卒業

特別卒業（9月卒業）については「Ⅶ卒業に関する事項 **5** 特別卒業」を参照すること。

7 特別修了

特別修了（9月修了）については「現代心理学研究科にかかわる事項 **7** 修了に関する事項」を参照すること。

8 再入学

1. 再入学とは

病気その他の理由で退学した者が再入学を希望するときは，所定の書式により，保証人連署をもって願ひ出て，年度の始め（4月1日付）に再入学を許可されることがある。再入学を申し出る場合は，再入学する前年度の10月初日（初日が窓口閉室の場合は直後の窓口開室日）から11月末日（末日が窓口閉室の場合は直前の開室日）までに所定の書式を提出すること。再入学に必要な所定の書式については下記まで問い合わせること。

2. 再入学に関する問合せ先

- 文・経済・理・社会・法・経営の各学部・研究科学生，異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者を除く）の学生，グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生，キリスト教学・法務の各研究科学生
⇒ 池袋キャンパス教務事務センター
- 観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部・研究科学生
⇒ 新座キャンパス教務事務センター
- ビジネスデザイン・21世紀社会デザインの各研究科学生，異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者）の学生
⇒ 独立研究科事務室

9 学費

1. 学費通知の発送

(1) 振込の場合

4月上旬^{*1}に学費の振込用紙を，原則保証人宛に発送する。分納1回目の振込用紙を同封するので，期限までに，納入すること。また，分納1回目納付者には8月上旬^{*2}に分納2回目の振込用紙を発送する。

(2) 口座振替の場合

4月上旬^{*1}に学費の口座振替のお知らせを，原則保証人宛に発送する。分納1回目分を通知するので，振替日の前金融機関営業日までに資金を準備すること。また，分納1回目納付者には8月上旬^{*2}に分納2回目の口座振替のお知らせを発送する。

※1：次の学生へは発送が1ヶ月ほど遅れ，5月上旬に発送する。

1. 前学期（秋学期）休学者
2. 留年者（希望留年者も含む）
3. 文学部教育学科3年次生
4. 理学部物理学科・化学科・生命理学科の2・3・4年次生
5. 大学院前期（修士）課程で所定単位修得者
6. 大学院後期課程で研究指導終了者
7. 法務研究科学生

※2：春学期休学者へは発送が2ヶ月ほど遅れ，10月上旬に発送する。

2. 延納制度

特別な事情により，定められた期限までに納入ができない場合には，事前に財務部経理課まで「学費延納願」を申請すること。「学費延納願」を申請し認められた場合には，納入期限を一定の範囲で延期することができる。

3. 滞納した場合

当該年次に学費の未納がある場合は，除籍となる。

f-Campusとは学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、早稲田大学、本学の5大学間における単位互換制度である。他大学の提供科目一覧、時間割、講義内容（シラバス）、学年暦等は、f-Campusホームページ（<http://www.f-campus.org>）にて確認すること。

1 履修登録

1. 履修資格 在学2年目以上の学部学生（2017年度の編入学者を除く正規学生）。
2. 登録可能単位 本学を除く他の4大学合計で年間12単位まで。ただし、4月期の科目登録において選外となった科目の単位数は、9月期の科目登録における登録可能単位に含まれない。
3. 科目登録・登録結果発表
 - (1) 科目登録手順
すべてWebサイトにて行う。具体的な科目登録の手順は、f-Campusホームページで確認のこと。
 - (2) 科目登録期間

時期	登録対象科目	登録期間	結果発表
4月期	春学期開講科目+通年開講科目 +集中講義科目	3月27日（月）12：00～ 4月3日（月）9：30	4月4日（火） 9：30～
9月期	秋学期開講科目+集中講義科目	9月1日（金）12：00～ 11日（月）9：30	9月12日（火） 9：30～

※応募者が定員を超過した場合は抽選を行う。
 - (3) 登録結果発表
f-Campusホームページ上で行う。
4. 登録の取消 科目登録後の取り消しはできない。万が一本学の登録科目と時限重複した場合は、原則として他大学の科目が優先され、本学の科目は取り消される。
5. 履修先大学の特別聴講学生番号の通知 f-Campusホームページによって、登録結果とともに履修先大学の特別聴講学生番号を発表する。他大学での授業出席票や試験等では、この番号が必要となるので、自分で番号を控えるなどして管理すること。

2 授業

授業科目の休講・試験等、授業に関する通知は、f-Campusホームページあるいは掲示板にて確認すること。通知方法は大学によって異なるので注意すること。

交通機関のストライキ・気象警報等にとまなう授業の扱いは、履修先大学の基準による。

3 試験・成績・単位認定

他大学履修科目と本学の履修科目の筆記試験時間に重複が生じた場合、原則として他大学履修科目の筆記試験を優先して受験し、本学の履修科目については所定の期間内に試験時間重複特別試験受験申請の手続きを行ったうえで試験時間重複特別試験を受験すること。試験時間重複特別試験受験申請については「VI 試験・成績 7 試験時間重複特別試験」を参照のこと。

ただし、本学の都合により試験時間重複特別試験を受験できない場合は、科目設置大学の追（未済）

試験等を受験できるよう配慮する場合がある。

成績結果は、成績参照システムにて本学科目とあわせて発表する。

他大学で修得した単位は、所属学部の単位認定方法に従い卒業要件単位として認められる場合があるので、各学科の履修規定で確認すること。

4 学費等

協定に基づき、他大学の提供科目を履修する場合、授業料は免除される。ただし、科目により実習費等が必要な場合は、自己負担となる。

5 その他

1. f-Campus証
科目登録の結果、他大学の履修許可を受けた学生は、所属キャンパスの教務窓口でf-Campus証を受け取ること。f-Campus証が、他大学でのf-Campusの学生であることを証明するものとなる。
2. 施設の利用
協定による特別聴講学生は、履修期間中は履修先大学の定める範囲において、図書館、売店、学生食堂を利用することができる。図書の貸し出しはできない。
その他利用方法等詳細は、各大学の図書館で確認すること。
パソコン教室やLL自習室、体育施設、保養施設等の施設、および許可された科目の履修に関する事項以外の学生サービス等は利用できない。

1 寄附講座

1. 概要

寄附講座は、講座開設にかかる費用が提供企業・団体の寄付によって成立する講座である。通常の学内の講義が学術的、理論的なものであるのに対して、寄附講座は、より実際の、実践的な知識を志向している。

2. 履修に関わる事項

(1) 2017年度開講科目

本年度は開講しない。2016年度廃止。

(2) 履修対象者

現代心理学部2年次生以上（他学部学生は履修不可）

(3) 履修登録

人数制限科目（200名）である。履修を希望する場合は、「抽選登録」の申し込みをすること。履修が許可された場合は、大学が履修登録をするので科目コード登録で届け出る必要はない。

(4) 重複履修

同一科目は重複履修できない。

(5) 修得単位の扱い

当該科目が設置される科目区分（学科課程を参照）のほかの科目と同様である。心理学科の学生が履修・単位修得した場合には他学科科目の単位として卒業要件単位に算入される。

1. 保険への加入
(通称：学研賠)

現代心理学部は、実験・実習・実践・制作・公演などを通じて学習効果を修め、それを深める少人数教育を広範に展開している。本学部学生が正課活動において、第三者の財物を破損したために法律上の賠償責任を負うことも予想される。そのため、賠償責任保険である「学研災付帯賠償責任保険」へ加入している。
2. 保険内容

国内外において、学生が、正課、学校行事およびその往復途中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより、法律上の賠償責任を負担することによって被る損害について保険金を支払う。
3. 対象となる範囲

正課、学校行事およびその往復途中。ただし、他の保険契約で保険金が支払われている場合、その金額を差し引いた残高が支払の対象となる。
4. 保険料

学部が全額を負担する。
5. 学生本人の
傷害時の保険
(通称：学研災)

本学学生が教育研究活動中に生じた事故によって身体に傷害を被った場合には「学生教育研究災害傷害保険」により保険金が支払われる。「病気」は対象にならない。
6. 事故等発生時の
連絡について

事故発生時には、学生厚生課（新座）に速やかに連絡し指示を受けること。
立教大学 学生部 学生厚生課（新座）
電話番号 048-471-6924

1. 趣旨

立教大学大学院現代心理学研究科は、現代心理学部心理学科4年次に在籍し、本研究科（心理学専攻、臨床心理学専攻）への進学を希望する優秀な学生に対して、一定の基準を設けて受入れを行う。

2. 選考

入試要項に出願資格や選考日程が記載されるとともに、心理学科の掲示板を通じて案内がなされる。詳しくは、それらを確認すること。

履修規定 カリキュラム

心理学科
映像身体学科

専門教育科目の特色

本学科では、1・2年次で心理学に関する文献を理解するために必要な心理学の基礎知識と英文読解力を身につけるとともに、少人数グループに分かれて行う実験調査実習を通して、研究や調査を計画・立案し、得られたデータを分析し、結果を表現・報告する能力を養う。3年次からは専任教員が開講するゼミに全員が所属して、興味のある心理学領域を深く学び、教員による綿密な指導のもとで卒業研究を行う。

履修にあたっては、「現代心理学部全学生にかかわる事項」もあわせてよく読むこと。

1 卒業要件単位数

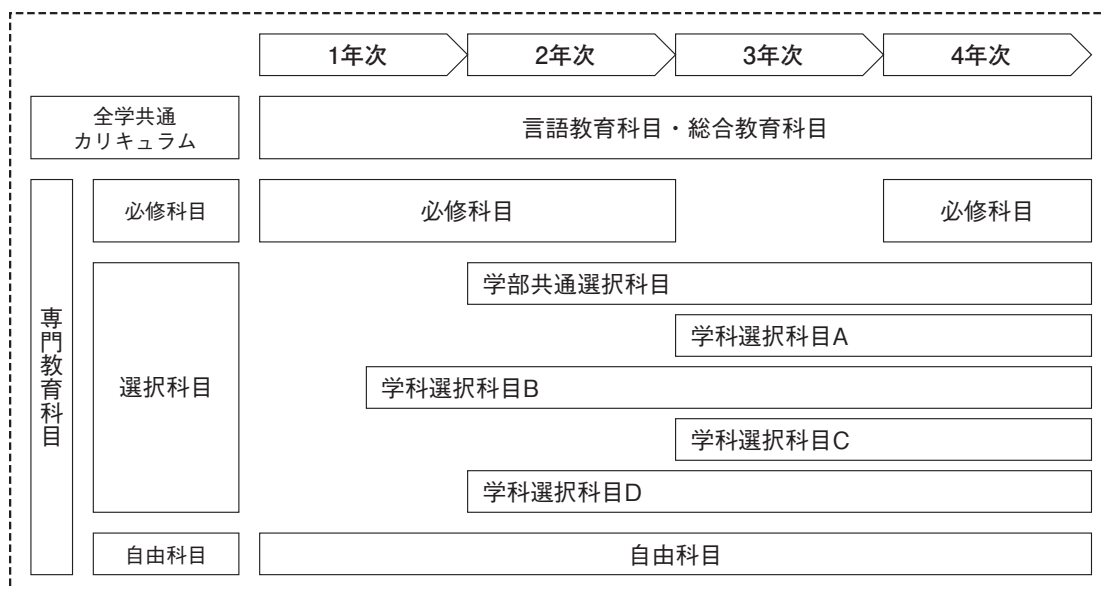
- (1) 2010～2015年度入学者の卒業に必要な専門教育科目卒業要件単位数は94単位である。
- (2) 科目群（履修区分）ごとに必要単位数が定められており、その内訳は次のとおりである。

〈専門教育科目卒業要件単位数〉

履修区分	卒業要件単位数
必修科目	32単位
選択科目	42単位
自由科目	20単位以上
合計	94単位以上

⑳ 全学共通カリキュラムも含めた卒業要件単位数については、2012～2015年度入学者は89頁、2010・2011年度入学者は90頁を参照すること。

2 科目群（履修区分）の概要と履修上の注意



1. 必修科目

卒業するまでにすべて履修しなければならない。現代心理学入門は学部の理念と学問領域の広がりを理解する科目、心理学概説、統計法、実験調査実習は心理学の基本的な知識と技法を学ぶ科目、心理学文献講読は心理学に関する英文読解力を養う科目、卒業論文は心理学科で学んだことに基づいて自らが研究を立案し、実施して成果をまとめるものである。

〈履修上の注意〉

- (1) 「卒業論文指導演習1」以外の必修科目は自動登録されるので科目コード登録で登録する必要はない。
- (2) 実験調査実習1・2, 心理学文献講読1・2はクラス分けが行われる。確定したクラスは履修登録状況画面で確認すること。なお, 新2年次生の実験調査実習のクラスは, 履修前年度中に現代心理学部掲示板に発表されるので, 各自確認すること。
- (3) 卒業論文と卒業論文指導演習は, 在学7学期・8学期に履修できる。
- ① 「卒業論文指導演習1」は, 学科で定める「卒業論文テーマおよび指導教員届」を希望する指導教員に事前に提出し, 了解を得た上で登録すること。
- ※「心理学演習」を履修した教員と異なる指導教員に履修登録を希望する場合は, 必ず「心理学演習」を履修した教員と事前に十分相談のうえ, 希望する指導教員の了解を得てから, 科目コード登録すること。
- ※希望する指導教員が研究休暇等の理由で, 科目コード登録することができない場合, 希望する指導教員が指示する他の教員の科目コードに登録すること。なおこの場合, 「卒業論文テーマおよび題目届」(原本)を希望する指導教員に提出し, あわせて, そのコピーを科目コード登録する教員にも提出すること。
- ② 「卒業論文指導演習2」を履修するためには, 「卒業論文指導演習1」の単位を修得していなければならない(先修規定による)。「卒業論文指導演習1」の合格者は「卒業論文指導演習2」の登録を取り消すことはできない。
- ③ 卒業論文を未提出あるいは提出しても不合格となった場合は, 「卒業論文指導演習2」の単位は修得できない。
- ④ 卒業論文指導演習が不合格となった場合または休学等で正規の学期に履修できなかった場合「卒業論文指導演習1・2」は学期を変えて履修できることがある。この場合, 「卒業論文」は7月に提出することになる。学期を変えて履修を希望する場合は, 指導教員に相談の上, 新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。
- 申出期限: [春学期に履修を希望する場合] 前年度中に申し出を行うこと。
[秋学期に履修を希望する場合] 9月8日(金)16:00まで
- ⑤ 卒業論文については, 「Ⅲ-2 履修規定(履修についての注意事項) 2 卒業論文, 卒業制作について」を参照すること。
- (4) 本学科以外の学生は, 心理学概説1・2以外の必修科目を履修できない。

2. 選択科目 学部共通選択科目

2年次以降履修できる心理学科と映像身体学科の共通科目で, 卒業までに8単位(4科目)以上履修して単位を修得しなければならない。

学科選択科目A (演習)

少人数クラスのゼミナールで3年次から履修する。1, 2年次の基礎的な学習を踏まえて, さらに深く探究したい専門領域のゼミを1つ選択し, 文献講読, 実験, 観察, 調査, 面接による小研究, 発表, 討論を通じて専門的な考え方を学ぶ。卒業要件単位は4単位である。

<履修上の注意>

- (1) 研究領域別にA～Kのゼミが用意されているので, 基本的には3年次にその中の1つを選び, 春学期と秋学期に履修すること(たとえばゼミAなら春学期「心理学演習A1」, 秋学期「心理学演習A2」)。卒業要件単位は「1」2単位, 「2」2単位の合計4単位である。
- (2) 「2」は「1」と同一アルファベットの科目を履修しなければならない。また, 「1」の単位を修得済みでないと「2」を履修することはできない(先修規定による)。
- (3) 「1」は4月期科目コード登録で履修登録をすること。
- (4) 「2」は単位修得済みの「1」と同一アルファベットの科目を大学が登録(自動登録)する。たとえば, 「心理学演習A1」の単位を修得した場合は, 「心理学演習A2」が自動登録される。
- (5) 今年度の「2」の自動登録を取り消したい場合は, 指定の期日(9月8日(金)16:00まで)までに新座キャンパス教務事務センターに申し出ること。

- (6) 一度単位を修得した科目を再度履修すること（重複履修）はできない。
- (7) ゼミで探求できるテーマや学習できる研究技法については、2年次の秋学期末にガイダンスおよび個別相談が行われるので、必ず参加して履修登録の際の参考にすること。
- (8) 本学科以外の学生は学科選択科目A（演習）を履修できない。

学科選択科目B (講義)

心理学の主要な領域における重要なテーマについての講義科目である。研究の裾野を拡げて、人間や動物の「こころ」を総合的な視野から見るができるようにするために、どれか特定の領域に偏ることなく、多領域にわたって履修することが重要である。

一部の科目は1年次秋学期から、他の科目は2年次春学期から履修でき、卒業要件単位は10単位（5科目）である。

学科選択科目C (研究法)

心理学の研究法に関する講義であり、基礎から応用までの調査・研究・分析技法を学ぶことができる。

研究法1～4のうち最低2科目（4単位）を3年次以降卒業までに履修して単位を修得しなければならない。

学科選択科目D (特別講義)

学科選択科目Bでカバーしていない心理学領域や、より高度な内容を講義する。また、6つの特講科目は最先端の研究を行う研究者を任期を限って招請する講義科目で、今日の急速な研究の進展によって生まれた新しい心理学領域や学際的領域、心理学近接諸科学を積極的にとりあげる。

2年次から履修でき、卒業要件単位は16単位（8科目）である。

3. 自由選択科目

英語講読・演習科目、社会調査士資格関連科目（2013年度新設）、キャリア関連科目（2014年度新設）、短期海外留学プログラム（2016年度新設）である。

(1) 英語講読・演習科目（言語副専攻科目）

1, 2年次の基礎的な学習を踏まえて、3年次から、英語を用いた演習形式で、さらに深く心理学を学ぶことができる。

「心理学原書講読（入門）」「英語文献講読演習（初級～上級）」は、心理学における英語による専門書や論文などを講読し、高水準の英文読解能力を身につける。「心理学原書講読（入門）」・「英語文献講読演習（初級）」は基礎心理学領域、「英語文献講読演習（中級）」・「英語文献講読演習（上級）」は応用心理学領域の科目である。

「英語表現演習（初級～上級）」「英語ディベート（発展）」は、英語による心理学論文の書き方を学び、さらに、海外での学会発表の模擬体験として、英語によるプレゼンテーションや議論の仕方を学び、心理学英語を書く力、話す力、聞く力を身につける。「英語表現演習（初級）」・「英語表現演習（中級）」は基礎心理学領域、「英語表現演習（上級）」・「英語ディベート（発展）」は応用心理学領域の科目である。

<履修上の注意>

- ① 「心理学文献講読1」・「心理学文献講読2」（2年次配当）の単位を修得済みでなければ履修できない。
- ② 各科目15名を定員として「抽選登録」による人数制限を行う。
- ③ 最大8科目（16単位）まで履修することができる。
- ④ 修得した単位は全学共通カリキュラムの英語副専攻の修了要件にも算入することができる。英語副専攻については全学共通カリキュラムの履修規定を参照すること。

(2) 社会調査士資格関連科目

社会調査士資格関連科目である。社会調査士資格取得および履修規定については社会調査士の頁を参照すること。

- (3) キャリア関連科目
心理学の専門知識・経験がどのように職業的・社会的貢献につながるのかを学ぶことを通じて、自身の職業・キャリア選択について考える科目である。
1年次より履修することができる。

- (4) 短期海外留学プログラム
1ヶ月程度の短期海外留学プログラムを通じて、英語における全般的な力と異文化交流経験を育む。履修にあたっては、必ず事前説明会に参加すること。

4. 自由科目

学生の自発的な学習計画にしたがって自分独自の学習を進めるために設定されている科目区分である。以下の科目群から、各学生が関心に応じて選択する。

- (1) 教職関連科目
- (2) 心理学科専門教育科目の選択科目（超過履修分）
- (3) 全学共通カリキュラム（総合教育科目超過履修分、言語自由科目）
- (4) 映像身体学科科目
- (5) 他学部科目
- (6) 5大学間単位互換制度による科目

教職関連科目

教職課程，社会教育主事課程関連科目である。

- (1) 「情報処理」
教職課程履修者で履修を希望する者は、7月3日（月）～7月7日（金）17：00までに、新座キャンパス教務事務センター窓口へ申し出ること。
その他の学生は抽選登録となる。
- (2) 教職関連科目「教科に関する科目」のうち、全学共通カリキュラム科目および他学部科目の扱いは以下のとおりとする。
 - ① 全学共通カリキュラム科目
修得した単位は全学共通カリキュラム科目として扱う。
 - ② コミュニティ福祉学部科目
他学部科目であるので、履修および単位の扱いについては、「Ⅲ-2履修規定（履修についての注意事項）」3 他学部科目・他学科科目・大学院科目について 1. 他学部科目」を参照すること。

5. その他履修上の注意

- (1) 重複履修
重複履修とは、同一科目を2度以上履修することをいう。心理学科必修科目，選択科目，自由科目はすべて重複履修できない。
- (2) 超過履修
超過履修とは、同一科目群の科目を規定以上に履修することをいう。選択科目区分で超過して修得した単位は自由科目の卒業要件単位数に算入される。

1 「社会調査士」資格取得について

1. 資格の趣旨

「社会調査士」は、世論や市場動向・社会事象等をとらえる調査能力をもつ人に対して「一般社団法人 社会調査協会」が認定する資格である。社会の実態を把握するための調査について専門的な知識と実施の技能があることを証明するもので、卒業後の進路において調査や分析、企画職・マーケティング職などに就く上で有利になることが期待されている。国内の多くの大学、さまざまな学部や学科において導入されているが、本学科においてもこの資格の対応科目が設置されている。

資格は大学卒業時に資格対応科目の単位をすべて修得していれば申請できるが、それまでに一定の単位を修得することで「キャンディデイト」資格を在学中に申請することもでき、就職活動に際してアピールすることが可能である。資格についての詳細は、社会調査協会のホームページ (<http://jasr.or.jp/>) を参照すること。

2. 資格取得の申請方法・場所

資格取得のための試験等は特になく、大学卒業までに資格対応科目のすべてを修得すること、学部を卒業することで資格取得が可能になる。資格申請にあたっては、指定科目の単位修得を証明する書類と、審査・認定手数料を一定の期間内にそろえることが必要である。在学中の「キャンディデイト」資格についても同様であるが、卒業時に「キャンディデイト」資格から正規の社会調査士資格への変更申請をする必要がある。

資格取得の申請や相談については、新座キャンパスメディアセンター窓口または池袋キャンパスの社会情報教育研究センター (<http://csi.rikkyo.ac.jp>) で受け付けている。なお、立教大学の学生は「キャンディデイト」資格の申請手数料に関して、一般の大学に比べて減額を受けられる（今年度の申請期間や具体的な手順などについての詳細は、正式決定後に学部掲示板に掲示する）。

3. 資格取得に必要な科目

資格取得のためには資格に対応した科目の単位をすべて修得することが必須である。本学部では社会調査協会が設定したカテゴリ-A～Gに対応する開講科目がある。ただし、EとFについてはどちらか一方の単位を修得すればよい。

2010～2015年度入学者に適用

社会調査士カリキュラム	対応科目	単位数	開講学期	配当年次	備 考
【A】 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査概論	2	春	1～4	現代心理学部心理学科 自由選択科目
	社会調査入門（全カリ）	2	春	1～4	全学共通カリキュラム オンデマンド授業・抽選登録科目
【B】 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査設計法	2	秋	1～4	現代心理学部心理学科 自由選択科目
	社会調査の技法（全カリ）	2	秋	1～4	全学共通カリキュラム オンデマンド授業・抽選登録科目
【C】 基本的な資料とデータの分析に関する科目	統計法1	2	春	1	現代心理学部心理学科 必修科目
	データ分析入門（全カリ）	2	春	1～4	全学共通カリキュラム オンデマンド授業・抽選登録科目
【D】 社会調査に必要な統計学に関する科目	統計法2	2	秋	1	現代心理学部心理学科 必修科目
	データの科学（全カリ）	2	秋	1～4	全学共通カリキュラム オンデマンド授業・抽選登録科目
【E】 多変量解析の方法に関する科目	心理学研究法2	2	秋	3・4	現代心理学部心理学科 学科選択科目
	多変量解析入門（全カリ）	2	秋	1～4	全学共通カリキュラム オンデマンド授業・抽選登録科目
【F】 質的な調査と分析の方法に関する科目	心理学研究法3	2	秋	3・4	現代心理学部心理学科 学科選択科目
【G】 社会調査を実際に経験し学習する科目	社会調査演習	4	通年	3・4	現代心理学部心理学科 自由選択科目

- ・ カテゴリーA～Eは現代心理学部開講科目、全学共通カリキュラム開講科目のいずれでも良い。
- ・ 全学共通カリキュラムのカテゴリーA～Eはオンデマンド授業（抽選登録科目）なので、履修を希望する場合は「V履修登録 3履修届出方法 4. 抽選登録」を参照の上、抽選登録期間に申し込むこと。
- ・ カテゴリーGは通年科目であるため、春・秋学期ともに必ず履修すること。もし半期のみ履修した場合は、次年度に再度通年の履修が必要となる。

資格取得自体は、学部指定の科目の代わりに、同カテゴリーに指定されている他学部・全学共通カリキュラムの科目を、学部で修得した他のカテゴリーの科目と組み合わせて申請することも可能だが、卒業に必要な学部の単位と混同しないように注意が必要である。

心理学科2012～2015年度入学者卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計	卒業要件 単位数		
		卒業要件 単位数	卒業要件 単位数	
全学共通カリキュラム	必修科目	言語教育科目 言語A	6	
		言語教育科目 言語B	4	
	選択科目	総合教育科目 立教科目群 立教A（講義系） 立教B（立教ゼミナール）	6	
		総合教育科目 領域別科目群 領域別A（講義系） 領域別B（文献系）		
選択科目	総合教育科目 主題別科目群 主題別A（1, 2, 3, 4, 5） 主題別B	14		
	総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ			
合計	124以上			
区分名	卒業要件 単位数計	卒業要件 単位数		
		卒業要件 単位数	卒業要件 単位数	
専門教育科目	必修科目	32		
	選択科目	42	学部共通選択科目	8
			学科選択科目A（演習）	4
			学科選択科目B（講義）	10
			学科選択科目C（研究法）	4
			学科選択科目D（特別講義）	16
	自由科目	20以上	自由選択科目	制限なし
			教職関連科目	制限なし
			専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	制限なし
			全学共通カリキュラム 【総合教育科目】選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位 および総合自由科目 【言語教育科目】言語自由科目	制限なし
			映像身体学科科目	制限なし
他学部科目			制限なし	
5大学間単位互換制度による他大学科目			制限なし	
合計	124以上			

【注意】全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「現代心理学部所属学生履修不可」とある科目については、「現代心理学部」に所属する学生は履修できない。

心理学科2010・2011年度入学者卒業要件単位

全学共通カリキュラム	区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数
	必修科目	10	言語教育科目 言語A	6
			言語教育科目 言語B	4
	選択科目	20	総合教育科目 総合A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6
総合教育科目 総合A 4. 心身への着目 5. 自然の理解			4	
総合教育科目全体 【総合A (1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合A (4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A (講義系) 領域別B (文献系) 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習			10	
専門教育科目	区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数
	必修科目	32		
	選択科目	42	学部共通選択科目	8
			学科選択科目A (演習)	4
			学科選択科目B (講義)	10
			学科選択科目C (研究法)	4
			学科選択科目D (特別講義)	16
	自由科目	20以上	自由選択科目	制限なし
			教職関連科目	制限なし
			専門教育科目の選択科目 (卒業要件単位数を超えて修得した単位)	制限なし
全学共通カリキュラム 【総合教育科目】 卒業要件単位数を超えて修得した単位 【言語教育科目】 言語自由科目			制限なし	
映像身体学科科目			制限なし	
他学部科目			制限なし	
5大学間単位互換制度による他大学科目			制限なし	
合計	124以上			

[注意] 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「現代心理学部所属学生履修不可」とある科目については、「現代心理学部」に所属する学生は履修できない。

現代心理学部心理学科 学科課程 (2010~2015年度入学者に適用)

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	備考
必修科目						
自動登録	現代心理学入門	大石・芳賀・堀・松永・山田・中山・大山・加藤・万田・江口・相馬	2	春	1	
自動登録	心理学概説1	浅野, 堀, 大石, 都築	2	春	1	必修科目 他学部・他学科学生登録用科目コード: HM701
自動登録	心理学概説2	林, 小口, 山田, 塚本	2	秋	1	必修科目 他学部・他学科学生登録用科目コード: HM702
自動登録	統計法1(A)	嘉瀬 貴 祥	2	春	1	クラス指定1科目必修
自動登録	統計法1(B)	大久保 暢 俊	2	春	1	
自動登録	統計法2(A)	菊 地 学	2	秋	1	クラス指定1科目必修
自動登録	統計法2(B)	嘉瀬 貴 祥	2	秋	1	
自動登録	実験調査実習1(A)	堀, 浅野, 森井, 齋藤	3	春	2	クラス指定1科目必修
自動登録	実験調査実習1(B)	日高(聡), 浅野, 小原, 森井	3	秋	2	
自動登録	実験調査実習2(A)	芳賀, 嘉瀬, 茂垣, 大谷	3	秋	2	クラス指定1科目必修
自動登録	実験調査実習2(B)	小口, 嘉瀬, 茂垣, 久, 大谷	3	春	2	
自動登録	心理学文献講読1(A)	浅野, 都築	2	春1	2	クラス指定1科目必修
自動登録	心理学文献講読1(B)	山田, 浅野	2	春1	2	
自動登録	心理学文献講読1(C)	井出野, 山田	2	春1	2	
自動登録	心理学文献講読1(D)	都築, 井出野	2	春1	2	
自動登録	心理学文献講読1(E)	大石 幸 二	2	春	2	
自動登録	心理学文献講読1(F)				2	
自動登録	心理学文献講読2(A)	井出野, 山田	2	春2	2	クラス指定1科目必修
自動登録	心理学文献講読2(B)	都築, 井出野	2	春2	2	
自動登録	心理学文献講読2(C)	浅野, 都築	2	春2	2	
自動登録	心理学文献講読2(D)	山田, 浅野	2	春2	2	
自動登録	心理学文献講読2(E)	大石 幸 二	2	秋	2	
自動登録	心理学文献講読2(F)				2	
HM521	卒業論文指導演習1	塚本 伸 一	2	春	4	
HM522	卒業論文指導演習1	松永 美 希	2	春	4	
HM523	卒業論文指導演習1	芳賀 繁	2	春	4	
HM524	卒業論文指導演習1	山田 哲 子	2	春	4	
HM525	卒業論文指導演習1	堀 耕 治	2	春	4	
HM526	卒業論文指導演習1	都築 誉 史	2	春	4	
HM527	卒業論文指導演習1	小口 孝 司	2	春	4	
HM528	卒業論文指導演習1	日高 聡 太	2	春	4	
HM529	卒業論文指導演習1	大石 幸 二	2	春	4	
HM530	卒業論文指導演習1	安田 みどり	2	春	4	
HM531	卒業論文指導演習1	林 もも子	2	春	4	
HM532	卒業論文指導演習1		2	休講	4	
HM533	卒業論文指導演習1		2	休講	4	
自動登録	卒業論文指導演習2	塚本 伸 一	2	秋	4	
自動登録	卒業論文指導演習2	松永 美 希	2	秋	4	
自動登録	卒業論文指導演習2	芳賀 繁	2	秋	4	
自動登録	卒業論文指導演習2	山田 哲 子	2	秋	4	
自動登録	卒業論文指導演習2	堀 耕 治	2	秋	4	
自動登録	卒業論文指導演習2	都築 誉 史	2	秋	4	
自動登録	卒業論文指導演習2	小口 孝 司	2	秋	4	
自動登録	卒業論文指導演習2	日高 聡 太	2	秋	4	

2010～2015年度入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	備考
自動登録	卒業論文指導演習2	大石幸二	2	秋	4	
自動登録	卒業論文指導演習2	安田みどり	2	秋	4	
自動登録	卒業論文指導演習2	林もも子	2	秋	4	
自動登録	卒業論文指導演習2		2	休講	4	
自動登録	卒業論文指導演習2		2	休講	4	
自動登録	卒業論文	大石幸二 ほか	8	秋	4	
選択科目						
学部共通選択科目						
HT106	精神分析の思想	林もも子	2	秋	2・3・4	
HT102	映像の心理学	増田知尋	2	秋	2・3・4	
HT118	知覚と身体	北川智利	2	春	2・3・4	2018年度廃止予定
HT103	哲学と心理学	五十嵐靖博	2	秋	2・3・4	
HT107	認知神経科学の基礎		2		2・3・4	2017年度廃止
HT108	心と脳の問題	浅野光紀	2	秋	2・3・4	2018年度廃止予定
HT104	他者の現象学	稲垣諭	2	春	2・3・4	
HT105	アフォーダンス	青山慶	2	春	2・3・4	
HT119	メディアと表現	築地正明	2	春	2・3・4	
HT120	フィルム・スタディーズの基礎	河野真理江	2	春	2・3・4	
HT116	オートポイエーシス	稲垣諭	2	春	2・3・4	
HT114	養生論の思想	加藤千恵	2	春	2・3・4	
学科選択科目A						
HM221	心理学演習A1	塚本伸一	2	春	3・4	
自動登録	心理学演習A2	塚本伸一	2	秋	3・4	
HM223	心理学演習B1	松永美希	2	春	3・4	
自動登録	心理学演習B2	松永美希	2	秋	3・4	
HM225	心理学演習C1	芳賀繁	2	春	3・4	
自動登録	心理学演習C2	芳賀繁	2	秋	3・4	
HM227	心理学演習D1	山田哲子	2	春	3・4	
自動登録	心理学演習D2	山田哲子	2	秋	3・4	
HM229	心理学演習E1	堀耕治	2	春	3・4	
自動登録	心理学演習E2	堀耕治	2	秋	3・4	
HM231	心理学演習F1	都築誉史	2	春	3・4	
自動登録	心理学演習F2	都築誉史	2	秋	3・4	
HM233	心理学演習G1	小口孝司	2	春	3・4	
自動登録	心理学演習G2	小口孝司	2	秋	3・4	
HM235	心理学演習H1	日高聡太	2	春	3・4	
自動登録	心理学演習H2	日高聡太	2	秋	3・4	
HM237	心理学演習I1	大石幸二	2	春	3・4	
自動登録	心理学演習I2	大石幸二	2	秋	3・4	
HM239	心理学演習J1	安田みどり	2	春	3・4	
自動登録	心理学演習J2	安田みどり	2	秋	3・4	
HM241	心理学演習K1	林もも子	2	春	3・4	
自動登録	心理学演習K2	林もも子	2	秋	3・4	
学科選択科目B						
HM301	知覚心理学	日高聡太	2	秋2	1・2・3・4	1年次秋学期から履修できる
HM302	学習心理学	堀耕治	2	秋	1・2・3・4	
HM303	認知心理学	本間元康	2	春	1・2・3・4	
HM304	比較心理学	牛谷智一	2	秋	1・2・3・4	
HM305	発達心理学	野口隆子	2	春	1・2・3・4	
HM306	社会心理学	小口孝司	2	春1	1・2・3・4	
HM307	産業心理学	芳賀繁	2	秋1	1・2・3・4	
HM308	臨床心理学	佐藤さやか	2	秋	1・2・3・4	
HM309	コミュニティ心理学	安田みどり	2	春	2・3・4	

2010~2015年度入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	備考
学科選択科目C						
HM705	心理学研究法1	浅野倫子	2	秋2	3・4	
HM310	心理学研究法2	中山厚穂	2	秋	3・4	
HM311	心理学研究法3	山田哲子	2	秋1	3・4	
HM312	心理学研究法4	糸井岳史	2	春	3・4	
学科選択科目D						
HM410	精神医学	池田健	2	春	2・3・4	
HM411	心理療法	林もも子	2	春	2・3・4	
HT111	応用行動分析	大石幸二	2	春2	2・3・4	
HM421	青年心理学	大野久	2	秋	2・3・4	
HM437	動物生態学	今野晃嗣	2	春	2・3・4	
HM402	実験的行動分析	山岸直基	2	秋	2・3・4	
HM423	言語心理学		2	休講	2・3・4	隔年開講
HM424	認知情報処理論		2	休講	2・3・4	
HM425	認知発達心理学		2	休講	2・3・4	
HM426	組織心理学		2	休講	2・3・4	
HM438	児童心理学	松田なつみ	2	春	2・3・4	
HM428	デザイン心理学		2	休講	2・3・4	
HM408	消費者心理学	碓朋子	2	春	2・3・4	
HM415	健康心理学		2	休講	2・3・4	
HM429	障害児・者心理学		2	休講	2・3・4	
HM430	犯罪心理学	越智啓太	2	春	2・3・4	
HM436	神経心理学	安村明	2	春	2・3・4	
HM416	心理学特講1(基礎)	上田祥代	2	秋	2・3・4	
HM417	心理学特講2(応・観光心理)	花井友美	2	春	2・3・4	
HM418	心理学特講3(臨・トラウマの心理学)	菅野恵	2	春	2・3・4	
HM419	心理学特講4(臨・イメージの心理学)		2	休講	2・3・4	
HM431	心理学特講6(応・ポジティブ心理学)		2	休講	2・3・4	
その他	心理学特講7(海外)	中山真里子	2	春他	2・3・4	2017年度新設 春学期集中
HM435	文化心理学	澤海崇文	2	春	2・3・4	2016年度新設 隔年開講
HM432	生理心理学	阿部高志	2	秋	1・2・3・4	2016年度新設
HM433	教育心理学	三好昭子	2	春	2・3・4	2016年度新設
HM434	人格心理学	花嶋裕久	2	秋	1・2・3・4	2016年度新設
HM439	学校心理学	安田みどり	2	秋	2・3・4	2016年度新設
HM440	社会病理学	相良翔	2	春	2・3・4	2016年度新設
HM441	リスク心理学	申紅仙	2	秋	2・3・4	2016年度新設
	比較認知心理学				1・2・3・4	2016年度以降「比較心理学」に科目名変更
	生物心理学				2・3・4	2016年度以降「動物生態学」に科目名変更
	子どもの心理臨床				2・3・4	2016年度以降「児童心理学」に科目名変更
	心理学特講1				2・3・4	2016年度以降「神経心理学」に科目名変更
	心理学特講5				2・3・4	2016年度以降「心理学特講1」に科目名変更
自由科目						
自由選択科目						
抽選登録	英語文献講読演習(中級)	中山真里子	2	秋	3・4	人数制限科目(定員15名)
抽選登録	英語文献講読演習(上級)	中山真里子	2	春	3・4	人数制限科目(定員15名)
抽選登録	心理学原書講読(入門)	佐々木恭志郎	2	秋	3・4	人数制限科目(定員15名)
抽選登録	英語文献講読演習(初級)	中山真里子	2	春	3・4	人数制限科目(定員15名)
抽選登録	英語表現演習(上級)	中山真里子	2	春	3・4	人数制限科目(定員15名)
抽選登録	英語ディベート(発展)	中山真里子	2	秋	3・4	人数制限科目(定員15名)
抽選登録	英語表現演習(初級)	中山真里子	2	春	3・4	人数制限科目(定員15名)
抽選登録	英語表現演習(中級)	中山真里子	2	秋	3・4	人数制限科目(定員15名)
その他	短期海外留学プログラム	芳賀繁	2	春他	2・3・4	春学期集中
HM721	社会調査概論	大橋洸太郎	2	春	1・2・3・4	社会調査士関連科目
HM722	社会調査設計法	坂田大輔	2	秋	1・2・3・4	社会調査士関連科目

2010～2015年度入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	備考	
その他	社会調査演習 (A)	大久保 暢 俊	4	通年	3・4	人数制限科目 (定員30名) クラス指定 社会調査士関連科目	
その他	社会調査演習 (B)	嘉 瀬 貴 祥	4	通年	3・4	人数制限科目 (定員30名) クラス指定 社会調査士関連科目	
HM724	キャリアと心理学	内 藤 淳	2	春	1・2・3・4	キャリア支援科目	
抽選登録	心理検査実習	糸 井 岳 史	2	秋	3・4	人数制限科目 (定員30名) 2016年度新設	
抽選登録	心理面接実習	中 根 千 景	2	秋	3・4	人数制限科目 (定員30名) 2016年度新設	
	英語文献講読演習 A 1					2016年度以降「英語文献講読演習 (中級)」に科目名変更	
	英語文献講読演習 A 2					2016年度以降「英語文献講読演習 (上級)」に科目名変更	
	英語文献講読演習 B 1					2016年度以降「心理学原書講読 (入門)」に科目名変更	
	英語文献講読演習 B 2					2016年度以降「英語文献講読演習 (初級)」に科目名変更	
	英語表現演習 A 1					2016年度以降「英語表現演習 (上級)」に科目名変更	
	英語表現演習 A 2					2016年度以降「英語ディベート (発展)」に科目名変更	
	英語表現演習 B 1					2016年度以降「英語表現演習 (初級)」に科目名変更	
	英語表現演習 B 2					2016年度以降「英語表現演習 (中級)」に科目名変更	
教職関連科目							
その他	情報処理	古 賀 ひろみ	2	秋	1・2・3・4	教職課程登録者のみ	
抽選登録	情報処理	古 賀 ひろみ	2	秋	1・2・3・4	上記学生以外人数制限科目 (上記と合わせて45名)	
HX171	法学1	金 子 和 夫	2	春	1・2・3・4		
HX172	法学2	金 子 和 夫	2	秋	1・2・3・4		
HX180	政治学	笠 井 昭 文	2	秋	1・2・3・4		
HX190	経済学	(後日 掲 示)	2	未定	1・2・3・4		
抽選登録	社会学1	入 江 公 康	2	春	1・2・3・4		
抽選登録	社会学2	入 江 公 康	2	秋	1・2・3・4		
HX271	生涯学習概論1	小 川 誠 子	2	春	1・2・3・4		
HX272	生涯学習概論2	小 川 誠 子	2	秋	1・2・3・4		
HX281	社会教育施設論1	小 川 誠 子	2	春	1・2・3・4		
HX282	社会教育施設論2	小 川 誠 子	2	秋	1・2・3・4		
HX291	社会教育計画1	米 澤 朋 英	2	春	1・2・3・4		
HX292	社会教育計画2	米 澤 朋 英	2	秋	1・2・3・4		
抽選登録	世界経済と日本	田 村 考 司	2	春	1・2・3・4	2016年度設置 2016年度廃止 2012年度廃止 2016年度廃止 *2012年度以降入者履修不可	
抽選登録	世界経済と日本	田 村 考 司	2	秋	1・2・3・4		
抽選登録	世界経済と日本	山 中 達 也	2	秋	1・2・3・4		
抽選登録	世界経済と日本 N	山 中 達 也	2	春	1・2・3・4		
抽選登録	政治と社会	笠 井 昭 文	2	春	1・2・3・4		
抽選登録	政治と社会	佐々木 卓 也	2	秋	1・2・3・4		
抽選登録	政治と社会 N	川 崎 修	2	秋	1・2・3・4		
抽選登録	法への招待	長谷川 遼	2	春	1・2・3・4		
抽選登録	法への招待	神 吉 知 郁子	2	春	1・2・3・4		
抽選登録	法への招待	宮 澤 弘	2	秋	1・2・3・4		
抽選登録	法への招待 N	宮 澤 弘	2	春	1・2・3・4		
抽選登録	現代社会と法		2	春	1・2・3・4		
抽選登録	現代社会と法 N		2	秋	1・2・3・4		
	哲学的人間学		2	秋	1・2・3・4		
	宗教人間学		2	秋	3・4		2016年度廃止 *2012年度以降入者履修不可

専門教育科目の特色

本学科では、まず1年次に開講される入門演習1、2によって映像身体学科を構成する専任教員の知識、経験の多様性を知り、映像身体学の学習に必要な基礎概念を理解し、基礎文献の読解力を養い、また、映像と身体についての自らの関心を深める。さらに2年次春学期基礎演習、3、4年次専門演習を通じて専門的知見を深め、またこれと並行して開講されるさまざまなワークショップ、文献講読演習、講義を通じて、映像身体学の広がり学ぶ。

履修にあたっては、「現代心理学部全学生にかかわる事項」もあわせてよく読むこと。

1 卒業要件単位数

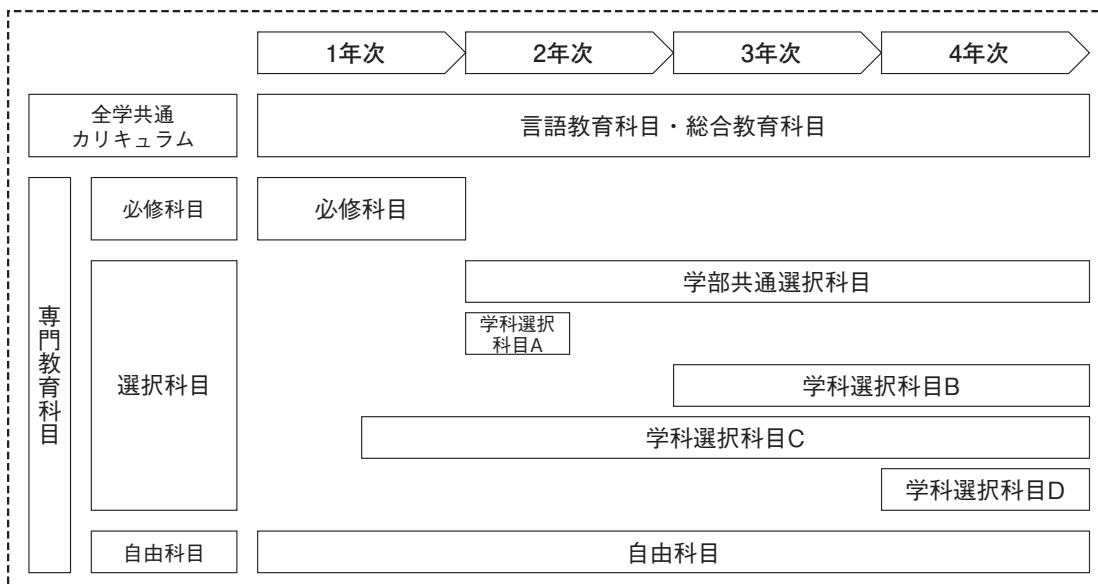
- (1) 2010～2015年度入学者の卒業に必要な専門教育科目卒業要件単位数は94単位である。
- (2) 科目群（履修区分）ごとに必要単位数が定められており、その内訳は次のとおりである。

〈専門教育科目卒業要件単位数〉

履修区分	卒業要件単位数
必修科目	10単位
選択科目	66単位
自由科目	18単位以上
合計	94単位以上

④ 全学共通カリキュラムも含めた卒業要件単位数については、2012～2015年度入学者は99頁、2010・2011年度入学者は100頁を参照すること。

2 科目群（履修区分）の概要と履修上の注意



1. 必修科目

1年次に履修し、卒業するまでにすべて履修し終えなければならない。現代心理学入門は学部の理念と学問領域の広がりを理解する科目、入門演習は映像と身体をめぐる思考と表現について基本的な考え方や基礎的な知識を修得し、各自の問題意識を高める科目である。

〈履修上の注意〉

- (1) 必修科目は自動登録されるので科目コード登録で登録する必要はない。

- (2) 入門演習1・2はクラス分けを行った上で自動登録される。クラス分けの結果は、履修登録状況画面で確認すること。
- (3) 本学科以外の学生は、必修科目を履修できない。

2. 選択科目

学部共通選択科目

2年次以降履修できる心理学科と映像身体学科の共通科目で、卒業までに8単位（4科目）以上履修して修得しなければならない。

学科選択科目A (基礎演習)

2年次（2年次以上、在学1～3学期）春学期に履修する。3・4年次の専門演習の前提となる発想、知識、技能を修得する。専門演習の準備課程であるだけでなく、複数クラスを履修することで専門演習のクラスを選択するための判断の材料を得ることができる。

<履修上の注意>

- (1) 各科目30名を目安として人数制限を行う。選考基準等は各科目のシラバスを参照すること。
- (2) 所定の希望届を指定された日時に提出すること。履修が許可された場合は大学が登録するので、科目コード登録で登録する必要はない。

提出期間	提出場所
1月18日（木）～24日（水） 9：00～17：00	新座キャンパス教務事務センター レポートボックス

- (3) 休学により履修前年度秋学期に選考が受けられなかった者で履修を希望する場合は、前年度中に選考書類を提出すること。詳細は休学願提出時に新座キャンパス教務事務センター窓口で確認すること。
*不明点がある場合は必ず事前に新座キャンパス教務事務センターに問い合わせること。
- (4) 複数クラスを履修することができる。
- (5) 本学科以外の学生は、学科選択科目A（基礎演習）を履修できない。

学科選択科目B (専門演習)

3・4年次（在学5学期以降）の春学期・秋学期に履修する。1・2年次までの基礎的・準備的な学習を踏まえ、さらに深く探究したい専門領域のクラスを1つ選択し、それぞれのクラス独自のプログラムで2年間継続的かつ系統的に学ぶ。専門演習は3・4年次生合同で行う。なお原則的に3年次のクラスが自動的に4年次に持ちあがる。

<履修上の注意>

- (1) 選択科目であり、2年次秋学期（履修前年度秋学期）に募集・選考を行う。

提出期間	提出場所
11月27日（月）～12月1日（金） 9：00～17：00	新座キャンパス教務事務センター レポートボックス

- (2) 3年次の春学期・秋学期、4年次の春学期・秋学期、履修が認められた同じクラスにそのつど自動登録される（各科目2単位、2年間で8単位）。クラスの途中変更は認められない。
- (3) 申し出により、履修辞退を認めることがある。履修辞退を希望する場合は、指導教員に相談の上、期日までに新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。ただし、再登録は認められない。
申出期限：春学期 前年度中に申し出を行うこと。（履修継続者のみ）
秋学期 9月8日（金）16：00まで
- (4) 休学等により履修前年度秋学期に選考が受けられなかった者は、期日までに選考書類を提出すること。
*不明点がある場合は必ず事前に新座キャンパス教務事務センターに問い合わせること。
- (5) 選考通過者で履修初年度春学期を休学した場合は、選考結果が無効になるため、選考を受け直すこと。詳細は新座キャンパス教務事務センターに問い合わせること。
- (6) 本学科以外の学生は、学科選択科目B（専門演習）を履修できない。

学科選択科目C (専門展開科目)

映像と身体 of 理論と実践に関連する多様なテーマを、講義、演習、ワークショップというそれぞれのテーマに即した形式の授業で学ぶ。入門的な内容の科目は1年次秋学期から、それ以外の科目は2年次から履修できる。

<履修上の注意>

- (1) 選択科目であり、人数制限を行う科目（科目コードが「抽選登録」と記載されている科目）がある。人数制限科目の定員は学科課程の備考欄に記載している。
- (2) 人数制限を行う科目の履修を希望する場合は、「抽選登録」の申し込みをすること。履修が許可された場合は、大学が履修登録をするので科目コード登録で届け出る必要はない。
- (3) 「生態心理学」は「生態心理学実験」の先修科目であり、「生態心理学実験」を履修するには「生態心理学」を履修済みでなければならない。
- (4) 「広告ビジネスの最前線」は企業・団体等の寄附講座である。

学科選択科目D (卒業論文・卒業制作)

専門演習で学習を積み重ねた上で、卒業論文の場合は自分のテーマを設定して調査と分析を行って論文にまとめ、卒業制作の場合は自分で企画構想した作品または指導教員から課された課題作品を制作する。選択科目であるが積極的に履修することが望まれる。

<履修上の注意>

- (1) 在学7・8学期に履修できる。
- (2) 卒業論文・卒業制作の指導は、所属する専門演習の担当教員が行う。したがって、「卒業論文・卒業制作指導演習1・2」を履修するためには、専門演習を4単位分修得していなければならない。
- (3) 「卒業論文・卒業制作指導演習1」の履修を希望する場合は、学科で定める「卒業論文・卒業制作履修希望届」を専門演習の指導教員に提出すること。大学が登録を行う。
- (4) 「卒業論文・卒業制作指導演習2」を履修するためには、「卒業論文・卒業制作指導演習1」の単位を修得していなければならない（先修規定による）。「卒業論文・卒業制作指導演習1」の合格者は「卒業論文・卒業制作指導演習2」の登録を取り消すことはできない。
- (5) 卒業論文を未提出あるいは提出しても不合格となった場合は、「卒業論文・卒業制作指導演習2」の単位は修得できない。
- (6) 卒業論文指導演習が不合格となった場合または休学等で正規の学期に履修できなかった場合「卒業論文指導演習1・2」は学期を変えて履修できることがある。この場合、「卒業論文」は7月に提出することになる。履修を希望する場合は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：[春学期に履修を希望する場合] 前年度中に申し出を行うこと。

[秋学期に履修を希望する場合] 9月8日（金）16：00まで

- (7) 卒業論文・卒業制作については、「Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）2 卒業論文、卒業制作について」を参照すること。
- (8) 本学科以外の学生は、学科選択科目D（卒業論文・卒業制作）を履修できない。

3. 自由科目

学生の自発的な学習計画にしたがって自分独自の学習を進めるために設定されている科目区分である。以下の科目群から、各学生が関心に応じて選択する。

- (1) 自由選択科目
- (2) 映像身体学科専門教育科目の選択科目（超過履修分）
- (3) 全学共通カリキュラム（総合教育科目超過履修分、言語自由科目）
- (4) 心理学科科目
- (5) 他学部科目
- (6) 5大学間単位互換制度による科目

自由選択科目 (短期海外留学プログラム)	社会教育主事課程関連科目を含む。 1ヶ月程度の短期海外留学プログラムを通じて、英語における全般的な力と異文化交流経験を育む。 履修にあたっては必ず事前説明会にすること。
4. その他履修上の注意	(1) 重複履修 重複履修とは、同一科目を2度以上履修することをいう。3・4年次配当の専門演習に限り重複履修できる。 (2) 超過履修 超過履修とは、同一科目群の科目を規定以上に履修することをいう。選択科目で超過して修得した単位は自由科目の卒業要件単位数に算入される。

映像身体学科2012～2015年度入学者卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計	卒業要件 単位数			
		卒業要件 単位数	卒業要件 単位数		
全学共通カリキュラム	必修科目	10	言語教育科目 言語A	6	
			言語教育科目 言語B	4	
	選択科目	20	総合教育科目 立教科目群 立教A（講義系） 立教B（立教ゼミナール）	6	
			総合教育科目 領域別科目群 領域別A（講義系） 領域別B（文献系）		
選択科目	20	総合教育科目 主題別科目群 主題別A（1, 2, 3, 4, 5） 主題別B	14		
		総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ			
合計	124以上				
専門教育科目	区分名	卒業要件 単位数計	卒業要件 単位数		
	必修科目	10			
	選択科目	66	学部共通選択科目	8	
			学科選択科目A（基礎演習）	58	
			学科選択科目B（専門演習）		
			学科選択科目C（専門展開科目）		
	学科選択科目D（卒業論文・卒業制作）				
	自由科目	18以上	自由選択科目	制限なし	
			専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	制限なし	
			全学共通カリキュラム 【総合教育科目】 選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位 および総合自由科目 【言語教育科目】 言語自由科目	制限なし	
心理学科目			制限なし		
他学部科目			制限なし		
5大学間単位互換制度による他大学科目			制限なし		
合計	124以上				

[注意] 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「現代心理学部所属学生履修不可」とある科目については、「現代心理学部」に所属する学生は履修できない。

映像身体学科2010・2011年度入学者卒業要件単位

全学共通カリキュラム	区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数
	必修科目	10	言語教育科目 言語A	6
			言語教育科目 言語B	4
	選択科目	20	総合教育科目 総合A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6
総合教育科目 総合A 4. 心身への着目 5. 自然の理解			4	
総合教育科目全体 【総合A (1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合A (4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A (講義系) 領域別B (文献系) 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習			10	
専門教育科目	区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数
	必修科目	10		
	選択科目	66	学部共通選択科目	8
			学科選択科目A (基礎演習)	58
			学科選択科目B (専門演習)	
			学科選択科目C (専門展開科目)	
	学科選択科目D (卒業論文・卒業制作)			
	自由科目	18以上	自由選択科目	制限なし
			専門教育科目の選択科目 (卒業要件単位数を超えて修得した単位)	制限なし
			全学共通カリキュラム 【総合教育科目】 卒業要件単位数を超えて修得した単位 【言語教育科目】 言語自由科目	制限なし
心理学科目			制限なし	
他学部科目			制限なし	
5大学間単位互換制度による他大学科目			制限なし	
合計	124以上			

[注意] 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「現代心理学部所属学生履修不可」とある科目については、「現代心理学部」に所属する学生は履修できない。

現代心理学部映像身体学科 学科課程 (2010～2015年度入学者に適用)

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	備考
必修科目						
自動登録	現代心理学入門	大石・芳賀・堀・松永・山田・中山・大山・加藤・万田・江口・相馬	2	春	1	
自動登録	入門演習1 (A)	加藤 千恵子 山本 尚樹 田崎 明優 日高 吉誠 大篠 載 チョン・ヨンドウ	4	春	1	クラス指定1科目必修
	入門演習1 (B)		4	春	1	
	入門演習1 (C)		4	春	1	
	入門演習1 (D)		4	春	1	
	入門演習1 (E)		4	春	1	
	入門演習1 (F)		4	春	1	
自動登録	入門演習2 (A)	万田 邦敏 松田 正隆 江川 正秀 江中 藤一彦 中佐 相馬	4	秋	1	クラス指定1科目必修
	入門演習2 (B)		4	秋	1	
	入門演習2 (C)		4	秋	1	
	入門演習2 (D)		4	秋	1	
	入門演習2 (E)		4	秋	1	
	入門演習2 (F)		4	秋	1	
選択科目						
学部共通選択科目						
HT106	精神分析の思想	林 もも子	2	秋	2・3・4	
HT102	映像の心理学	増田 知尋	2	秋	2・3・4	
HT118	知覚と身体	北川 智利	2	春	2・3・4	2018年度廃止予定
HT103	哲学と心理学	五十嵐 靖博	2	秋	2・3・4	
HT107	認知神経科学の基礎		2		2・3・4	2017年度廃止
HT108	心と脳の問題	浅野 光紀	2	秋	2・3・4	2018年度廃止予定
HT104	他者の現象学	稲垣 諭	2	春	2・3・4	
HT105	アフォーダンス	青山 慶	2	春	2・3・4	
HT119	メディアと表現	築地 正明	2	春	2・3・4	
HT120	フィルム・スタディーズの基礎	河野 真理江	2	春	2・3・4	
HT116	オートポイエーシス	稲垣 諭	2	春	2・3・4	
HT114	養生論の思想	加藤 千恵	2	春	2・3・4	
学科選択科目A						
その他	基礎演習1	坂上 香	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習2	角井 誠	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習3	田崎 英明	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習4	江川 隆男	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習5	加藤 千恵	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習6	大山 載吉	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習7	チョン・ヨンドウ	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習8	松田 正隆	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習9	相馬 千秋	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習10	篠崎 誠	2	春1	2	人数制限科目
その他	基礎演習11	万田 邦敏	2	春2	2	人数制限科目
その他	基礎演習12	佐藤 一彦	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習13	日高 優	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習14	山本 尚樹	2	春	2	人数制限科目
その他	基礎演習15	江口 正登	2	春	2	人数制限科目
学科選択科目B						
その他	専門演習A1	明戸 隆浩	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習A2	明戸 隆浩	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習B1	河野 真理江	2	春	3・4	人数制限科目

2010～2015年度入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	備考
自動登録	専門演習B2	中村秀之	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習C1	田崎英明	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習C2	田崎英明	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習D1	江川隆男	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習D2	江川隆男	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習E1	加藤千恵	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習E2	加藤千恵	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習F1	大山載吉	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習F2	大山載吉	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習G1	日高優	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習G2	日高優	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習H1	チョン・ヨンドウ	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習H2	チョン・ヨンドウ	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習I1	松田正隆	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習I2	松田正隆	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習J1	篠崎誠	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習J2	篠崎誠	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習K1	万田邦敏	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習K2	万田邦敏	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習L1	佐藤一彦	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習L2	佐藤一彦	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習M1	相馬千秋	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習M2	相馬千秋	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習N1	山本尚樹	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習N2	山本尚樹	2	秋	3・4	人数制限科目
その他	専門演習O1	江口正登	2	春	3・4	人数制限科目
自動登録	専門演習O2	江口正登	2	秋	3・4	人数制限科目
学科選択科目C						
HN703	生命システム論	稲垣論	2	秋	1・2・3・4	
HN704	現代思想概説	田崎英明	2	秋	1・2・3・4	
HN131	身体社会論	田崎英明	2	秋	1・2・3・4	
HN132	映像社会論	中村秀之	2	秋	1・2・3・4	
HN133	生態心理学	奥野真之	2	秋	①・②・③・4	「生態心理学実験」の先修科目
HN134	身体表現史	相馬千秋	2	秋	①・②・③・4	
HN135	映像表現史	篠崎誠	2	秋2	1・2・3・4	
HN137	生態心理学実験	青山慶	2	春	2・3・4	HN133を修得済みでないと履修できない。
抽選登録	身体系ワークショップ1 (演劇)	相馬千秋	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ2 (演劇)	井上弘久	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ3 (ダンス)	チョン・ヨンドウ	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ4 (ダンス)		2	休講	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ5 (太極拳)	佐藤公子	2	春	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ6 (武術)	廖赤陽	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体系ワークショップ7 (気功)	廖赤陽	2	春	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像系ワークショップ1 (映画)	篠崎誠	2	秋1	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像系ワークショップ2 (映画)	万田邦敏	2	秋2	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像系ワークショップ3 (映画)	西山洋市	2	春	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像系ワークショップ4 (映像)	江夏由洋	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像系ワークショップ5 (映像)	杉田協士	2	春	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像系ワークショップ6 (写真)	笹岡啓子	2	春	2・3・4	人数制限科目 (定員20名)
抽選登録	映像系ワークショップ7 (広告)	細金正隆	2	春他	2・3・4	人数制限科目 (定員40名) 春学期集中
抽選登録	超域系ワークショップ1	小野寺唯	2	春	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	戯曲シナリオ演習1	松田正隆	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員20名)
抽選登録	戯曲シナリオ演習2	井上弘久	2	春	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)

2010~2015年度入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	備考
抽選登録	身体学文献講読1	江川 隆 男	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体学文献講読2	加藤 千 恵	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	身体学文献講読3	田崎 英 明	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像シナリオ演習1	井川 耕一郎	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員40名)
抽選登録	映像シナリオ演習2	井川 耕一郎	2	春	2・3・4	人数制限科目 (定員40名)
抽選登録	映像シナリオ演習3	吉田 泰 子	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員40名)
抽選登録	映像学文献講読1	大山 載 吉	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員60名)
抽選登録	映像学文献講読2	日高 優	2	春	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像学文献講読3	中村 秀 之	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
HN434	身体思想	江川 隆 男	2	秋	1・2・3・4	
HN403	現代演劇論1	江口 正 登	2	秋	2・3・4	
HN404	現代演劇論2	横堀 応 彦	2	春	2・3・4	
HN435	比較舞踊論1	國吉 和 子	2	秋	2・3・4	
HN436	比較舞踊論2	國吉 和 子	2	春	2・3・4	
	スポーツ文化論					2016年度廃止
HN437	身体人類学	竹田 恵 子	2	秋	2・3・4	
HN438	芸術人類学	江澤 健一郎	2	秋	2・3・4	
HN439	医学身体論		2	休講	2・3・4	
HN440	映像の思想	大山 載 吉	2	秋	1・2・3・4	
HN447	アメリカ映画論	木村 建 哉	2	秋	1・2・3・4	
HN448	ヨーロッパ映画論	赤坂 太 輔	2	春	2・3・4	
HN449	日本映画論	河野 真理江	2	秋	2・3・4	
HN450	アジア映画論	佐藤 賢	2	秋	2・3・4	
HN451	ドキュメンタリー映画論	萩野 亮	2	春	2・3・4	
HN452	写真映像論	日高 優	2	秋	1・2・3・4	
抽選登録	映像技術論1	石山 智 弘	2	秋	2・3・4	人数制限科目 (定員35名)
抽選登録	映像技術論2	石山 智 弘	2	春	3・4	人数制限科目 (定員35名)
HN441	ファッションの思想	高平 未 來	2	秋	2・3・4	
HN442	広告論	千田 利 史	2	春	2・3・4	
HN453	次世代メディア論		2	休講	2・3・4	
HN424	映像人類学	村尾 静 二	2	春	2・3・4	
HN425	ジェンダー文化論	田崎 英 明	2	春	2・3・4	
HN426	ポストコロナル論	崔 真 碩	2	春他	2・3・4	春学期集中
HN454	音の思想1	村山 和 之	2	春	2・3・4	
HN455	音の思想2	恩地 元 子	2	秋	1・2・3・4	
HN446	芸術の思想	矢野 静 明	2	秋	1・2・3・4	
HN429	言語芸術論	江澤 健一郎	2	秋	2・3・4	
HN430	視覚論	山本 尚 樹	2	秋	1・2・3・4	
HN431	認知科学	稲垣 諭	2	秋	1・2・3・4	
HN432	アートの心理学	山本 尚 樹	2	春	2・3・4	
HN513	映像身体学特講1	万田 邦 敏	2	秋1	2・3・4	
HN502	映像身体学特講2	坂上 香	2	春	2・3・4	
HN503	映像身体学特講3	石山 雄 太	2	春	2・3・4	
HN504	映像身体学特講4	小平 雅 尋	2	秋	2・3・4	
HN505	映像身体学特講5	矢野 静 明	2	春	2・3・4	
HN514	映像身体学特講6	森 瑞 枝	2	春	2・3・4	
HN507	映像身体学特講7	山本 尚 樹	2	秋	2・3・4	
HN515	映像身体学特講8	赤坂 太 輔	2	春	2・3・4	
抽選登録	映像技術入門A	石山 智 弘	2	春	1	人数制限科目 (定員80名) 同一内容, 1科目のみ履修可
抽選登録	映像技術入門B	石山 智 弘	2	秋	1	
抽選登録	映像技術中級1	石山 智 弘	2	春	②・③・4	人数制限科目 (定員40名)
抽選登録	映像技術中級2	石山 智 弘	2	秋	②・③・4	人数制限科目 (定員40名)
抽選登録	舞台技術演習	牛川・杉山・吉本	2	春他	2・3・4	人数制限科目 (定員30名) 春学期集中

2010～2015年度入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	備考	
その他	都市の記憶と表象文化	江口正登	2	春他	2・3・4	2016年度新設 春学期集中	
	欧米映画史1					2016年度以降「アメリカ映画論」に科目名変更	
	欧米映画史2					2016年度以降「ヨーロッパ映画論」に科目名変更	
	日本映画史					2016年度以降「日本映画論」に科目名変更	
	アジア映画史					2016年度以降「アジア映画論」に科目名変更	
	ドキュメンタリー映画史					2016年度以降「ドキュメンタリー映画論」に科目名変更	
	写真史					2016年度以降「写真映像論」に科目名変更	
	プロデュース論					2016年度以降「次世代メディア論」に科目名変更	
	音楽の思想					2016年度以降「音の思想1」に科目名変更	
	音楽史					2016年度以降「音の思想2」に科目名変更	
	広告ビジネスの最前線					2016年度廃止	
学科選択科目D							
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	江川隆男	2	春	4	いずれか1科目のみ履修可	
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	江川隆男	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	田崎英明	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	江川隆男	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	加藤千恵	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	大山載吉	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1		2	休講	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	チョン・ヨンドウ	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	松田正隆	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	篠崎誠	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	万田邦敏	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	佐藤一彦	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	日高優	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	相馬千秋	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	山本尚樹	2	春	4		
その他	卒業論文・卒業制作指導演習1	江口正登	2	春	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	江川隆男	2	秋	4		いずれか1科目のみ履修可
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	中村秀之	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	田崎英明	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	江川隆男	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	加藤千恵	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	大山載吉	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2		2	休講	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	チョン・ヨンドウ	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	松田正隆	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	篠崎誠	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	万田邦敏	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	佐藤一彦	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	日高優	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	相馬千秋	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	山本尚樹	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作指導演習2	江口正登	2	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作	江川隆男	8	秋	4	いずれか1科目のみ履修可	
自動登録	卒業論文・卒業制作	中村秀之	8	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作	田崎英明	8	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作	江川隆男	8	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作	加藤千恵	8	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作	大山載吉	8	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作		8	休講	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作	チョン・ヨンドウ	8	秋	4		
自動登録	卒業論文・卒業制作	松田正隆	8	秋	4		

2010~2015年度入学者に適用

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	備考
自動登録	卒業論文・卒業制作	篠崎 誠	8	秋	4	いずれか1科目のみ履修可
自動登録	卒業論文・卒業制作	万田 邦敏	8	秋	4	
自動登録	卒業論文・卒業制作	佐藤 一彦	8	秋	4	
自動登録	卒業論文・卒業制作	日高 優	8	秋	4	
自動登録	卒業論文・卒業制作	相馬 千秋	8	秋	4	
自動登録	卒業論文・卒業制作	山本 尚樹	8	秋	4	
自動登録	卒業論文・卒業制作	江口 正登	8	秋	4	
自動登録	卒業論文・卒業制作	専 任	8	春	4	
自由科目						
自由選択科目						
その他	短期海外留学プログラム	芳賀 繁	2	春他	2・3・4	2016年度新設 春学期集中
HX171	法学1	金子 和夫	2	春	1・2・3・4	
HX172	法学2	金子 和夫	2	秋	1・2・3・4	
HX180	政治学	笠井 昭文	2	秋	1・2・3・4	
HX190	経済学	(後日揭示)	2	未定	1・2・3・4	
抽選登録	社会学1	入江 公康	2	春	1・2・3・4	
抽選登録	社会学2	入江 公康	2	秋	1・2・3・4	
HX271	生涯学習概論1	小川 誠子	2	春	1・2・3・4	
HX272	生涯学習概論2	小川 誠子	2	秋	1・2・3・4	
HX281	社会教育施設論1	小川 誠子	2	春	1・2・3・4	
HX282	社会教育施設論2	小川 誠子	2	秋	1・2・3・4	
HX291	社会教育計画1	米澤 朋英	2	春	1・2・3・4	
HX292	社会教育計画2	米澤 朋英	2	秋	1・2・3・4	

○付きの数字は推奨年次を表す。

現代心理学研究科

にかかわる事項

博士課程前期課程

心理学専攻

臨床心理学専攻

映像身体学専攻

博士課程後期課程

心理学専攻

臨床心理学専攻

映像身体学専攻

現代心理学研究科の理念・目的

現代心理学研究科心理学専攻、臨床心理学専攻、映像身体学専攻は、心、身体、映像に関する諸学を捉え直し、各領域の成果をそれぞれに深化させながら、ひとつの新たな人間学、すなわち〈現代心理学〉を創造しようとするものである。我々は、心身を連続する一体の働きとして考え、映像を心身の本質的機能である〈知覚〉の問題のなかに捉え込もうとする。このことで、心理学、身体論、映像論の三つの探求領域は、互いに内的な連関を獲得して、現代心理学の形成へと動き出すことになる。本研究科では、実験・実証科学と臨床実践、哲学的考察と制作・表現行為とが、それぞれの特質をいささかも失うことなく支え合い、ついには創造的融合を果たすことが目指されている。

各専攻は、キリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の推進に寄与することとともに、以下を教育研究上の目的としている。

心理学専攻（博士課程前期課程・後期課程）：今日の心理学は研究対象においても、方法論を含む理論的枠組においても、高度に細分化・専門化されてきている。しかしながら、社会から解決が求められる様々な心理学的問題は、諸分野の成果を結集して初めて可能になるものも多く、幅広い学際的視野の必要性、人間を全体として包括的に捉える視座の重要性が指摘されている。博士課程前期課程では、知覚、認知、学習行動分析などの心理学の基礎領域から社会、産業、発達、人格などの応用領域にいたる広範な領域の研究・教育を展開しており、これによって、総合的、体系的な専門知識を持ち、科学的実証のための厳格な態度と技術を身につけて多角的な視点から研究を遂行できる研究者や高度専門職業人の育成を目指している。博士課程後期課程では、博士課程前期課程における専門教育の成果をふまえ、高度な先端研究に対応できる優れた研究能力と深い学識を有し、応用心理学分野においては、これに加えて現場の実務者と連携して実践的な問題解決がはかれる能力を備えた研究者、心理学研究を牽引し次代の研究者を育てる力量を持った指導者の養成を目的としている。

臨床心理学専攻（博士課程前期課程・後期課程）：組織・制度・技術といった社会を支えるシステムが急激に複雑・多様化する現代にあって、幅広い視野から心身の健康を促進し、心理的支援を推進していくことは臨床心理学に課せられた重要な課題となっている。博士課程前期課程は、あくまでも科学的実証的な研究方法をとりながらも、精神分析、コミュニティ・アプローチ、応用行動分析、認知行動療法、精神医学といった多様な実践理論と方法論に関する深い学識を持ち、社会からの多様な要請に迅速かつ柔軟に応えうる高度の専門性を備えた臨床心理士等の実践者、研究者の養成を目的としている。教育課程は臨床心理士養成第1種指定大学院（（公財）日本臨床心理士資格認定協会）として、「理論—方法—実践」を体系的に修得できる教育環境を整えることにより、臨床心理学における科学的態度と実践的視座を相互循環的に統合できる基礎的能力の育成に主眼が置かれている。博士課程後期課程では、博士課程前期課程における教育成果を基礎として、複雑多様な人間の心の問題や社会病理に対して、そのような現象を生み出した社会、時代への深い洞察力とそのメカニズムを科学的に究明する的確な分析力を備えるとともに、心身の健康の維持・促進に向けて、実践的有効性のある新たな理論と方法論を構築し、心理的諸問題の解決に多角的・総合的視角から能動的に取り組み、援助できる研究者、教育者、実践者の養成を目的としている。

映像身体学専攻（博士課程前期課程・後期課程）：人間にとって身体とは何かという問いが、様々な学問的芸術的探求において、ますます重要度を増している。一方、十九世紀中葉の写真の発明から今日のデジタル時代に至るまでの機械映像の驚異的な進展は、人間の知覚、認知、感情形成に深く関わる新たな心理学的諸事象を生み出している。映像身体学は、人間存在における身体性の意味を理論的かつ実践的に追究しながら、機械映像と人間身体の間関係を解明し、同時に、両者の新たな関係を創造しようとする新しい人間学である。博士課程前期課程では、映像身体学理論を追究する基盤研究系科目、高度な表現技法を習得する制作・表現系科目、社会的実現能力を養成するプロデュース系科目という三つの科目群による教育・研究を展開し、これによって、

映像身体学に関する固有の知見と、そうした知見を社会に還元できる高度な技能を持った専門的職業人の養成を目的としている。博士課程後期課程では、博士課程前期課程における専門教育の成果をふまえ、高度の先端研究に対応しうる優れた能力と深い学識を持つ研究者を養成すること、また映像身体学に関連する創作、プロデュースにおいて、実践的思考を備えた研究者、映像身体学研究を牽引し次世代の研究者を育てる力量を持つ指導者の養成を目的としている。

現代心理学研究科委員長 塚本 伸一

教育研究上の目的

「現代心理学研究科は、現代心理学部における一般的ならびに専門的教養の上に、心理学、臨床心理学、映像身体学を研究し、その深奥を究め、かつ、キリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与することを目的とする。」

以下は、この目的を前提とした、学位授与方針である。

学位授与方針

<博士課程前期課程>

博士課程前期課程の教育目標を下記の通り定め、本課程に2年（4学期）以上在学し、所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

1. 心理学専攻においては、心理学の分野において自立した研究者を目指して博士課程後期課程に進学できる能力、あるいは、心理学の知見と方法論を身につけた高度職業人として企業・行政機関などで活躍できる能力を身につける。
2. 臨床心理学専攻においては、臨床心理学の優れた見識と能力を持ち、教育・医療・福祉・産業の領域で活躍できる、臨床心理士をはじめとする高度職業人を育てることを目標とし、あわせて、臨床心理学の分野において自立した研究者となるために博士課程後期課程に進学できる能力も身につけることも目指す。
3. 映像身体学専攻においては、映像や舞台における専門家として、あるいは、企業、行政機関、NGOやNPOなどで高度職業人として活躍できる能力を身につけ、あわせて、自立した研究者、または制作実践者を目指して博士課程後期課程に進学できる能力を身につける。

<博士課程後期課程>

博士課程後期課程の教育目標を下記の通り定め、本課程に3年（6学期）以上在学し、博士学位論文作成に関する所定の研究指導を受け、博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。ただし、心理学専攻においては、優れた研究業績を上げ、所定の手続きをして認定を受けた者については本課程に1年（2学期）以上在学すれば足りるものとする。

1. 大学その他の教育・研究機関で教育者・研究者として活躍できる能力を身に付ける。
2. 心理学、臨床心理学、映像身体学のいずれかの分野の高度な専門性を活かして企業や行政機関の研究所、シンクタンク、NGOやNPOなどで活躍できる能力を身に付ける。

教育課程編成・実施方針

<博士課程前期課程>

指導教員を定め、修士論文指導演習（4単位）を受け、修士論文を作成する。映像身体学専攻においては、同様の指導のもとに修士論文に相当する修了制作と副論文の完成を目指すこともできる。これに加えて、専攻ごとに定める必修科目及び選択科目を合わせて30単位以上修得し、各自の研究テーマを深める。

<博士課程後期課程>

指導教員を定め、そのもとで博士論文を作成する。指導教授とは研究領域に関して常に討論を積み重ねる。論文執筆に関して細部にわたる助言を指導教授から受け、博士論文の完成に至る。映像身体学専攻においては、作品制作による実践的研究を付属資料として添付することもできる。

科目ナンバリングについて

立教大学では、2016年度より全学部・研究科で科目ナンバリング制度を導入している。科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付与し分類することで学修の段階や順序等を表し、カリキュラムの体系的性を明示する仕組みである。科目ナンバリングを用いて検索をすることで、学びたい分野を探し体系的に履修するための一つのツールとすることができる。また、成績証明書（2016年度以降入学者のみ対象）には修得科目ごとに科目ナンバリングが記載され、体系的に学習した結果を対外的に証明することが可能である。

1 科目ナンバリング構成について

本学の科目ナンバリングはアルファベット3文字と数字4文字の構成となっている。

- ・アルファベット3桁⇒科目の設置学部学科（専修）・研究科（専攻）を示す。
- ・数字4桁⇒レベル・科目分野分類等を示す。

アルファベット部分	1000番台	100番台	10番台	1番台
A B C	1	2	3	0
↓	↓	↓	↓	↓
学科・専攻等	レベル	分野	学部・研究科自由領域	言語

他研究科科目等のナンバリングについては、当該の履修要項を参照すること。

2 アルファベット・数字部分の説明

- ① 科目の設置学部学科（専修）・研究科（専攻）を示すアルファベット3桁は以下のとおりである。

PSY 心理学専攻 CLP 臨床心理学専攻 BEC 映像身体学専攻

- ② レベル・科目分野分類等を示す数字4桁は以下のとおりとなる。

◆1000番台（レベルコード）

番号	専門科目
5000	大学院博士課程前期課程・修士課程基礎科目
6000	大学院博士課程前期課程・修士課程発展科目・研究指導
7000	大学院博士課程後期課程科目（研究指導を含む）
9000	その他

◆100番台（科目分野）

PSY 心理学専攻		CLP 臨床心理学専攻		BEC 映像身体学専攻	
番号	科目分野	番号	科目分野	番号	科目分野
100	一般心理学	100	臨床心理学	100	映像学
200	基礎心理学	200	一般心理学	200	身体学
300	応用心理学	300	基礎心理学	300	映像身体学
400	臨床心理学	400	応用心理学	900	その他
500	近接諸科学	500	近接諸科学		
900	その他	600	実践力養成		
		900	その他		

◆10番台（履修区分を示す）

番号	履修区分
10	必修科目
20	選択科目
30	自由科目

◆1番台（使用言語を示す）

番号	言語
0	日本語で行う授業
1	英語で行う授業
2	英語以外の外国語で行う授業
3	その他（バイリンガル授業など）

博士課程前期課程

履修規定その他注意事項 **全専攻**

1 修士学位授与について

1. 修士学位授与の要件 修士学位は、博士課程前期課程に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に対して授与される。
2. 学位名称 修了者に対し立教大学が授与する学位は以下のとおりとする。
心理学専攻「修士（心理学，立教大学）」
臨床心理学専攻「修士（臨床心理学，立教大学）」
映像身体学専攻「修士（映像身体学，立教大学）」

2 履修登録

1. 履修登録について 履修登録とは、本年度履修する科目を所定の期日に届け出る手続きである。登録期間は年2回、4月と9月にあり、履修登録をしていない科目は履修することができない。
履修登録に関して質問のある場合は、事前に新座キャンパス教務事務センターで相談すること。
- 4月期登録 通年および春学期開講科目について履修登録すること。
- 9月期登録 秋学期開講科目のみ履修登録すること。
履修登録済みの通年科目の取消は認められない。
- 履修登録の方法 履修登録の方法、およびその後の手続きについては、現代心理学部の履修登録方法を適用する。
2. 他研究科科目
・他専攻科目
・平和コミュニティ研究機構科目
- (1) 他研究科科目
- ① 他研究科科目の履修を希望する者は、予め、各学部掲示板（ただし、池袋キャンパス開講科目については、新座7号館1階脇の移動掲示板）に掲示してある「他研究科学生履修不許可科目」一覧で履修登録の可否を確認しておくこと。また、他研究科科目のシラバスは新座キャンパス教務事務センター窓口に設置してあるシラバスまたは、シラバス・時間割検索システムを参照すること。
- ② 科目コード登録で届け出たそれらの科目は、当該研究科からの承認を受け、はじめて正式に履修許可となる。履修の可否については教授会審議後、掲示板で発表する。
<4月期登録> 5月下旬 <9月期登録> 10月下旬
- ③ 不許可となった場合、時間割のその部分は「空き時間」となるが、「空き時間」に当該期間の新たな科目を追加登録することはできない。履修登録の際はこの点に留意の上登録すること。
- (2) 他専攻科目
他専攻学生履修不許可科目は「他研究科学生履修不許可科目」一覧に記載されている科目と同じである。履修を希望する場合は、履修登録の可否を確認しておくこと。
- (3) 平和・コミュニティ研究機構科目
平和・コミュニティ研究機構科目については、**9 平和・コミュニティ研究機構科目**を参照すること。
3. 学部科目 現代心理学研究科の学生は学部科目を履修登録しないこと。ただし、教職課程登録者等、学部科目の履修登録が必要な場合を除く。

4. その他

現代心理学部科目以外の他学部科目の履修については「Ⅲ-2履修規定（履修についての注意事項）

3 他学部科目・他学科科目・大学院科目について 1. 他学部科目(3)~(5)を参照のこと。修得した単位は、修了要件単位に算入されない。

全学共通科目、全学共通カリキュラム科目の履修については、全学共通科目・全学共通カリキュラムの履修要項を参照のこと。

修得した単位は、修了要件単位に算入されない。

3 入学前単位認定

1. 入学前に他大学院で修得した単位の認定について

大学院学則第15条第2項の規定による「本大学院に入学する前に、他大学院において履修した授業科目について修得した単位を本大学院に入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」制度について、本研究科博士課程前期課程では、心理学専攻のみ実施し、臨床心理学専攻及び映像身体学専攻は実施しない。単位認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。

(1) 申請時期・方法

現代心理学部の履修規定（単位認定）に準ずる。

Ⅲ-4 履修規定（単位認定）を参照。

(2) 認定対象の範囲

心理学専攻の一定の基準に基づき、選択科目Aと同一の科目を履修したと認められた場合は、その単位を認定する。

(3) 認定の上限単位数

入学前修得単位の認定は10単位を上限とする。

(4) 認定科目名

選択科目A（11科目）の科目名で認定する。

(5) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

(6) 認定科目の履修区分

認定を受けた科目の履修区分は、選択科目Aとする。

(7) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定区分に従って修了要件単位に算入できる。

(8) 認定科目の成績表示

入学前に修得した単位の認定の成績は「認定」とする。

(9) 大学院科目履修制度（2006～2009年度入学者対象）を利用した現代心理学部学生への適用

修得した大学院科目の単位は、入学前単位認定の対象としない。

4 試験・成績

(1) 成績の評価は、定期試験（筆記試験・レポート試験）または平常点（テスト・レポート・口頭試問等）により科目担当者がこれを行う。

(2) 当該年度の履修登録をしていない科目については試験を受けることができない。

(3) 成績の評価は次のとおりである。

授業科目の成績は100点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

⊖ 単位を修得した科目の評価を取り消すことはできない。

〈成績の評価〉

評価	成績通知表	成績証明書
100点～90点	S	S
89点～80点	A	A
79点～70点	B	B
69点～60点	C	C
59点～0点 (不合格)	D	表示されない
欠席	欠	表示されない

ただし、「修士論文」は合格の場合、「合」と表記される。

- (4) 合格した科目については所定の単位を与える。
不合格の科目については再試験を行わない。
- (5) 定期試験・成績に関する注意
定期試験・成績に関する事項は、「VI. 試験・成績」を参照すること。なお、成績の発表、成績評価調査の申請の記載については、「特別卒業申請者」は「特別修了申請者」に、「卒業合格発表対象者」は「修了発表対象者」に読み替えて適用する。
- (6) 「現代心理学部専門教育科目試験規則」の準用
特に記載されていない事項については、「現代心理学部専門教育科目試験規則」を準用する。

5 修士論文に関する規定

1. 修士論文関連
日程

専攻ごとの修了に向けた年間予定は、およそ以下のとおりである。研究計画を立てる目安にすること。

〈心理学専攻〉

時期	行事項目	履修要項該当頁
〈1年次〉 4月上旬 4月～7月 9月 9月～1月 1月末～2月初旬	研究科ガイダンス、春学期履修登録 【正・副指導教員決定】 秋学期履修登録 「現代心理学特殊演習」履修 【修士論文構想発表会】	p.124 「4.研究指導の体制」参照 p.124 「4.研究指導の体制」参照
〈2年次〉 4月上旬 5月上旬 9月 9月～1月 1月 1月末～2月初旬 2月下旬	研究科ガイダンス、春学期履修登録 「修士論文題目届」提出 【修士論文中間報告会：実施しない】 秋学期履修登録 「現代心理学特殊演習」履修 修士論文提出 【修士論文口頭試問・発表会】 修了合否審査、修了合否発表	p.124 「4.研究指導の体制」参照 p.116 「5.修士論文に関する規定 2.」参照 p.124 「4.研究指導の体制」参照 p.124 「4.研究指導の体制」参照 p.116・117 「5.修士論文に関する規定4., 5.」参照 p.118 「5.修士論文に関する規定 6.」参照

博士課程前期課程

〈臨床心理学専攻〉

時期	行事項目	履修要項該当頁
〈1年次〉 4月上旬	研究科ガイダンス、春学期履修登録 【正指導教員決定】	p.127「4.研究指導の体制」参照
7月中旬 9月	【副指導教員決定】 秋学期履修登録	p.127「4.研究指導の体制」参照
11月	【修士論文構想発表会】	
〈2年次〉 4月上旬	研究科ガイダンス・春学期履修登録	p.127「4.研究指導の体制」参照
5月上旬	「修士論文題目届」提出	
5月中旬	【修士論文中間報告会】	p.116「5.修士論文に関する規定 2.」参照
9月	秋学期履修登録	p.116「5.修士論文に関する規定 3.」参照
1月	修士論文提出	p.127「4.研究指導の体制」参照
1月末～2月初旬	【修士論文口頭試問・発表会】	
2月下旬	修了合否審査、修了合否発表	p.116・117「5.修士論文に関する規定4., 5.」参照 p.118「5.修士論文に関する規定 6.」参照

〈映像身体学専攻〉

時期	行事項目	履修要項該当頁
〈1年次〉 4月上旬	研究科ガイダンス、春学期履修登録 【正指導教員決定】	p.130・131「4.研究指導の体制」参照
5月上旬 9月	秋学期履修登録	
2月下旬	【修士論文構想発表会】	p.130・131「4.研究指導の体制」参照
〈2年次〉 4月上旬	研究科ガイダンス・春学期履修登録	
6月下旬	【修士論文中間報告会】	p.116「5.修士論文に関する規定 2.」参照
9月	秋学期履修登録	p.130・131「4.研究指導の体制」参照
1月	修士論文提出	
1月中旬～下旬	【修士論文口頭試問】	
2月下旬	修了合否審査、修了合否発表	p.116・117「5.修士論文に関する規定4., 5.」参照 p.118「5.修士論文に関する規定 6.」参照

なお、「修士論文構想発表会」、「修士論文中間報告会」および「修士論文発表会」については、専攻ごとに実施の有無や開催時期などの詳細が異なるため、休学等により出席できない特別の事情があるときは、指導教員及び専攻主任と事前に相談すること。

2. 履修登録

- (1) 「修士論文」は、今年度の4月の時点で1年（2学期）以上在学した学生が履修登録できる。
- (2) 修士論文を提出しようとする者は、4月期に科目コード登録で「修士論文」を他の科目と同様に届け出ること。

3. 修士論文題目届

- (1) 心理学専攻・臨床心理学専攻の「修士論文」の履修登録をした者は、修士論文題目届（論文題目・内容の概要・指導教員の承認印）を指定の期間に各指導教員に提出すること。用紙は、4月の研究科ガイダンスで配付する。
提出期間：5月4日（木）～10日（水）
- (2) 2018年度春学期に修士論文を提出する予定の者は、修士論文題目届を10月2日（月）～6日（金）に各指導教員に提出すること。

4. 論文作成書式

- (1) 本文は、A4判、横書き、1ページあたり1200字（40文字×30行）で印刷すること。
余白の目安は以下のとおりとする。
上側：30mm
下側：25mm
左側：35mm
右側：25mm

- (2) 中表紙は、本文に用いた用紙を使用し、当該年度修士論文、論文題目、指導教員名、研究科、専攻、課程、学生番号および氏名を明記すること。
- (3) 映像身体学専攻では指導教員の承認のもと、立教大学大学院学則第5条2項により、修了制作をもって修士論文に代えることができる。(ただし、2016年度以降入学者は出願時の論文、制作の選択から変更することは認められない。)映像身体学専攻で修了制作を行う場合の提出形態の詳細は別途専攻で指示する。制作物(DVD等)本体にも論文表紙と同じ内容を記入すること。

5. 提出

- (1) 提出論文部数及び提出期限
論文3部および論文概要(別途専攻で定める様式に従うこと)を新座キャンパス教務事務センターに提出すること。
提出期間:2018年1月10日(水)~2018年1月12日(金)17:00まで
また、「特別修了(9月修了)」(「現代心理学研究科にかかわる事項 7 修了に関する事項」を参照のこと)を申請予定の者の提出期間は、2017年7月5日(水)~7月7日(金)17:00までとする。
なお、この期間に提出した者は、同一年度内に修士論文を再度提出することはできない。
- (2) 提出形態
提出論文は、製本の上、提出すること。
- (3) 審査手数料の支払
所定の単位を修得後、3年次以上に引き続き在学し、博士課程前期課程に入学後4年以内(休学中の期間を除く)に修士論文を提出する場合、審査手数料として¥15,000を支払うこと。
- (4) 修士論文の表紙作成見本

(表紙)

2017年度 修士論文	
○○○○○○○○○○	← 提出論文の題目
指導教員 ○○○○教授	← 修士論文指導演習1に登録した教員名
(指導教員 △△△△教授)	← 研究指導教員が他専攻にいるときは「括弧書き」で「下段に付記」する(いないときは記載しない)
立教大学大学院現代心理学研究科	
○○学専攻博士課程前期課程	
16UM003X □□□□□	← 学生番号・氏名を記載

修士論文提出に際しての注意

修士論文は、指定された締切後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関等の遅延も予測されるので、提出にあたっては十分余裕をもって臨み、本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼する等の措置を講ずること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人または代理人が修士論文の提出に来られない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を仰ぐこと。不測の事態とは、事件・事故や交通機関等の大幅な遅延などの場合を言う。

* プリンター等、機器の故障は不測の事態には含まないので注意すること。

学校感染症のため出校停止となった学生のレポート・卒業論文・卒業制作・修士論文の提出について

上記に該当した場合は、以下の指示に従うこと。

1. 上記の提出物の提出期間において本人が出校停止中である場合は、代理人を立て、当該の期間内に提出することを原則とする。

代理人による不備は、依頼した本人の責任となる。

2. 1. において代理人を立てることができない場合は、締め切り時刻以前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。

<以下のすべてに該当する場合、後日の提出を認めることがある>

- ① 上記2. に該当する学生であること。
- ② 医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」の提出によって、締切日当日に学校感染症に罹患して出校停止中であった事実が証明できること。
- ③ 「出校可能となった日の翌日（窓口対応可能日）」に提出すること。

6. 審査・試問

論文を提出したものは、主査および副査による審査・試問を受けなければならない。

論文の試問：2018年1月下旬～2月上旬

提出された修士論文（修了制作含む）の審査・試問については、研究業績としての自律性、創造性及び客観性等を総合的に評価するものとする。

なお、「特別修了（9月修了）」申請予定者で、修士論文を上記「5. 提出」で定めた期間に提出した者については、論文の試問を2017年7月下旬に行う。

7. 修士論文審査基準

修士論文の審査は次の基準にもとづいて行う。

〈心理学専攻〉

1. 研究テーマが明確で学術上の意義があること
2. 論文構成が適切で、論旨が論理的に展開されていること
3. 実験または量的／質的調査から得られたデータを用いた実証的研究であること
4. 研究に対して倫理的配慮がなされていること
5. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

〈臨床心理学専攻〉

1. 研究テーマが明確で臨床心理学的かつ独創的であること
2. 研究内容と方法が適切であること
3. 論文構成が適切で、論旨展開が論理的に明晰であること
4. 使用する文献の引用が明確で適切であること
5. 共同研究の場合は、申請者の独立した計画とその実施が明確であること

6. 研究について高い倫理性を有していること
7. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

〈映像身体学専攻〉

1. 研究テーマが明確で専門的かつ独創的であること
2. 研究内容と方法が適切で専門的であること
3. 論文の構成が適切で、論旨展開が論理的に明晰であること
4. 使用する文献の引用が明確で適切であること
5. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

8. 修了制作審査
基準

修了制作の審査は次の基準にもとづいて行う。

1. 制作のテーマやコンセプトが明確で独創的であること
2. 適切な方法論が採用されていること
3. 完成した制作物に高度の専門性が認められること
4. 共同制作の場合、分担箇所が明確であること
5. 制作において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

9. 成績

「修士論文」の成績は「合格」または「不合格」とする。

6 オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれの専任教員が、主として担当する授業に関する質問や勉学の相談等に応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に研究室で待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室を訪ね質問することができる。

※兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間帯を利用し質問すること。

オフィスアワーの時間帯は履修要項の「教員一覧」を参照すること。

7 修了に関する事項

1. 修了年月日

本学の修了年月日は、当該年度3月31日付とする。

2. 修了合否の
発表

修了合否は2月28日（水）に成績参照システムにて発表する。必ず本人が修了の合否を確認すること。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

☎ 電話や電子メールなどでの問い合わせには一切応じない。

3. 特別修了

「特別修了（9月修了）」とは以下の6つの条件をすべて満たした学生が、所属研究科が行う修了判定で合格した場合、年度途中の9月19日付で修了することができる制度である。

〈特別修了（9月修了）申請条件〉

1. 所定の受付期間に、所定の書式（特別修了願）によって保証人連署をもって願い出ていること
2. 大学院修士課程または大学院博士課程前期課程であること
3. 申請時において、在学4学期目以降の学生であること^{*1}
 ただし、在学学期数に関しては、経済学研究科・法学研究科・観光学研究科・コミュニティ福祉学研究科大学院特別進学生制度の対象学生、経営学研究科5年間一貫プログラムの対象学生またはキリスト教学研究科ウィリアムズコースの対象学生については、在学2学期目以降で足りるものとする
4. 申請時において、所属研究科の修了に必要な要件を満たす見込^{*2}のある学生であること
5. 申請学期において、在学中であること^{*3}
6. 申請時において、当該年次の「学費^{*4}その他の納入金」の全額または分納1を納めていること

この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。特別修了願を提出し特別修了を許可された場合の「学費^{*4}その他の納入金」は、学費^{*4}その他の納入金の2分の1額とする。

※1：休学中の期間は、在学年数ならびに在学学期数に含まれない

※2：当該年度春学期中に、所属研究科の修了に必要な要件を満たす見込がある学生

※3：休学中・停学中でないこと

※4：学費とは、授業料（在籍料含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※5：特別修了を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が特別修了の申請条件として納入すべき金額に不足する場合は、特別修了願を受理しない。

(1) 特別修了願配付

配付期間	2017年6月1日(木)9:00～7月15日(土)12:30
配付窓口	<p>■文・経済・理・社会・法・経営・キリスト教の各研究科学生，異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者を除く）の学生 ⇒ 池袋キャンパス教務事務センター</p> <p>■観光・コミュニティ福祉・現代心理の各研究科学生 ⇒ 新座キャンパス教務事務センター</p> <p>■法務研究科学生 ⇒ 法務研究科事務室</p> <p>■ビジネスデザイン・21世紀社会デザインの各研究科学生，異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者）の学生 ⇒ 独立研究科事務室〔17:00まで〕</p>

(2) 特別修了願受付期間・許可者発表・学位授与式

受付期間	2017年7月1日(土)9:00~7月15日(土)12:30 *受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。
受付窓口	<p>■文・経済・理・社会・法・経営・キリスト教の各研究科学生, 異文化コミュニケーション研究科 (2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者を除く)の学生 ⇒ 池袋キャンパス教務事務センター</p> <p>■観光・コミュニティ福祉・現代心理の各研究科学生 ⇒ 新座キャンパス教務事務センター</p> <p>■法務研究科学生 ⇒ 法務研究科事務室</p> <p>■ビジネスデザイン・21世紀社会デザインの各研究科学生, 異文化コミュニケーション研究科 (2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者)の学生 ⇒ 独立研究科事務室 [17:00まで]</p>
許可者発表	2017年9月5日(火) 成績参照システムに発表する 発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。
学位授与式	2017年9月19日(火) 時間については, 許可者発表日にあわせて成績参照システムに発表する。

4. 修業年限短縮修了
(早期修了)

大学院学則第5条(優れた研究業績をあげた者)の規定により標準修業年限を短縮することができる制度であるが, 本研究科博士課程前期課程では実施しない。

8 学生証・学籍・学費

1. 学生証
2. 学籍
3. 休学・復学
4. 退学
5. 再入学
6. 学費

[Ⅶ学生証・学籍・学費]を参照すること。

9 平和・コミュニティ研究機構科目

立教大学平和・コミュニティ研究機構（以下、「研究機構」）は、従来の平和研究の視野をより拡大し、安全・公正・人権の原理に立つ持続的コミュニティのあり方を探求しつつ、「平和」の条件を研究するセンターとして2004年3月に設立された。研究機構は、大学院博士課程前期課程にも授業科目を開設し、専門性と広い視野および現実関心を養い、国際関係、人の安全保障、持続的開発、市民社会的協力、移動と多文化共生などのテーマを相互関連的に学ぶ方途を大学院生に提供するものである。

詳細は平和・コミュニティ研究機構科目の履修要項を参照のこと。

〈2017年度 平和・コミュニティ研究機構関連科目一覧〉※履修対象：開講研究科以外の大学院生対象

※履修対象	科目コード	科目名	単位数
文学研究科以外	JD165	地理学調査演習A	2
	JD166	地理学調査演習B	2
	JF152	比較教育学特殊研究	4
経済学研究科以外	KA327	都市政策特論1	2
法学研究科	ND371	ヨーロッパ政治論特殊講義（1）	2
	ND461	政治過程論特殊講義（1）	2
観光学研究科以外	UA552	観光地理学研究	2
	UA556	観光社会学研究	2
社会学研究科以外	VD355	福祉人間学研究5	2

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 履修登録方法 | 自専攻科目と同様、科目コード登録期間に、履修登録システムより行うこと。 |
| 2. 修得単位の扱い | 本研究機構提供科目の修得単位の扱いは、各専攻の〈他専攻・他研究科科目・平和・コミュニティ研究機構科目〉を参照すること。 |
| 3. 重複履修について | 重複履修については、各専攻の〈重複履修について〉を参照すること。 |
| 4. シラバス、授業時間・教室、試験方法等 | シラバス・担当者・開講学期・曜日・時限・教室はシラバス・時間割検索システムで確認すること。試験日程・方法等についても、開講研究科の発表・指示に従うこと。 |
| 5. その他 | <p>(1) 本研究機構提供科目は年度により担当者、科目内容が変更になる場合がある。</p> <p>(2) 各研究科の履修規程（規定）が準用される。</p> <p>※なお、平和・コミュニティ関連の研究に関心を持つ大学院生は、研究機構が別途に行う「セミナー」および「フォーラム」にも積極的に参加し、研究を深める機会とされたい。</p> |

博士課程前期課程 履修規定 心理学専攻

履修にあたっては、「博士課程前期課程 履修規定その他注意事項 全専攻」もあわせてよく読むこと。

1. 所定単位（修了に必要な単位）

心理学専攻を修了するためには、次表に示す最低必要単位数以上を修得しなければならない。

科目区分	必要単位数	備考
必修科目	8単位	1・2年次に配当
選択科目	22単位	1・2年次に配当
合計	30単位	

2. 設置科目区分と履修方法

設置科目は、必修科目、選択科目A、B、Cに区分される。

(1) 必修科目

- ① 全ての学生が履修し単位を修得しなければならない科目であり、「基礎心理学研究法」「応用心理学研究法」「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」（各2単位）「修士論文」の5科目が該当する。
- ② 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」の配当年次は2年次であるが、それぞれ在学3学期・在学4学期に履修できる。「修士論文」は在学4学期日以降に提出できる。
- ③ 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」は学期を変えて履修することができる。この場合、修士論文は7月に提出することになる。履修する学期の変更を希望する場合は指導教員と相談の上、新座キャンパス教務事務センターへ申し出ること。

申出期限：[春学期に履修を希望する場合] 前年度中に申し出を行うこと。

[秋学期に履修を希望する場合] 9月8日（金）16：00まで

- ④ 春学期を休学して、その年度の秋学期に修士論文を提出する者は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：9月8日（金）16：00まで

(2) 選択科目

選択科目の単位として認められるものには、次の種類がある。

- ① 本専攻設置科目の「特殊研究」「特殊演習」「特殊講義」「論文作成演習」を履修し、修得した単位（各2単位）。
- ② 本学他研究科設置科目、他専攻設置科目、平和・コミュニティ研究機構科目は、合計4単位までを選択科目として算入できる。

3. 重複履修

本専攻設置科目は、必修科目を除き重複履修できる。

4. 研究指導の体制

(1) 研究指導担当教員

研究指導は、下表の「研究指導教員一覧」に掲載された教員が担当する。

担当者	研究指導領域・分野	研究指導概要
芳賀 繁	産業心理学, 交通心理学, 人間工学	産業組織心理学・交通心理学・人間工学の分野における問題解決に資する有用かつ実証的な研究成果を得るために必要な知識と方法論を指導する。
堀 耕治	実験的行動分析, 学習心理学	徹底した個別指導により、最新の研究動向を踏まえた独自の問題の発見、研究の計画と実施、データの分析と報告など、研究者に必要な技能を養う。
大野 久	青年心理学, 人格心理学, 生涯発達心理学（アイデンティティ理論を踏まえた青年期の心理, 恋愛, 生育史研究）	前期課程研究指導では、修士論文作成に向けて、文献研究、問題の設定、質問紙調査、面接調査の計画、実施、分析、論文の執筆について指導を行う。

博士課程前期課程

大石 幸二	応用行動分析（行動コンサルテーションの実証研究）、障害児（者）心理学（特別支援教育の実践研究）、学校ソーシャルワーク、臨床発達心理学	社会的問題の解決のため、行動観察データを収集し、その機能分析を行い、具体的な介入計画の立案・実行・評価と改善に関する研究の指導を行う。
日高 聡太	知覚心理学、実験心理学、認知心理学	ヒトの情報処理過程を科学的に実証し、成果を国際誌に発表することを目標に、実験の実施やデータの検証・報告等、基礎的な研究スキルを総合的に養う。
小口 孝司	社会心理学、産業・組織心理学、観光（社会）心理学	各自の問題意識、関心に基づき、研究テーマを設定し、研究計画の作成、実験・調査の実施、分析などを進め、学会発表、さらには学会誌投稿につなげる。
都築 誉史	認知心理学、社会心理学、認知科学	研究テーマの設定、先行研究の展望、研究計画の立案、実験や調査の実施手順、データの分析方法、修士論文の執筆、成果の公表（学会発表、学会誌投稿）についての研究指導を行う。

(2) 指導教員・副指導教員

心理学専攻は、原則として学生の希望に基づき、1年次春学期中に指導教員1名を選定し、あわせて指導教員と協議の上、副指導教員を選定する。指導教員および副指導教員は、学生の在学期間中、継続して共同で研究指導を担当する。

なお、指導教員が修士論文の主査を、副指導教員が修士論文の副査を担当する。修士論文の副査は2名であり、もう1名の副査は、1年次秋学期に開催する修士論文構想発表会の後に決定する。

研究指導一貫性の観点からは、1年次と2年次に同一の教員の指導を受けることが望ましい。しかし、教員側の事情または学生側の事情により、2年次に指導教員を変更することもある。例えば、教員の退職、研究休暇、学生本人の休学留学、研究関心や領域の変更などの事由である。

(3) 現代心理学特殊演習

秋学期に開講する「現代心理学特殊演習」は、1、2年次にそれぞれ履修することが望ましい。本科目において、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

(4) 修士論文構想発表会

1年次秋学期（1月末～2月初旬）に一度、修士論文構想発表会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行った上で、修士論文の主査および副査を決定する。

報告者：本専攻前期課程1年次生全員

参加者（教員）：全専任教員

参加者（大学院学生、学部学生）：本専攻前期課程学生全員、学部学生（任意）

実施形態：報告会形式（授業外）

内容：報告者（本専攻前期課程1年次生）が修士論文研究の構想内容を説明、教員及び他の参加者による質疑応答、教員からの指導を行う。

(5) 修士論文中間報告会

本専攻では、秋学期に開講する「現代心理学特殊演習」（1年次および2年次）において、研究指導教員全員による十分な共同の研究指導を行うため、修士論文中間報告会は実施しない。

(6) 修士論文口頭試問・発表会（修士論文最終面接・博士課程報告会）

修士論文を提出した者が、発表会形式で公開の口頭試問を受ける。研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

発表者：修士論文提出者

参加者（教員）：全専任教員

参加者（大学院学生、学部学生）：本専攻前期課程・後期課程学生全員、学部学生（任意）

実施形態：報告形式（授業外）

内容：修士論文提出者が修士論文研究の成果を発表し、主査・副査による口頭試問を受ける。

博士課程後期課程学生による研究報告もあわせて行う。

心理学専攻（博士課程前期課程） 学科目表

科目 コード	科目名	担当者	単位数	開講 学期	配当年次	科目 ナンバリング	備 考
必修科目							
UM131	基礎心理学研究法	武 田 裕 司	2	秋	1・2	PSY5210	
UM132	応用心理学研究法	小 口 孝 司	2	春	1・2	PSY5310	
UM11*	修士論文指導演習 1	研 究 科 委 員	2	春	2	PSY6910	下記コード参照
UM12*	修士論文指導演習 2	研 究 科 委 員	2	秋	2	PSY6910	下記コード参照
UM90*	修士論文	研 究 科 委 員	-	-	2	PSY6910	下記コード参照
選択科目A							
UM201	知覚心理学特殊研究	日 高 聡 太	2	春	1・2	PSY5220	
UM202	比較・認知心理学特殊研究		2	休講	1・2	PSY5220	
UM203	認知心理学特殊研究	都 築 誉 史	2	春	1・2	PSY5220	
UM204	学習心理学特殊研究	堀 耕 治	2	春	1・2	PSY5220	
UM205	社会心理学特殊研究	小 口 孝 司	2	秋	1・2	PSY5320	
UM206	産業・組織心理学特殊研究	芳 賀 繁	2	春1	1・2	PSY5320	
UM207	応用行動分析学特殊研究	大 石 幸 二	2	春	1・2	PSY5320	
UM208	人格心理学特殊研究		2	休講	1・2	PSY5320	
UM209	発達心理学特殊研究	酒 井 久実代	2	春	1・2	PSY5320	
UM214	現代心理学特殊研究	佐 藤 有 耕	2	春他	1・2	PSY5920	春学期集中
UM213	心理統計法特殊研究	中 村 健太郎	2	春	1・2	PSY5220	
選択科目B							
UM301	知覚心理学特殊演習	日 高 聡 太	2	秋	1・2	PSY5220	
UM302	比較・認知心理学特殊演習		2	休講	1・2	PSY5220	
UM303	認知心理学特殊演習	都 築 誉 史	2	秋	1・2	PSY5220	
UM304	学習心理学特殊演習	堀 耕 治	2	秋	1・2	PSY5220	
UM305	社会心理学特殊演習	小 口 孝 司	2	秋	1・2	PSY5320	
UM306	産業・組織心理学特殊演習	芳 賀 繁	2	春2	1・2	PSY5320	
UM307	応用行動分析学特殊演習	大 石 幸 二	2	秋	1・2	PSY5320	
UM308	人格心理学特殊演習	大 野 久	2	秋	1・2	PSY5320	
UM309	発達心理学特殊演習		2	休講	1・2	PSY5320	
UM310	英語論文作成演習	中 島 亮 一	2	秋	1・2	PSY5920	
UM311	現代心理学特殊演習	研 究 科 委 員	2	秋	1・2	PSY5920	
選択科目C							
UM401	心理臨床特殊研究 1	安 田 みどり	2	春	1・2	PSY5420	
UM402	心理臨床特殊研究 2	水 野 修次郎	2	春	1・2	PSY5420	
UM403	精神医学特殊研究	堀 江・平出	2	春	1・2	PSY5520	
UM404	コミュニティ心理学特殊研究	安 田 みどり	2	秋	1・2	PSY5420	
UM405	心理療法特殊研究		2	休講	1・2	PSY5420	
UM406	学校心理学特殊研究		2	休講	1・2	PSY5420	隔年開講

◎研究科委員担当者コード……修士論文指導演習 1, 修士論文指導演習 2, 修士論文の科目コード下 1 桁 (*) には、下記の該当する担当者コードを記入すること

担当者	コード
芳賀 繁	1
堀 耕治	2
大野 久	3
大石 幸二	4
日高 聡太	5
小口 孝司	6
都築 誉史	7

博士課程前期課程 履修規定 臨床心理学専攻

履修にあたっては、「博士課程前期課程 履修規定その他注意事項 全専攻」もあわせてよく読むこと。

1. 所定単位（修了に必要な単位）

臨床心理学専攻を修了するためには、次表に示す最低必要単位数以上を修得しなければならない。

科目区分	必要単位数	備考
必修科目	20単位	1・2年次に配当
選択科目	10単位	1・2年次に配当
合計	30単位	

2. 設置科目区分と履修方法

設置科目は、必修科目、選択科目に区分される。

(1) 必修科目

- ① すべての学生が履修し単位を修得しなければならない科目である。
- ② 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」の配当年次は2年次であるが、それぞれ在学3学期・在学4学期に履修できる。修士論文は在学4学期目以降に提出できる。
- ③ 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」は学期を変えて履修できる。この場合、修士論文は7月に提出することになる。履修を希望する場合は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：[春学期に履修を希望する場合] 前年度中に申し出を行うこと。

[秋学期に履修を希望する場合] 9月8日（金）16：00まで

- ④ 春学期を休学して、その年度の秋学期に修士論文を提出する者は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：9月8日（金）16：00まで

(2) 選択科目

本専攻設置科目の「特論」「特殊研究」を履修し、修得した単位（各2単位）。

選択科目については、別紙（ガイダンス時に配布する）に示すように、A～E領域についてそれぞれ2単位以上を履修すること。

3. 重複履修

本専攻設置科目は、必修科目を除き重複履修ができる。

4. 研究指導の体制

(1) 研究指導担当教員

研究指導は、下表の「研究指導教員一覧」に掲載された教員が担当する。

担当者	研究指導領域・分野	研究指導概要
林 もも子	精神分析的精神療法，成人および思春期のアタッチメント	臨床心理学領域のテーマについて、自分の問題意識を先行研究と照らし合わせながら深め、臨床的な意義のある研究実践を、集団・個別形式で指導する。
逸見 敏郎	学校臨床心理学，ライフコース論	学校における心理相談活動および関連する家族、友人関係を対象とする研究について、臨床心理学的アプローチによる研究指導をおこなう。
松永 美希	臨床心理学，認知行動療法，健康心理学	認知行動理論・療法に関する領域について、基礎的研究から実践的研究まで幅広いテーマについて、集団および個別形式による研究指導を行う。
山田 哲子	臨床心理学，家族心理学，家族療法	臨床心理学，家族心理学などの研究テーマに対し、個人を取り巻く関係性に着目するシステムズアプローチや、質的研究法を取り入れながら指導を行う。
塚本 伸一	社会性の発達（自己統制・制御の発達），学校・学級の心理学的研究（教師の児童生徒認知，児童生徒の学校適応，学校ストレス）	修士論文指導演習，研究室内のデータミーティング，研究会への参加等のほか，随時個別的な研究指導を行う。
山中 淑江	臨床心理学，カウンセリング，青年心理，学生相談，グループアプローチ	青年期の危機と課題，グループプロセス，自己概念，言語による自己表現等のテーマについて，個別指導を行う。

(2) 指導教員・副指導教員

臨床心理学専攻の学生は、入学後すみやかに、研究指導を受ける指導教員1名を選定し、あわせて指導教員と協議の上、1年次の春学期中に副指導教員を選定する。指導教員および副指導教員は、学生の在学期間中、継続して共同で研究指導を担当する。

(3) 修士論文構想発表会

1年次秋学期（11月）に一度、修士論文構想発表会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

報告者：本専攻前期課程1年次生全員

参加者（教員）：全専任教員

参加者（大学院学生、学部学生）：本専攻前期課程学生全員、学部学生（任意）

実施形態：報告会形式（授業外）

内容：報告者（本専攻前期課程1年次生）が修士論文研究の構想内容を説明、教員による質疑応答、教員からの指導を行う。

(4) 修士論文中間報告会

2年次春学期（5月～6月）に一度、修士論文中間報告会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

報告者：本専攻2年次以上で2017年度修士論文提出予定者全員

参加者（教員）：全専任教員

参加者（大学院学生、学部学生）：本専攻前期課程学生全員、学部学生（任意）

実施形態：報告会形式（授業外）

内容：報告者（本専攻2年次以上で2017年度修士論文提出予定者）が修士論文研究の構想内容を説明、教員による質疑応答、教員からの指導を行う。

(5) 修士論文口頭試問・発表会

修士論文を提出した者が、発表会形式で公開の口頭試問を受ける。

発表者：修士論文提出者

参加者（教員）：全専任教員

参加者（大学院学生、学部学生）：本専攻前期課程学生全員、学部学生（任意）

実施形態：報告会形式（授業外）

内容：修士論文提出者が修士論文研究の成果を発表し、主査・副査による口頭試問を受ける。

博士課程前期課程 履修規定 映像身体学専攻

履修にあたっては、「博士課程前期課程 履修規定その他注意事項 全専攻」もあわせてよく読むこと。

1. 所定単位（修了に必要な単位）

映像身体学専攻を修了するためには、次表に示す最低必要単位数以上を修得しなければならない。

科目区分	必要単位数	備考
必修科目	8単位	1年次4単位, 2年次4単位配当
選択科目	22単位	1・2年次に配当
合計	30単位	

2. 設置科目区分と履修方法

設置科目は、必修科目、選択科目に区分される。

(1) 必修科目

- ① 全ての学生が履修し単位を修得しなければならない科目であり、1年次配当「映像身体学概説」「映像身体学演習」、2年次配当「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」（各2単位）「修士論文」の5科目が該当する。
- ② 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」の配当年次は2年次であるが、それぞれ在学3学期・在学4学期に履修できる。修士論文は在学4学期目以降に提出できる。
- ③ 「修士論文指導演習1」「修士論文指導演習2」は学期を変えて履修することができる。この場合、修士論文は7月に提出することになる。履修を希望する場合は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：[春学期に履修を希望する場合] 前年度中に申し出を行うこと。

[秋学期に履修を希望する場合] 9月8日（金）16：00まで

- ④ 春学期を休学して、その年度の秋学期に修士論文を提出する者は、指導教員に相談の上、新座キャンパス教務事務センターまで申し出ること。

申出期限：9月8日（金）16：00まで

(2) 選択科目

選択科目の単位として認められるものには、次の2種類がある。

- ① 本専攻設置科目の基盤研究系科目（必修科目である「映像身体学概説」「映像身体学演習」を除いた「特殊研究」「特殊演習」）、制作・表現系科目（「ワークショップ」）、プロデュース系科目（「舞台制作プロデュース論演習」「映像制作プロデュース論演習」「著作権法」「アートビジネス論演習」「映像機器・施設ワークショップ」）（各2単位）。
- ② 本学他研究科設置科目、他専攻設置科目、平和・コミュニティ研究機構科目は、合計4単位までを選択科目として算入できる。

3. 重複履修

本専攻設置科目は、必修科目を除き重複履修できる。

4. 研究指導の体制

(1) 研究指導担当教員

研究指導は、下表の「研究指導教員一覧」に掲載された教員が担当する。

担当者	研究指導領域・分野	研究指導概要
香山 リカ	精神医学。とくに「思春期・青年期の精神病理と現代社会の影響」「働く女性のメンタルヘルス」の問題について、臨床を通して考察している。	精神病理学を柱とした作品・人物研究。精神医学、哲学と芸術、文化とを連続させるための方法論の探究。
大山 載吉	映像身体学、哲学、表象文化論	機械による知覚の「非人称性」と身体による知覚の「人称性」のあいだを思考し、存在の「深さ」を探究する。
万田 邦敏	映画演出	劇映画の演出において実践的な指導を行う。
加藤 千恵	古代中国の身体観・宇宙観・生命観。道教思想史。	古代中国の文献や図像資料から身体観について学び、現代の身体をとらえなおす。

博士課程前期課程

中村 秀之	映画研究, 文化社会学, 表象文化論	映画に対する理論的・歴史的・批評的アプローチからの研究を指導する。
佐藤 一彦	映像表現論, 映像システム技術論, テレビドキュメンタリー制作論, デジタルシネマの研究と開発, デジタルコンテンツ全般の研究と開発	映像身体学が持つ学問知や身体知を, 4Kや3D, 電子書籍など最新のデジタル手法を駆使して領域横断的に現代を分析・創造するための根拠を捜し出す。
篠崎 誠	映画全般	劇映画における演出の指導
田崎 英明	身体社会学, ジェンダー/セクシュアリティ理論, 身体政治論	身体・アート・エコロジー等についての哲学的・文化批評的アプローチについて, 日本語および欧文の文献を参照しながら指導する。
松田 正隆	戯曲・シナリオ創作。演劇・パフォーマンスの研究。	演劇における身体のことを考える。
江川 隆男	西洋近現代哲学, 現代思想, 精神と身体哲学, 身体倫理論	哲学的な思考にかかわる精神(感情やイメージを含む)と身体(物体を含む)についての諸問題を研究指導する。
日高 優	映像身体学, 写真研究, 表象文化論	映像, 特に写真を通して, 世界の存在様態と我々の生のありようをつかまえし, その可能性を追究する。

(2) 指導教員・副指導教員

研究科ガイダンス後に, 学生の希望に基づいて専攻会議で決定する。正指導教員は, 原則として入学試験出願時に本人が希望した教員とする。

(3) 「修士論文構想発表会」

1年次秋学期(2月下旬)に一度, 修士論文構想発表会を開催し, 研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

報告者: 本専攻前期課程1年次生全員

参加者(教員): 全専任教員

参加者(大学院学生, 学部学生): 本専攻前期課程学生全員, 学部学生(任意)

実施形態: 報告会形式(授業外)

内容: 報告者(本専攻前期課程1年次生)が修士論文研究の構想内容を説明, 教員による質疑応答, 教員からの指導を行う。

(4) 「修士論文中間報告会」

2年次春学期(6月下旬)に一度, 修士論文中間報告会を開催し, 研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

報告者: 本専攻2年次以上で2017年度修士論文提出予定者全員

参加者(教員): 全専任教員

参加者(大学院学生, 学部学生): 本専攻前期課程学生全員, 学部学生(任意)

実施形態: 報告会形式(授業外)

内容: 報告者(本専攻2年次以上で2017年度修士論文提出予定者)が修士論文研究の構想内容を説明, 教員による質疑応答, 教員からの指導を行う。

映像身体学専攻（博士課程前期課程） 学科目表

科目コード	科目名	担当者	単位数	開講学期	配当年次	科目ナンバリング	備考	
必修科目								
基盤研究系科目	UP101	映像身体学概説	大山 載吉	2	春	1	BEC5310	
	UP102	映像身体学演習	江川 隆男	2	秋	1	BEC5310	
研究指導科目	UP2**	修士論文指導演習1	研究科委員	2	春	2	BEC6310	下記コード参照
	UP2**	修士論文指導演習2	研究科委員	2	秋	2	BEC6310	下記コード参照
	UP9**	修士論文	研究科委員	-	-	2	BEC6310	下記コード参照
選択科目								
基盤研究系科目	UP301	身体学特殊研究1	江川 隆男	2	春	1・2	BEC5220	
	UP302	身体学特殊研究2	加藤 千恵	2	春	1・2	BEC5220	
	UP311	映像学特殊研究1		2	休講	1・2	BEC5120	
	UP312	映像学特殊研究2	中村 秀之	2	秋	1・2	BEC5120	
	UP321	身体学特殊演習1	田崎 英明	2	春	1・2	BEC5220	
	UP322	身体学特殊演習2	田崎 英明	2	秋	1・2	BEC5220	
	UP323	身体学特殊演習3		2	休講	1・2	BEC5220	
	UP331	映像学特殊演習1	日高 優	2	春	1・2	BEC5120	
	UP332	映像学特殊演習2	佐藤 賢	2	秋	1・2	BEC5120	
UP333	映像学特殊演習3	日高 優	2	秋	1・2	BEC5120		
制作・表現系科目	UP401	身体論ワークショップ1	相馬 千秋	2	春	1・2	BEC5220	
	UP402	身体論ワークショップ2	チョン・ヨンドウ	2	秋	1・2	BEC5220	
	UP403	身体論ワークショップ3	井上 弘久	2	春	1・2	BEC5220	
	UP404	身体論ワークショップ4	井上 弘久	2	秋	1・2	BEC5220	
	UP405	身体論ワークショップ5	松田 正隆	2	春	1・2	BEC5220	
	UP406	身体論ワークショップ6	松田 正隆	2	秋	1・2	BEC5220	
	UP421	映像論ワークショップ1	万田 邦敏	2	春	1・2	BEC5120	
	UP422	映像論ワークショップ2	万田 邦敏	2	秋	1・2	BEC5120	
	UP423	映像論ワークショップ3	篠崎 誠	2	春	1・2	BEC5120	
	UP424	映像論ワークショップ4	篠崎 誠	2	秋	1・2	BEC5120	
	UP425	映像論ワークショップ5	石山 智弘	2	春	1・2	BEC5120	
	UP426	映像論ワークショップ6	石山 智弘	2	秋	1・2	BEC5120	
	UP427	映像論ワークショップ7	佐藤 一彦	2	春	1・2	BEC5120	
	プロデュース系科目	UP501	舞台制作プロデュース論演習	田中 博積	2	秋	1・2	BEC5220
UP502		映像制作プロデュース論演習	佐藤 一彦	2	秋	1・2	BEC5120	
UP503		著作権法		2		1・2		2017年度廃止
UP504		アートビジネス論演習	石坂 健治	2	春他	1・2	BEC5320	春学期集中
UP505		映像機器・施設ワークショップ	石山 智弘	2	秋	1・2	BEC5320	

◎研究科委員担当者コード……修士論文指導演習1・2，修士論文の科目コード

担当者	科目コード		
	修士論文指導演習1	修士論文指導演習2	修士論文
香山 リカ	UP201	UP211	UP901
大山 載吉	UP202	UP212	UP902
万田 邦敏	UP203	UP213	UP903
加藤 千恵	UP204	UP214	UP904
中村 秀之	UP205	UP215	UP905
佐藤 一彦	UP206	UP216	UP906
篠崎 誠	UP207	UP217	UP907
田崎 英明	UP208	UP218	UP908
松田 正隆	UP209	UP219	UP909
江川 隆男	UP210	UP220	UP910
日高 優	UP221	UP222	UP911

博士課程後期課程 履修規定その他注意事項

心理学専攻・臨床心理学専攻・映像身体学専攻

1 博士学位授与について

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. 博士学位授与の要件 | 博士学位は、3年以上博士課程後期課程に在学し、博士学位論文作成に関する所定の研究指導を受け、博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に対して授与される。
ただし、心理学専攻のみ、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。早期修了については、3. 修業年限短縮修了（早期修了）を参照すること。 |
| 2. 学位名称 | 修了者に対して立教大学が授与する学位は以下のとおりとする。
心理学専攻「博士（心理学，立教大学）」
臨床心理学専攻「博士（臨床心理学，立教大学）」
映像身体学専攻「博士（映像身体学，立教大学）」 |
| 3. 修業年限短縮修了（早期修了）
〈心理学専攻のみ適用〉 | 大学院学則第6条（優れた研究業績を上げた者）の規定による標準修了年限を短縮し修了することができる制度である。
〈修業年限短縮修了（早期修了）の条件等について〉
(1) 学会論文誌・学術雑誌に審査を経て3本以上（第1著者に限る）掲載され、かつ、そのうち2本以上は英文学術誌査読論文である者については、1年以上在学すれば足りるものとする。
(2) 申請時期・申請書類
修業年限短縮修了（早期修了）を希望する者は、心理学専攻会議に、「申請希望届」および申請要件となる学会論文誌・学術雑誌に掲載された、あるいは掲載が決定している論文3本以上を各1部提出すること（抜刷、コピー共に可）。
(3) 資格審査
① 申請書類一式が提出された場合、研究科委員長は、速やかに修業年限短縮資格審査委員会（以下、審査委員会とする）を設置する。審査委員会は、研究科委員長が委嘱する委員3名以上をもって構成する。審査委員会委員長は研究科委員長が指名する。なお、指導教員は委員長になることができない。
② 審査は、提出された書類と、これに関する口頭試問によって行う。
③ 審査委員会委員長は、審査報告書を作成し、研究科委員長に提出する。その後研究科委員会において、修業年限短縮資格審査結果について審議する。
④ 研究科委員長は、審議の結果について申請者に通知する。
(4) 博士学位の申請について
資格審査申請の許可を受けた者は、次の学期より、博士学位申請論文を提出することができる。博士学位の申請については、「6. 博士論文」に準じる。 |

2 研究指導

- | | |
|------------|--|
| 1. 研究指導の概要 | (1) 後期課程の学生は、専攻の定めるところに従い、担当の指導教員より研究指導を受けるものとする。
(2) 指導の内容・方法等については、年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」に基づき、学期単位で行うものとする。
(3) 成績については、年度ごとに指導教員と相談のうえ提出される「研究計画書」と、学期ごとに提出される「研究成果報告書」をもとに総合的な評価を行うものとする。学期ごとの研究指導を受け終え |
|------------|--|

たと評価された場合、その成績は「認」となる。

- (4) 留学中および指導教員が研究休暇中の研究指導については、事前に指導教員に相談すること。
- (5) 研究指導担当予定の教員とその専攻領域は各専攻の頁で後述するとおりである。なお、研究指導教員は、学生が提出する「研究計画書」を踏まえて、年間の研究計画や作成する論文等についての指導及び助言を個別具体的に与え、研究指導を行う体制をとることとする。
- (6) 心理学専攻・臨床心理学専攻では、共同指導体制をとるため副指導教員を選定することとする。

3 研究計画書・履修届

年度ごとに、研究計画書を所定の期間に新座キャンパス教務事務センター窓口へ提出すること。用紙は4月の研究科ガイダンスで配付する。この研究計画書提出が履修届となり、大学が履修を登録する。研究指導の登録は半期ごとに行う。

提出期間：4月5日（水）～7日（金）9：00～17：00

なお、春学期を休学し秋学期から復学する者は、9月13日（水）～15日（金）9：00～16：00に新座キャンパス教務事務センター窓口へ研究計画書を提出すること。春学期に在学し、引き続き秋学期に在学する者は、改めて提出する必要はない。

博士後期課程では、在学期間を通して個別に行われる研究指導以外には授業科目を設定しないが、現代心理学研究科博士課程前期課程に設置されている科目（映像身体学専攻は他研究科博士課程前期課程に設置されている科目含む。ただし履修については当該研究科委員会の許可が必要）について、研究に必要である場合には履修することができる。心理学専攻では特に、「現代心理学特殊演習」を履修することが望ましい。

4 研究成果報告書

学期ごとに研究成果・指導記録用紙を用いて研究成果報告書を作成し、新座キャンパス教務事務センター窓口へ提出しなくてはならない。研究成果・指導記録用紙は新座キャンパス教務事務センターで配付する。なお、必要な場合は、学術雑誌などに発表した論文の別刷等を添付することができる。研究成果報告書は、休学中を除き、後期課程在学中毎学期作成する。

提出期間	春学期	2017年7月7日（金）～11日（火）15：00
	秋学期	2018年1月10日（水）～12日（金）15：00

5 博士論文中間報告書【臨床心理学専攻・映像身体学専攻】

- (1) 博士学位申請論文（課程博士）を提出しようとする者は、それに先だって博士論文中間報告書を提出しなければならない。
- (2) 博士論文中間報告書は後期課程2年次秋学期に在学し、3学期分の研究指導を終了している者が提出することを原則とする。また、3学期分の研究指導を終了し、かつ当該学期に在学中の者は、3年年次以降毎学期提出できるものとする（在学中の全ての大学院学生に適用される）。原則として博士学位申請論文（課程博士）提出の前年度までに提出すること。ただし、研究科委員会が特に認めた場合は同一年度内に博士学位申請論文（課程博士）を提出することができる。
- (3) 博士論文中間報告書の提出期限は以下のとおりとする。なお、後期課程に在学中で、その年度内に学位申請論文を提出する見通しが立っており、研究科委員会が事前に許可した者は、春学期末を目処に中間報告書を提出することができる。

博士論文中間報告書提出期限・提出場所

日時：2018年1月12日（金）15：00

※春学期末提出者期限は2017年7月21日（金）15：00とする。

場所：新座キャンパス教務事務センター窓口

- (4) 博士論文中間報告書には、博士学位申請論文の主題・構成の概略が明らかになるような章立て（目次案）と、論文執筆のための基本的構想および論文の中心となる論旨、かつ予定される論文の序章もしくは数章を盛り込み、最後に詳細な参考文献リストを付すものとする。
- (5) 博士論文中間報告書の受理・不受理の決定は、現代心理学研究科掲示板で発表する。発表日時は、別に定める。
- (6) 中間報告書を受理された者は、博士（課程博士）の学位申請論文提出資格を得る。ただし、学位申請論文の主題や構想が中間報告書の内容と異なる場合は中間報告書を再提出し、審査を受けなければならない。中間報告書の受理から（休学期間を含んで）3年目の年度より後に学位申請論文を提出する場合も、原則として中間報告書を再提出すること。なお、審査の結果受理されなかった場合は、前回の提出から3か月以上を経過し、かつ、研究科委員会の許可があれば再提出することができる。
- (7) 博士論文中間報告書の体裁は以下のとおりとする。
 - ① 本文の量はA4判1,200字詰め10枚以上とする。
 - ② 表紙扉には「〇〇年度 博士論文中間報告書」と明記し、題目・指導教員名・研究科・専攻・学年・学生番号・氏名を必ず明記すること。
 - ③ 表紙と扉に次ぎ、A4判1～2枚の論文要旨を目次の前に綴じ込むこと。
 - ④ 左綴じに製本（仮製本も可）2部を新座キャンパス教務事務センターに提出すること。
 - ⑤ 資料・写真集等別冊を用意するときも、題目・氏名を明記すること。
 - ⑥ その他、不明の点は、必ず指導教員に問い合わせること。

6 博士論文

1. 前提条件（課程博士及び論文博士）

【心理学専攻・臨床心理学専攻】

申請者の研究業績

- (1) 学会論文誌・学術雑誌に審査を経て掲載された原著論文2本以上（第1著者に限る）。
- (2) ただし、(1)に規定する原著論文のうちの1本は、以下に該当する業績2本以上で代替する事が出来る：
 - ① 学会論文誌・学術雑誌に審査を経て掲載された、展望・短報・招待論文。ただし第1著者に限る。
 - ② 学会論文誌・学術雑誌に審査を経て掲載された原著論文で第2著者以下のもの。
 - ③ 大学や研究機関の紀要に審査を経て掲載された原著論文。ただし第1著者に限る。
- (3) 課程博士申請者は、(2)に代わって、(1)に規定する原著論文のうちの1本を『立教大学心理学研究』または『立教大学臨床心理学研究』掲載論文（原著、展望、短報でも可、ただし第1著者に限る）とすることを認める。
- (4) 論文博士であっても、立教大学文学研究科または現代心理学研究科の博士課程後期課程に3年以上在籍した後退学した人が、退学後3年以内に博士学位申請論文を提出した場合は、(3)の特例を認める。
- (5) 掲載が決定していれば、未刊行の論文を研究業績として扱うことができる。
- (6) (1)～(5)に規定する研究業績は、博士学位申請論文の内容と関連しているものであることを要する。

【映像身体学専攻】

博士学位申請に関する内規で定めるとおりとする。

2. 申請前の予備手続き

博士学位申請者は、新座キャンパス学部事務5課（7号館1階）に論文を提出する14日以上前までに、履歴書、業績リスト、論文要旨を指導教員に提出しなければならない。申請者は、業績要件を満たすためにカウントする論文について、その掲載誌と別刷を提示することが必要である。専攻会議では、資格予備審査を行い、審査委員会構成案（主査1名、副査2名以上）を決定する。

3. 博士論文

- (1) 博士（課程博士）の学位取得を希望するものは、博士の学位論文申請（課程博士）を新座キャンパス学部事務5課（7号館1階）に提出しなくてはならない。
- (2) 学位申請論文（課程博士）は後期課程3年次末までに5学期分の研究指導を終了している者が提出することを原則とする。最長在学年度内に提出しない場合には、博士（課程博士）の学位の取得は認められない。
- (3) 学位授与は3月と9月の年2回行われる。ただし、審査が翌学期に及ぶ場合もある。

学位の授与を希望する時期	申請期限（論文提出期限）
2018年3月	2017年11月末まで※1
2018年9月	2018年4月末まで※2

以下（※1、2）は2018年3月末までの特例措置とし、2018年度以降は廃止とする。

※1 2017年9月19日をもって在学年数6年（最長在学年数は「8 最長在学年数、休学・退学などに関する事項」を参照）となり2017年9月20日以降在籍することができない者については、2017年9月19日までに論文を提出し、退学後に学位授与が決定した場合の学位は課程博士とする。

※2 2018年3月末日をもって在学年数6年（最長在学年数は「8 最長在学年数、休学・退学などに関する事項」を参照）となり2018年4月以降在籍することができない者については、2018年3月末までに論文を提出し、退学後に学位授与が決定した場合の学位は課程博士とする。

- (4) 学位申請論文（課程博士）の提出の手続きは立教大学博士学位申請手続要領の定めるところによる。
- (5) 本学大学院後期課程に3年以上在学して退学した者が、博士の学位の授与を申請する場合には、論文博士の規定（立教大学学位規則第4条第3項）に従う。
- (6) 現代心理学研究科において受理を認められた博士学位申請論文は、「立教大学学位規則」に則り、主査1名、副査2名以上の審査委員からなる審査委員会により審査される。学位審査の厳格性を確保するため、副査のうち1名は関連分野の本学専任教員とし、1名は関連分野の専門家とする。また、学位審査の客観性を確保するため、学位申請者との最終試験は、公開とする。
- (7) 博士論文の審査は次の基準にもとづいて行う。

〈心理学専攻〉

1. 研究テーマが明確で学術上の意義があること
2. 論文構成が適切で、論旨が論理的に展開されていること
3. 問題提起と実験、調査、事例などに基づく研究成果、理論的考察と明確な結論をそなえた研究であること
4. 当該研究分野において独創的な学術的貢献をなしていること
5. 研究に対して倫理的配慮がなされていること
6. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

〈臨床心理学専攻〉

1. 研究テーマが明確で専門的かつ独創的であり、臨床心理学において独創的な学術的貢献をなしていること
2. 研究テーマが臨床心理学の実践に基礎的、あるいは応用的な貢献をするものであること
3. 論文の構成が適切で、論旨展開が論理的に明晰であること
4. 問題提起と実験、調査、事例などに基づく研究成果、理論的考察と明確な結論をそなえた研究であること
5. 研究に対して高い倫理性を有していること
6. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

〈映像身体学専攻〉

1. 研究テーマが明確で専門的かつ独創的であること
2. 研究内容と方法が適切で専門的であること
3. 論文の構成が適切で、論旨展開が論理的に明晰であること
4. 使用する文献の引用が明確で適切であること
5. 当該研究分野において独創的な学術的貢献をなしていること
6. 研究において立教大学研究活動行動規範を遵守していること

4. 審査スケジュール（目安）

	3月授与予定者	9月授与予定者
申請前予備手続き	10月中～下旬	2月中～下旬
資格予備審査	11月上旬	3月上旬
博士論文提出	11月中～下旬	4月中～下旬
審査委員会発足	11月下旬	4月下旬
第1回審査委員会	～12月上旬	～5月上旬
第2回審査委員会	～12月中旬	～5月下旬
博士学位申請論文公開審査会	～1月上旬	6月上～中旬
第3回審査委員会	～1月上旬	～6月下旬
学位授与予備審査 (専攻会議、主任会)	1月中～下旬	6月下旬～7月上旬
学位授与審査 (研究科委員会、大学院委員会)	1月中旬～2月中旬	7月上～下旬

7 試験・成績

- (1) 各学期の研究指導の結果については、下記のとおり表し、成績参照システムに発表する。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

〈各学期の研究指導の結果〉

各学期の研究指導	成績通知の表示	証明書の表示
終了	認	認
未終了	不	表示されない
Q 注)	Q	表示されない

注) 成績確定前に、休学したものおよび在学留学したもの

〈各学期の研究指導の結果発表〉

春学期：2017年9月5日(火)

秋学期：2018年3月13日(火)

* 研究指導の結果発表には、当該年度の全科目（学部・講座・前期課程科目を含む）の成績と研究指導の結果、および過年度の合格（認定）科目についても記載されている。

(2) 博士課程前期課程の科目を履修した場合、その科目の試験・成績については、「現代心理学研究科博士課程前期課程履修規定その他注意事項－4 試験・成績」を参照すること。

8 最長在学年数、休学・退学などに関する事項

1. 最長学年数
博士課程後期課程における最長在学年数は、6年とする。
* 休学した期間は在学年数に算入されない。
2. 休学・退学・など
休学、退学、復学、および再入学については、「大学院学則第4章」および「Ⅷ. 学生証・学籍・学費」を参照すること。

9 オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれ専任教員が、主として担当する授業に関する質問や勉学の相談等に応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に研究室で待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室を訪ね質問することができる。

※兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間帯を利用し質問すること。

オフィスアワーの時間帯は履修要項の「教員一覧」参照すること。

心理学専攻（博士課程後期課程）

1. 研究指導について

心理学専攻は、原則として学生の希望に基づき、1年次春学期中に指導教員1名を選定し、あわせて指導教員と協議の上、副指導教員を選定する。指導教員および副指導教員は、学生の在学期間中、継続して協力して研究指導を担当する。

副指導教員の選定について、「研究計画書」に指導教員の氏名を、「副指導教員届」に副指導となることを希望する教員氏名を記入し、それぞれ定められた期間に心理学科教育研究支援室に届け出ることとする。なお、副指導教員の決定については、届出をもとに専攻において審議し、伝達することとする。

研究の一貫性の観点からは、後期課程3年間は同一の教員の指導を受けることが望ましい。しかし、教員側の事情または学生側の事情により、指導教員を変更することもある。例えば、教員の退職、研究休暇、学生本人の休学留学、研究関心や領域の変化などの事由である。

各指導教員は、論文提出に関する諸規定等を踏まえ、担当する学生に対して年間を通して研究上の個別の指導と助言を行う。

また、一年に一度、研究報告会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

研究指導担当予定の教員とその専攻領域は下表のとおりである。

2. 研究指導担当 予定の教員・ 研究指導領域・ 研究指導概要

研究指導担当 コード	教員名	専攻領域
WW101	芳賀 繁	産業心理学, 交通心理学, 人間工学
WW102	堀 耕 治	学習心理学, 実験的行動分析
WW104	大野 久	発達心理学 (青年期), 人格心理学
WW105	大石 幸二	応用行動分析学, 障害児(者)心理学
WW106	日高 聡太	知覚心理学, 実験心理学, 認知心理学
WW107	小口 孝司	社会心理学, 産業・組織心理学, 観光(社会)心理学
WW108	都築 誉史	認知心理学, 社会心理学, 認知科学

なお、研修指導のナンバリングはPSY7910である。

臨床心理学専攻（博士課程後期課程）

1. 研究指導について

学生は、入学後すみやかに、研究指導を希望する教員と面談して指導教員を決定し、指導教員と協議の上、1年次の春学期中に副指導教員を選定する。指導教員および副指導教員は、学生の在学期間中、継続して協力して研究指導を担当する。

副指導教員の選定について、「研究計画書」に指導教員の氏名を、「副指導教員届」に副指導となることを希望する教員氏名を記入し、それぞれ定められた期間に心理学科教育研究支援室に届け出ることとする。なお、副指導教員の決定については、届出をもとに専攻において審議し、指導教員から担当する学生に対して個別に伝達することとする。

研究の一貫性の観点からは、後期課程3年間は同一の教員の指導を受けることが望ましい。しかし、教員側の事情または学生側の事情により、指導教員を変更することもある。例えば、教員の退職、研究休暇、学生本人の休学留学、研究関心や領域の変化などの事由である。

各指導教員は、論文提出に関する諸規定等を踏まえ、担当する学生に対して年間を通して研究上の個別の指導と助言を行う。

また、一年に一度、研究報告会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

研究指導担当予定の教員とその専攻領域は下表のとおりである。

2. 研究指導担当 予定の教員・ 研究指導領域・ 研究指導概要

研究指導担当 コード	教員名	専攻領域
WX101	林 もも子	臨床心理学, 精神分析学
WX102	逸見 敏郎	カウンセリング, 人格心理学
WX103	松永 美希	臨床心理学, 認知行動療法, 健康心理学
WX104	山田 哲子	臨床心理学, 家族心理学, 家族療法
WX106	塚本 伸一	発達心理学, 教育心理学
WX107	山中 淑江	臨床心理学, カウンセリング

なお、研修指導のナンバリングはCLP7910である。

映像身体学専攻（博士課程後期課程）

1. 研究指導について

学生は、入学時点において、研究指導を受ける指導教員1名を選定する。

研究一貫性の観点からは、後期課程3年間は同一の教員の指導を受けることが望ましい。しかし、教員側の事情または学生側の事情により、指導教員を変更することもある。例えば、教員の退職、研究休暇、学生本人の休学留学、研究関心や領域の変化などの事由である。

各指導教員は、論文提出に関する諸規定等を踏まえ、担当する学生に対して年間を通して研究上の個別の指導と助言を行う。

また、一年に一度、研究報告会を開催し、研究指導教員全員が共同で研究指導を行う。

研究指導担当予定の教員とその専攻領域は下表のとおりである。

2. 研究指導担当 予定の教員・ 研究指導領域・ 研究指導概要

研究指導担当 コード	教員名	専攻領域
WY101	香山リカ	臨床精神医学, 病跡学
WY102	大山載吉	映像身体論, 哲学, 表象文化論
WY103	万田邦敏	劇映画演出
WY104	加藤千恵	中国身体論, 道教
WY105	中村秀之	映画学, 文化社会学, 表象文化論
WY106	佐藤一彦	次世代デジタルコンテンツの制作手法の開発
WY107	篠崎誠	映像作品演出
WY108	田崎英明	現代思想, ジェンダー/セクシュアリティ理論
WY109	松田正隆	戯曲・シナリオ創作, 演劇・パフォーマンス研究
WY110	江川隆男	西洋近代哲学, 現代思想, 精神と身体の哲学, 身体倫理学
WY111	日高優	映像身体学, 写真研究, 表象文化論

なお、研修指導のナンバリングはBEC7910である。

諸規則

- 1 立教大学学則（抜粋）
- 2 立教大学大学院学則（抜粋）
- 3 立教大学学位規則（抜粋）
学位規則第3条第4項に関する諒解事項
- 4 現代心理学部専門教育科目試験規則
- 5 立教大学博士学位申請手続要領（抜粋）
- 6 博士学位論文取扱い事務に関する内規（抜粋）
- 7 立教大学大学院学位論文審査手数料規則
- 8 立教大学大学院学費その他納入金内規
- 9 立教大学大学院学生会発表奨励金規程
- 10 学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学学生交流に関する覚書
- 11 明治大学、立教大学及び国際大学による共同教育プログラムの履修等に関する覚書

1 立教大学学則（抜粋）

第1章 総則

第1条 本大学は、キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし、学校教育法により学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めることを目的とする。

2 学部ごとの、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表7のとおりとする。

第2条 本大学に学部及び大学院を置く。

第3条 略

第4条 1年次から同一学部・学科・専修に在学する者の修業年限は4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。

2 2年次に編入学又は転部・転科した者の当該学部・学科の修業年限は3年とする。ただし、在学年数は7年を超えることができない。

3 3年次に編入学又は転部・転科・専修した者の当該学部・学科・専修の修業年限は2年とする。ただし、在学年数は6年を超えることができない。

第5条 1年次から同一学部・学科・専修に4年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

2 2年次に編入学又は転部・転科した場合、当該学部・学科に3年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

3 3年次に編入学又は転部・転科・専修した場合、当該学部・学科・専修に2年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

4 学部・学科において授与する学士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

学 部	学 科	専攻分野名
文 学 部	キリスト教学科	文学
	史学	
	教育学	
	文学	文学
		学術
経 済 学 部	経済学科	経済学
	会計ファイナンス学科	
	経済政策学科	
理 学 部	数 学 科	理学
	物 理 学 科	
	化 学 科	
	生 命 理 学 科	
社 会 学 部	社会学科	社会学
	現代文化学科	
	メディア社会学科	
法 学 部	法 学 科	法学
	政治学科	政治学
	国際ビジネス法学科	法学
観 光 学 部	観 光 学 科	観光学
	交 流 文 化 学 科	
コミュニティ福祉学部	福 祉 学 科	コミュニティ福祉学
	コミュニティ政策学科	
	スポーツウエルネス学科	スポーツウエルネス学
経 営 学 部	経 営 学 科	経営学
	国 際 経 営 学 科	
現 代 心 理 学 部	心 理 学 科	心理学
	映 像 身 体 学 科	映像身体学
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	異文化コミュニケーション学

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第7条 学年を分けて次の2期とする。

春学期 4月1日から9月19日まで

秋学期 9月20日から翌年3月31日まで

第8条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律で規定する休日
 - (3) 本大学創立記念日 5月5日
 - (4) 春季休業 2月上旬から3月下旬まで
 - (5) 夏季休業 7月下旬から9月中旬まで
 - (6) 冬季休業 12月下旬から翌年1月上旬まで
- 2 前項の休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることがある。

第2章 教育課程

第1節 単位

第9条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第10条 学生は、第13条から第18条の6に定める所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

2 授業科目は、全学共通科目及び専門教育科目は配当年次の指定科目を除き全年度において履修させる。

第10条の2 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

第10条の3 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条第1項及び第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第10条の4 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が本大学に入学する前に、大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が本大学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転部等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第10条の2第1項及び第2項並びに前条第1項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第11条 小学校、中学校、高等学校教諭1種免許状取得希望者は、各学部・学科・専修に配置された教科に関する専門教育科目及び文学部教育学科に配置された小学校、中学校、高等学校教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門教育科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

2、3、4 略

第12条 学芸員の資格を取得しようとする者は、各学部・学科所定の単位のほか、第19条に定められた博物館に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

博物館に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

2 司書の資格及び司書教諭の資格を取得しようとする者は、第19条に定められた図書館に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。図書館に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

3 社会教育主事の資格を取得しようとする者は、第19条に定められた社会教育に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

社会教育に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

第13条～第19条 略

第3章 試験

第20条 削除

第21条 試験は、各授業科目について行い、合格、不合格を定める。

2 試験成績は、100点を満点とし、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。

3 試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与える。

第22条 忌引その他の事由により試験を受けることができなかった者のために、追試験を行うことがある。

第23条 休学中は、試験を受けることができない。

第4章 入学、編入学、休学、復学、退学、再入学及び除籍

第24条 略

第24条の2 立教新座高等学校、立教池袋高等学校及び日本聖公会関係の各高等学校又は本大学の推薦入学者制度の指定を受けた高等学校の卒業生中当該学校長の推薦した者については、第24条の規定にかかわらず選抜試験の一部又は全部を免除することができる。

第25条 2年次以上に編入学又は転部・転科・転専修を許可する者は、別に定める本大学の編入学又は転部・転科・転専修の資格を有し、かつ、本大学で行う選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。

第26条 第24条による入学資格を有しない外国人であつて在外公館の推薦ある者は、審査の上、学修を許可することができる。

2 前項により学修を許可された者は、第5条を除き本学則を準用する。

第27条 入学期は、学年又は学期の初めとする。

2 第50条の2に規定する特別外国人学生の入学期は、各学期の初めとすることができる。

第28条 入学志願者は、入学願書、出身学校長証明の調査書、写真を提出し、かつ、別表2の1若しくは別表2の2による入学検定料を納めなければならない。

第29条 選抜試験に合格した者で本大学に入学しようとするものは、保証人を定め、所定の期日までに保証書を提出し、その他指定された手続をしなければならない。

2 本大学は、前項の手続を完了した者に対して入学を許可する。

第30条 保証人は、本人在学中に係る一切の事項についてその責に任じ、本人の父母又はこれに代わるべき者でなければならない。

第31条 保証人が死亡し又は前条の要件を欠いた時は、遅滞なく新たな保証人を定め更に保証書を提出しなければならない。

第32条 病気その他止むを得ない事由により満2か月以上就学することができないときは、その事実を証明する書面を添え保証人連署をもって願ひ出て許可を受け当該学期間休学することができる。

2 休学中の期間は、在学年数に算入しない。

3 休学回数は、通算して8回を超えることができない。

4 休学者は、第1項により休学した期間終了後、学期の初めにおいて復学する。

第33条 病気その他の事由により退学しようとする場合は、保証人連署をもって願ひ出て許可を受けなければならない。

第34条 願ひにより退学した者が再入学を願ひ出るときは、学年の初めにおいて原年次に入学を許可することができる。

第35条 再入学を許可された者は、第29条に規定する手続をしなければならない。

第36条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

- (1) 第4条各項のただし書きに定める在学年数を超えた者
- (2) 学費を納めない者

第36条の2 入学、編入学、休学、復学、退学及び再入学の許可並びに除籍は、教授会の議を経て、総長が行う。

第5章 留学

第37条 本大学の学生が本大学との間にあらかじめ学生の相互交流を目的とする協定、又は本大学からの留学に関する協定が成立している外国の大学、又はこれに相当する高等教育機関等及び本学が認めた同等の大学、機関の授業科目を履修するため当該大学等への留学を希望するときは、審査の上、本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

2 前項による留学は、本大学における学籍上の扱いを在学のままとする留学（以下在学留学という。）及び休学とする留学（以下休学留学という。）の2種とする。

第38条 在学留学の許可を受けた者については、その許可を受けた期間を本大学における在学年数に算入する。

第39条 在学留学の許可を得た者が、留学した大学等において修得した単位又は成果のうち、教授会が適当と認めたものは、第10条の2第2項に基づき、本大学の卒業に必要な単位として認定することができる。

第40条 第32条の規定は、休学留学のための休学に準用する。

第6章 学費その他

第41条 選抜試験に合格した者で本大学に入学しようとするものは、別表2の3及び別表2の4による学費を指定された入学手続期間内に納めなければならない。

2 学生は、別表2の4による学費を毎学年授業開始後の指定の期日までに納めなければならない。

3 第1項及び第2項に定める学費のうち授業料、教育充実費及び実験・実習費は、春学期・秋学期に分納するものとする。

第42条 学費とは、入学金、授業料（在籍料を含む。）、教育充実費及び実験・実習費をいう。

第43条 学費は、休学中も別に定める額を納めなければならない。

第44条 学年の途中で退学する場合も、学費は別に定める額を納めなければならない。

第45条 すでに納めた学費その他の納入金は、第2項及び第3項に定めた場合を除いて、返還しない。

2 選抜試験に合格し学費その他の納入金を納めた者のうち、止むを得ない事由により、所定の手続に則り入学辞退願を提出した者については、入学金を除く学費その他の納入金を返還するものとする。

3 出願時に卒業見込みや所定単位修得見込みなどで選抜試験に合格し、学費その他の納入金を納めた後に、卒業不可や所定単位未修得などが確定し、入学資格要件を満たすことができなくなった者は、届け出により入学金を含む学費その他の納入金を返還するものとする。

第46条 在学中の学費その他について変更のあった場合には、新たに定められた額に基づいて納めなければならない。

第47条 教育職員免許取得に必要な教職に関する専門科目及び学芸員・司書・司書教諭・社会教育主事の資格取得に必要な科目を履修する者は、別表3による受講料を納めなければならない。

第48条 削除

第49条 証明書等の交付を受ける者は、別表5による手数料を納めなければならない。

第50条 学費滞納者には、当該年次の単位認定、研究指導の認定及び学位の授与を行わない。

第6章の2 特別外国人学生

第50条の2 本大学と協定のある外国の大学から派遣される学生及び政府その他の機関から本大学に委託される外国人学生は、審査の上、特別外国人学生として入学を許可することができる。

第50条の3 入学を許可された特別外国人学生は、所定の手続をし、かつ、別に定める納入金を納めなければならない。

第50条の4 特別外国人学生が履修した授業科目については、所定の単位を与えることができる。

第50条の5 特別外国人学生については、第5条を除き本学則を準用する。

第7章 科目等履修生・特別聴講学生

第51条 各学部及び全学共通科目所定の授業科目中その1授業科目又は数授業科目の学修を願ひ出る者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することができる。

2 教職課程、学芸員課程、司書課程及び社会教育主事課程の所定の授業科目の学修を願ひ出る者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することができる。

3 科目等履修生として学修を願ひ出る者は、別表6による選考料を納めなければならない。

4 科目等履修生が、その履修した授業科目に合格した場合には、所定の単位を与える。

第51条の2 本大学と協定のある他大学学生及び他の教育機関の学生・生徒が、本大学の授業科目の学修を願ひ出るときは、特別聴講学生として許可することができる。

2 特別聴講学生が、その聴講した科目に合格した場合には、所定の単位を与える。

第52条 第51条第1項及び第2項で科目等履修生として学修を許可された者は、別表6による登録料及び受講料を指定された期間内に納めなければならない。

第53条 削除

第54条 科目等履修生、特別聴講学生については、第5条を除き本学則を準用し、第51条、第51条の2及び第52条で規定した以外の事項については別に定める細則による。

第8章 賞罰

第55条 品行方正学業優等の者又は善行により本大学の名誉を揚げた者は、これを表彰する。

第56条 本大学の規則に違反し、又は本大学の教育方針に背いた者は、これを懲戒する。

2 懲戒は、訓告、停学及び退学の3種とする。

3 退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 学業を怠り成業の見込みのないと認められる者
- (2) 品行不良で改善の見込みのないと認められる者
- (3) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 停学は、行為により以下の各号が適用される場合がある。

- (1) 停学期間を在学年数に算入しない。
 - (2) 当該年度の卒業を認めない。
- 5 停学中は以下の各号が適用される。
- (1) 停学中は、大学からの指示がある場合を除き、原則として大学に来ることはできない。
 - (2) 当該科目の授業時数の2分の1以上の期間にわたって停学であった場合は、当該科目の単位修得は認められない。
 - (3) 停学中は休学を願ひ出ることではない。
 - (4) 停学中は第37条による留学はできない。

第57条 賞罰は、教授会の議を経て、総長が行う。

第9章 教職員組織 略

第10章 教授会 略

第11章 附属施設

第1節 礼拝堂

第78条 礼拝堂は、本大学の建学精神の象徴であつて教職員及び学生が日本聖公会の信仰と法憲・法規に基づいてキリスト教生活を営むことを目的とする。

第79条 礼拝堂においては、次の行事を行う。

- (1) 礼拝
- (2) 本学の諸式典
- (3) キリスト教講演
- (4) 聖書研究
- (5) その他のキリスト教行事

第2節 図書館

第80条 本大学図書館は、池袋図書館、新座図書館、及び新座保存書庫をもつて構成する。

第81条～第84条 略

第3節 診療所

第85条 診療所は、教職員並びに学生の保健衛生思想の向上、疾病の予防並びに診療を行うことを目的とする。

第86条 本診療所の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 定時並びに不定時健康診断の実施
- (2) 治療の実施
- (3) 保健衛生に関する講演会の開催
- (4) その他必要と認めた事項

第4節 学生相談所

第88条 学生相談所は、学生が当面する問題について、カウンセリングを行うことを目的とする。

第5節 研究所等

第90条 この大学に、研究所、センターその他の附属教育研究機関（以下「研究所等」という。）を置く。

第91条 前条の研究所等については、別に定める。

附則 略

2 立教大学大学院学則（抜粋）

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学院は、学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に、専門の学術を研究し、その深奥を究め、かつ、キリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与することを目的とする。

2 研究科又は専攻ごとの、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表8のとおりとする。

(課程)

第2条 本大学院は、修士課程、博士課程及び専門職学位課程とする。

2 修士課程は、広い視野に立って清深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業等を担うための卓越した能力を培うものとする。

3 博士課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

4 専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を養うものとする。

(研究科・専攻等)

第2条の2 略

(課程の区分と修業年限)

第3条 本大学院の標準修業年限は、修士課程2年、博士課程5年とし、博士課程は、これを2年の前期課程及び3年の後期課程に区分する。

2 前期課程は、これを修士課程として取り扱う。

3 第1項に関わらず、キリスト教学研究科キリスト教学専攻博士課程前期課程のうち実務の経験を有する者を対象としたコースの標準修業年限は1年とする。

第4条 略

(教育方法の特例)

第4条の2 削除

(修士課程並びに前期課程の修了要件及び修士の学位の専攻分野)

第5条 修士課程又は前期課程に2年以上在学して授業を受け、30単位以上を修得し、かつ、学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を受けた上、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、第3条第3項に規定するコース及び優れた研究業績を上げた者については、修士課程又は前期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の場合において、当該修士課程又は前期課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

3 本大学院において授与する修士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

研究科	専攻	専攻分野名
文学研究科	組織神学専攻	神学
	英米文学専攻	文学
	史学専攻	
	教育学専攻	教育学
	日本文学専攻	文学
	フランス文学専攻	
	ドイツ文学専攻	
	比較文明学専攻	比較文明学
経済学研究科	超域文化学専攻	文学
	経済学専攻	経済学
		会計学
理学研究科	物理学専攻	理学
	化学専攻	
	数学専攻	
	生命理学専攻	
社会学研究科	社会学専攻	社会学
法学研究科	法学政治学専攻	法学 政治学
観光学研究科	観光学専攻	観光学
コミュニティ福祉学研究科	コミュニティ福祉学専攻	コミュニティ福祉学
ビジネスデザイン研究科	スポーツウエルネス専攻	スポーツウエルネス学
21世紀社会デザイン研究科	ビジネスデザイン専攻	経営管理学
異文化コミュニケーション研究科	比較組織ネットワーク学専攻	社会デザイン学
	異文化コミュニケーション専攻	異文化コミュニケーション学
経営学研究科	言語科学専攻	
	経営学専攻	経営学
	国際経営学専攻	国際経営学 公共経営学

現代心理学研究科	心理学専攻	心理学
	臨床心理学専攻 映像身体学専攻	臨床心理学 映像身体学
キリスト教学研究科	キリスト教学専攻	神学
		文学
		実践神学

(博士課程の修了要件及び博士の学位の専攻分野)

第6条 博士課程に5年（修士課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については博士課程に3年（修士課程を修了した者にあつては当該課程における2年の在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。

2 標準修業年限が1年以上2年未満の修士課程を修了した者、及び前条第1項のただし書きの規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了要件は、博士課程に修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については博士課程に3年（修士課程における在学期間を含む）以上在学すれば足りるものとする。

3 専門職学位課程を修了した者が博士課程の後期課程に入学した場合は、博士課程後期課程に3年（法科大学院の課程を修了した者にあつては2年）以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については、博士課程後期課程に1年（標準修業年限が1年以上2年未満の専門職学位課程を修了した者については、博士課程の3年から当該専門職学位課程の標準修業年限を減じた期間）以上、在学すれば足りるものとする。

4 前3項の規定にかかわらず、第20条第5号の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士課程後期課程に入学した場合は、博士課程後期課程に3年以上在学し、研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、優れた研究業績をあげた者については博士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

5 前4項の規定にかかわらず、本大学院の博士課程を経ないで論文を提出し博士の学位を請求した者で、論文の審査及び最終試験に合格し、かつ、専攻学術に関し、前4項の規定により本大学院の博士課程を修了した者と同様に広い学識を有することを確認された者に、博士の学位を授与することができる。

6 本大学院において授与する博士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

研究科	専攻	専攻分野名
文学研究科	組織神学専攻	神学
	英米文学専攻	文学
	史学専攻	
	教育学専攻	教育学
	日本文学専攻	文学
	フランス文学専攻	
	ドイツ文学専攻	
	比較文明学専攻	比較文明学
経済学研究科	超域文化学専攻	文学
	経済学専攻	経済学
		会計学
理学研究科	物理学専攻	理学
	化学専攻	
	数学専攻	
	生命理学専攻	
社会学研究科	社会学専攻	社会学
法学研究科	法学政治学専攻	法学 政治学
観光学研究科	観光学専攻	観光学
コミュニティ福祉学研究科	コミュニティ福祉学専攻	コミュニティ福祉学
ビジネスデザイン研究科	スポーツウエルネス専攻	スポーツウエルネス学
21世紀社会デザイン研究科	ビジネスデザイン専攻	経営管理学
異文化コミュニケーション研究科	比較組織ネットワーク学専攻	社会デザイン学
	異文化コミュニケーション専攻	異文化コミュニケーション学
経営学研究科	言語科学専攻	
	経営学専攻	経営学
	国際経営学専攻	国際経営学 公共経営学

現代心理学研究科	心理学専攻	心理学
	臨床心理学専攻	臨床心理学
キリスト教学研究科	映像身体学専攻	映像身体学
	キリスト教学専攻	神学
		文学

(学位論文等の審査及び試験)

第7条 学位論文及び特定の課題についての研究の成果の審査並びに最終試験等については、別に定める。

(最長在学年数)

第8条 本大学院における最長在学年数は、修士課程及び前期課程にあっては4年、後期課程にあっては6年とする。

(研究室)

第9条 本大学院の目的を達成し、学生の研究指導を行うため、各研究科にその専攻部門に応じて研究室を置く。

2 研究室に関する規程は、別にこれを定める。

(学年及び学期)

第10条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を分けて次の2期とする。

春学期 4月1日から9月19日まで

秋学期 9月20日から翌年3月31日まで

(休業日)

第11条 休業日は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律で規定する休日

(3) 本大学創立記念日 5月5日

(4) 春季休業 2月上旬から3月下旬まで

(5) 夏季休業 7月下旬から9月中旬まで

(6) 冬季休業 12月下旬から翌年1月上旬まで

2 前項の休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることがある。

第2章 教育課程

(教育方法)

第12条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

(教育方法の特例)

第12条の2 次の研究科に、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う修士課程及び博士課程を置き、次の専攻を置く。

経済学研究科 経済学専攻 前期課程

観光学研究科 観光学専攻 前期課程

ビジネスデザイン研究科

ビジネスデザイン専攻 博士課程

21世紀社会デザイン研究科

比較組織ネットワーク学専攻 博士課程

異文化コミュニケーション研究科

異文化コミュニケーション専攻 後期課程

(履修方法等)

第13条 各研究科における授業科目及び単位数並びに研究指導等の履修方法は、各研究科において定め、別表1のとおりとする。

(単位の認定)

第14条 授業科目を履修した者に対しては、試験の上、その合格者に所定の単位を与える。

(他大学院等における授業科目の履修及び研究指導)

第15条 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、本学の平和・コミュニティ研究機構及び他大学院とあらかじめ協議の上、同機構及び当該大学院の授業科目を履修させることができる。

2 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に、他大学院において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学院に入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 各研究科において教育研究上有益と認めるときは、他大学院等とあらかじめ協議の上、後期課程の学生が当該大学院等において研究指導を受けることを認めることができる。

4 第1項及び第2項の規定により修得した授業科目の単位は、合わせて10単位を超えない範囲で本大学院博士課程前期課程又は修士課程の修了に必要な単位数に算入することができる。

第15条の2 略

第3章 教員組織 略

第4章 入学、休学、復学、再入学、退学、及び除籍

(修士課程及び前期課程への入学)

第19条 修士課程又は前期課程に入学を許可する者は、次の各号の一に該当

し、かつ、選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構において、学士の学位を取得した者

(3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

(5) 日本国内において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6) 外国の大学等(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上の課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該課程を修了することおよび当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者

(7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(8) 文部科学大臣の指定した者

(9) 本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したもの

(後期課程への進学又は編入学)

第20条 後期課程に進学又は編入学を許可する者は、次の各号の一に該当し、かつ、選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。

(1) 修士の学位を有する者

(2) 専門職学位を有する者

(3) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修し、修士学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(5) 日本国内において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(6) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

(7) 外国の学校、学校教育法施行規則第156条第3号の指定を受けた教育施設または国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(8) 文部科学大臣の指定した者

(9) 本大学院において、修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したもの

(入学の時期)

第21条 入学の時期は、学年又は学期の初めとする。

2 第36条の2に規定する特別外国人学生の入学期は、各学期の初めとすることができる。

(入学志願手続)

第22条 入学志願者は、別表2による入学検定料を納入し、所定の手続をしなければならない。

(入学手続)

第23条 選抜試験に合格した者で本大学院に入学しようとするものは、保証人を定め、所定の期日までに保証書を提出し、その他指定された手続をしなければならない。

2 本大学院は、前項の手続を完了した者に対して入学を許可する。

(休学及び退学等)

第24条 病気その他の事由によって休学又は退学しようとする者は、保証人連署をもって願い出て、許可を受けなければならない。

2 休学の期間は、当該学期間とし在学年数に算入しない。

3 休学回数は、通算して修士課程及び博士課程前期課程は4回、博士課程後期課程は6回を超えることができない。

4 休学者は、第2項により休学した期間終了後、学期の初めにおいて復学する。

5 第1項により退学した者が再入学を願い出たときは、学年又は学期の初めにおいて許可することができる。再入学を許可された者は、前条に規定する手続をしなければならない。

(除籍)

第25条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

(1) 第8条に規定する最長在学年数を超えた者

(2) 学費を納めない者

第25条の2 入学、休学、復学、再入学及び退学の許可並びに除籍は、研究科委員会の議を経て、総長が行う。

第5章 留学

第26条 本大学院の学生が本大学院との間にあらかじめ学生の相互交流を目的とする協定、又は本大学院からの留学に関する協議が成立している外国の大学、又はこれに相当する高等教育機関等及び本学が認めた同等の大学、機関の授業科目を履修し、又は研究指導を受けるため当該大学等への留学を希望するときは、審査の上、本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

2 前項による留学は、本大学院における学籍上の扱いを在学のままとする留学（以下在学留学という。）及び休学とする留学（以下休学留学という。）の2種とする。

第27条 在学留学の許可を受けた者については、その許可を受けた期間を本大学院における在学年数に算入する。

第28条 在学留学の許可を得た者が、留学した大学等において修得した単位又は成果のうち、研究科委員会が適当と認めたものは、本大学院の課程の修了に必要な単位として認定することができる。ただし、認定し得る単位数は、10単位を限度とする。

第29条 第24条の規定は、休学留学のための休学に準用する。

第6章 学費その他

第30条 選抜試験に合格した者で本大学院に入学しようとする者は、別表3の1及び別表3の2による学費を指定された入学手続期間内に納めなければならない。

2 学生は別表3の2による学費を毎学年授業開始後の指定の期日までに納めなければならない。

3 第1項及び第2項に定める学費のうち授業料、教育充実費及び実験・実習費は、春学期・秋学期に分納するものとする。

4 学費とは、入学金、授業料（在籍料を含む。）、教育充実費及び実験・実習費をいう。

第31条 学費は、休学中も別に定める額を納めなければならない。

第32条 学年の途中で退学する場合も、学費は別に定める額を納めなければならない。

第33条 すでに納めた学費その他の納入金は、第2項及び第3項に定めた場合を除いて、返還しない。

2 選抜試験に合格し学費その他の納入金を納めた者のうち、止むを得ない事由により、所定の手続きに則り入学辞退願を提出した者については、入学金を除く学費その他の納入金を返還するものとする。

3 出願時に卒業見込みや所定単位修得見込みなどで選抜試験に合格し、学費その他の納入金を納めた後に、卒業不可や所定単位未修得などが確定し、入学資格要件を満たすことができなくなった者は、届け出により入学金を含む学費その他の納入金を返還するものとする。

第34条 在学中の学費その他について変更があった場合には、新たに定められた額に基づいて納めなければならない。

第35条 証明書等の交付を受ける者は、別表4による手数料を納めなければならない。

第36条 学費滞納者には、当該年次の単位認定、研究指導の認定及び学位の授与を行わない。

第6章の2 特別外国人学生

(特別外国人学生)

第36条の2 本大学院と協定のある外国の大学から派遣される学生及び政府その他の機関から本大学院に委託される外国人学生は、審査の上、特別外国人学生として入学を許可することができる。

第36条の3 入学を許可された特別外国人学生は所定の手続きをし、かつ、別に定める納入金を納めなければならない。

(単位の認定)

第36条の4 特別外国人学生が履修した授業科目については、所定の単位を与えることができる。

(学則の準用)

第36条の5 特別外国人学生については、第5条及び第6条第1項から第4項までを除き本学則を準用する。

第7章 特別聴講学生、科目等履修生、研究生、研修生

(特別聴講学生)

第37条 本大学院と単位互換制度の協定のある他大学院学生が、本大学院の授業科目の学修又は研究指導を願い出るときは、特別聴講学生として許可することができる。

2 前項により聴講を許可された者は、別表5による特別聴講料を納入し、所定の手続きをしなければならない。

3 特別聴講学生が、その聴講した科目に合格した場合には、所定の単位を与えることができる。

(科目等履修生)

第38条 各研究科所定の授業科目中その1授業科目又は数授業科目の学修を願い出る者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することができる。

2 公共団体又はその他の機関により本大学院の授業科目の学修を委託された

者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することがある。

3 科目等履修生として学修を願い出る者は、別表6による選考料を納めなければならない。

4 科目等履修生として学修を許可された者は、別表6による登録料、受講料及び委託料を納めなければならない。

5 科目等履修生が、その履修した授業科目に合格した場合には、所定の単位を与えることができる。

6 本条で規定した以外の事項については、別に定める細則による。

(単位の認定)

(研究生)

第38条の2 大学院博士課程後期課程の正規の学生の研究に支障のない範囲において、次の者を選考の上、研究生として受け入れを許可することができる。ただし、専任の職務についている者は除くものとする。

(1) 本大学院の博士課程後期課程において所定の研究指導を受け、博士の学位を取得した者で、引き続き研究を希望する者

(2) 本大学院の博士課程後期課程において所定の研究指導を受け、在学6年経過後に退学した者で、引き続き研究を希望する者

2 前項により研究生として受け入れを許可された者は、別表7による登録料を納入し、所定の手続きをしなければならない。

第38条の3 専門職大学院に関しては、別に定める。

(研修生)

第38条の4 本大学院の博士課程前期課程において所定の研究指導を受け、修士の学位を取得し、本大学院の博士課程後期課程への進学を準備をする者を、大学院博士課程前期課程の正規の学生の研究に支障のない範囲において選考の上、研修生として受け入れを許可することができる。

2 前項により研修生として受け入れを許可された者は、別表7による登録料を納入し、所定の手続きをしなければならない。

第39条 削除

(学則の準用)

第40条 特別聴講学生、科目等履修生、研究生及び研修生については、第5条、第6条第1項から第4項までを除き本学則を準用する。

附則

本学則に規定する事項のほかは大学学則を準用する。

3 立教大学学位規則（抜粋）

（目的）

第1条 この規則は、学校教育法第104条第1項から第4項まで並びに昭和28年文部省令第9号学位規則並びに立教大学学則及び立教大学大学院学則に基づき、立教大学（以下「本学」という。）が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

（専攻分野の名称）

第2条 本学の学部・学科において授与する学士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

学部名	学 科	専攻分野名
文 学 部	キリスト教学科	文学
	史学	
	教育学科	文学
経 済 学 部	文 学 科	文学
	経済学科	経済学
	会計ファイナンス学科	
理 学 部	経済政策学科	
	数 学 科	理学
	物 理 学 科	
	化 学 科	
社 会 学 部	生 命 理 学 科	
	社会学科	社会学
	現代文化学科	
法 学 部	メディア社会学科	
	法 学 科	法学
	政治学科	政治学
観 光 学 部	国際ビジネス法学科	法学
	観 光 学 科	観光学
	交 流 文 化 学 科	
コミュニティ福祉学部	福 祉 学 科	コミュニティ福祉学
	コミュニティ政策学科	
	スポーツウエルネス学科	スポーツウエルネス学
経 営 学 部	経 営 学 科	経営学
	国際経営学科	
現 代 心 理 学 部	心 理 学 科	心理学
	映 像 身 体 学 科	映像身体学
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	異文化コミュニケーション学

2 本学大学院において授与する修士及び博士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

研究科名	専攻分野名	
	修 士	博 士
文 学 研 究 科	修士（神学）	博士（神学）
	修士（文学）	博士（文学）
	修士（教育学）	博士（教育学）
	修士（比較文明学）	博士（比較文明学）
経 済 学 研 究 科	修士（経済学）	博士（経済学）
	修士（会計学）	博士（会計学）
理 学 研 究 科	修士（理学）	博士（理学）
社 会 学 研 究 科	修士（社会学）	博士（社会学）
法 学 研 究 科	修士（法学）	博士（法学）
	修士（政治学）	博士（政治学）
観 光 学 研 究 科	修士（観光学）	博士（観光学）
コミュニティ福祉学研究科	修士（コミュニティ福祉学）	博士（コミュニティ福祉学）
	修士（スポーツウエルネス学）	博士（スポーツウエルネス学）
ビジネスデザイン研究科	修士（経営管理学）	博士（経営管理学）
21世紀社会デザイン研究科	修士（社会デザイン学）	博士（社会デザイン学）
異文化コミュニケーション研究科	修士（異文化コミュニケーション学）	博士（異文化コミュニケーション学）

経 営 学 研 究 科	修士（経営学）	博士（経営学）
	修士（国際経営学）	
	修士（公共経営学）	
現 代 心 理 学 研 究 科	修士（心理学）	博士（心理学）
	修士（臨床心理学）	博士（臨床心理学）
	修士（映像身体学）	博士（映像身体学）
キリスト教学研究科	修士（神学）	博士（神学）
	修士（文学）	博士（文学）
	修士（実践神学）	

3 本学専門職大学院において授与する学位を次のとおりとする。

研究科名	学位名
法務研究科	法務博士（専門職）

（学位授与の要件）

第3条 本学を卒業した者には、本学学則第5条第1項、第2項及び第3項の定めるところにより、前条所定の学士の学位を授与する。

2 本学大学院の修士課程又は前期課程を経た者には、本学大学院学則第5条第1項および第2項の定めるところにより、前条所定の修士の学位を授与する。

3 本学大学院の後期課程を経た者には、本学大学院学則第6条第1項から第4項までの定めるところにより、前条所定の博士の学位を授与する。

4 本学大学院の後期課程を経ない者には、本学大学院学則第6条第5項の定めるところにより、前条所定の博士の学位を授与する。

5 本学専門職大学院の専門職学位課程を経た者には、本学専門職大学院学則第5条第1項の定めるところにより、前条所定の学位を授与する。

（学位申請論文の提出）

第4条 修士の学位申請論文（以下「論文」という。）は、各研究科の定めるところにより、総長に提出するものとする。

2 本学大学院の後期課程に在学する者が、博士の学位の授与を申請するときは、学位申請書、研究業績一覧、論文の要旨、履歴書及び別に定める論文審査手数料を添えて、論文を総長に提出するものとする。

3 本学大学院の後期課程を経ない者が、博士の学位の授与を申請するときは、学位申請書、研究業績一覧、論文の要旨、履歴書及び別に定める論文審査手数料を添え、学位の専攻分野名を指定して論文を総長に提出するものとする。

4 本学大学院の後期課程に3年以上在学して退学した者が、博士の学位の授与を申請する場合は、前項の規定によるものとする。

5 総長は、学位の授与の申請が前4項のうちの1項に規定する要件を具備するときは、これを受理する。受理した申請は原則として、その取下げを認めない。

6 本条第1項、第2項及び第3項の規定により提出した論文並びに論文審査手数料は、返還しない。

7 大学院学則第5条第2項で定める「特定の課題についての研究成果」は、本規則及び本条第1項の規定を準用する。

（論文）

第5条 前条の規定により提出する主論文は1篇とし、修士の学位申請の場合は1部、博士の学位申請の場合は、PDF版1部・くみ製本版3部を提出することを原則とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

2 審査のため必要があるときは、審査委員会は、参考論文、論文の訳文、模型又は標本等の審査資料を提出させることができる。

（論文の審査付託）

第6条 第4条第5項の規定により学位論文が受理されたときは、総長は、申請された学位に該当する研究科委員会にその論文の審査を付託する。

（審査委員会）

第7条 前条の規定により論文の審査を付託された研究科委員会は、申請された学位に該当する専攻の教員を含む3名以上からなる審査委員会を設ける。

2 審査委員会は、主査1名と複数の副査により構成する。

3 審査委員会は、審査のため必要があると認めるときは、研究科委員会の議を経て、論文に関連する専門の教員等を審査委員会の副査に加えることができる。

4 審査委員会の主査は、申請された学位に該当する専攻に所属する教員から選出する。ただし、募集を停止した専攻においては別に定める。

（論文の審査及び試験）

第8条 審査委員会は、論文の審査並びに最終試験を行う。

2 最終試験は、論文、それに関連する科目並びに2種類の外国語について口頭又は筆答によって行う。

3 審査委員会は、論文の審査の結果、その内容が著しく不良であると認めるときは、最終試験を行わない。

4 第3条第4項による審査の場合は、本条第2項の外に専攻学術に関し本学大学院後期課程を経て学位を授与された者と同様の学識を有することを認定しなければならない。

(試験の免除)

第9条 第4条第1項、第2項及び第4項の規定により学位を申請する者は、前条第2項に規定する外国語の試験を免除する。

(審査期間)

第10条 審査委員会は、修士の学位についてはその学期末までに、博士の学位については、申請受理後1年以内に、それぞれ論文の審査及び最終試験を終了しなければならない。ただし、博士の学位については、特別の事由のあるときは、研究科委員会の議を経て、その期間をさらに1年以内に限り延長することができる。

(審査委員会の報告)

第11条 審査委員会の主査は、論文の審査並びに最終試験を終了したときは、ただちに論文の内容の要旨、論文審査の要旨及び最終試験の結果の要旨に学位授与の可否の意見を添え、研究科委員会に文書で報告しなければならない。ただし、必要に応じて副査の1名に文書の起草を依頼することができる。

2 審査委員会は、第8条第3項の規定にしたがって最終試験を行わなかった場合は、その旨を研究科委員会に文書で報告しなければならない。

(研究科委員会の審議)

第12条 研究科委員会は、前条の報告に基づいて審議し、第3条第2項及び第3項によるものについては、本学大学院学則の定めるところにより、それぞれ学位授与の可否、第3条第4項によるものについては、その論文及び最終試験の合否並びに博士の学位授与の可否について議決をする。

2 前項の議決は、委員全員の3分の2以上の出席を必要とし、出席委員の4分の3以上の賛成がなければならない。ただし、公務又は出張のため出席することができない委員は、委員の数に算入しない。

(研究科委員長の報告)

第13条 研究科委員会が前条の議決をしたときは、その研究科委員長は、論文とともに、論文の内容の要旨、論文審査の要旨及び最終試験の結果の要旨に学位授与の可否の意見を添え、文書で総長に報告しなければならない。

第13条の2 削除

(学位授与の決定)

第14条 総長は、前条の報告に基づいて大学院委員会を招集し、その審議を経て学位授与の可否を決定する。

2 大学院委員会において前項の審議の議決をするには、第12条第2項を適用する。

(学位の授与)

第15条 総長は、前条の決定に基づいて学位を授与すべき者には、所定の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(学位論文の要旨等の公表)

第16条 本学は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3か月以内に、その学位論文の内容の要旨及び審査の結果の要旨を「立教大学学術リポジトリ」により公表しなければならない。

(学位論文の公表)

第17条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、その学位論文を「立教大学学術リポジトリ」により公表しなければならない。ただし、既に公表したときは、この限りでない。

2 博士の学位を授与された者は、前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。

この場合、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前項の規定により学位論文を公表する場合は、立教大学審査論文である旨を明記しなければならない。

(学位の名称の使用)

第18条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、本学名を「立教大学学士(〇〇学)」、「立教大学修士(〇〇学)」、「立教大学博士(〇〇学)」又は

「

「	学士(〇〇学)	」
「	修士(〇〇学)	」
「	博士(〇〇学)	」

(立教大学)」のように付記するものとする。

(学位授与の取消)

第19条 学位を授与された者が、その名誉を汚す行為をしたとき、又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、総長は、大学院委員会の議を経て、学位の授与を取消し、学位記を還付させ、かつ、その旨を公表しなければならない。

2 前項の議決をするには、第12条第2項を適用する。

(登録)

第20条 本学において博士の学位を授与したときは、総長は、学位簿に登録し、3か月以内に、別表1の様式による学位(博士)授与報告書を電子メールにより文部科学大臣に提出しなければならない。

(学位記の様式)

第21条 学位記の様式は、別表2のとおりとする。

学位規則第3条第4項に関する諒解事項

立教大学学位規則第3条第4項の規則により学位を申請する者に対しては、外国語については研究科委員会が特別の事由があると認めるときは、1種類若しくは2種類を免除することができる。

4 現代心理学部専門教育科目試験規則

施行 2006年4月1日
改正 2007年2月5日
改正 2008年2月18日
改正 2009年2月18日
改正 2010年2月23日
改正 2011年2月22日
改正 2013年4月1日
改正 2014年4月1日
改正 2015年4月1日
改正 2016年4月1日
改正 2017年4月1日

第1章 総則

(目的)

第1条

この規則は、現代心理学部専門教育科目の試験について定める。

第2章 試験

(試験の種類)

第2条

試験の種類は、定期試験、時間重複特別試験および追試験とする。

(試験の時期・試験場)

第3条

定期試験は、春学期に講義が終了する科目については春学期末（7月中旬～下旬）、秋学期に終了する科目については秋学期末（1月中旬～2月上旬）に行う。

② 時間重複特別試験および追試験は、春学期末、秋学期末の定期試験終了後に行う。

③ 試験の日時および試験場は、その都度現代心理学部掲示板に掲示する。

(試験の方法)

第4条

定期試験の方法は、筆記試験およびレポート試験とする。

② 身体等の障害およびそれに準ずる事由で通常の筆記試験を受験することが甚だしく困難な場合には、筆記試験に代わる方法で定期試験を実施することができる。適用の可否、方法および実施時期等については、担当教員の了解を得て、教授会がこれを決定する。

(受験資格の喪失)

第5条

次の者は、受験資格を失う。

- 1 学生証の不携帯者（ただし、「臨時学生証」所持者を除く）
- 2 履修届未提出者
- 3 当該試験期に休学中・停学中の者
- 4 担当教員のあらかじめ指示した必要要件を欠く者

(出校停止による受験不可)

第5条の2

インフルエンザ、麻疹等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種に罹患中の者は試験を受験することができない。

(時間重複特別試験)

第6条

現代心理学部専門教育科目の試験が、他学部において受験すべき試験と時間的に重複する場合は、他学部の試験を受験するものとし、現代心理学部の専門教育科目の受験は時間重複特別試験で受験するものとする。時間重複特別試験を受験できる者は、第3項に定められた所定の届出をし、受験を許可された者に限る。

② 以下の場合に時間重複特別試験を実施する。

- 1 現代心理学部専門教育科目の定期試験が、他学部において受験すべき試験と時間的に重複するために受験できない者。
- 2 池袋キャンパスとの校地移動時間不足により、新座キャンパスで受験すべき現代心理学部専門教育科目の試験を受験できないと認められた者。

③ 時間重複特別試験に必要な手続きは以下のとおりとする。

- 1 申請：第2項の事由が発生した場合には、当該学期の試験期間開始1週間前までに、所定の試験時間重複特別試験受験申請書を教務事務センターへ提出しなければならない。ただし、試験時間が変更されたことにより第2項の事由が発生した場合には、試験実施日から2日以内に所定の試験時間重複特別試験受験申請書を教務事務センターへ届け出なければならない。
- 2 許可：時間重複特別試験受験の許可は掲示で行う。

④ 時間重複特別試験の施行については、現代心理学部専門教育科目試験規則第7条から第14条までを準用する。

第3章 筆記試験の施行

(受験者の入場)

第7条

受験者は、所定の日の定刻までに試験場の前に集合し、試験監督者の指示に

したがって入場しなければならない。

(学生証の携帯・掲示)

第8条

受験者は、学生証を携帯し、入場の際に試験監督者に提示しなければならない。

② 受験中は学生証を試験監督の見やすい机上に提示しておかなければならない。

(遅刻者)

第9条

遅刻者の入場は認めない。ただし、試験開始後15分以内の遅刻者に限り、試験監督者は入場を許可することがある。

② 交通機関の遅延による遅刻で、交通機関発行の遅延証明書を提出した場合には、試験開始後15分以上経過後も入場を許可することがある。

(座席指定)

第10条

受験者は、座席が指定されている場合には、その指定された座席に着席しなければならない。

(使用許可物)

第11条

教科書、参考書またはノートの類は、その使用が許可されたものを除き、指定の場所に置かなければならない。教科書、参考書またはノートの類の使用が許可された場合にも、試験場に入場した後はそれらを受受してはならない。

② 前項の規定に違反した場合は、当該科目の試験は零点とする。

(発言等の禁止)

第12条

受験者は、試験監督者の許可なくして、発言し、文房具を受受し、また場外に出ることができない。

(受験者の退場)

第13条

受験者は、試験開始後30分間および試験終了前10分間は、退室することができない。

(退室命令)

第14条

試験場においてはすべて試験監督者の指示に従わなければならない。

② 試験監督者の指示に従わない者については、試験監督者は第13条第1項に関わらず退場を命ずることができる。

第4章 追試験

(追試験)

第15条

病気その他やむをえない事由により、定期試験を受験することができなかった者には追試験を行うことがある。

(追試験の受験資格)

第16条

追試験を受験できる者は、定期試験を別表「追試験受験申請書添付書類」に記載されている事由で受験できなかった者に限る。

(追試験の施行科目)

第17条

定期試験の科目に限り、追試験を実施する。

(追試験受験申請書の提出)

第18条

追試験を受験する者は、当該科目の筆記試験実施日の翌日から1週間以内に、別表「追試験受験申請書添付書類」に記載されている書類を添付の上、所定の追試験受験申請書を教務事務センターに提出しなければならない。

② 前項の手続きを行ったものについて、追試験受験の許可は掲示で行う。

③ 別表「追試験受験申請書添付書類」の(2)に該当する者は、追試験受験申請書の提出に先立って、電話で教務事務センターに連絡しなければならない。

④ 別表「追試験受験申請書添付書類」の(1)の事由により期間内に追試験受験申請書を提出できない場合は、提出期間内に電話で教務事務センターに連絡しなければならない。

第19条 削除

第20条 削除

(再試験)

第21条

定期試験において不合格となった科目について再試験は行わない。

第5章 不正行為

(受験資格の喪失)

第22条

受験中不正行為を行ったものは、当該学期の全学共通科目英語単位認定試験、全学共通カリキュラム英語単位認定試験および当該試験期における筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績はすべて不合格になる。

(不正行為者の退場命令)

第23条

試験監督者は、不正行為を発見した場合は、直ちに退場を命ずることができる。

(処分の決定)

第24条

不正行為を行った者の処分は、教授会がこれを決定する。

(処分の種類)

第25条

処分は、訓告、停学、退学の3種類とする。

〈別表：追試験受験申請書添付書類〉

	試験欠席事由	添付するべき証明書類 事由によっては、立教大学が記入用紙を作成する場合がある
(1)	入院またはそれに準ずる登校不能（風邪・下痢等の一時的な疾病は含まない）ただし、必修科目、先修科目については欄外*を参照	入院先機関の発行する入院証明書 ^{注1)}
(2)	インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種の罹患による登校不能 ^{注2)}	医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」 ^{注3)} 、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」 ^{注4)}
(3)	忌引（保証人、配偶者および3親等以内の血族または姻族に限る）(法事は含まない) ^{注5)}	本人と保証人の署名・捺印のある書類（様式は自由、本人との続柄を明記）およびその事実を明らかにするもの（死亡に関する公的証明書もしくは会葬礼状等）
(4)	交通機関の30分以上の遅延	交通機関発行の遅延証明書
(5)	重大な災害による登校不能	官公庁発行の被災証明書
(6)	学校・社会教育講座の各種実習・体験等	実習・体験期間証明書
(7)	就職試験（就職試験の日程が変更できない場合に限る。セミナー、複数企業の合同説明会、OB・OG訪問等は含まない）	本人が受験したことを証明する受験先機関発行の証明書（就職試験の場所、日時を明記、社印が押印されていること）
(8)	他大学大学院入学試験	受験票のコピー
(9)	日本代表としてのスポーツ公式競技への参加	派遣元団体が大学に宛てた公文書
(10)	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭、または裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭の場合、出頭した裁判所で出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」、裁判員に選任された場合、裁判員職務従事期間についての「証明書」
(11)	上記10事項に準ずる事由 ^{注6)}	

* 必修科目、先修科目については、医師の診断書がある病気・けがによる登校不能についても欠席事由とする。

先修科目とは、ある科目を履修するための条件として、先立って単位を修得しておくことが必要な科目をいう。具体的には、科目設置学科の規定を参照すること。

注1) 上記(1)の場合の入院証明書・医師の診断書は、試験を欠席した日の入院・病気・けがを証明する内容であること。

注2) 上記(2)に該当した場合には、速やかに所属キャンパスの教務窓口ご連絡し指示を受けること。なお、罹患中に試験を受験した場合には、その試験は無効となる。

注3) 上記(2)に該当した場合の医師の診断書において、罹患時と治癒時の受診医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合があるので注意が必要である。受診医療機関を変更する場合は、罹患時に受診した医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」を必ず取得しておくこと。こうすることにより、罹患時に取得した「診断書」と治癒時に受診した医療機関が発行する「治癒日と登校可能日の記載がある『診断書』」の2種類をもって「罹患期間についての証明」とすることが可能となる。

注4) 上記(2)に該当した場合の「治癒証明書」の書式は、SPIRIT 教務部ページからダウンロードすること。

注5) 3親等以内の血族または姻族とは次を指す。

血族—父母・子、祖父母・兄弟姉妹・孫、曾祖父母・伯叔父母・甥姪・曾孫

姻族—配偶者の父母・子の配偶者・配偶者の子（配偶者の前婚における子など）、配偶者の祖父母・配偶者の兄弟、姉妹・孫の配偶者・配偶者の孫（配偶者の前婚における孫など）・兄弟姉妹の配偶者、配偶者の曾祖父母・配偶者の伯叔父母・配偶者の甥姪・曾孫の配偶者・配偶者の曾孫（配偶者の前婚における曾孫など）・甥姪の配偶者・伯叔父母の配偶者

注6) 原則として、事前の届出に対して審査を行うので、所属キャンパスによる教務窓口にお問い合わせのこと。

5 立教大学博士学位申請手続要領 (抜粋)

改正 2017年4月1日

1 博士の学位授与を申請する場合は、論文(PDF版1部(媒体自由、PDF/A形式を推奨)、くすみ製本版3部)(原則としてA4判の大きさとする。)に7の申請関係書類(各3部・うち2部はコピー可)を添えて、申請する研究科のあるキャンパスの教務事務センター又は独立研究科事務室に提出すること。

なお、次の研究科の博士学位申請論文については、仮製本の形で提出も可とし、部数については、各研究科で定める。この場合のPDF版の提出は不要とする。

(課程博士の場合)

全ての研究科

(論文博士の場合)

文学研究科、理学研究科、社会学研究科、観光学研究科、コミュニティ福祉学研究科、ビジネスデザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科、現代心理学研究科、キリスト教学研究科

仮製本で提出した申請者は、審査委員会から論文の修正要求があった場合は、指示に従い論文を修正し、修正要求が満たされたと判断された後、PDF版1部(媒体自由、PDF/A形式を推奨)、くすみ製本版(部数は各研究科が指示する)を提出すること。その手続については、各研究科の指示に従うこと。

2 論文(主論文)の表紙には、PDF版、くすみ製本版ともに、論文題目及び申請者名を記入すること。

3 論文が受理された場合は、「立教大学大学院学位論文審査手数料規則」に定める所定の審査手数料を、指示に従って納入すること。

4 最終試験の日時については、学部事務課又は独立研究科事務室から申請者に通知する。

5 学位授与の可否については、教務事務センター又は独立研究科事務室から申請者に通知する。

6 一度納入した論文審査手数料は、返却しない。

7 学位申請関係書類

下記の申請関係書類は、横書きにして、インクは黒又は青を使用し、数字は算用数字を用いること。

(1) 学位申請書

・学位申請書には、申請する学位の専攻分野名及び学位規則第8条第2項により受験する外国語を明記すること。

(2) 論文題目

・主論文の題目が外国語の場合は、日本語訳をつけること。

・参考論文とは審査に当たって参考としてほしい本人の論文をいう。

(3) 論文要旨

・主論文の題目が外国語の場合は、日本語訳をつけること。

・論文要旨は、日本語の場合は4,000字以内、外国語の場合は2,000語以内とする。

(4) 履歴書

・学歴は、高等学校又は同程度の学校の入学から年次を追って記入すること。

・年号は西暦で記入すること。

・本籍地欄は外国人の場合は国籍を記入すること。

(5) 研究業績一覧

(6) 最終学校の卒業(修了)証明書(最終学校が本学の場合及び本学在学学生は不要)

(7) 立教大学学術リポジトリ登録申請書

(注) 学位授与申請後、学位授与までの間に現住所を変更した場合は、すみやかにそのつど申請した研究科のあるキャンパスの教務事務センター又は独立研究科事務室に報告すること。

6 博士学位論文取扱い事務に関する内規 (抜粋)

改正 2017年4月1日

本大学院学則及び学位規則に定めるものの他、学位論文の取扱い事務に関しては、以下のとおりとする。

(提出日)

1 学位申請論文提出期日は、各研究科の定めるところによる。

(受理)

2 ① 学位申請のため提出された関係書類及び論文は、教務事務センターが受理した後、各学部事務課に届ける。

② 各学部事務課は、当該研究科委員長に関係書類及び論文を提示・報告し、指示を受ける。

③ 独立研究科においては、①②とも独立研究科事務室が行う。

(審査)

3 各研究科は、審査委員会を設置し、総長に受理及び審査委員の報告を行う。

4 審査終了後、審査委員会は審査報告書を作成し、各研究科委員会での審議を行う。

5 研究科委員長は、研究科委員会での審議結果を総長に報告し、大学院委員

会での審議を依頼する。

6 大学院委員会の審議結果及び授与式の申請者本人への通知は教務事務センター又は独立研究科事務室が行う。

(授与)

7 博士の学位授与は、3月及び9月とする。

8 学位記の作成は教務事務センターが行う。

(文科省への報告)

9 文部科学省への博士の学位授与報告は独立研究科事務室が行う。

(論文等の保管)

10 ① 博士の学位が授与された者の学位論文については、PDF版とくすみ製本版1部は本学図書館に保管する。くすみ製本版の残りの部数の取り扱いについては各研究科の定めるところによる。

② 学位授与の審査に関する諸関係書類及び学位論文審査報告書は、各1部を学部事務課又は独立研究科事務室で保管する。

7 立教大学大学院学位論文審査手数料規則

改正 2011年4月1日

(目的)

第1条 この規則は、立教大学学位規則に定めるもののほか、立教大学大学院(以下「大学院」という。)修士課程又は博士課程前期課程及び同後期課程を経た者、並びに博士課程後期課程を経ない者が学位申請論文(以下「論文」という。)を提出する場合に納入すべき審査手数料について定める。

2 この規則における論文は、大学院学則第5条第2項で定める「特定の課題についての研究の成果」を含むものとする。

(修士論文)

第2条 大学院修士課程又は博士課程前期課程に在学して、大学院学則第5条に定める所定の単位を修得し終える学期までに論文を提出する場合、審査手数料は無料とする。

2 大学院修士課程若しくは博士課程前期課程に在学して、所定の単位を修得した者が在学2年を超えて、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超えて引き続き在学し、在学4年以内に論文を提出する場合、審査手数料は1万5千円とする。

(博士論文)

一課程博士の場合一

第3条 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終える学期までに論文を提出する場合、審査手数料は無料とする。

2 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、在学3年を超える者が引き続き在学し、在学6年以内に論文を提出する場合、審査手数料は3万円とする。

(博士論文)

一論文博士の場合一

第4条 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた上退学した者が、博士課程後期課程入学後6年以内(休学中の期間を除く。)に論文を提出する場合、審査手数料は4万5千円とする。

2 大学院博士課程後期課程に在学して、大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた上退学した者が、博士課程後期課程入学後6年(休学中の期間を除く。)を経過した後に論文を提出する場合、審査手数料は6万円とする。

3 大学院博士課程後期課程を経ない者が論文を提出する場合、審査手数料を20万円とする。

4 本学専任教職員が論文を提出する場合(第1項及び第2項に該当する場合を除く。)、審査手数料は10万円とする。

8 立教大学大学院学費その他納入金内規

題名改正 2010年4月1日
改正 2014年4月1日

(趣旨)

第1条 この内規は、立教大学大学院（以下「大学院」という。）学則に定めるもののほか、修士課程並びに博士課程前期課程及び同後期課程における当該年次納入すべき学費その他納入金について定める。

(定義)

第2条 この内規において学費とは、授業料（在籍料を含む。）、教育充実費及び実験・実習費をいう。

2 この内規において当該年次とは、4月入学者は当該年度春学期及び秋学期の期間をいい、9月入学者は当該年度秋学期及び翌年度春学期の期間をいう。

(修士課程及び博士課程前期課程のうち4月に入学した者)

第3条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において在学2年を超える者、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超える者が、大学院学則第5条に定める所定の単位修得のため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第5条に定める所定の単位を修得し引き続き秋学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、春学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし9月19日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の単位を修得した者)

第4条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において所定の単位を修得した者が在学2年を超えて、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超えて引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし、9月19日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(修士課程及び博士課程前期課程のうち、9月に入学した者)

第5条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において在学2年を超える者、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超える者が、大学院学則第5条に定める所定の単位修得のため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第5条に定める所定の単位を修得し引き続き翌春学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、秋学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし3月31日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の単位を修得した者)

第6条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院修士課程若しくは博士課程前期課程において所定の単位を修得した者が在学2年を超えて、又は大学院学則第3条第3項に定めるコースにおいて在学1年を超えて引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第5条に定める修了に必要な要件を満たし、3月31日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(博士課程後期課程のうち4月に入学した者)

第7条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院博士課程後期課程において在学3年を超える者で大学院学則第6条に定める研究指導を受けるため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額その他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、引き続き秋学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、春学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし9月19日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の研究指導を受け終えた者)

第8条 4月に入学し、かつ、春学期の始めに大学院博士課程後期課程において大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、在学3年を超える者

が引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、春学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし、9月19日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。ただし、9月19日までに博士学位申請論文が受理され、3月31日に修了した者は、前項の学費の2分の1額及び学位授与までの在籍期間所定の在籍料並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

(4月に入学した者のうち所定の研究指導を受け終えた後学位授与が翌春学期以降に及ぶ者)

第9条 4月に入学し、かつ、大学院博士課程後期課程在学中の者が所定の研究指導を受け終えた後、3月31日までに博士学位申請論文が受理され、その学位授与が翌春学期以降になった場合は、翌春学期から学位授与までの期間の学費として在籍期間に応じ所定の在籍料及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

(博士課程後期課程のうち9月に入学した者)

第10条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院博士課程後期課程において在学3年を超える者で大学院学則第6条に定める研究指導を受けるため引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費の全額その他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、引き続き翌春学期に在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の4分の3額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

3 第1項により在学した者が、秋学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし3月31日に修了した場合は、第1項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。

(同前のうち所定の研究指導を受け終えた者)

第11条 9月に入学し、かつ、秋学期の始めに大学院博士課程後期課程において大学院学則第6条に定める研究指導を受け終えた後、在学3年を超える者が引き続き在学する場合は、当該年次所定の学費のうち授業料の2分の1額、教育充実費及び実験・実習費の全額並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

2 前項により在学した者が、秋学期に大学院学則第6条に定める修了に必要な要件を満たし、3月31日に修了した場合は、前項の学費その他必要な納入金の2分の1額を納入しなければならない。ただし、3月31日までに博士学位申請論文が受理され、9月19日に修了した者は、前項の学費の2分の1額及び学位授与までの在籍期間所定の在籍料並びにその他必要な納入金を納入しなければならない。

(9月に入学した者のうち所定の研究指導を受け終えた後学位授与が翌秋学期以降に及ぶ者)

第12条 9月に入学し、かつ、大学院博士課程後期課程在学中の者が所定の研究指導を受け終えた後、9月19日までに博士学位申請論文が受理され、その学位授与が翌秋学期以降になった場合は、翌秋学期から学位授与までの期間の学費として在籍期間に応じ所定の在籍料及びその他必要な納入金を納入しなければならない。

附則

- 1 この内規は、2010年4月1日から施行する。
- 2 「立教大学大学院授業料に関する申し合わせ事項」(昭和36年4月1日施行)は、廃止する。

附則

この内規は、2011年4月1日から施行する。

附則

この内規は、2014年4月1日から施行する。

9 立教大学大学院学生学会発表奨励金規程

改正 2017年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、立教大学大学院に在籍する学生の学会における発表・報告等（以下「学会発表」という。）を奨励することを目的として支給する立教大学大学院学生学会発表奨励金（以下「奨励金」という。）について定める。

(奨励金の支給制限)

第2条 この奨励金は、支給を申請した学生について年3回に限り支給するものとする。

2 年3回のうち、国内での学会発表に対する申請は2回に限り、海外での学会発表に対する申請は1回に限る。

(支給対象)

第3条 奨励金の支給対象は、次の各号のいずれかでの学会発表とする。

- (1) 学会取扱い規程第3条の手続きにより登録された学術団体が開催する学会
- (2) 前号による登録をしていない学術団体のうち、学会取扱い規程第2条第

1号又は第2号に定める基準に該当するものであって、当該研究科委員会が承認した学術団体が開催する学会

- (3) 海外で開催されるもののうち、前2号に該当しない場合は、当該研究科委員会が前号に準ずるものとして承認した学術団体が開催する学会

(支給額)

第4条 支給額は、学会発表の場所により、次の各号のとおりとする。

- (1) 東京都、神奈川県、埼玉県又は千葉県 一律1万円
- (2) 前号以外の国内 一律3万円
- (3) 海外 一律5万円

(奨励金の申請)

第5条 この奨励金の申請は、所定の申請書によるものとし、当該研究科委員長の承認を得なければならない。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て総長が行う。

10 学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学学生交流に関する覚書

学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、立教大学及び早稲田大学は「学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学大学間交流に関する協定書」に基づき、互恵の精神を以て相互に多様な授業科目を開放し、学生が相互履修することについて、本覚書を締結する。

1. 受入

各大学は、協定大学の学生が指定された授業科目の履修を希望するときは、協定に基づき当該学生を受け入れることができる。

2. 受入学生の身分

各大学は、前項によって受け入れた学生を、特別聴講学生と称する。ただし、受入大学において別に定める場合はこの限りでない。

3. 対象者

各大学に在学する2年次以上の学部学生を対象とする。

4. 受入学生数

この協定により各大学が受け入れる特別聴講学生数は、5大学で協議の上決定する。

5. 個人情報提供及び保護

- (1) 各大学は、相互履修を希望する自大学の学生の学籍に関する必要情報を相互に提供するものとする。
- (2) 前項により得た情報は、5大学間学生交流に関する目的以外に使用してはならない。

6. 履修期間

特別聴講学生の履修期間は、当該学生の履修科目に必要と定められた期間とする。

7. 履修科目の範囲および単位数

- (1) 各大学の提供科目数は、5大学で協議の上調整する。
- (2) 各大学は、それぞれの大学が開講する科目のうち特別聴講学生が履修できる授業科目を提供科目として選定し、相互に通知する。
- (3) 各提供科目毎の特別聴講学生受入人数は、当該科目を設置する大学の定めるところによる。
- (4) 特別聴講学生が同一年度内に履修できる単位数の上限は、5大学で協議の上決定する。

8. 申請及び承認手続き

特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生は、定められた期間に所定の申請手続きをとり、学生を受け入れる大学の許可を得るものとする。

9. 履修方法・成績評価等

- (1) 特別聴講学生の履修方法、成績評価等については、当該科目を設置する大学の定めるところによる。
- (2) 特別聴講学生が修得した単位の認定に関わる事項は、学生の所属大学が定めるところによる。

10. 図書館の相互利用に係る便宜

各大学は、特別聴講学生の勉学に資するため、特別聴講学生の大学図書館の利用に関して配慮するものとする。

11. 施設・設備利用の便宜

前条によるほか、特別聴講学生が提供科目を履修するに際し、当該科目を設置する大学の施設及び設備の利用が必要と認められる場合には、特別聴講学生に対し、当該大学の定めるところによりその利用について便宜を図るものとする。

12. 学費等

- (1) 各大学は、特別聴講学生の授業履修に係る授業料等については、これを相互に免除するものとする。
- (2) 授業の履修に必要な実験・実習費等特別な経費については、当該授業科目を設置する大学の定めるところによる。

13. 協議

本覚書に定めるもののほか、協定の実施に関する必要事項は、5大学の協議により定める。

14. その他

- (1) 本覚書の改廃は5大学の協議を経て行う。
- (2) 本覚書は2001年4月1日から施行し、2004年3月31日まで有効とする。ただし、有効期限の6か月前までに申し出がない場合は、さらに1年間延長するものとし、以後についても同様とする。

11 明治大学、立教大学及び国際大学による共同教育プログラムの履修等に関する覚書

明治大学、立教大学及び国際大学（以下「3大学」という。）は、学長及び総長により締結した「国際協力人材の育成に関する協定」（以下「協定」という。）第3条に基づき、共同教育プログラムの履修等関連事項について、この覚書を締結する。

(受入)

第1条 各大学は、この覚書に基づき、3大学の学生が指定された授業科目の履修を希望するときは、当該学生を受け入れることができる。

(受入学生)

第2条 各大学は、前条によって受け入れた学生を、特別聴講学生と称する。ただし、受入大学において別に定める場合はこの限りでない。

(受入学生数)

第3条 各大学が受け入れる特別聴講学生数は、授業科目ごとに受入大学が決定する。

(個人情報提供及び保護)

第4条 特別聴講学生の個人情報提供及び保護は、次のとおりとする。

- (1) 各大学は、特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生の学籍等に関する必要情報をそれぞれの大学に提供するものとする。
- (2) 前項により得た情報は、3大学間の単位互換に関する目的以外に使用してはならない。

(履修期間)

第5条 特別聴講学生の履修期間は、当該学生が履修する授業科目に必要と定められた期間とする。

(履修科目の範囲及び履修上限単位数)

第6条 特別聴講学生が履修できる授業科目の範囲及び履修できる単位の上限は、次のとおりとする。

- (1) 各大学が提供する授業科目数は、3大学で協議の上調整する。
- (2) 各大学は、共同教育プログラムのうち、特別聴講学生が履修できる授業科目を提供科目として選定し、互いに通知する。
- (3) 特別聴講学生が同年度内に履修できる単位数の上限は、3大学で協議の上決定する。

(履修申請)

第7条 特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生は、定められた期間に所定の申請手続きをとり、受入大学の許可を得るものとする。

(履修方法、試験方法及び成績評価等)

第8条 特別聴講学生の授業科目の履修方法、試験方法及び成績評価等は、次のとおりとする。

(1) 特別聴講学生の履修方法、試験方法及び成績評価については、当該科目を設置する大学の定めるところによる。

(2) 特別聴講学生が修得した単位の認定に関わる事項は、学生の所属大学が定めるところによる。

(授業料等)

第9条 特別聴講学生の授業料等は、徴収しない。ただし、実験・実習費等特別な経費については、当該授業科目を設置する大学の定めるところによりこれを徴収することができる。

2 前項の規定にかかわらず、国際大学が受け入れる特別聴講学生の授業料等については別途協議するものとする。

(授業担当教員に対する給与、手当、交通費等)

第10条 特別聴講学生の履修する授業科目を担当する教員の給与、手当及び交通費等については、原則として、当該科目を開講する大学の規程による。

(利用の施設)

第11条 特別聴講学生が履修上必要な施設・設備の利用については、受入大学の定めるところにより、その利用について便宜を図るものとする。

(この覚書の効力)

第12条 この覚書の有効期間は、協定の有効期間満了の6か月前までに3大学のいずれかの大学から他方の大学に対して書面による覚書破棄通告を行わない限り、協定の有効期間に準ずるものとする。

2 この覚書の失効日時時点で受入大学において授業科目を履修中の特別聴講学生は、当該失効日の影響を受けず、当初予定していた授業科目の履修期間を満了できるものとする。

(その他)

第13条 この覚書に定めるもののほか、協定の実施に関する必要事項は、3大学の協議により定める。

2 この覚書3通を作成し、それぞれの当事者記名の上、それぞれ1通を保有する。

附 則

この覚書は、2013年（平成25年）4月1日から施行する。

個人情報 保護

プライバシーポリシー
立教大学における個人情報の取扱いについて

プライバシーポリシー

立教大学における個人情報の取扱について

2006年7月1日（2017年4月更新）

〈個人情報に関する基本的な考え方〉

立教大学では、個人情報保護の重要性を認識し、その適切な管理を行うことが重要な社会的責務であると考えています。個人情報に関する法令を遵守すると共に、「立教大学個人情報保護規程」に基づいた、以下のプライバシーポリシーに従って個人情報の保護に努めております。

1. 個人情報とは

現在立教大学に在籍している、および過去において在籍した学生、大学院生、受験生、保証人、教職員等に関する情報であって、個人が識別されるものをいいます。

2. 個人情報の収集について

個人情報は適正かつ公正な手段によって収集し、不正な手段によっては情報を収集しません。また、収集にあたっては、自明の場合を除き、その利用目的を明らかにします。

3. 個人情報の利用目的

大学における正課・正課外等教育研究活動における必要なサービスを提供するために利用します。より具体的な利用目的は、情報収集の際に明示します。

4. 情報の利用について

収集した個人情報は、立教大学および関係機関（学校法人立教学院、大学・大学院が協定を締結した他大学・大学院等）で利用目的の範囲内で利用します。協定を締結した大学、大学院名については、履修要項等に記載してあるので、確認して下さい。

5. 情報の提供について

(1) 立教大学および関係機関では、以下の場合を除き、情報を外部に提供することはありません。

- ① 本学の業務に必要な不可欠な場合
- ② 本人が同意している場合
- ③ 法令による場合
- ④ 本人の身体・生命等を保護するため、緊急かつ止むを得ない場合
- ⑤ 情報の同一性確認を求める公的機関からの依頼がある場合
- ⑥ 学術研究に利用する場合
- ⑦ その他別に定める提供基準に合致する場合

(2) 学生（大学院生等を含む）の学修支援、生活支援、就職活動支援等のために、学生の個人情報（学籍、履修、成績、課外活動、就職活動、健康等に関する情報）を大学に届け出ている保証人に提供する場合があります。満年齢が20歳に達した学生で提供を望まない方は、教務関係窓口（注1）に申し出ることで、提供を停止することができます。

(3) なお、正課および正課外活動以外の大学生生活の利便をはかるために、株式会社立教企画、株式会社立教オフィスマネジメント、株式会社立教ファシリティマネジメント、株式会社立教ライブラリーマネジメント（注2）に、個人情報（所属、学生氏名・住所、保証人氏名・住所）を提供することがあります。また、卒業後の本学に関わる情報提供のために、立教大学校友会に対して、個人情報（所属、卒業年月、学生番号、学生氏名、生年月日、性別、国籍、出身校名、現住所、電話番号）を提供することがあります。

情報提供にあたっては、株式会社立教企画、株式会社立教オフィスマネジメント、株式会社立教ファシリティマネジメント、株式会社立教ライブラリーマネジメント、立教大学校友会に対し、本学から提供された個人情報を上記の利用目的以外に使用しないこと、個人情報の適正管理に万全の措置を採ること等、本学と同等の個人情報保護対策を講じることを求めています。株式会社立教企画、株式会社立教オフィスマネジメント、株式会社立教ファシリティマネジメント、株式会社立教ライブラリーマネジメント、立教大学校友会からの上記サービスを希望しない方は、教務関係窓口（注1）に申し出ることで、提供を停止することができます。

注1) 教務関係窓口とは以下のとおりです。

教務事務センター、独立研究科事務室、法務研究科事務室

注2) 立教企画グループは学校法人立教学院がキリスト教に基づく全人教育を行い、「共生・共助」の理念実現に向け安定した経営体制を確立していく上で、新たに収益事業を行うことを目的として設立しました。

主な事業内容は以下のとおりです。

- 立教企画…総務・人事、経理、不動産関連
- 立教ファシリティマネジメント…業務受託事業、不動産の活用・管理・運営業、機器・什器・消耗品・食料品等の販売業

■立教オフィスマネジメント…損害保険代理業、旅行業、業務受託事業、人材派遣事業、人材紹介（職業紹介）事業

■立教ライブラリーマネジメント…図書館業務受託、請負業、図書館業務に関するコンサルタント

6. 情報の管理方法

立教大学では、個人情報を正確、最新のものにしよう適切な措置を講じています。また、個人情報の漏洩、紛失、誤用、改ざん、不正アクセス等を防止するための合理的な保護措置をとっています。

業務委託にあたっては、機密保持条項を含む契約を締結し、委託先に対し、情報に関する厳重管理を求め、目的以外の利用を行わせないようにしています。上記の内容を遵守するために、大学に「個人情報保護統括管理責任者」および各部署に「個人情報管理責任者、個人情報取扱責任者」を定めています。

7. 情報の開示・訂正

個人情報の開示は、「立教大学個人情報保護規程、同施行細則」に基づいて行われます。個人情報の内容に誤りがあった場合には速やかに訂正いたします。

8. 不服の申し立て

本学の個人情報の取扱いについて不服がある場合は、「個人情報保護審査会」に申し立てることができます。個人情報保護審査会への申し立ては大学の主要窓口で受付いたします。

詳細は立教大学ホームページ (<http://www.rikkyo.ac.jp/>) を参照してください。

各種案内

- 1 教務部案内（新座キャンパス）
- 2 パソコン教室利用案内
- 3 V-Campus案内
- 4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置
- 5 地震発生時の心得
- 6 台風の接近が予想される場合の措置
- 7 緊急連絡システムについて

1 教務部案内（新座キャンパス）

1. 新座キャンパス教務事務センター

新座キャンパス教務事務センターは、以下の事項を取り扱う。

- (1) 学籍の管理
- (2) 入学・休学・退学・卒業に関する事項
- (3) 授業に関する事項
 - ① クラス編成
 - ② 時間割の作成
 - ③ 教室配当
 - ④ 履修科目の登録
- (4) 試験及び学業成績に関する事項
- (5) 所管事項に関する文書の受信・発信
 - ① 保証人・国籍の変更、氏名変更、住所変更届等の受理
 - ② 学生証、在学・卒業・修了・成績等各種証明書、学割証の発行
- (6) その他教務事務に関する一切の事項
- (7) 事務取扱時間

平日 9:00～17:00

土曜日 9:00～12:30

なお、授業期間以外、また特別な場合の事務取扱時間はその都度掲示板に発表する。

※学校・社会教育講座に関する事項は、新座学校・社会教育講座事務室(7号館1階)で取り扱う。

2. 諸届・各種証明書の発行

(1) 諸届

諸届とも新座キャンパス教務事務センター窓口に所定の届出用紙がある。

- ① 保証人変更届
保証書を添え、保証人連署・捺印の上届出ること。
- ② 国籍変更(帰化)届
詳細は新座キャンパス教務事務センター窓口でたずねること。
- ③ 氏名変更届
住民基本台帳記載事項の証明書もしくはそれに代わるものを添え、届出ること。
- ④ 住所変更届
本人または保証人の住所、電話番号、本人のメールアドレス、通学区間(最寄駅)を変更した場合に届出ること。

(2) 各種証明書の発行

証明書の種類	和文料金	英文料金	発行にかかる日数
在学証明書	300円	400円	即時
卒業(見込)証明書			
修了(見込)証明書			
成績証明書			
調査書			注1
就職用健康診断証明書		400円	注2
学割証 注3	無料		即時

在学、成績(注4)、卒業見込、修了見込(注4)、学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)、就職用健康診断証明書の各証明書は、新座キャンパス教務事務センター内の証明書発行機により即時発行。それ以外の証明書は翌日(翌日が窓口閉室日の場合は、翌日以降の窓口開室日)の12:00以降。

注1) 調査書の作成には多少日数がかかる。出願先の所定用紙を持参のうえ、新座キャンパス教務事務センター窓口申し出ること。

注2) 就職用健康診断証明書の発行について

1. 発行開始日:2017年5月15日(月)

※それ以前の発行はできない。

2. 下記に該当する場合は発行はできない。

・本学が実施した定期健康診断を受けていない。

・定期健康診断時に未検の検査項目がある、また保健室から指示された再検査、診察などを受けていない。

注3) 学割証(学校学生生徒旅客運賃割引証)は1年間に1人10枚まで、有効期間は発行日から3ヶ月である。

注4) 博士課程後期課程の成績証明書、修了見込証明書が必要な場合は、新座キャンパス教務事務センター窓口申し出ること。発行は翌日(翌日が窓口閉室日の場合は翌日以降の窓口開室日)の12:00以降。また、博士課程後期課程の英文成績証明書は原則作成していない。

※証明書発行機での交付には学生証が必要である。

※上記以外の証明書が必要な場合は、新座キャンパス教務事務センター窓口申し出ること。

(注) 学生氏名文字(漢字)について

学生証に記載されている学生氏名の文字(漢字)は、原則としてJIS規格の文字を使用し、在学中発行の諸証明書および学位記、卒業後の諸証明書などの発行に用いる。JISに無い文字については、JIS準拠のものに改めるが、不都合がある場合は、新座キャンパス教務事務センター窓口へ申し出ること。

2 パソコン教室、貸出パソコン利用案内

<パソコン教室の利用について>

立教大学では池袋・新座キャンパスにそれぞれ、パソコン教室があります。

授業で使用されていない時間は、自由な自習利用が可能です。

開室時間などについては、以下のURLから確認することができます。

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/vcampus/パソコン教室.aspx>

	池袋キャンパス	新座キャンパス
場所	8号館3F 8301, 8302, 8303, 8304 4F 8402, 8403, 8404 5F 8501, 8502, 8503, 8504 8505, 8506	8号館2F N821, N822, N823, N824 3F N831, N832, N833, N834, N835, N836
開室時間	月～金曜日：9：00～21：00 土曜日：9：00～17：00 日曜・祝日、そのほか本学の定めた休日は閉室です。 長期休暇中など開室時間が上記と異なる場合、以下のURLでお知らせします。 https://spirit.rikkyo.ac.jp/vcampus/パソコン教室.aspx	
利用環境	<p>パソコン教室のパソコンを使うには、V-Campus IDとパスワードが必要です。 パソコン教室では、以下のようなことが行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで情報を収集する ・レポートやプレゼンテーション資料を作成する ・授業支援システムを使って予習・復習・課題を提出する ・Webメールを使用する ・自分のホームページを作成する ・ファイルやホームページを印刷する ・作成したデータを保管する <p>設置台数 https://spirit.rikkyo.ac.jp/vcampus/学内パソコン内訳.aspx</p> <p>ソフト OS Windows 7 Windows 7 (English) Windows 8.1 アプリケーションソフト Microsoft Office (Word, Excel, PowerPointなど)をはじめ、授業で使用するアプリケーションソフトがインストールされています。教室ごとに異なりますので、詳しくは下記のURLにてご確認ください。 https://spirit.rikkyo.ac.jp/vcampus/学内パソコンのアプリケーションソフトについて.aspx</p>	

<貸出パソコンについて>

立教大学では、教育・研究活動を支援するため、学生向けにノートパソコン等の貸し出しを行っています。

貸出期間は当日内です。貸出場所、貸出時間などについては、下記のURLから確認することができます。

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/vcampus/貸出ノートパソコン（学生向け）について.aspx>

3 V-Campus案内

パソコンやインターネット、メールなどのITに関するサービスは「メディアセンター（池袋8号館4F、新座8号館2F）」で管理を行っています。詳しい情報は以下のホームページでご覧になることができます。

「立教大学V-Campusポータルサイト SPIRIT (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/>)」

V-Campus IDとパスワードについて

メールや学内PCを利用する際には、ID（学生番号）とパスワードが必要です。
このIDを「V-Campus ID」と呼んでいます。

V-Campus IDで利用できるサービス

V-Campus IDは、授業やゼミのほか、各種の教務関連情報を確認するためにも利用します。

- ・パソコン、ネットワークの利用
 - 1) 学内パソコン（パソコン教室、ラーニングスペース）の利用
 - 2) 学内無線LANへの接続
- ・V-Campus
 - 1) SPIRIT（ポータルサイト）
 - 2) SPIRIT Gmail
 - 3) メールリングリストの作成
 - 4) Blackboard（授業支援システム）
 - 5) V-Campusアカウント設定
 - 6) V-Campusホームディレクトリ
 - 7) V-Campusホームページ（FTP接続）
 - 8) V-Campus Web設定
- ・英語教材
 - 1) Rikkyo English Online（REO）
 - 2) ALC NetAcademy
 - 3) 英語ディスカッション
- ・Eラーニング
 - 1) Blackboardセルフラーニング
- ・図書館関連
 - 1) MyLibrary
- ・教務関連
 - 1) 履修登録状況の確認
 - 2) 履修登録／成績参照システム
 - 3) 全学共通カリキュラム 英語副専攻専用Web
 - 4) 休講情報（自宅からの閲覧時）
- ・学修・キャリア支援
 - 1) 立教時間
- ・その他
 - 1) 学内イントラネットへのアクセス
 - 2) Mobile V-Campusの利用登録
 - 3) SPIRIT Mobile


V-Campus IDとパスワードの発行

入学時に学生証と一緒に配付しています。それ以外の方も、パソコン教室のカウンターで学生証を提示することで即時発行を行なっています。

V-Campus IDはさまざまな場面で利用されるものですから、パスワードの扱いは十分に注意してください。詳しくは立教大学 V-Campusポータルサイト SPIRIT をご覧ください。

<このほかのパスワード>

上記のほか、f-Campus科目登録を利用する際には、別のパスワードが必要となります。

f-Campus科目登録  <http://www.f-campus.org/>

4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置

大学は、大規模な地震の発生が予想され、大規模地震対策特別措置法に基づき地震防災対策強化地域判定会の招集が確認された場合には、授業を休講とし、次の措置をとります。

1. 在宅中および通学途中の者は、登校を中止してください。
2. 在学中の者は、大学からの連絡及び指示に従ってください。
3. 警戒宣言解除後の授業の再開については、以下のとおりとします。
 - (1) 警戒宣言が午前5時までに解除された場合は、平常どおり授業を行います。
 - (2) 警戒宣言が午前9時までに解除された場合は、午前中の授業を休講と

し、午後からの授業を行います。

- (3) 警戒宣言が午前9時までに解除されない場合は、当日の授業を全日休講とします。なお、全日休講の場合は、大学の諸業務（窓口業務を含む）を行いません。

注：地震防災対策強化地域判定会

大規模地震対策特別措置法第3条1項に規定する地震防災対策強化地域に係る大規模な地震の発生のおそれに関する判定を行うために、気象庁長官の要請によって招集される判定会をいう。

5 地震発生時の心得

建物は大きな地震にも耐えられる構造となっています。震災が発生した場合は次の事項に注意し、安全確認したうえで冷静に避難してください。

1. 地震が起きたら、すぐに外へ飛び出すことは危険です。慌てず指示があるまで教室内で待機するとともに、頭上からの落下物等に対して、頭を守る等の対応をして下さい。
 - ・机の下などに身を伏せ、しばらく様子を見て下さい。
 - ・固定していない机の下に身を隠す場合は、机の足をしっかり握ってください。
 - ・頭上からの落下物（蛍光灯・窓ガラスなど）に注意し、上着その他のもので頭をおおってください。
2. 火災により被害は倍増します。初期消火にできるだけ協力してください。

3. 避難の際は、ブロック塀の倒壊や商店の看板落下などに特に注意してください。

4. 本学院の小・中・高校生も同時に避難することになりますので、避難・救出に協力し、安全地帯を早く確認してください。
5. 交通機関の不通により、帰宅できないときは、本学の避難場所に於て、状況の判明するまで待機してください。
6. 本学の避難場所は建物内および構内空地（瓦やガラスなどの落下物に注意）です。
7. 学内の非常放送により連絡することもありますので注意してください。
8. 教職員や消防士などの指示に従ってください。

6 台風の接近が予想される場合の措置

台風の接近等により、授業を平常どおり行うことができないと判断された場合は、休講などの特別措置をとります。特別措置の内容については、掲示、ホームページ等または電話で確認してください。

[立教大学ホームページ](http://www.rikkyo.ac.jp/)

<http://www.rikkyo.ac.jp/>

[立教大学 Twitter](https://www.twitter.com/rikkyouniv)

<https://www.twitter.com/rikkyouniv>

[立教大学公式Facebookページ](https://www.facebook.com/RikkyoUniversity)

<https://www.facebook.com/RikkyoUniversity>

- * 試験期間についても前記と同様の措置をとることがあります。
- * 大学の窓口業務、諸施設の利用については、ホームページおよび掲示でお知らせします。

7 緊急連絡システムについて

1. 緊急連絡システム

(※本システムは本学学生および専任教職員を対象としています。)

緊急連絡システムとは、大規模地震が発生した際に、大学から自動的にみなさんの携帯電話等のメールアドレス宛てにメールを送信し、みなさんの安否を確認するシステムです。送信する宛先は、入学時または履修登録時に届け出ていただいたアドレスですが、在学中に変更した場合は、必ず教務関係窓口（教務事務センター〈池袋〉、教務事務センター〈新座〉、独立研究科事務室、セカンドステージ大学事務室）に届け出てください（教職員は人事部人事課に届け出てください）。

なお、この緊急連絡システムが正常に機能するかを確認するために、年1～2回のテストを実施します。

また、この緊急連絡システムを利用して、緊急時の全学休講など重要なお知らせをすることもあります。

2. 連絡方法

大規模地震が発生したら、次のいずれかの方法で安否の状況を大学に報告してください（下図参照）。

携帯電話等が使用可能な場合

みなさんの携帯電話等に送られてきた大学からのメールに返信してください。

携帯電話等が使用できない場合

- キャンパス内または周辺にいる場合……

防災のしおりの巻末にある「安否確認カード」を池袋キャンパス警備室、新座キャンパス門衛所に設置された「安否確認投入箱」に投函してください。

- キャンパス外にいる場合……

下記の「大規模災害時の大学内主要連絡先」に電話連絡してください（郵送も可）。

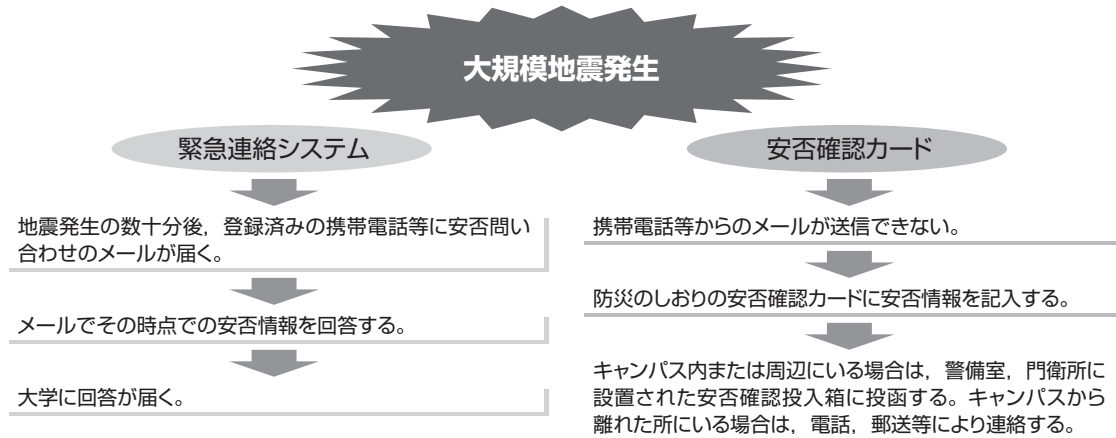
池袋キャンパス 東京都豊島区西池袋3-34-1

総務部総務課……………03-3985-4605
学生部学生生活課……………03-3985-2437
警備室（24時間）……………03-3985-2288

新座キャンパス 埼玉県新座市北野1-2-26

総務部新座キャンパス事務室……………048-471-6674
学生部学生生活課……………048-471-6924
新座キャンパス門衛所（24時間）……………048-471-6600

安否確認方法の流れ



【災害時伝言板サービス】

携帯電話各社では「災害時伝言板サービス」の利用ができます。災害発生時に家族との連絡がとれるように準備しておくことをお勧めします。

※利用についての詳細は各社のホームページをご覧ください。

※毎月1日や防災週間等に体験版の利用ができます。

- NTT docomo

<https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/>

- au by KDDI

<http://www.au.kddi.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/>

- SoftBank

<http://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/>

- Y!mobile

<http://www.ymobile.jp/service/dengon/>

教 員
一 覽

現代心理学部長			塚本 伸一
心理学科長			大石 幸二
映像身体学科長			江川 隆男
現代心理学研究科委員長			塚本 伸一
心理学専攻	博士課程前期課程	主任	堀 耕治
心理学専攻	博士課程後期課程	主任	堀 耕治
臨床心理学専攻	博士課程前期課程	主任	林 もも子
臨床心理学専攻	博士課程後期課程	主任	林 もも子
映像身体学専攻	博士課程前期課程	主任	田崎 英明
映像身体学専攻	博士課程後期課程	主任	田崎 英明

【専任】

担当授業科目の*印は全学共通カリキュラム科目

芳賀 繁 (ハガ シゲル)	教授	研究室：N6708 ☎048-471-7094
オフィスアワー	水曜日 12:15~13:00	
E-mail アドレス	haga@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 心理学調査実習1, 心理学調査実習2, 実験調査実習2, 心理学演習C1・C2, 産業心理学, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 短期海外留学プログラム, 産業・組織心理学特殊研究, 産業・組織心理学特殊演習, 組織心理学特論, 現代心理学特殊演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	「自動化システムとドライバの心理」(自動車技術29巻, 2015) 産業心理学, 交通心理学, 人間工学	
最近の著書・論文	「携帯電話への文字入力に注意, 歩行, メンタルワークロードに及ぼす影響」(共著, 人間工学, 2014), 『事故がなくなる理由(わけ)』(PHP新書, 2012), 『失敗のしくみ』(日本能率協会マネジメントセンター, 2009), 『ヒューマンエラーは裁けるか』(共訳, 東大出版, 2009)	

林 もも子 (ハヤシ モモコ)	教授	研究室：N6706 ☎048-471-7064
オフィスアワー	水曜日 12:40~13:10	
E-mail アドレス	mmkhys@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	心理学概説2, 精神分析の思想, 心理学演習K1・K2, 心理療法, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 臨床心理学特論2, 臨床心理面接特論2, 臨床心理基礎実習1, 臨床心理基礎実習2, 臨床心理実習1, 臨床心理実習2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	精神分析的な精神療法, 成人および思春期のアタッチメント	
最近の著書・論文	『人間関係の生涯発達心理学』(2014, 丸善出版), 『甘えとアタッチメント』(2012, 遠見書房), 『思春期とアタッチメント』(2010, みすず書房), 『思春期臨床の考え方・進め方』(2007, 金剛出版), 「Reliability and validity of the Japanese edition of the Defence Style Questionnaire」(2004)	

日高 聡太 (ヒダカ ソウタ)	准教授	研究室：N6602 ☎048-471-6984
オフィスアワー	火曜日 12:15~13:15	
E-mail アドレス	hidaka@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	心理学実験実習1, 心理学実験実習2, 実験調査実習1, 心理学演習H1・H2, 知覚心理学, 学部統合科目2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 知覚心理学特殊研究, 知覚心理学特殊演習, 現代心理学特殊演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	知覚心理学, 実験心理学, 認知心理学	
最近の著書・論文	「Spatiotemporal processing in crossmodal interactions for perception of the external world: A review」(Frontiers in Integrative Neuroscience, 2015), 「Neural mechanisms underlying touch-induced visual perceptual suppression: An fMRI study」(Scientific Reports, 2016) など	

堀 耕治 (ホリ コウジ)	教授	研究室：N6607 ☎048-471-7035
オフィスアワー	火曜日 12:15~13:15	
E-mail アドレス	khor@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 心理学実験実習1, 心理学実験実習2, 実験調査実習1, 心理学演習E1・E2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 心理学概説1, 学習心理学, 学習心理学特殊演習, 学習心理学特殊研究, 学習心理学特論, 現代心理学特殊演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文, *心の科学	
研究分野	実験的行動分析, 学習心理学	
最近の著書・論文	『現代心理学への招待』(樹村房, 2005年), 「面接場面における行動と一般対応法則」(立教大学心理学研究, 2009, 51, 115-124), 『心理学研究法3』(誠信書房, 2011年, 分担執筆), 『行動生物学辞典』(東京化学同人, 2013年, 分担執筆)	

松永 美希 (マツナガ ミキ)	准教授	研究室：N6707 ☎048-471-7069
オフィスアワー	水曜日 12:20~13:00	
E-mail アドレス	mikim@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 心理学演習B1・B2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 臨床心理基礎実習1, 臨床心理実習1, 臨床心理面接特論1, 修士論文指導演習1・2, 修士論文, *立教ゼミナール, *立教ゼミナール4, *立教生の学び方	
研究分野	臨床心理学, 認知行動療法を研究テーマとしている。特に抑うつや不安に関する基礎的研究から実践的研究を行い, 効果的な支援方法について検討している。	
最近の著書・論文	「新任教師のリアリティ・ショック」(産業ストレス研究, 2014), 「反芻が自動思考と抑うつに与える影響」(心理学研究, 2013), 「心理士が中心に実施したうつ病の集団認知行動療法」(行動療法研究, 2012)	

小口 孝司 (オグチ タカシ)	教授	研究室：N6709 ☎048-471-7096
オフィスアワー	火曜日 12:15~13:05	
E-mail アドレス	oguchi@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	心理学概説2, 社会心理学, 心理学調査実習1, 心理学調査実習2, 実験調査実習2, 心理学演習G1・G2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 応用心理学研究法, 社会心理学特殊研究, 社会心理学特論, 社会心理学特殊演習, 現代心理学特殊演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	社会心理学, 産業・組織心理学, 観光(社会)心理学	
最近の著書・論文	『よくわかる社会心理学』ナツメ社(2013)『仕事のスキル』北大路書房(2009)『社会心理学の基礎と応用』放送大学教育振興会(2008)『観光の社会心理学』北大路書房(2006)	

大石 幸二 (オオイシ コウジ)	教授	研究室：N6703 ☎048-471-7042
オフィスアワー	木曜日 12:15~13:15	
E-mail アドレス	oishi@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 心理学概説1, 心理学文献講読1・2, 応用行動分析, 心理学演習I1・I2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 応用行動分析学特殊研究, 応用行動分析学特殊演習, 障害児(者)心理学特論, 現代心理学特殊演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	応用行動分析(義務教育段階の教員におけるリアルタイム・モニタリングによる授業実践の質的向上), 障害児(者)心理学(能動的触覚知覚による幼児の身体図式および運動空間認識の変容)	
最近の著書・論文	2016年3月「聴覚障害学生の心身の健康に及ぼすソーシャル・サポートの影響-高等教育機関における修学支援状況との関連-」(東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要, 12, 連名), 2016年5月「行動コンサルテーションに関するわが国の研究動向-学校における発達障害児の支援に関する研究と実践-」(特殊教育研究, 54, 単著), 2016年8月「Training Teachers in School Consultation.」(2016 International Conference on Education Psychology and Society: Tokyo; Japan), 2016年12月「自閉症スペクトラム障害児における表情を含む複数の刺激の弁別訓練」(人間関係学研究, 21(1), 連名), 2016年12月「動的学校画(KSD)における有資格心理士による活動の知覚」(人間関係学研究, 21(1), 筆頭)	

都築 誉史 (ツヅキ タカシ)	教授	研究室：N6605 ☎048-471-6997
オフィスアワー	金曜日 12:20~13:10	
E-mail アドレス	tsuzuki@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	学部統合科目4, 心理学概説1, 心理学文献講読1・2, 心理学演習F1・F2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 認知心理学特殊研究, 認知心理学特論, 認知心理学特殊演習, 現代心理学特殊演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	人間の hochi 認知過程(判断と意思決定, 言語情報処理, 記憶)に関する実験的検討とモデル構成, メディアコミュニケーションにおける心理的要因の分析	
最近の著書・論文	『ICT/情報行動心理学』(北大路書房, 印刷中), 『眼球運動の時系列解析による多属性意思決定における魅力効果と妥協効果に関する検討』『認知心理学研究』, 11(2014), 『多属性意思決定における妥協効果と魅力効果の生起機序に関する包括的分析』『認知科学』, 21(2014), 『多属性意思決定における類似性効果, 魅力効果, 妥協効果に関する多測度分析』『心理学研究』, 83(2012), 『認知心理学』(有斐閣, 2010), 『思考と言語』(北大路書房, 2010)	

塚本 伸一 (ツカモト シンイチ)	教授	研究室：N6606 ☎048-471-7014
オフィスアワー	火曜日 12:00~13:00	
E-mail アドレス	tukamoto@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	心理学概説2, 心理学演習A1・A2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 臨床心理基礎実習2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	社会性の発達(自己統制・制御の発達), 学校・学級の心理学的研究(教師の児童生徒認知, 児童生徒の学校適応, 学校ストレス)	
最近の著書・論文	『看護学生のための心理学』(医学書院, 2016年), 『自己制御が中学生の学校適応に及ぼす影響』(学校保健研究, 2010年), 『基礎からの心理学』(おうふう, 2009年), 『乳幼児の自己制御の発達』(立教大学心理学研究, 2009年), 『応用心理学事典』(丸善, 2007年), 『教師の認知枠が中学生の学校適応に及ぼす影響』(立教大学心理学研究, 2006年), 『現代心理学への招待』(樹村房, 2005年)	

山田 哲子 (ヤマダ テツコ)		准教授	研究室：N6705 ☎048-471-7049
オフィスアワー	金曜日 12:15~13:15		
E-mail アドレス	t.yamad@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	現代心理学入門, 心理学概説2, 心理学文献講読1・2, 心理学研究法3, 心理学演習D1・D2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 臨床心理査定演習1, 臨床心理学特殊研究1, 臨床心理基礎実習1, 臨床心理実習1, 修士論文指導演習1・2, 修士論文,		
研究分野	臨床心理学, 家族心理学, 家族療法		
最近の著書・論文	「親亡き後を視野に入れた知的障がい者家族支援の構造の試み」(日本精神衛生学会, 2015), 「知的障がいのある子どもを緊急に親元から離すプロセスとはー在宅ケアを望んでいた親の施設利用に焦点を当ててー」(質的心理学研究, 2015)		

山中 淑江 (ヤマナカ ヨシエ)		教授	研究室：N6401 ☎048-471-6952 池袋キャンパス学生相談所 ☎03-3985-3352
オフィスアワー	火曜日 18:10~19:00		
E-mail アドレス			
担当授業科目	臨床心理学特論1, 臨床心理基礎実習2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文		
研究分野	臨床心理学, カウンセリング, 青年心理, 学生相談, グループアプローチ		
最近の著書・論文	『カウンセラーのためのアサーション』(金子書房, 2002年, 分担執筆), 『学生相談ハンドブック』(学苑社, 2009年, 分担執筆), 『大学生が会おうリスクとセルフマネジメント』(学苑社, 2015年, 編著)		

江川 隆男 (エガワ タカオ)		教授	研究室：N6809 ☎048-471-7273
オフィスアワー	金曜日 12:20~13:10		
E-mail アドレス	egawat@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	入門演習2, 基礎演習4, 専門演習D1・D2, 身体表現批評学演習1・2, 身体学文献講読1, 身体思想, 身体哲学1, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像身体学入門1, 映像身体学演習, 身体学特殊研究1, 修士論文指導演習1・2, 修士論文		
研究分野	西洋近代哲学, 現代思想, 精神と身体哲学, 身体倫理論		
最近の著書・論文	著書：『存在と差異 ドゥルーズの超越的経験論』(知泉書館, 2003年), 『死の哲学』(河出書房新社, 2005年), 『超人の倫理』(同上, 2013年), 『アンチ・モラリア』(同上, 2014年), 論文：『崇高と決定不可能性の問題』(『日本カント研究12』, 理想社, 2011年) など		

日高 優 (ヒダカ ユウ)	准教授	研究室：N6715 ☎048-471-7197
オフィスアワー	水曜日 12:20～13:10 (必ず事前にEメール等で予約して下さい)	
E-mail アドレス	yhidaka@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	映像身体学入門2, 入門演習1, 基礎演習13, 専門演習G1・G2, 写真映像論, 映像学文献講読2, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像学特殊演習1・3, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	映像身体学, 写真研究, 表象文化論	
最近の著書・論文	『映像と文化知覚の問いに向かって』(編著, 京都造形芸術大学・東北芸術工科大学出版局藝術学舎, 2016年), 『アメリカ文化 55のキーワード』(共著, ミネルヴァ書房, 2013年), 『〈風景〉のアメリカ文化学』(共著, ミネルヴァ書房, 2011年), 『現代アメリカ写真を読むーデモクラシーの眺望』(青弓社, 2009年), 『美術史の7つの顔』(共著, 未来社, 2005年)	

加藤 千恵 (カトウ チエ)	教授	研究室：N6701 ☎048-471-7036
オフィスアワー	水曜日 12:15～13:15	
E-mail アドレス	katoch@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 養生論の思想, 入門演習1, 基礎演習5, 専門演習E1・E2, 身体学文献講読2, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 身体学特殊研究2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	古代中国の思想史, 道教思想史	
最近の著書・論文	『不老不死の身体―道教と「胎」の思想』(大修館書店, 2002年), 『帰土の生命説』(『陰陽五行のサイエンス 思想編』2011), 『相い雑わること錦のごとしー術の五行』(『術の思想 医・長生・呪・交霊・風水』(風響社, 2013年)	

香山 リカ (カヤマ リカ)	教授	研究室：N6717 ☎048-471-7212
オフィスアワー	火曜日 12:15～13:15 (2017年度研究休暇)	
E-mail アドレス	kayama@caravan.to	
担当授業科目	修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	精神医学。とくに「思春期・青年期の精神病理と現代社会の影響」「働く女性のメンタルヘルス」の問題について、臨床を通して考察している。	
最近の著書・論文	『SNS疲れ』(臨床精神医学, vol.45, 2016年), 『ノンママという生き方 子のない女はダメですか?』(幻冬舎, 2016年), 『50オトコはなぜ劣化したのか』(小学館, 2016年), 『リベラルですが、何か?』(イーストプレス, 2016年), 『半知性主義でいこう』(朝日新書, 2016年), 『ヒューマンライツ:人権をめぐる旅へ』(ころから, 2016年) など	

大山 載吉 (オオヤマ ノリヨシ)	准教授	研究室：N6808 ☎048-471-7271
オフィスアワー	火曜日 12:20~13:00	
E-mail アドレス	ohyama@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 映像身体学入門1・2, 入門演習1, 基礎演習6, 専門演習F1・F2, 基礎演習6, 映像学文献講読1, 映像哲学1, 映像の思想, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像身体学概説, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	映像身体学, 哲学, 表象文化論	
最近の著書・論文	『ドゥルーズ 抽象機械 〈非〉性の哲学』(河出書房新社, 2016), 『ドゥルーズ 千の文学』(せりか書房, 2011, 共著), 『ドゥルーズ/ガタリの現在』(平凡社, 2008, 共著), 『ダーク・ドゥルーズ』(河出書房新社, 2016, 訳書)	

松田 正隆 (マツダ マサタカ)	教授	研究室：N6810 ☎048-471-7274
オフィスアワー	木曜日 12:15~14:45	
E-mail アドレス	matsudama@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	入門演習2, 基礎演習8, 専門演習11・12, 戯曲シナリオ演習1, ワークショップA5・A9・A10・G7, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 身体論ワークショップ5・6, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	戯曲・シナリオ創作。演劇・パフォーマンスの研究。	
最近の作品	『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』(2012, フェスティバルトーキョー), 『HIROSHIMA-HAPCHEON』(2010, フェスティバルトーキョー)	

万田 邦敏 (マンダ クニトシ)	教授	研究室：N6716 ☎048-471-7198
オフィスアワー	火曜日 12:30~13:00 (必ず事前にEメール等で予約して下さい)	
E-mail アドレス	manda@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 入門演習2, 基礎演習11, 専門演習K1・K2, 映像系ワークショップ2, ワークショップD13・D14・D15・D16・G4, 映像身体学特講1・11, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像論ワークショップ1・2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文, *現代心理学からの学び	
研究分野	映画演出	
最近の著書・論文	『UNLOVED』(監督・協同脚本), 『ありがとう』(監督・協同脚本), 『接吻』(監督・協同脚本), 『映像と身体』(共著)(せりか書房), 『イヌミチ』(監督), 『シンクロナイザー』(監督・協同脚本)	

中村 秀之 (ナカムラ ヒデユキ)	教授	研究室：N6718 ☎048-471-7219
オフィスアワー	月曜日 12:45~13:45 (2017年度春学期研究休暇)	
E-mail アドレス	hideyukin@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	映像社会論, 映像学文献講読3, 入門演習2, 専門演習B2, 卒業論文・卒業制作指導演習2, 卒業論文指導演習2, 卒業論文・卒業制作, 映像学特殊研究2, 修士論文指導演習2, 修士論文, *現代心理学からの学び	
研究分野	映画研究, 文化社会学, 表象文化論	
最近の著書・論文	『敗者の身ぶり』(岩波書店, 2014年, 単著), 『記録映画アーカイブ2 戦後復興から高度成長へ』(東京大学出版会, 2014年, 共著), 『森崎東党宣言!』(インスクリプト, 2013年, 共著), 『メロドラマ映画を学ぶ』(フィルムアート社, 2013年, 共訳書), 『『裏窓』再訪』(『立教映像身体学研究』1号, 2013年, 単著論文)	

佐藤 一彦 (サトウ カズヒコ)	教授	研究室：N6603 ☎048-471-6992
オフィスアワー	火曜日 12:15~13:00	
E-mail アドレス	kazsat@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	基礎演習12, 専門演習L1・L2, 入門演習2, ワークショップE3・E4・G5, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像論ワークショップ7, 映像制作プロデュース論演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文, *立教ゼミナール3, *立教ゼミナール, *立教生の学び方	
研究分野	次世代映像メディア(4K/8K技術, デジタルシネマ, 電子書籍, Webでの配信技術, メディアの制度, 法律, ビジネスモデル)など全般の研究と制作手法の開発	
最近の著書・論文	『4Kでよみがえる浮世絵・歌川広重《名所江戸百景》の世界』(2015, チャンネル4K), 『かくやの夢』(2008, 日本科学未来館4K), HD作品『自然に生きる一保田與重郎と日本』(2010, 新学社), 『池澤夏樹の世界文学ワンダーランド』(2009, NHK教育), 『白洲正子のかくれ里』(2000, オリジナルビデオ)	

篠崎 誠 (シノザキ マコト)	教授	研究室：N6811 ☎048-471-7295
オフィスアワー	水曜日 12:40~13:10	
E-mail アドレス		
担当授業科目	入門演習1, 基礎演習10, 映像表現史, 映像系ワークショップ1, 専門演習J1・J2, ワークショップD1・D2・D7・D8・G3, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 映像論ワークショップ3・4, 修士論文指導演習1・2, 修士論文	
研究分野	映画全般	
最近の著書・論文	『黒沢清の恐怖の映画史』(黒沢清氏との共著, 青土社, 2003) 監督作品『おかえり』(1995), 『忘れられぬ人々』(2000), 『浅草キッドの「浅草キッド」』(2002), 『犬と歩けば チロリとタムラ』(2003), 『天国のスープ』(2008), 『東京島』(2010), 『あれから』(2012), 『SHARING』(2014)	

田崎 英明 (タザキ ヒデアキ)	教授	研究室：N6719 ☎048-471-7226
オフィスアワー	水曜日 12:15~13:00	
E-mail アドレス	tazackey@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代思想概説, 入門演習1, 基礎演習3, 専門演習C1・C2, 身体社会論, ジェンダー文化論, 身体学文献講読3, 身体表現批評学演習3・4, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 身体学特殊演習1・2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文, *現代心理学からの学び	
研究分野	身体社会論, ジェンダー/セクシュアリティ理論, 身体政治論	
最近の著書・論文	著書：『ジェンダー/セクシュアリティ』（岩波書店, 2000年） その他：アルフォンソ・リンギス『汝の敵を愛せ』（中村裕子訳, 洛北出版, 2004年）「解説」, 『無能な者たちの共同体』（未来社, 2007年）, 『マルクス『資本論』入門』（河出書房新社, 共著, 2009年）	

【特任】

中山 真里子 (ナカヤマ マリコ)	准教授	研究室：N6704 ☎048-471-7046
オフィスアワー	金曜日 12:20~13:00 (事前にメールで連絡してください)	
E-mail アドレス	mariko_nakayama@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 英語文献講読演習(初級)・(中級)・(上級), 英語表現演習(初級)・(中級)・(上級), 英語ディベート(発展), 心理学特講4, 心理学特講7	
研究分野	言語心理学・実験心理学(日本語, 英語母語話者及び日英バイリンガルの単語認識/処理についての研究)	
最近の著書・論文	「Cross-script L2-L1 noncognate translation priming in lexical decision depends in L2 proficiency: evidence from Japanese-English bilinguals.」(Bilingualism: Language and Cognition, 2016), 「Is there phonologically based priming in the same-different task? Evidence from Japanese-English bilinguals.」(Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance, 2015), 「The functional phonological unit of Japanese-English bilinguals is language dependent: Evidence from masked onset and Mora priming effects.」(Japanese Psychological Research, 2015)	

安田 みどり (ヤスダ ミドリ)	准教授	研究室：N6604 ☎048-471-6994
オフィスアワー	春学期：木曜日 12:15~13:00 秋学期：月曜日 12:15~13:00	
E-mail アドレス	yasuda.midori@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	心理学演習J1・J2, 卒業論文指導演習1・2, 卒業論文, 学校心理学, コミュニティ心理学, 心理臨床特殊研究1, コミュニティ心理学特殊研究, 臨床心理学研究法特論, コミュニティ・アプローチ特論, 臨床心理実習2	
研究分野	コミュニティ心理学における多職種協働および予防的介入, 心理職への援助要請	
最近の著書・論文	「看護師における心理専門職への援助要請に対する態度および意図」(心理臨床学研究, 2013), 「心理専門職への援助要請に対する態度尺度の作成—信頼性と妥当性の検討—」(コミュニティ心理学研究, 2010), 「心理臨床実践におけるコンサルテーション：学校領域からの報告」(コミュニティ心理学研究, 2015)	

石山 智弘 (イシヤマ トモヒロ)	教授	研究室：N6702 ☎048-471-7041
オフィスアワー	水曜日 12:15~13:00	
E-mail アドレス	ishiyama@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	映像技術論1・2, 映像技術入門A・B, 映像技術中級1・2, 映像論ワークショップ5, 映像論ワークショップ6, 映像機器・施設ワークショップ	
研究分野	4K超高精細映像技術, 3D立体視映像技術, モーションキャプチャー技術, VR・360°映像技術	
最近の著書・論文	『4K でよみがえる浮世絵2《江戸の「豊穡な色彩世界」をめぐる》』(Channel4K放送番組2016), 『4Kでよみがえる浮世絵《歌川広重「名所江戸百景」》』(Channel4K放送番組2015), 『東京散歩』(4K作品立教大学2012), 『かぐやの夢』(4K日本科学未来館・立教大学共同制作2008), 『Rの風景』(4K作品立教大学2007)	

JUNG YOUNG DOO (ジョン ヨンドウ)	准教授	研究室：N6702 ☎048-471-7041
オフィスアワー	火曜日 12:00~13:00	
E-mail アドレス	aengdoo11@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	入門演習1, 基礎演習7, 身体系ワークショップ3, 専門演習H1・H2, ワークショップB1・B4, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 身体論ワークショップ2	
研究分野	振り付けの創作・編成・構成の研究。舞台構成における動作・時間・空間の研究と創作。	
最近の著書・論文	〈Craving for More〉(2003), 〈Incompatible yet one〉(2004), 〈No Sweet Air〉(2005), 〈A Seventh Man〉(2010), 〈Forethought-Prometheus' Fire〉(2012)	

相馬 千秋 (ソウマ チアキ)	准教授	研究室：N6704 ☎048-471-7046
オフィスアワー	水曜日 12:15~13:15	
E-mail アドレス	5058899@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 入門演習2, 基礎演習9, 専門演習M1・M2, 身体表現史, 身体系ワークショップ1, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, 身体論ワークショップ1	
研究分野	舞台芸術, 現代演劇, アートプロデュース, 文化政策, アートNPO経営	
最近の著書・論文	『〈現代演劇〉のレッスン』(フィルムアート社, 2016) (共著), 『アートプロジェクトの悩み』(フィルムアート社, 2016) (共著), 『フェスティバル/トーキョー ドキュメント』(FIT実行委員会2009, 10, 11, 12, 13), 『LOOP映像メディア学』(左右社, 2015)	

【助教】

浅野 倫子 (アサノ ミチコ)		研究室：N6604 ☎048-471-6994
オフィスアワー	火曜日 12：15～13：10	
E-mail アドレス	asano@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	心理学概説1, 心理学実験実習1・心理学実験実習2, 実験調査実習1, 心理学文献講読1・2, 心理学研究法1, *現代心理学からの学び	
研究分野	認知心理学, 実験心理学。具体的には, 文の読みのメカニズムや共感覚, 感覚間協応など。	
最近の著書・論文	『岩波講座 コミュニケーションの認知科学 第1巻 言語と身体性 第3章 知覚と言語』(岩波書店, 2014), 「Sound symbolism scaffolds language development in preverbal infants」(Cortex, 2015)	

嘉瀬 貴祥 (カセ タカヨシ)		研究室：N6710 ☎048-471-7143
オフィスアワー	水曜日 12：00～13：00	
E-mail アドレス	tkase5609@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	統計法1, 統計法2, 心理学調査実習1, 心理学調査実習2, 実験調査実習2, 社会調査演習, *現代心理学からの学び	
研究分野	健康心理学, パーソナリティ心理学, 教育心理学	
最近の著書・論文	「青年・成人用ライフスキル尺度(LSSAA)の作成」(『心理学研究』, 87, 2016). 「Process linking social support to mental health through a sense of coherence in Japanese university students」(『Mental Health & Prevention』, 4, 2016).	

江口 正登 (エグチ マサト)		研究室：N6714 ☎048-471-7189
オフィスアワー	水曜日 12：00～13：00	
E-mail アドレス	masatoeguchi@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	現代心理学入門, 入門演習2, 基礎演習15, 専門演習O1・O2, 現代演劇論1, 学部統合科目1, 都市の記憶と表像文化, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作, *身体パフォーマンス, *身体学への招待	
研究分野	パフォーマンス研究, 表象文化論, 演劇学	
最近の著書・論文	「メディアの複数性を考える：ジョン・ジェスランの『ディープ・スリープ』と『ホワイト・ウォーター』」(『西洋比較演劇研究』, 10, 2011), 「カメラが演じる/語る時：ジョン・ジェスランの『スノウ』」(『西洋比較演劇研究』, 13 (2), 2103)	

山本 尚樹 (ヤマモト ナオキ)		研究室：N6714 ☎048-471-7189
オフィスアワー	火曜日 12:15~13:00	
E-mail アドレス	5055589@rikkyo.ac.jp	
担当授業科目	学部統合科目3, 基礎演習14, 映像身体学特講7, 入門演習1, 専門演習N1・N2, 視覚論, アートの心理学, 卒業論文・卒業制作指導演習1・2, 卒業論文・卒業制作	
研究分野	発達心理学 (特に身体運動発達), 生態心理学	
最近の著書・論文	『乳児期における寝返り動作獲得過程の縦断的観察』(発達心理学研究第22巻, 2011), 『成人男性を対象とした寝返り動作における微視的発生プロセスの検討』(発達心理学研究第24巻, 2013) 『運動発達研究の理論的基礎と課題: Gesell McGraw, Thelen, 三者の比較検討から』(発達心理学研究第25巻, 2014)	

【研究科・専任】

逸見 敏郎 (ヘンミ トシロウ)		教授	研究室：池袋2号館2207 ☎03-3985-3824
オフィスアワー	木曜日 15:00~16:00 (新座学校・社会教育講座指導室) (2017年度秋学期研究休暇)		
E-mail アドレス	thenmi@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	臨床心理査定演習2, 修士論文指導演習1・2, 修士論文		
研究分野	臨床心理学, ライフコース論		
最近の著書・論文	『学校・教師の字空間』(共編著, 三元社, 2012), 『キャリア教育を考える』(教職研究第22号, 2011), 『いい子志向と決められない青年についての一考察』(教職研究第18号, 2006)		

大野 久 (オオノ ヒサシ)		教授	研究室：池袋2号館2209 ☎03-3985-3796
オフィスアワー	金曜日 12:15~13:15 (新座学校・社会教育講座指導室) (2017年度春学期研究休暇)		
E-mail アドレス	onohisa@rikkyo.ac.jp		
担当授業科目	青年心理学, 人格心理学特殊演習, 現代心理学特殊演習, 修士論文指導演習1・2, 修士論文		
研究分野	青年心理学, 人格心理学, 生涯発達心理学 (アイデンティティ理論を踏まえた青年期の心理, 恋愛, 生育史研究)		
最近の著書・論文	『新・青年心理学ハンドブック』(後藤宗理・大野久ほか編著, 福村出版, 2014), 『アイデンティティ研究ハンドブック』(宮下博ほか編, ナカニシヤ出版, 2014), 『研究法と尺度 (発達科学ハンドブック 第2巻)』(日本発達心学会 (編), 新曜社, 2011), 『エピソードでつかむ青年心理学』(大野久編者, ミネルヴァ書房, 2010)		

現代心理学部・現代心理学研究科 科目担当者一覧 (氏名アルファベット順)

専任教員

<心理学科>

教授	芳賀 繁
教授	林 もも子
准教授	日高 聡 太
教授	堀 耕 治
准教授	松 永 美 希
教授	小 口 孝 司
教授	大 石 幸 二
教授	都 築 誉 史
教授	塚 本 伸 一
准教授	山 田 哲 子
教授	山 中 淑 江

<映像身体学科>

教授	江 川 隆 男
准教授	日 高 優
教授	加 藤 千 恵
教授	香 山 リ カ (2017年度研究休暇)
教授	万 田 邦 敏
教授	松 田 正 隆
教授	中 村 秀 之 (2017年度春学期研究休暇)
准教授	大 山 載 吉
教授	佐 藤 一 彦
教授	篠 崎 誠
教授	田 崎 英 明

<研究科>

教授	逸 見 敏 郎 (2017年度秋学期研究休暇)
教授	大 野 久 (2017年度春学期研究休暇)

<特任>

准教授	中 山 真里子
准教授	安 田 みどり
教授	石 山 智 弘
准教授	チョン ヨンドウ
准教授	相 馬 千 秋

<助教>

浅 野 倫 子
江 口 正 登
嘉 瀬 貴 祥
山 本 尚 樹

<兼担>

大 橋 洸太郎
坂 田 大 輔

兼任講師

阿 部 高 志
赤 坂 太 輔
明 戸 隆 浩
青 山 慶
浅 野 光 紀
崔 真 碩
江 夏 由 洋
江 本 純 子
江 澤 健 一 郎
萩 野 亮
花 井 友 美
花 嶋 裕 久
平 出 麻 衣 子
久 雅 子
本 間 元 康
堀 江 武
細 金 正 隆
井 出 野 尚
五 十 嵐 靖 博
碓 朋 子
井 川 耕 一 郎
池 田 健 論
稲 垣 久
井 上 弘 久
入 江 公 康
石 山 雄 太
石 坂 健 治
糸 井 岳 史
金 子 和 夫
菅 野 恵
笠 井 昭 文
禮 淵 めぐみ
菊 地 学
木 村 建 哉
北 川 智 利
小 平 雅 尋
古 賀 ひろみ
小 原 健 一 郎
今 野 晃 嗣
河 野 真 理 江
國 吉 和 子
増 田 知 尋
松 田 なつみ
三 好 昭 子
水 野 修 次 郎
茂 垣 まどか
森 瑞 枝
森 井 真 広
村 尾 静 二
村 山 和 之 淳
内 藤 健 太 郎
中 村 亮 一
中 島 千 景
中 根

中 山 厚 穂
西 山 洋 市
野 口 隆 子
越 智 啓 太
小 川 誠 子
奥 野 真 之
恩 地 元 子
小 野 寺 唯
大 久 保 暢 俊
大 谷 華
廖 赤 陽
相 良 翔
齋 藤 正 樹
坂 上 香
酒 井 久 実 代
佐々木 恭 志 郎
笹 岡 啓 子
佐 藤 賢
佐 藤 公 子
佐 藤 さ や か
佐 藤 有 耕
澤 海 崇 文
角 井 誠
申 紅 仙
杉 田 協 士
杉 山 至
千 田 利 史
高 平 未 來
竹 田 恵 子
武 田 裕 司
田 中 博 積
築 地 正 明
上 田 祥 代
牛 川 紀 政
牛 谷 智 一
藪 垣 将
山 岸 基 樹
矢 野 静 明
安 村 明
横 堀 応 彦
米 澤 朋 英
吉 田 泰 子
吉 本 有 輝 子
湯 野 貴 子

案内図

専任教員研究室一覧

構内案内図・教室案内図(新座キャンパス)

構内案内図・教室案内図(池袋キャンパス)

(現代心理学部 新座6号館)

(4階)

WC	階段	EV
吹抜・テラス	ラウンジ	
EPS		
6954 N6402		6148 N6403 データ分析室
6952 N6401 山中		6956 N6404 心理学科教育 研究支援室
— N64H 学生実験室8		6149 N6405 実験倉庫
— N64G 学生実験室7		— N64I 学生実験室9
— N64F 学生実験室6		— N64J 学生実験室10
— N64E 学生実験室5		— N64K 学生実験室11
— N64D 学生実験室4		— N64L 学生実験室12
— N64C 学生実験室3		— N64M 学生実験室13
— N64B 学生実験室2		— N64N 学生実験室14
— N64A 学生実験室1		— N64O 学生実験室15
階段	屋上通路	

(5階)

WC	階段	EV
テラス	吹抜	
EPS		
6155 N6506 工作室		6961 N6507 共同研究室2
6957 N6505 共同研究室1		
6154 N6504 アーカイブ室		6964 N6508 共同研究室3
6153 N6503 編集室1		6979 N6509 編集MA室
6152 N6502 研究実験室2		6982 N6510 機材管理室
6151 N6501 研究実験室1		
階段	リフレッシュコーナー	

(6階)

048-471-内線

WC	階段	EV
吹抜・テラス	ラウンジ	
EPS		
6159 N6609 研究実験室4		6160 N6610 発達・社会 実験室1
6158 N6608 研究実験室3		
7035 N6607 堀		6161 N6611 発達・社会 実験室2
7014 N6606 塚本		6162 N6612 聴覚実験室
6997 N6605 都築		6163 N6613 人間工学実験室
6994 N6604 安田 浅野		
6992 N6603 佐藤		6164 N6614 研究実験室5
6984 N6602 日高(聡)		6165 N6615 研究実験室6
6157 N6601 生理心理学 実験室		6166 N6616 視覚実験室
		6167 N6617 認知情報実験室
階段	リフレッシュコーナー	

(現代心理学部 新座6号館)

048-471-内線

(7階)

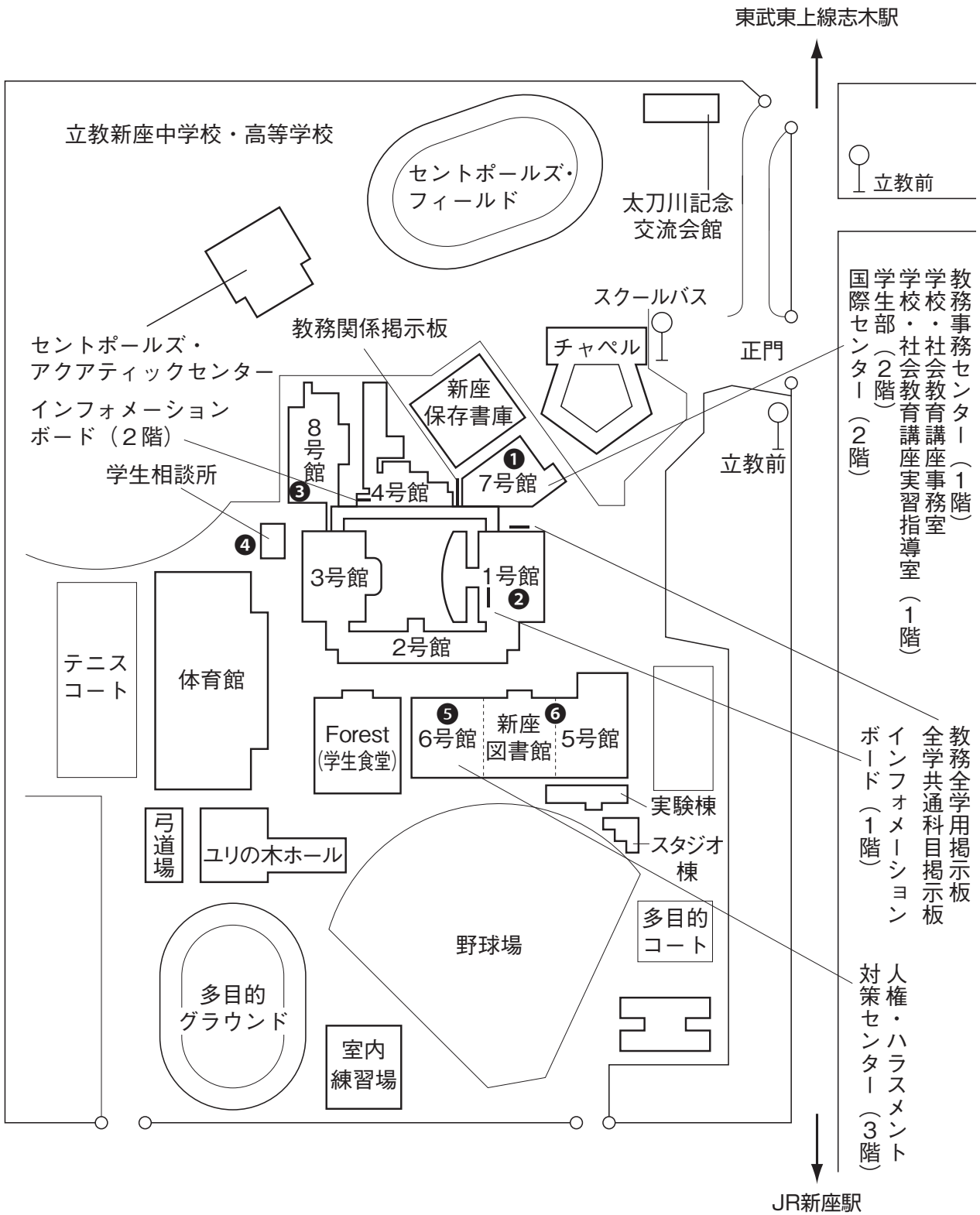
WC	階段	EV
テラス		
EPS		
7143 N6710 嘉瀬		7149 N6711 7154 7234 7164 (FAX) 現代心理学部 事務室
7096 N6709 小口		7251 心理芸術人文学 研究所
7094 N6708 芳賀		7167 N6712 学部長室
7069 N6707 松永		6169 N6713 会議室
7064 N6706 林		7189 N6714 山本 江口
7049 N6705 山田		7197 N6715 日高(優)
7046 N6704 相馬 中山		7198 N6716 万田
7042 N6703 大石		7212 N6717 香山
7041 N6702 石山 Jung Young Doo		7219 N6718 中村
7036 N6701 加藤		7226 N6719 田崎
階段		リフレッシュコーナー

(8階)

WC	階段	EV
吹抜・テラス		ラウンジ
EPS		
N6805		N6806
N6804		N6807
N6803 心理芸術人文学 研究所		7271 N6808 大山
7247 N6802 客員研究室		7273 N6809 江川
7240 N6801 客員研究室		7274 N6810 松田
		7295 N6811 篠崎
		7298 N6812 会議室
階段		バントリ

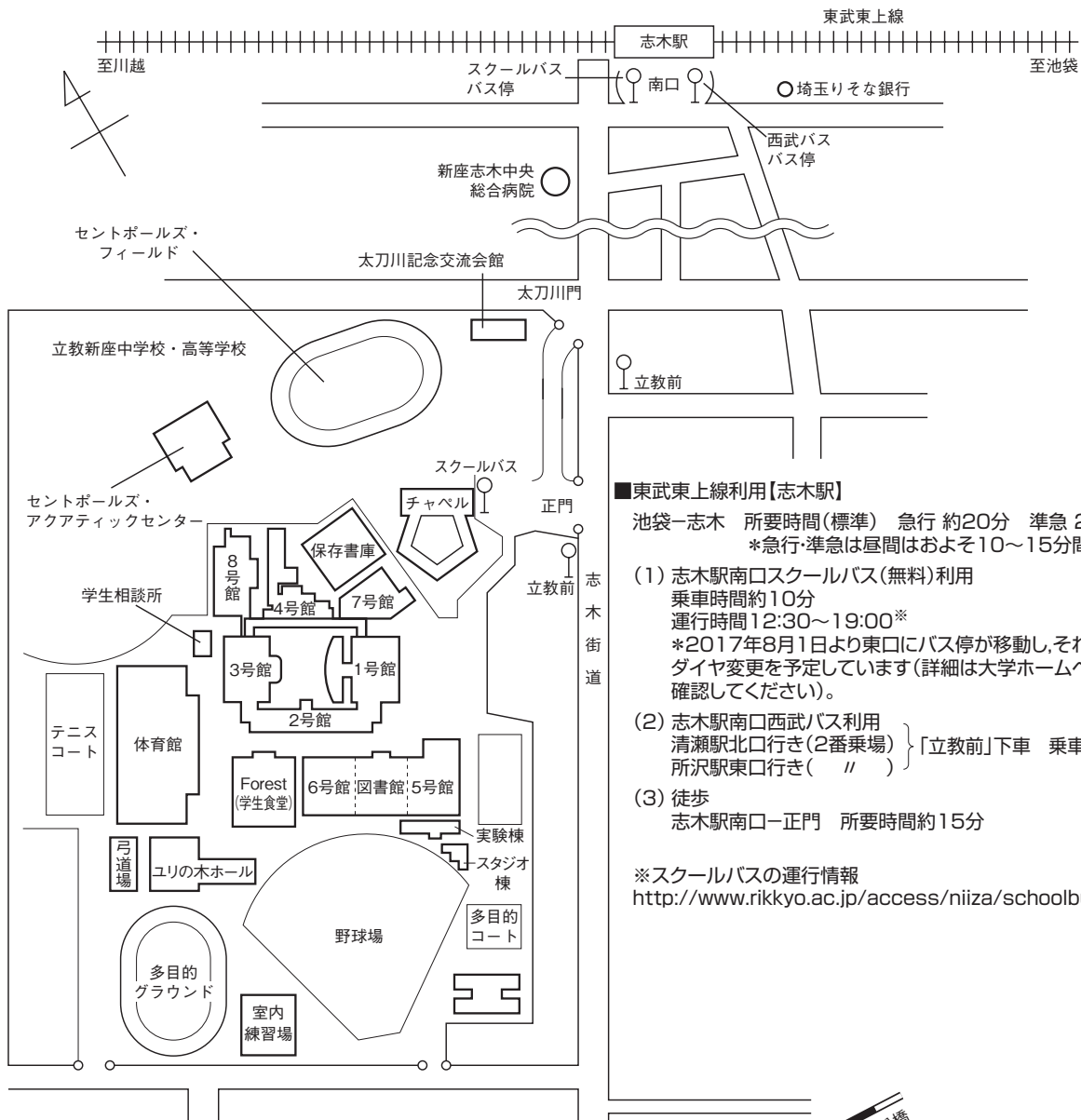
構内案内図（新座キャンパス）

キャンパス案内図



※黒丸の数字は「こんなときは」（198頁）上の位置を示す。

新座キャンパス構内案内図・交通案内図



■東武東上線利用【志木駅】

池袋-志木 所要時間(標準) 急行 約20分 準急 23分
 *急行・準急は昼間はおよそ10~15分間隔で運転

- (1) 志木駅南口スクールバス(無料)利用
 乗車時間約10分
 運行時間12:30~19:00*
 *2017年8月1日より東口にバス停が移動し、それに伴いダイヤ変更を予定しています(詳細は大学ホームページを確認してください)。
- (2) 志木駅南口西武バス利用
 清瀬駅北口行き(2番乗場) } [立教前]下車 乗車時間約10分
 所沢駅東口行き(//) }
- (3) 徒歩
 志木駅南口-正門 所要時間約15分

※スクールバスの運行情報
<http://www.rikkyo.ac.jp/access/niiza/schoolbus/>

■JR武蔵野線利用【新座駅】

- (1) 新座駅南口スクールバス(無料)利用
 乗車時間約10分
 運行時間7:30~20:00*
 (西武バス3番乗場付近)
- (2) 新座駅南口西武バス利用
 志木駅南口(北野入口経由)行き(1番乗場)
 「立教前」下車 乗車時間約10分
- (3) 徒歩
 新座駅-正門 所要時間約25分

■西武池袋線利用【清瀬駅】

清瀬駅北口西武バス利用
 志木駅南口行き(2番乗場)
 「立教前」下車 乗車時間約30分

新座キャンパス教室案内図

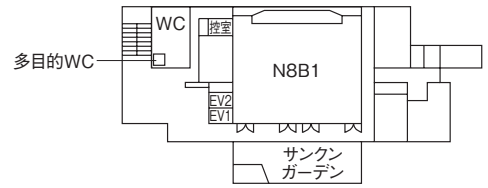
教室番号の見方



Nは新座を示す。
号館
階
番号
※ただしTは体育館を示す。

地下1階

8号館

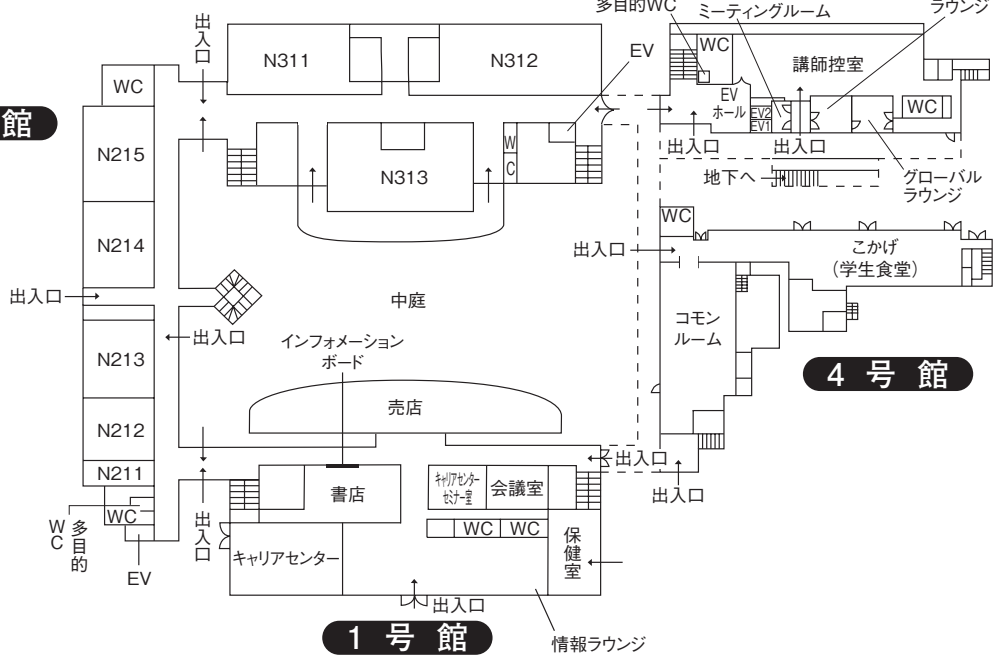


1階

2号館

3号館

8号館

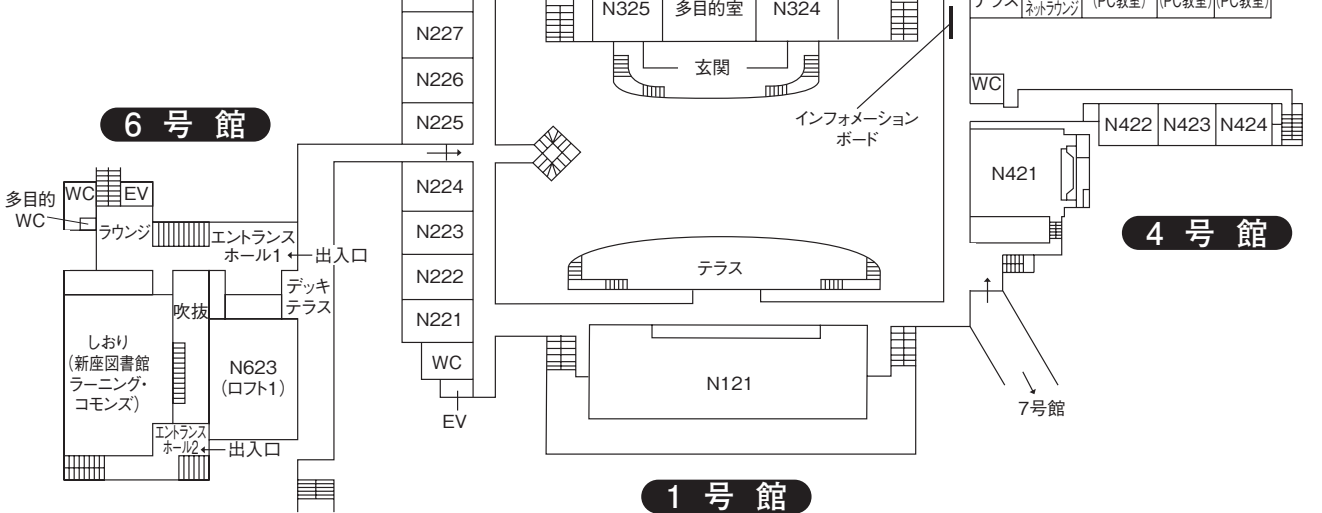


2階

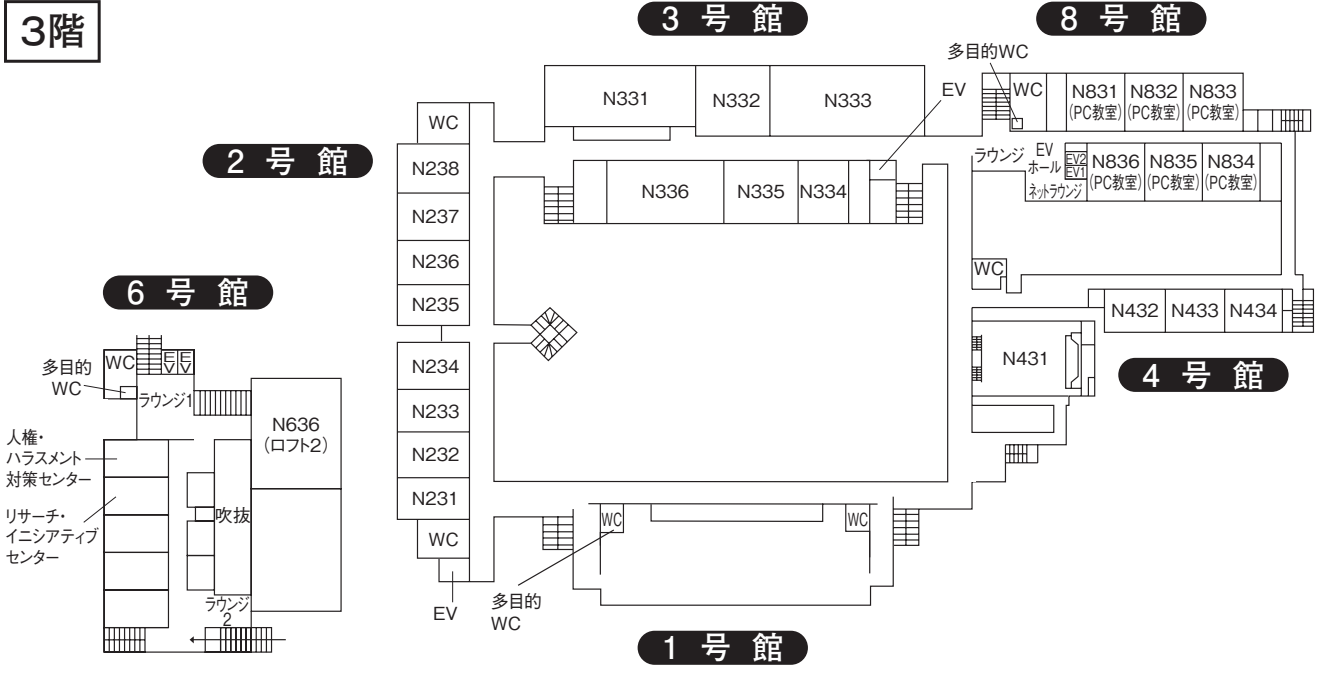
2号館

3号館

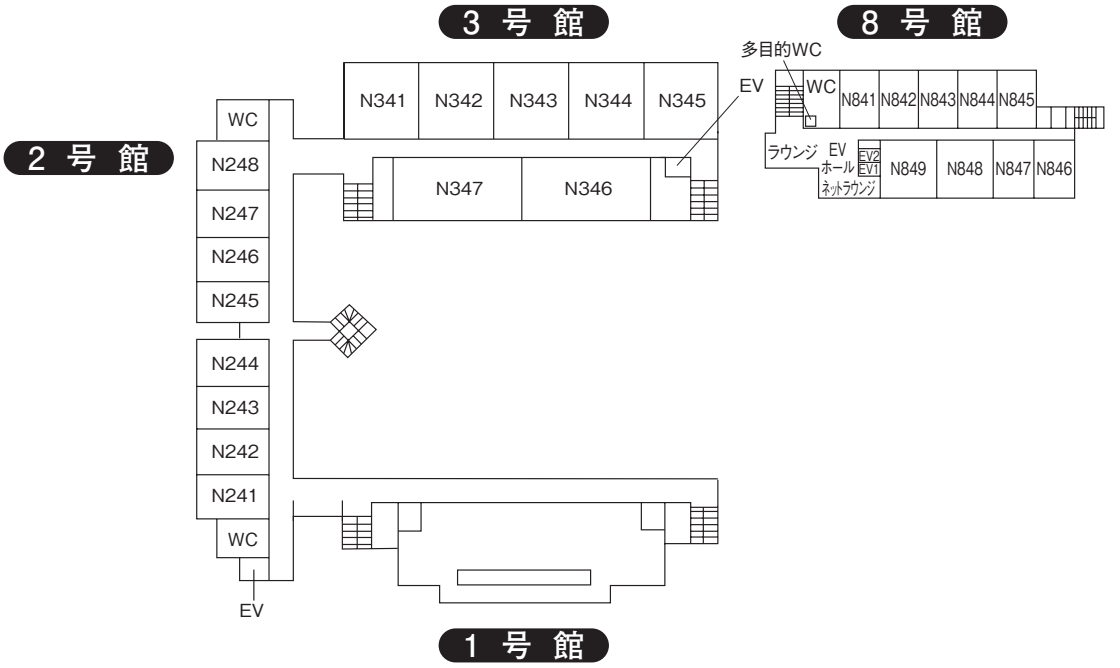
8号館



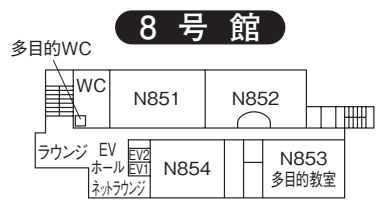
3階



4階

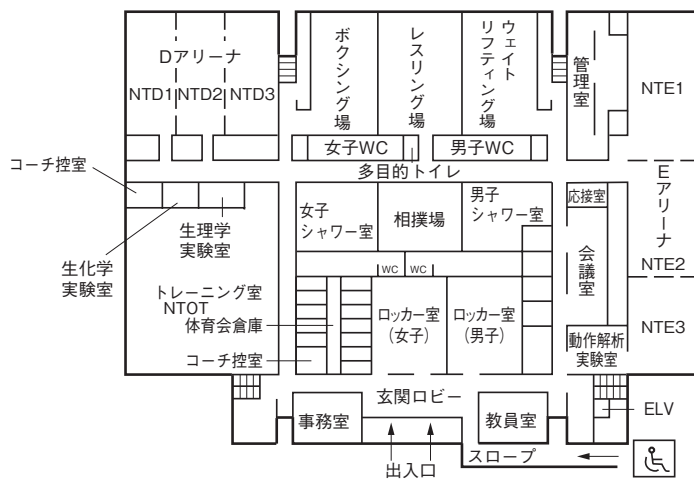


5階

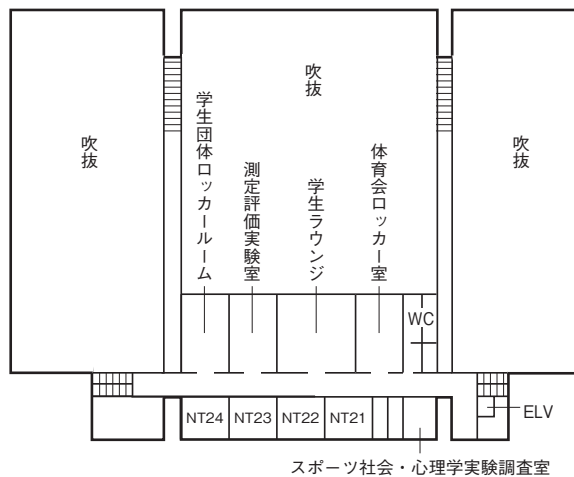


新座キャンパス体育館

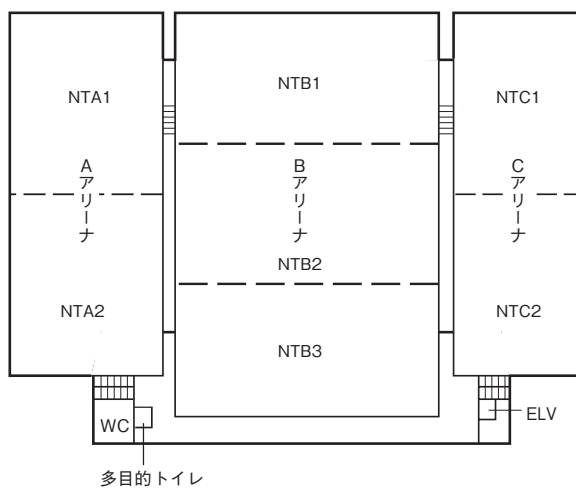
体育館 1階



体育館 2階



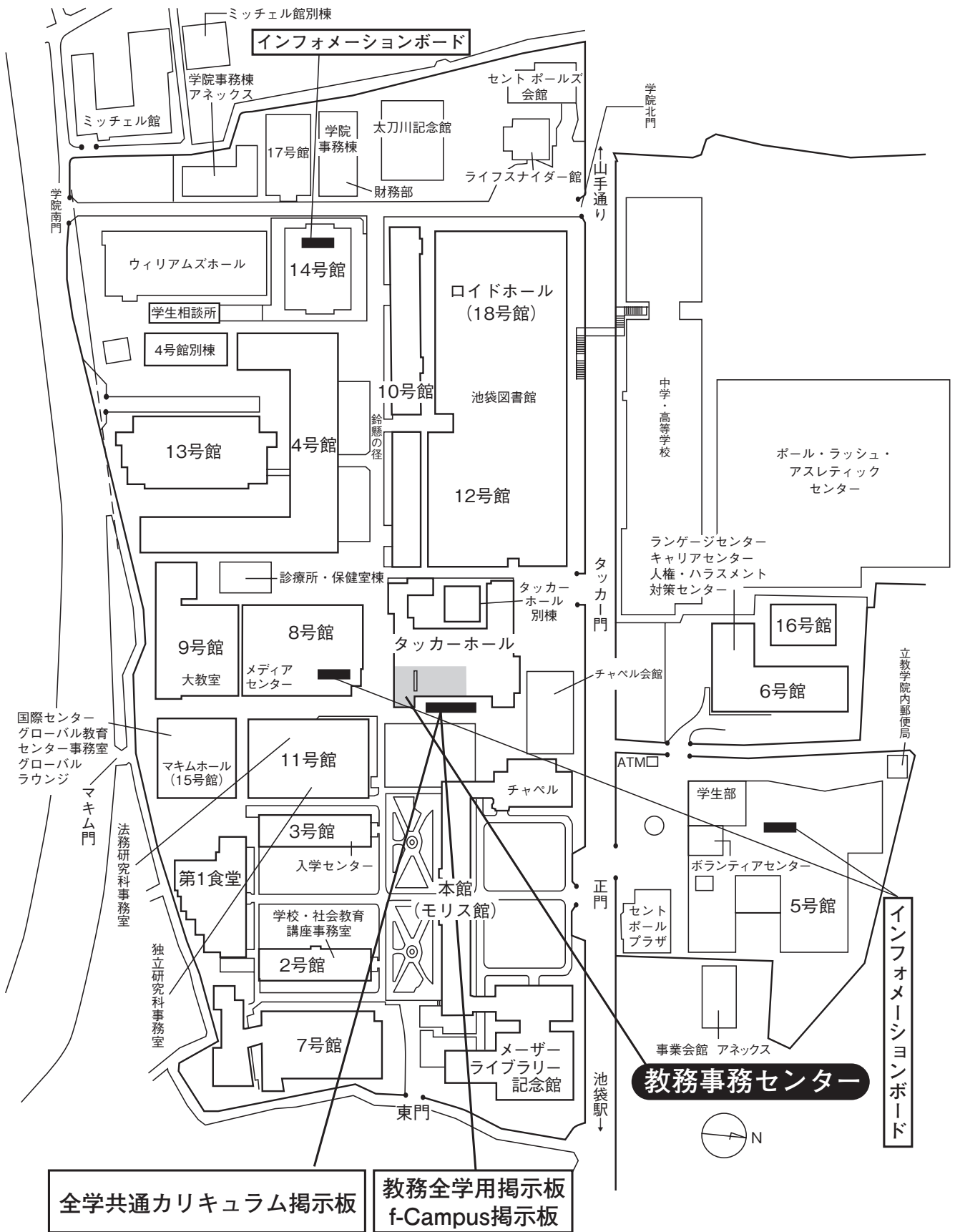
体育館 3階



※その他の新座キャンパス屋外施設

- ・テニスコート (NZT1)
- ・多目的グラウンド (NZA1)
- ・セントポールズ・アクアティックセンター (NPL1)

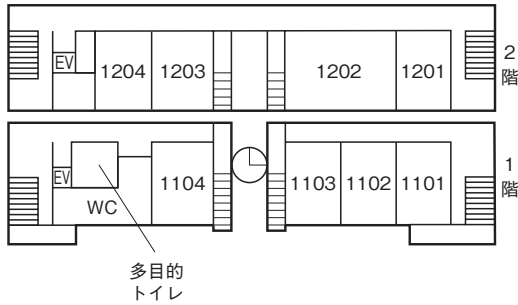
池袋キャンパス構内案内図



案内図

池袋キャンパス教室案内図

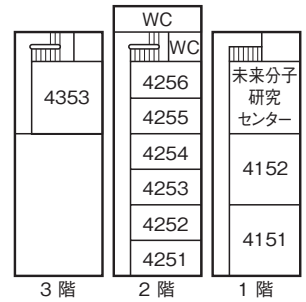
本館



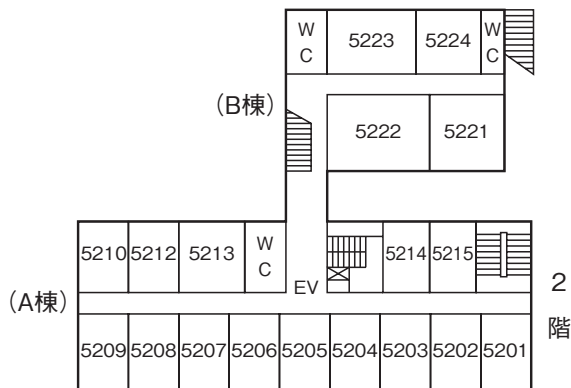
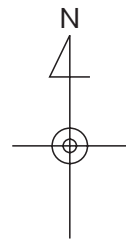
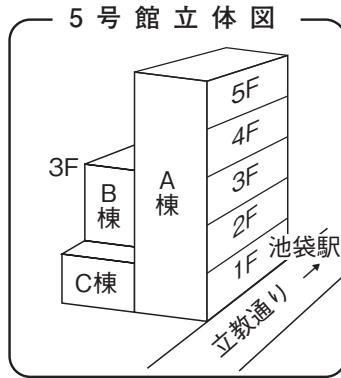
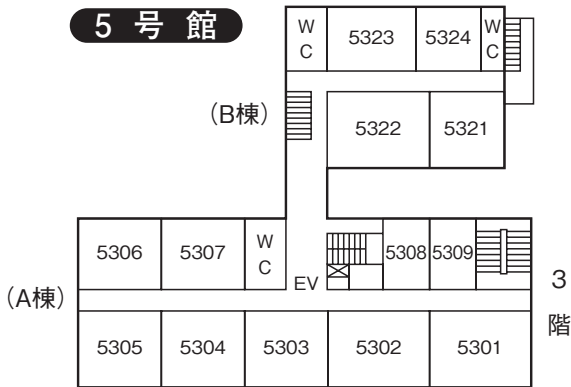
4号館



4号館別棟



5号館



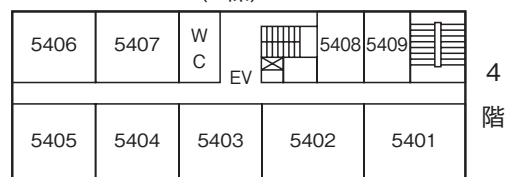
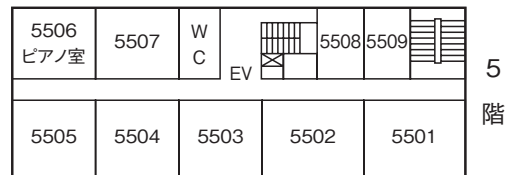
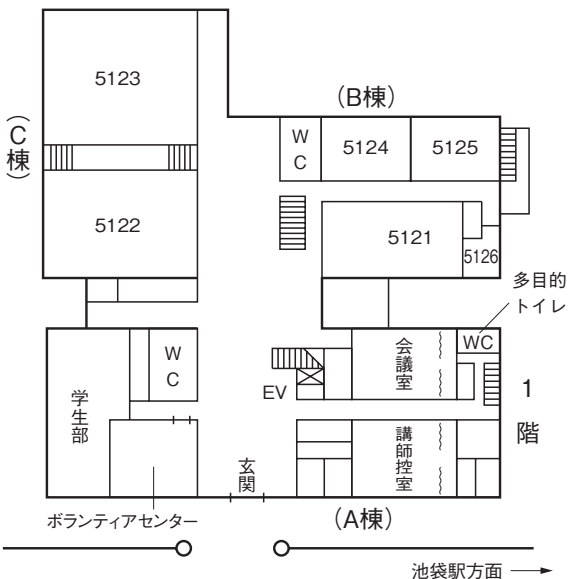
教室番号の見方



号館を示す。ただし 1…本館
X…10号館
A…11号館
D…14号館
M…マキムホール (15号館)
S…事業会館 アネックス
P…ポール・ラッシュ・アスレティックセンター
(例……5323→5号館3階B棟)

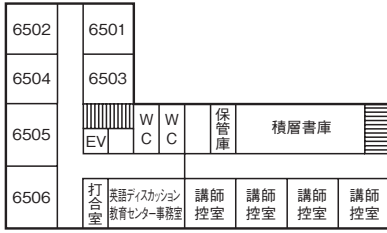
階を示す。その階の東南隅の教室を01として右廻りの順に番号を与える。

5号館 B棟 C棟について20番台で表示する。

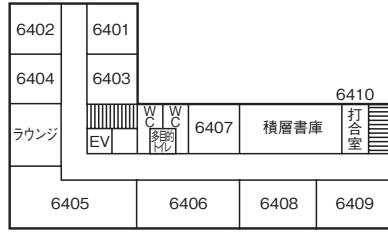


6号館

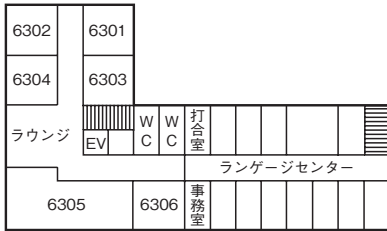
5階



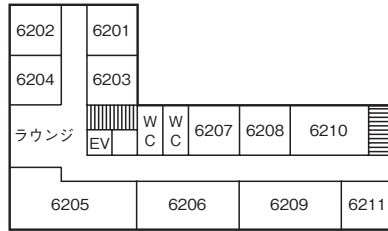
4階



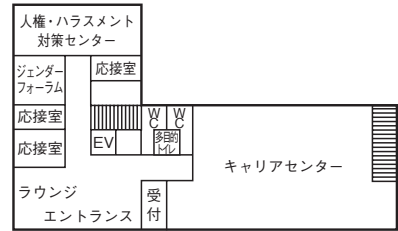
3階



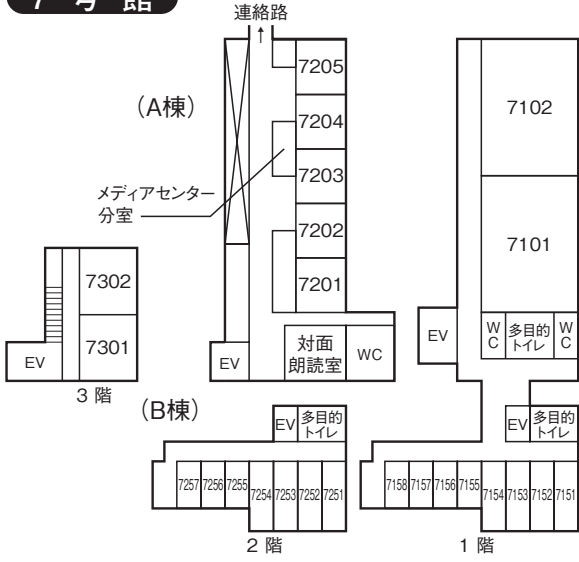
2階



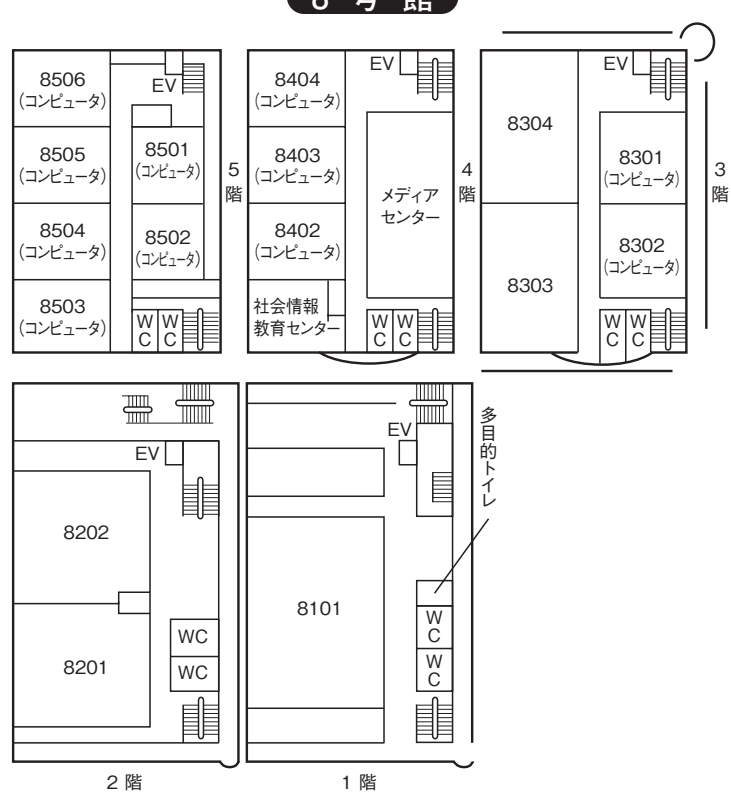
1階



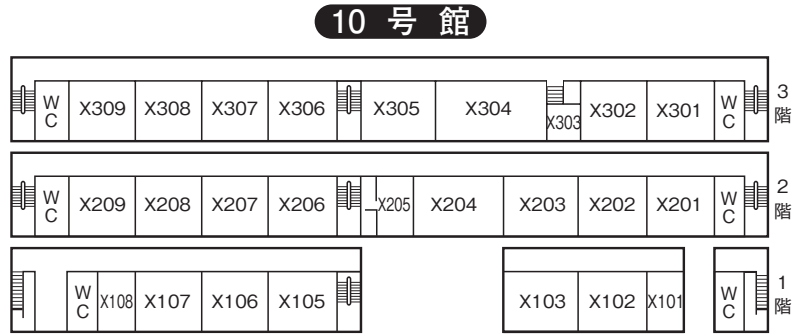
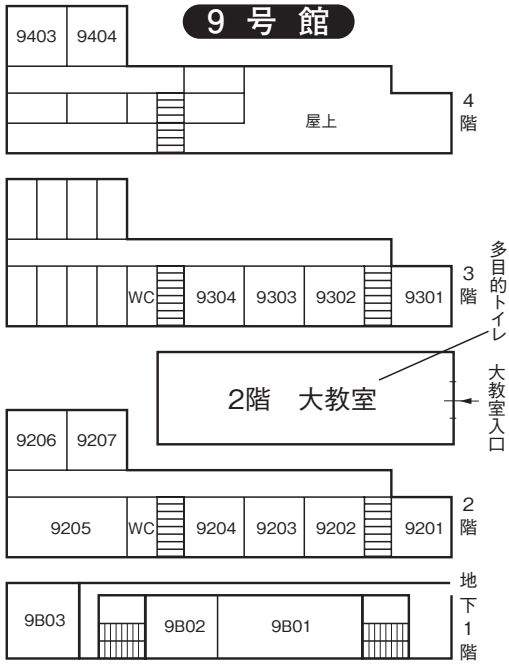
7号館



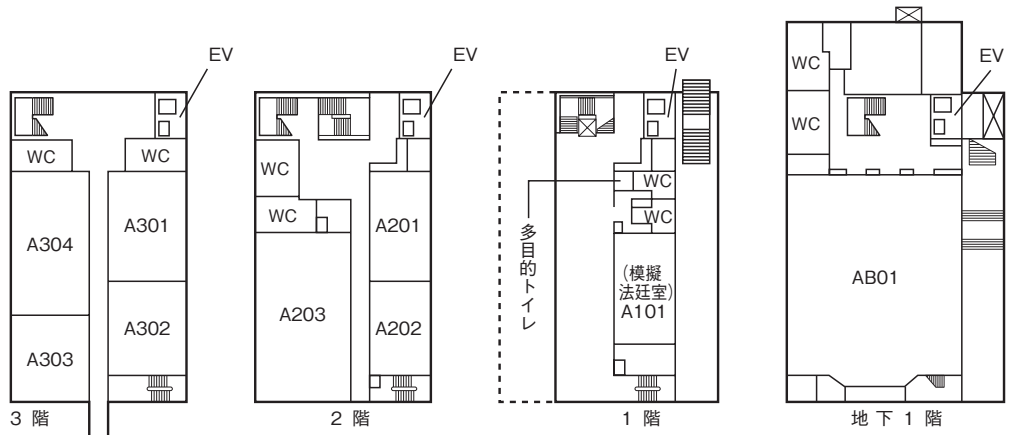
8号館



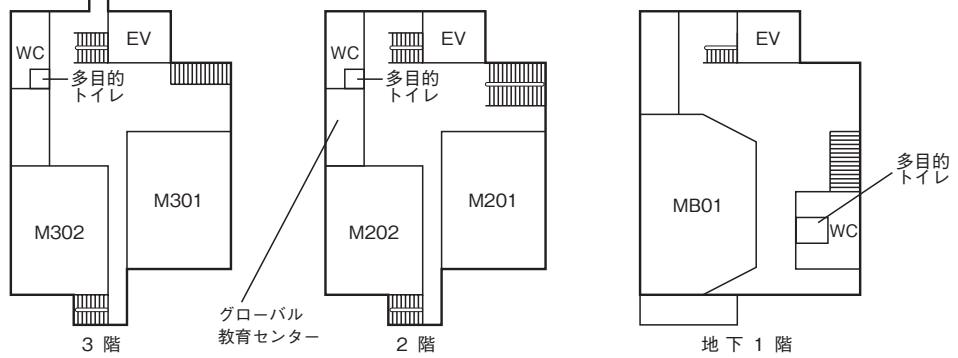
案内図



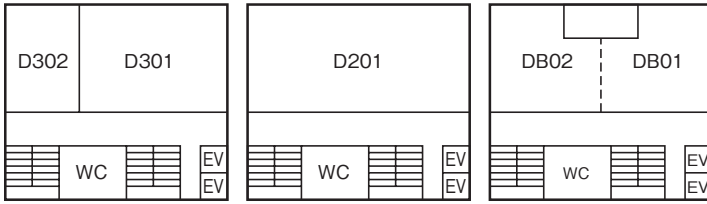
11号館



マキムホール (15号館)



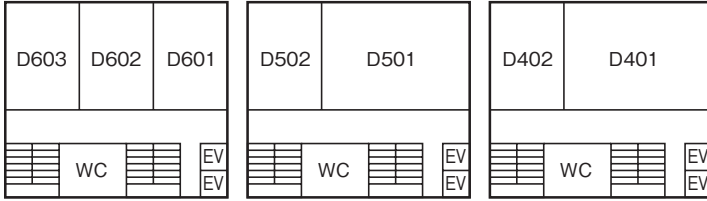
14号館



3階

2階

地下1階

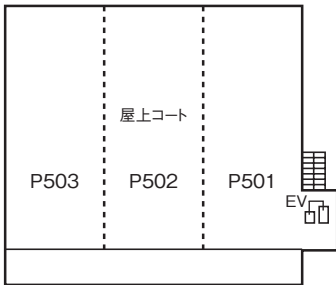


6階

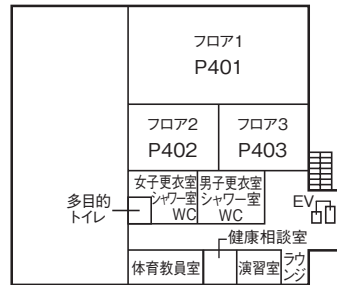
5階

4階

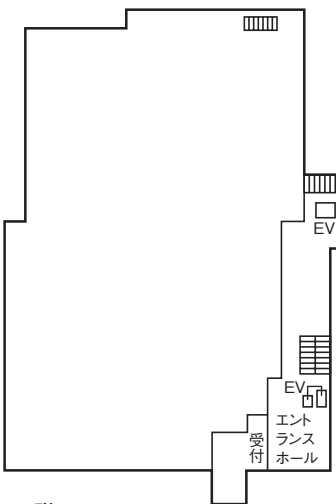
ポール・ラッシュ・アスレティックセンター



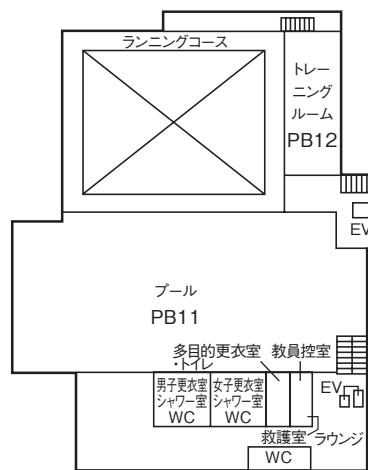
5階



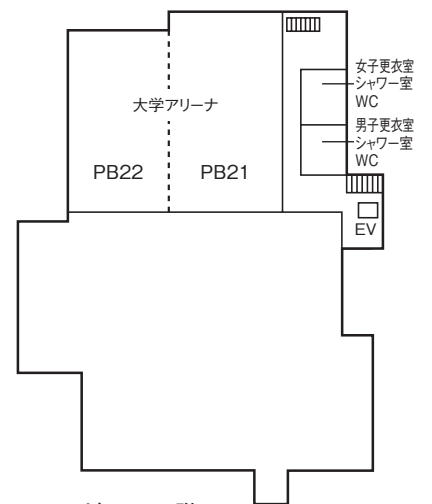
4階



1階



地下1階



地下2階

こんなときは

黒丸の数字は①～⑥構内案内図(新座キャンパス)上の位置を示す

学籍事項(住所・電話番号・保証人・氏名等)に変更があった	新座キャンパス教務事務センター(新座7号館1階)①
奨学金を受けたい	学生部・国際センター(新座7号館2階)①
落とし物をした・学内で盗難にあった	学生部(新座7号館2階)①
進路・就職について相談したい	キャリアセンター(新座1号館1階)②
インターンシップについて相談したい	新座キャンパス教務事務センター(新座7号館1階)① キャリアセンター(新座1号館1階)②
転部・転科について知りたい 立教大学大学院への進学について知りたい	入学センター (池袋キャンパス:3号館1階)
学内でからだの具合が悪くなった	保健室(新座1号館1階)②
大学での活動中にけがをした	学生部(新座7号館2階)①
パソコンやメールを使いたい	メディアセンター(新座8号館2階)③
学校・社会教育の資格を取得するには	学校・社会教育講座事務室(新座7号館1階)①
こまったとき、悩んだときは	学生相談所④
ハラスメントについて悩んだときは	人権・ハラスメント対策センター(新座6号館3階)⑤
学費について知りたい	学生部(新座7号館2階)①
留学制度について知りたい	国際センター(新座7号館2階)①
図書館を利用したい *シラバスに記載の参考書等は、原則として 図書館で利用できる。	新座図書館⑥

新座キャンパス教務事務センター窓口時間

<通常窓口時間>

教務課の授業期間中の通常窓口時間は右記の通りである。授業期間以外、また、特別な場合の窓口時間については、その都度掲示する。

月～金	9:00～17:00
土	9:00～12:30

2017年4月

立教大学現代心理学部
立教大学大学院現代心理学研究科

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26

立教大学新座キャンパス教務事務センター

☎048-471-6942



学生番号

氏 名

履修要項は再交付しないので保管に注意すること